

第142図 第153号住居跡出土遺物実測図(2)

遺物 土師器片211点, 須恵器片138点, 石器1点(砥石), 石製品3点(紡錘車2・支脚1), 金属製品5点(鉄鎌3・紡錘車1・不明鉄製品1)が出土している。第141図1~3は須恵器の坏である。1は竈前の覆土下層から正位で出土している。2は南東コーナー部の覆土下層から逆位で出土している。3は竈東側の北壁際覆土下層から出土している。4~6は須恵器高台付坏である。4は竈前の覆土下層から出土している。5は南東コーナー部の覆土下層から出土している。6は, 竈前から出土している。6が大彩で雲母を多量に含むのに対して, 5は小形で雲母を含まない。7・8は須恵器盤で, 7は北東コーナー付近の覆土下層から出土している破片と竈内から出土した破片が接合したものである。8は南壁際や西寄りの覆土下層から出土している。9は須恵器甕で, 中央部の覆土中層から出土している。第142図10・11は石製紡錘車で, 10は竈西袖部外側の覆土中層から, 11は覆土中から出土している。いずれも磨面は入念な磨きが施されている。12の砥石は, 覆土中から出土している。中央で欠損した後も, 割れ口を再利用しているのが認められる。13の鉄製紡錘車は, 南東コーナー部の覆土下層から出土している。14の不明鉄製品は, 出入り口ピット付近の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土土器から, 8世紀後葉と推定される。竈内から出土した土器の多くは, 火熱を受けていないこと, 竈外から出土したものと接合関係にある土器もあることから, 住居廃絶後に投棄された可能性がある。

第153号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第141図	1 坏須恵器	A 12.6	完形。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にはいる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部切り崩し痕を残す、一方向のへラナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 褐色 普通	100% P263 PL74 覆土下層 (電燈)
		B 4.2				
		C 7.7				
2	坏須恵器	A 13.3	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り。	砂粒 長石 石英 灰色 普通	90% P264 PL74 覆土下層 (南東コーナー部)
		B 4.4				
		C 8.3				
3	坏須恵器	A 13.7	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り。	砂粒 長石 灰色 普通	70% P265 覆土下層 (北壁部)
		B 3.7				
		C 9.1				
4	高台付坏須恵器	B (5.2)	高台部から体部にかけての破片。体部は下位に稜を有し、外傾して立ち上がる。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り。高台貼り付け、ナデ。	砂粒 雲母 長石 灰にふい黄褐色 普通	60% P267 覆土下層 (電燈)
		D 8.7				
		E 1.3				
5	高台付坏須恵器	A [14.0]	高台部から口縁部にかけての破片。体部は下位に稜を有し、外反気味に外傾して立ち上がり口縁部にはいる。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り。高台貼り付け、ナデ。	砂粒 長石 石英 灰オリーブ色 普通	50% P268 覆土下層 (南東コーナー部)
		B 5.8				
		D 9.2				
6	高台付坏須恵器	A 16.3	口縁部一部欠損。体部は下位に稜を有し、外傾して立ち上がり、口縁部にはいる。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り。高台貼り付け、ナデ。	砂粒 雲母 長石 スコリア 黄灰色 普通 二次焼成	70% P266 電内(東壁部付近) 覆土中
		B 6.4				
		D 11.4				
7	鉢須恵器	A 22.8	体部・口縁部一部欠損。体部は大きく外方に開き、屈曲して口縁部にはいる。口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り。高台貼り付け、ナデ。	砂粒 長石 灰色 普通	80% P269 電内 覆土下層 (北東コーナー部)
		B 4.2				
		D 17.0				
8	鉢須恵器	A [22.2]	体部・口縁部一部欠損。体部は大きく外方に開き、屈曲して口縁部にはいる。口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り。高台貼り付け、ナデ。	雲母 長石 石英 灰色 普通	80% P270 覆土下層 (南壁部)
		B 4.6				
		D 14.2				
9	葉須恵器	A [26.0]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、口縁部で強く屈曲する。口縁部は上下に突出させている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行引き。内面アノ具痕。	砂粒 長石 石英 灰色 普通	5% P259 覆土中層 (中央部)
		B [14.5]				

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第142図10	石製紡車	4.5	1.4	0.7	(18.2)	頁岩	覆土下層(儀西輪部外側)	Q26
11	石製紡車	5.0	1.6	0.8	(23.4)	頁岩	覆土中	Q27

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第142図12	砥石	(7.8)	4.3	1.6	(120.3)	凝灰岩	覆土中	Q28 PL95

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第142図13	鉄製紡車	4.9	0.5	0.3	32.5		覆土下層(南東コーナー部)	M42 紡輪欠損 PL105

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		長さ(cm)	径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第142図14	不明鉄製品	18.5	9.5	0.6	63.3		覆土下層(出入り口P付近)	M43 PL107

第154号住居跡 (第143・144図)

位置 調査IV区の南部, H 9 b3区。

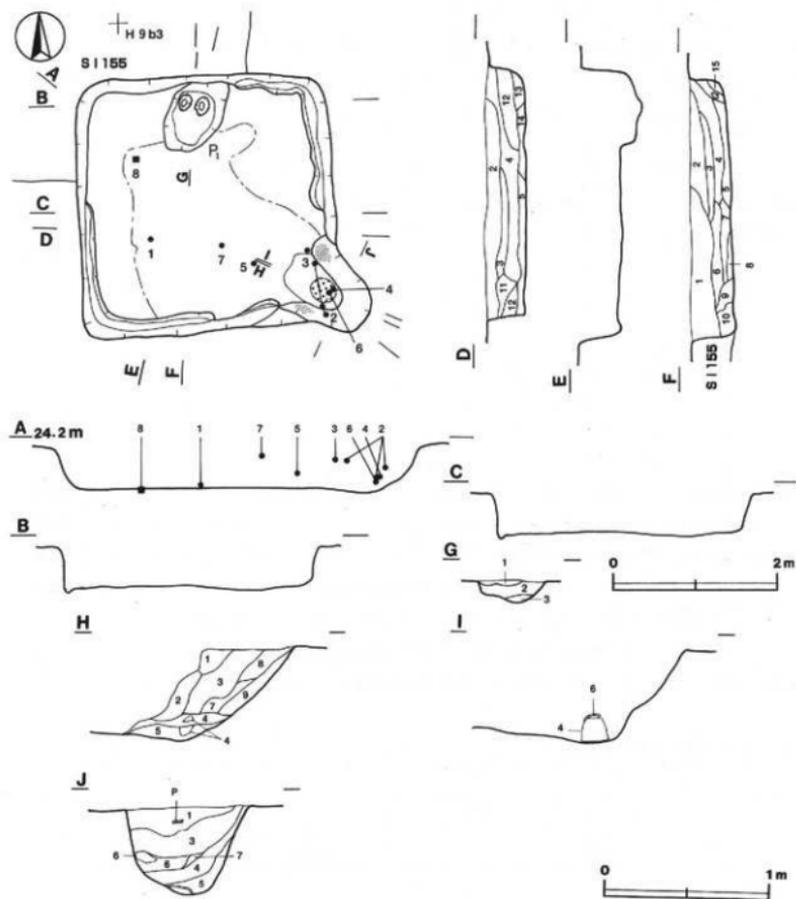
重複関係 本跡が第155号住居跡を掘り込んでいることから, 本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.15m, 短軸3.00mの方形である。

主軸方向 N-150°-E

壁 壁高は44~55cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北東コーナー部と, 南西コーナー部に残存している。上幅16~32cm, 下幅3~12cm, 深さ4cmで, 断面形はU字形である。



第143図 第154号住居跡実測図

床 全面が平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 南東コーナー部に、壁外へ60cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。焚き口から煙道部まで104cm、両袖幅100cmである。火床部は、床面を8cmほど掘りくぼめ火床面が作られている。火床面は火熱を受け、赤変し、火床面中央から袖際にかけて硬化している。中央部に第144図4の土師器壺が逆位で据えられ、その上に6の須恵器罎が重ねられ、支脚として利用されている。煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。

覆土層解説

- 1 にぶい褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 2 褐色 焼土粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子少量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック中量、ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 焼土中ブロック少量
- 6 褐色 ローム中ブロック中量
- 7 黄褐色 ローム中ブロック中量
- 8 褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック少量
- 9 にぶい褐色 焼土中ブロック中量、ローム中ブロック少量

ピット 1か所。P1は北壁中央部に位置し、長径108cm、短径68cmの楕円形で、深さ24cmである。ピット中の北壁寄りに、長径20cm、短径13cmほどの楕円形で、床面から深さ30cmの小ピットが2か所掘り込まれていることから、出入口施設に伴うピットの可能性が高い。

ピット土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック少量

覆土 15層からなり、ブロック状の堆積状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

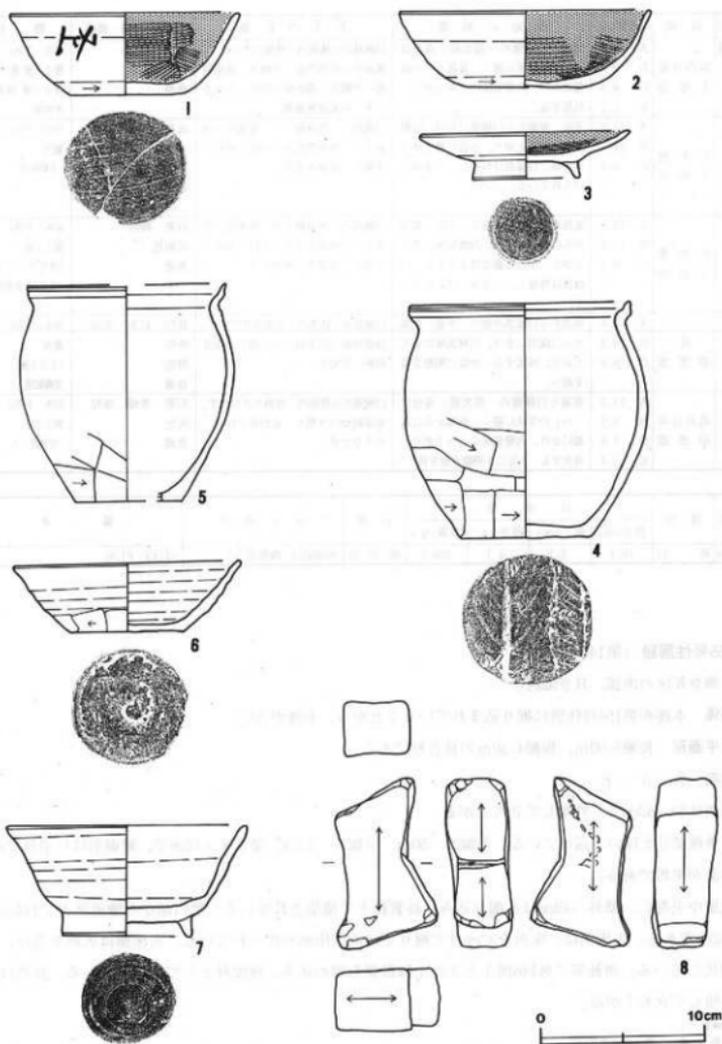
- 1 灰褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
- 2 褐色 ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック微量
- 4 褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック微量
- 6 灰褐色 ローム小ブロック中量
- 7 灰褐色 ローム粒子少量
- 8 褐色 灰化物少量
- 9 褐色 灰化物少量、ローム小ブロック微量
- 10 にぶい褐色 ローム中ブロック・灰化した少量
- 11 にぶい褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック少量
- 12 褐色 焼土小ブロック少量、ローム粒子微量
- 13 暗褐色 灰化物少量
- 14 にぶい褐色 砂質粘土粒子中量
- 15 明褐色 ローム中ブロック中量

遺物 土師器片198点、須恵器片194点、灰釉陶器片1点、石器1点(砥石)、石塊3点(雲母片岩)が出土している。第144図1の土師器罎は西壁寄りの床面直上から、2の土師器罎は竈内から、3の土師器高台付皿は竈手前の覆土中層と南東部・北西部の覆土下層から出土している。4の土師器小形甕と6の須恵器罎は竈内の火床部中央から重なって出土している。5の土師器小形甕は北東部・南東部・南東コーナー部寄りの覆土下層から、7の須恵器高台付罎は中央部の覆土上層から、8の砥石は西壁寄りの床面直上から出土している。また、出土した灰釉陶器片は長頸瓶の頸部片で、猿投窯産(黒径90号窯式)と考えられる。

所見 本跡の時期は、重複している住居跡の時期と出土遺物から、9世紀後半と推定される。

第154号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第144図 1	罎	A 13.6	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がりわずかに外反する。中位に不明瞭な稜を持つ。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位側板へく崩り。口縁部から底部内面へく磨き。底部手持ちへく崩り。内面黒色焼遺。	砂粒にぶい褐色	60% P758 体部外面磨き 〔5〕 (西壁寄り)
		B 5.0				
		C 6.8				



第144図 第154号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第144図	坏 土 師 器	A 15.1	底部から口縁部の破片。平底。体部	口縁部から体部内・外面口クロナデ。	砂粒	50% P759 P174 室内
2		B 4.8	から口縁部にかけて、内壁気味に立ち	体部外面下位回転へつ削り。体部	にぶい黄褐色	
		C 7.0	上がりわずかに外反する。	から底部内面へつ磨き。底部手持ちへ	普通	

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第144図	高台付土師器	A 12.4	体部と口縁部の一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、外反する。	口縁部から体部内・外面クロナダ。体部から底部内面へラ磨き。底部回転へラ削り。高台貼り付け、クロナダ。内面黒色処理。	雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	70% P761 覆土下層(後手前) 覆土下層(南東部、北西部)
		B 2.8				
		D 6.4				
		E 1.2				
4	小形土師器	A 13.2	平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、中位に最大径を有する。口縁部は外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナダ。体部内・外面ナダ、外面中位から下位にかけてへラ削り。底部木葉痕。	長石 雲母 砂粒 スロリア にぶい褐色 普通 二次焼成	100% P763 PL74 壺内 (支脚転用)
		B 14.1				
		B 8.1				
		C 8.1				
5	小形土師器	A 11.8	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、中位に最大径を有する。口縁部は外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナダ。体部内・外面ナダ、外面中位から下位にかけてへラ削り。底部内・外面ナダ。	石英 砂粒 灰褐色 普通	60% P764 覆土下層 (南東コーナー部、北東部、南東部)
		B 13.1				
		C 6.4				
		C 6.4				
6	坏須恵器	A 13.6	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、外反する。中位に明瞭な縁を持つ。	口縁部から体部内・外面クロナダ。体部外面下位手持ちへラ削り。底部回転へラ切り。	長石 石英 雲母 砂粒 褐色 普通	60% P760 PL74 壺内 (4の上層) 支脚転用
		B 4.3				
		C 6.8				
		C 6.8				
7	高台付坏須恵器	A 14.3	体部と口縁部の一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、外反する。下位に不明瞭な縁を持つ。	口縁部から体部内・外面クロナダ。底部回転へラ削り。高台貼り付け、クロナダ。	石英 雲母 砂粒 灰色 普通	70% P762 PL74 覆土上層 (中央部)
		B 6.7				
		D 7.8				
		D 7.8				
		E 1.4				

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第144図	瓶 石	10.4	6.2	4.1	250.3	凝灰岩	床面直上(西隣寄り)	Q113 PL96

### 第155号住居跡(第145~147図)

位置 調査IV区の南部，H9a2区。

重複関係 本跡が第154号住居に掘り込まれていることから，本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.00m，短軸4.30mの長方形である。

主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は50~62cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 重複部分を除いて巡っている。上幅23~50cm，下幅5~12cm，深さ8~12cmで，断面形はU字形である。

床 全面が平坦である。

竈 北壁中央部に，壁外へ40cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで144cm，両袖幅182cmである。火床部は，床面を22cmほど掘りくぼめ火床面が作られている。火床面は火熱を受け，若干赤変硬化している。西袖部に第146図1と2の土師器甕を埋め込み，補強材として使用している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。

#### 甕土層解説

- 1 褐色 焼土粒子微量
- 2 灰褐色 焼土小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック微量
- 3 赤褐色 焼土小ブロック少量
- 4 黄褐色 粘土小ブロック中量，焼土小ブロック少量
- 5 赤褐色 焼土大ブロック中量，炭化物少量
- 6 黄褐色 粘土粒子大ブロック多量
- 7 褐色 焼土小ブロック中量
- 8 にぶい黄色 粘土粒子大ブロック多量，焼土小ブロック中量
- 9 赤褐色 焼土大ブロック多量
- 10 赤褐色 焼土粒子少量，炭化物微量
- 11 赤褐色 焼土大・中ブロック・粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化物微量



- 12 褐色 粘土粒子大ブロック多量、ローム粒子少量、焼土粒子微量  
 13 濃い褐色 粘土粒子大ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子微量  
 14 暗褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量

ピット 5か所 (P1~P5)。P1は北壁寄りに位置し、長径60cm、短径52cmの楕円形、P2は北壁寄りに、P3は南壁寄りに位置し、径40cmの円形で、深さ36~60cmである。いずれも主柱穴と考えられる。P4は長径90cm、短径52cmほどの楕円形で、深さ32cmである。南壁寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットの可能性が高い。P5は東壁寄りに位置し、径40cmほどの円形で、深さ16cmである。性格は不明である。

ピット土層解説

- 1 褐色 焼土粒子微量  
 2 暗褐色 ローム粒子微量  
 3 褐色 ローム中ブロック少量、焼土粒子微量  
 4 黄褐色 ローム中ブロック中量  
 5 黄褐色 ローム中ブロック少量

覆土 8層からなり、ブロック状の堆積状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

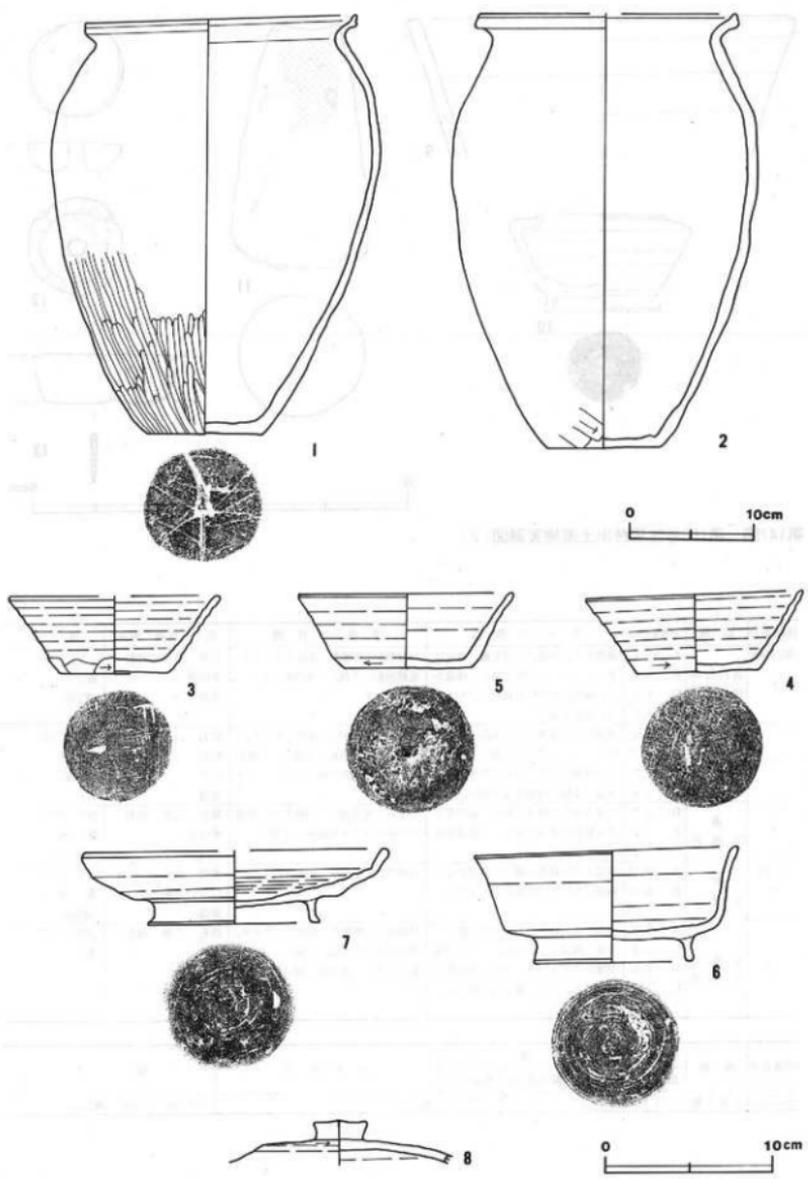
- 1 暗褐色 焼土小ブロック・粘土粒子中量、ローム小ブロック少量  
 2 暗褐色 ローム中ブロック・焼土小ブロック・粘土小ブロック少量  
 3 褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック少量  
 4 暗褐色 粘土大ブロック多量  
 5 褐色 焼土小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子少量  
 6 暗褐色 炭化粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック微量  
 7 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック微量  
 8 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片866点、須恵器片530点、灰釉陶器片1点、土製品1点(支脚)、石製品1点(紡錘車)、金属製品4点(短刀、刀子、不明鉄製品2)が住居跡全体の覆土上層から下層まで平均的に出土している。第146図1の土師器甕が覆土袖内から、2の土師器甕が覆土袖内と南東部の覆土下層から、4と5の須恵器坏、8の須恵器蓋が南壁寄りの床面直上から、6の須恵器高台付坏と第147図10の須恵器短頸壺、11の支脚が竈内から、12の紡錘車が南西部の覆土上層から、13の短刀が東壁寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。また、出土した灰釉陶器片は長頸瓶の頸部片で、猿投窯産(黒笹90号窯式以前)と考えられる。

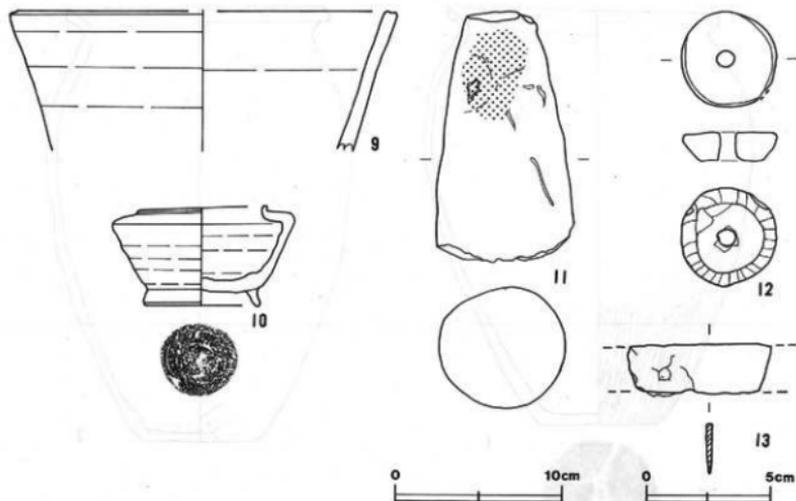
所見 本跡の時期は、重複している住居跡の時期と出土土器から、9世紀中葉と推定される。

第155号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第146図	1 土師器 甕	A 21.2	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。外面中位から下位にかけてヘラ磨き。底部ナデ、木葉痕。	長石 石英 雲母 スクリア 砂粒 褐色 普通	90% P773 竈内 (東袖内)
		B 33.4				
		C 9.0				
2	土師器 甕	A [20.2]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、つまみ上げられ、棒状工具による回線を遺らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。外面下位からヘラ磨き。底部ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 褐色 普通	30% P774 竈内 (西袖内) 覆土下層 (南壁部)
		B 34.6				
		C 9.0				
3	須恵器 坏	A [12.4]	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部にかけて外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちヘラ磨り。底部手持ちヘラ磨り。	長石 石英 砂粒 灰色 普通	70% P785 覆土上層 (南壁寄り)
		B 4.7				
		C 6.5				
4	須恵器 坏	A 12.9	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部にかけて外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ磨り。底部手持ちヘラ磨り。	長石 石英 雲母 砂粒 黄灰色 普通	70% P786 覆土下層 (南壁寄り)
		B 4.7				
		C 7.4				
5	須恵器 坏	A 12.8	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて内彎気味に立ち上がり、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ磨り。底部回転ヘラ切り痕を残す手持ちヘラ磨り。	長石 石英 砂粒 黄灰色 普通	80% P787 覆土下層 (南壁寄り)
		B 4.5				
		C 7.6				



第146图 第155号住居跡出土遺物実測図(1)



第147図 第155号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第146図	高台付埴須恵器	A 15.7	底部から口縁部の一部欠損。高台は	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	石英 雲母 砂粒	30% P768 甕内 (夾口部)
		B 6.9	長く、「ハ」の字状に開く。体部から	底部回転へラ削り。高台貼り付け、	黄灰色	
		D 9.6	口縁部にかけ、直線的に立ち上がり、	ロクロナデ。	普通	
		E 1.6	外反する。			
7	埴須恵器	A [18.1]	体部から口縁部の一部欠損。高台は	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	長石 石英 雲母	50% P769 覆土上層 (西側部)
		B 4.4	長く、「ハ」の字状に開く。体部から	体部外面下位回転へラ削り。底部回	砂粒	
		C 10.5	口縁部にかけ、外方に開き、外反	転へラ削り。高台貼り付け、ロク	灰色	
		E 1.5	する。中位に明瞭な稜を持つ。	ロナデ。	普通	
8	蓋須恵器	B (2.7)	つまみから口縁部の破片。扁平なボ	つまみ、天井部から口縁部内・外面	長石 石英 砂粒	50% P770 覆土下層 (南壁寄り)
		F 3.2	タン状のつまみを持ち、天井は平坦	ロクロナデ。頂部回転へラ削り。	黄灰色	
		G 1.2	で緩やかに開く。		普通	
第147図	埴須恵器	A [22.2]	体部から口縁部の破片。体部から口	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	雲母 砂粒	20% P771 甕上層 (南壁寄り)
		B (8.5)	縁部にかけ、直線的に立ち上がる。		にふい・黄褐色	
10	短須恵器	A 7.9	完形。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	長石 石英 砂粒	100% P772 甕内
		B 6.0	平底。体部から口縁部にかけ、内弯	体部外面下位回転へラ削り。底部回	灰色	
		D 6.9	気味に立ち上がる。下位に不明瞭な	転へラ削り。高台貼り付け、ロク	普通	
		E 1.0	稜を持ち、上位に最大径を有する。	口縁部は直立する。		

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	最大径(cm)	最小径(cm)	重量(g)		
第147図11	土製支脚	(15.4)	( 8.3)	( 4.4)	(872.0)	甕内	DP109 PL.100 被熱痕

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第147図12	石製紡織車	4.2	1.0	0.7	23.1	凝灰岩	覆土上層(南西部)	Q114 PL94

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第147図13	短刀	(5.8)	2.0	0.4	(9.7)	覆土中層(東壁寄り)	M44 PL101 刀身部

### 第156号住居跡(第148・149図)

位置 調査V区の中央部, G 9e7区。

規模と平面形 長軸3.84m, 短軸3.28mの長方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は10~12cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 南東コーナー付近を除いてはぼぼ巡っている。上幅12~22cm, 下幅2~10cm, 深さ5cmで, 断面形は緩やかなU字形である。

床 ほぼ平坦で, 各コーナー部を除きよく踏み固められている。全面, 焼土混じりのローム土による貼床で, 厚さは2~10cmである。土層断面図中の第10層が, 貼床部の土層である。

竈 北壁中央部に, 壁外へ14cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は, 焚口部から煙道部まで94cm, 両袖幅118cmである。天井部は崩落しているが, 両袖部は良好に遺存している。内面は火熱を受けて赤変硬化している。土層断面図中の第5, 8~14層が袖部の土層である。火床部は長径65cm, 短径54cmの楕円形で, 皿状に掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変している部分がわずかに見られる。煙道はほぼ垂直に立ち上がる。

#### 竈土層解説

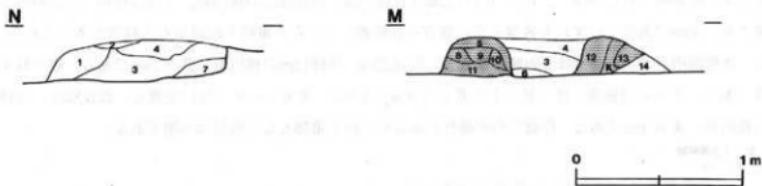
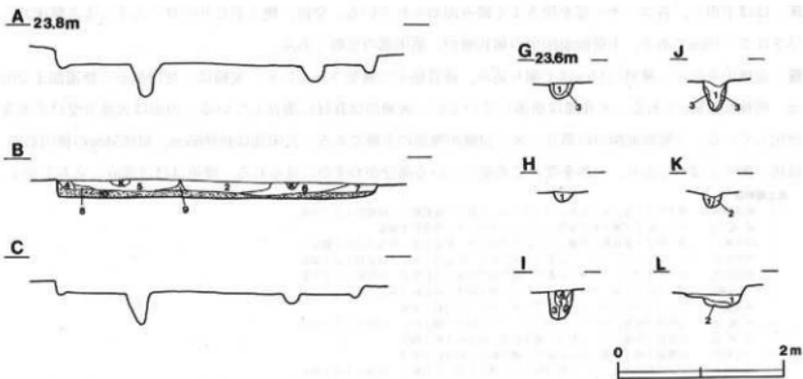
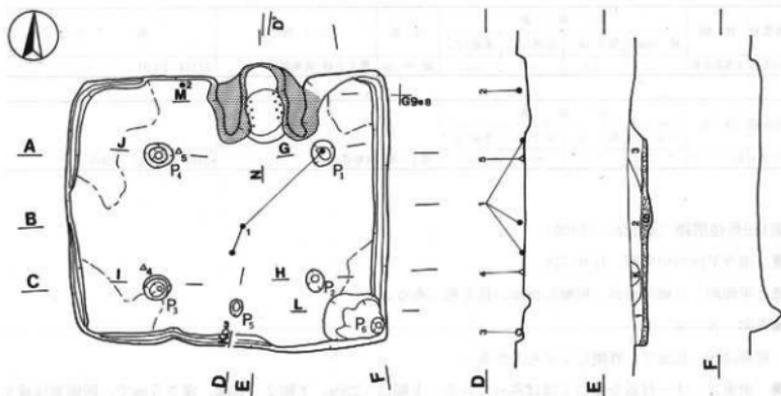
- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム小ブロック・粒子少量, 砂質粘土粒子微量
- 4 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, 砂質粘土粒子微量
- 5 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子中量, 炭化粒子・砂質粘土粒子少量
- 6 ほぼ黄褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 暗褐色 炭化粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
- 9 暗褐色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
- 10 ほぼ黄褐色 砂質粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 11 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 12 ほぼ黄褐色 砂質粘土粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子・焼土中ブロック微量
- 13 ほぼ黄褐色 砂質粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 14 ほぼ黄褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量, 炭化粒子微量

ピット 6か所(P1~P6)。P1~P4の上端は長径30cm, 短径22cmの楕円形, 下端は径10~16cmの円形で, 深さ8~36cmである。いずれも各コーナー部寄りに位置している。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は, 南壁際中央部から38cmほど内側に位置し, 長径22cm, 短径12cmの楕円形, 深さ23cmである。竈と対する位置にあり, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は, 南東コーナー部に位置し, 長径82cm, 短径58cmの楕円形, 深さ26cmである。貯蔵穴の可能性があるが, 出土遺物もなく性格は不明である。

#### ピット土層解説

##### P1~P4

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
  - 2 褐色 ローム中ブロック多量
  - 3 暗褐色 ローム中ブロック中量
  - 4 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量
- P5
- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量
  - 2 褐色 ローム大ブロック多量



第148图 第156号住居跡実測図

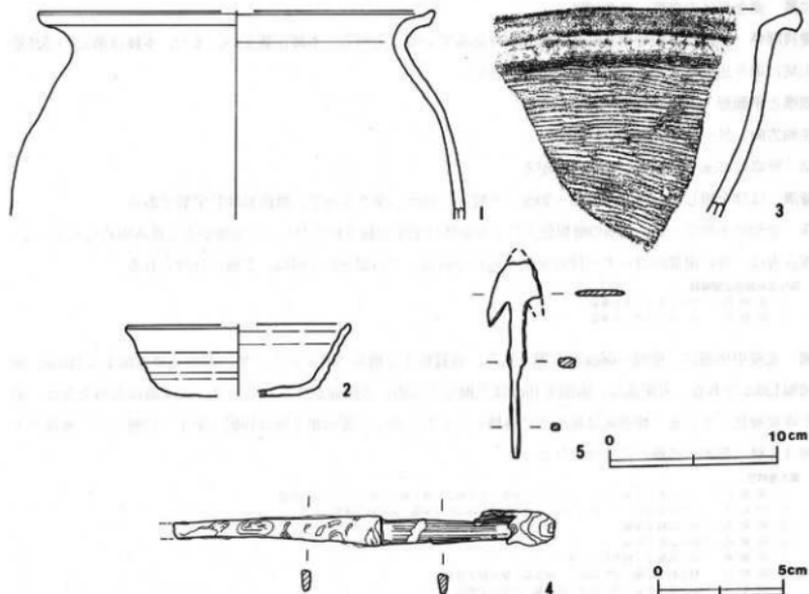
覆土 10層からなる。第3層に竈からの流れの焼土や砂質粘土が含まれることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
2	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム小ブロック微量
4	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
5	暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
6	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム中・小ブロック微量
7	暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
8	褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
9	暗褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
10	褐色	ローム中ブロック・粒子中量、焼土小ブロック・粒子少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片94点、須恵器片19点、金属製品3点（刀子、鉄鏝、不明鉄製品）が出土している。第149図1の土師器甕は、中央部から北部にかけての、覆土下層から中層に散在していた破片が接合したものである。住居廃絶後、投棄されたものと考えられる。2の須恵器坏は、北壁際の覆土中層から出土している。3の須恵器鉢は、南壁際の出入り口ピット付近の覆土下層から出土している。4の刀子は、中央部やや南西寄りの床面から出土している。刀身中位より先を欠損し、茎には木質が遺存している。5の鉄鏝は、中央部やや北西寄りの床面から出土している。鏝先と逆刺の一部が欠損しているほかは、良質に遺存している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土土器から、8世紀後葉と推定される。



第149図 第156号住居跡出土遺物実測図

第156号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第149図	1 土師器	A [23.5]	体部から口縁部の破片。体部は内彎し、腹部で強く屈曲する。口縁部は中央に明瞭な稜を持ち、つまみ上げられ、縁状工具による凹線を温らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 にふい褐色 普通	30% P272 覆土下層～ 覆土中層 (中央部～北部)
		B (12.6)				
2	2 須恵器	A [13.5]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にはいる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部一方のヘラ痕り。	砂粒 長石 褐色色 普通	40% P271 覆土中層 (北西部)
		B 4.3				
		C [ 9.6]				

図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴	備考(台帳番号、出土位置、色調など)
第149図	3	須恵器 鉢 口縁部	口縁部は上下に突出させている。口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面横位の平行凹き。内面ナデ。	T P25 覆土下層(出入り口P付近) 暗灰黄色

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第149図4	刀子	(14.5)	1.2	0.4	(11.4)	床面直上(中央部)	M45 PL101 鉄欠損 木質付着
5	鉄鏝	(11.9)	( 3.2)	0.5	(14.3)	床面直上(中央部やや北西寄り)	M46 PL106 鉄、逆刺一部欠損

第157号住居跡(第150～152図)

位置 調査Ⅳ区の南部，G9j2区。

重複関係 本跡は第49号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから、本跡が新しい。また、本跡は第520・521号土坑に掘り込まれていることから、本跡が古い。

規模と平面形 一辺4.18mの方形である。

主軸方向 N-15°-W

壁 壁高は45cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 ほほ全周している。上幅16～30cm，下幅4～10cm，深さ6cmで、断面形はU字形である。

床 全面が平坦で、2～10cmの暗褐色土により全体に貼床が施されており、中央部がよく踏み固められている。

掘り方は、特に南部のコーナー付近を掘り込んでいる。この部分の土層は、2層に分けられる。

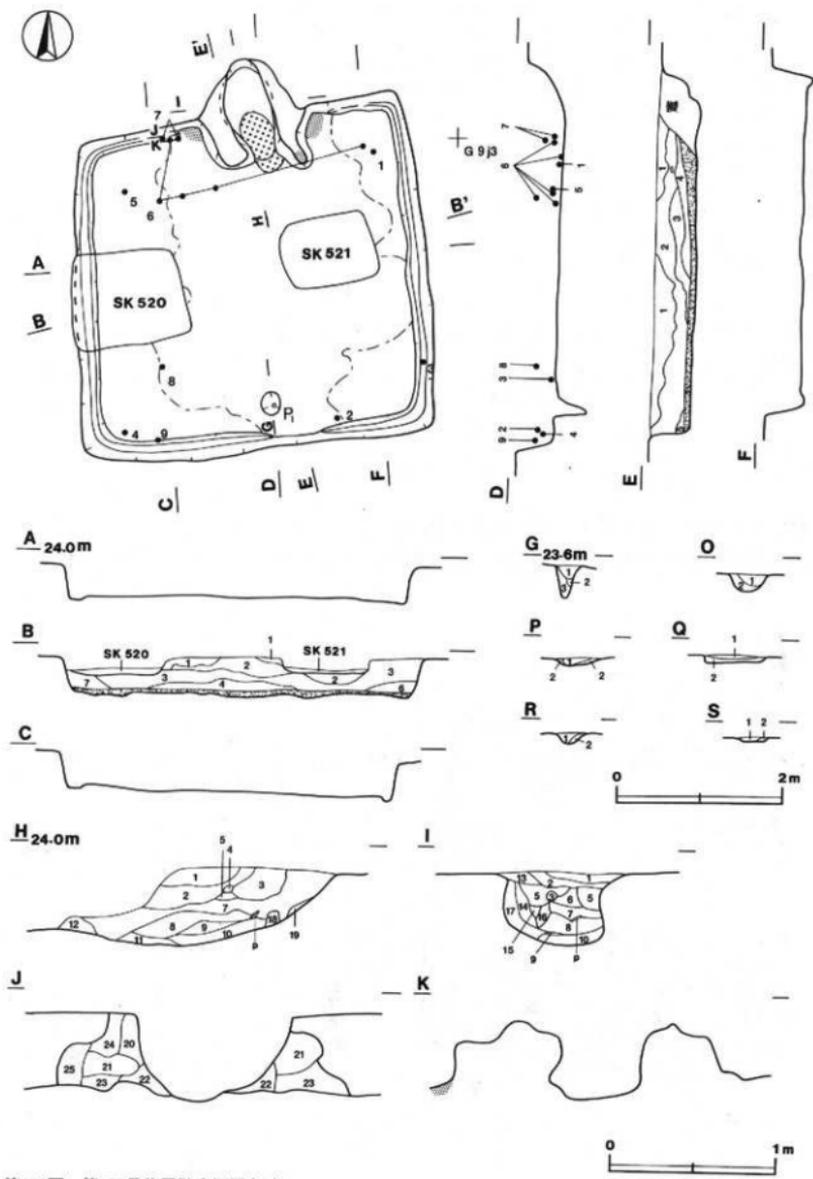
掘り込み部分土層解説

- 1 黄褐色 ローム大ブロック多量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック多量

竈 北壁中央部に、壁外へ66cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで140cm，両袖幅126cmである。火床部は、床面を10cmほど掘りくぼめ、火床面が作られている。火床面は火熱を受け、若干赤変硬化している。煙道部は緩やかに外傾して立ち上がる。竈の覆土層は19層(第1～19層)に、袖部の土層は6層(第20～25層)に分けられた。

竈土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子・焼土粒子・粘土中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 6 暗褐色 粘土粒子中量，ローム粒子・砂少量，焼土粒子微量
- 7 暗褐色 粘土粒子中量，焼土粒子・砂少量，炭化粒子微量
- 8 灰褐色 粘土粒子中量，炭化粒子・焼土粒子・粘土小ブロック・砂少量
- 9 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量，粘土粒子微量
- 10 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子中量，炭化粒子・砂少量
- 11 暗赤褐色 焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子中量
- 12 暗褐色 粘土粒子少量
- 13 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量



第150图 第157号住居跡实测图(1)

14	黄褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化粒子少量
15	じい黄褐色	ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
16	暗赤褐色	ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
17	じい黄褐色	炭化粒子・焼土粒子中量, ローム粒子少量, 粘土粒子微量
18	褐色	ローム大・小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック・炭化粒子・焼土粒子少量
19	褐色	ローム大・小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック・粘土粒子少量
20	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
21	灰黄褐色	粘土中ブロック中量, ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
22	褐色	ローム小ブロック・粒子中量, ローム中ブロック少量
23	褐色	ローム小ブロック・粒子中量
24	褐色	ローム小ブロック・粒子中量, 焼土粒子微量
25	褐色	ローム小ブロック・粒子中量, 炭化粒子・焼土粒子少量

ピット 1か所。P1は径28cmの円形で、深さ36cmである。南壁寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットの可能性が高い。

ピット土層解説

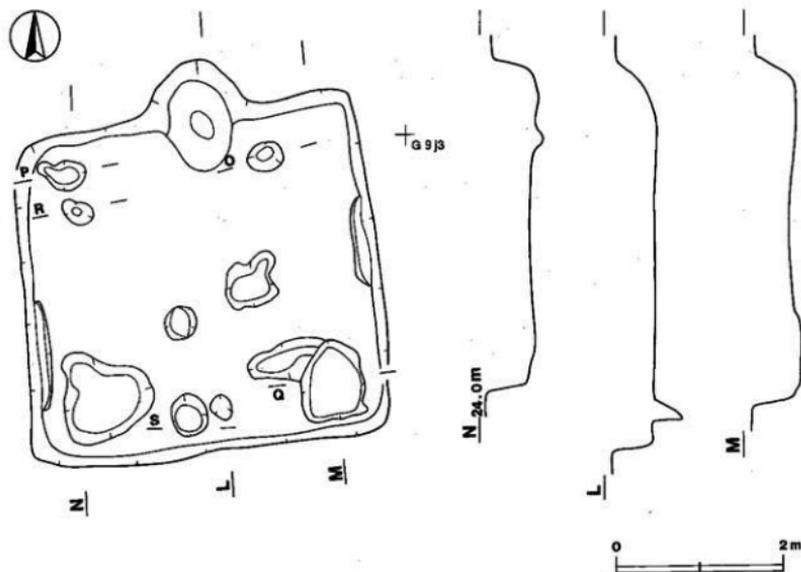
1	褐色	焼土粒子微量
2	褐色	ローム粒子微量
3	褐色	ローム中ブロック中量

覆土 7層からなり、ブロック状の堆積状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

1	褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子・焼土粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
3	褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
7	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量

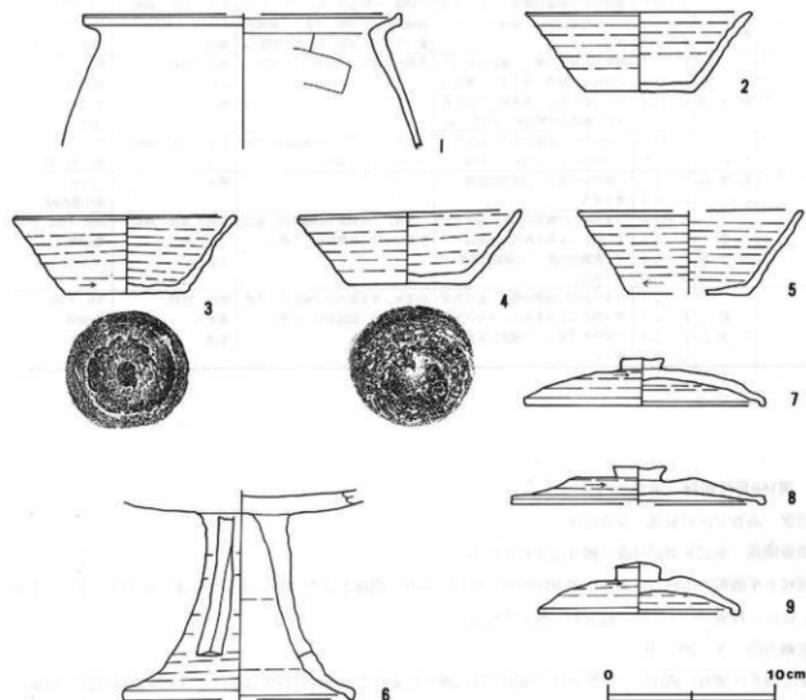
遺物 土師器片191点, 須恵器片139点, 灰軸陶器片3点, 土製品1点(支脚), 炭化材が出土している。第152図2の須恵器坏は南壁寄りの覆土中層から, 3の須恵器坏は東壁寄り, 4の須恵器坏は南西コーナー部。



第151図 第157号住居跡実測図(2)

5の須恵器坏は北西コーナー部の覆土下層から、7の須恵器蓋は庵西袖脇の覆土中層から下層にかけて、8の須恵器蓋は南西コーナー部の覆土中層から、9の須恵器蓋が南壁寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。また、出土した灰軸陶器片はともに混入と考えられる。ともに筑投産で、長頸瓶の高台部片が折戸10号窯式、体部片2点が鳴海32号窯式と考えられる。

所見 本跡の時期は、重複している住居跡の時期と出土土器から、9世紀中葉と推定される。



第152図 第157号住居跡出土遺物実測図

第157号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第152図 1	姜土師器	A 19.2	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ、内面一部ヘラナデ。	長石 雲母 砂粒 内面 暗褐色 外面 赤褐色	30% P783 覆土下層 (北東コーナー部)
		B 8.2				
2	須恵器	A 13.6	底唇と体部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面口クロナデ。底面同靴ヘラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 黒褐色	90% P775 PL75 覆土中層 (南壁寄り)
		B 4.8				
		C 6.6				
					普通	
					普通	

図版番号	器種	首径値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第152回	坏 須 恵 器	A 13.4	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナダ。体部外面下位回転へウ割り。底部回転へウ割り。	石英 雲母 砂粒 黄灰色 普通	90% P776 PL75 覆土中層 〔南西寄り〕
		B 4.7				
		C 7.3				
4	坏 須 恵 器	A 13.3	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナダ。体部外面下位回転へウ割り。底部回転へウ割り。	石英 雲母 砂粒 灰色 普通	90% P777 PL75 覆土下層 〔南西コーナー部〕
		B 4.5				
		C 7.3				
5	坏 須 恵 器	A [13.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナダ。体部外面下位回転へウ割り。底部回転へウ割り重を残す手持ちへウ割り。	石英 雲母 砂粒 黄灰色 普通	50% P778 覆土下層 〔北西コーナー部〕
		B 5.1				
		C 7.6				
6	高 須 恵 器	B [12.7]	胴部から体部の破片。胴部はわずかに外反し、屈曲し垂下する。脚部はラッパ状に開き、直方形の3孔を有する。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部から脚部内・外面ロクロナダ。	雲母 砂粒 灰色 普通	60% P779 覆土中層～ 覆土下層 〔電洞辺〕
		D [13.8]				
		E 11.2				
7	産 須 恵 器	A 14.5	つまみから口縁部の破片。扁平なボタン状のつまみを持ち、天井は平坦で緩やかに開く。口縁部は屈曲し、垂下する。	つまみ、天井部から口縁部内・外面ロクロナダ。頂部回転へウ割り。	粘土 石英 砂粒 灰色 普通	60% P780 PL75 覆土中層～覆土下層 〔北西部〕 電内〔電洞輪〕
		B 2.9				
		F 2.6				
		G 0.7				
8	産 須 恵 器	A [15.4]	つまみから口縁部の破片。扁平なボタン状のつまみを持ち、天井は平坦で、直線的に開く。口縁部は屈曲し、垂下する。	つまみ、天井部から口縁部内・外面ロクロナダ。頂部回転へウ割り。	石英 雲母 砂粒 灰に白い褐色 普通	40% P781 覆土中層 〔南西コーナー部〕
		B 2.3				
		F 3.3				
		G 0.9				
9	産 須 恵 器	A 12.1	つまみから口縁部の破片。扁平なボタン状のつまみを持ち、天井は平坦で緩やかに開く。口縁部は屈曲し、垂下する。	つまみ、天井部から口縁部内・外面ロクロナダ。頂部回転へウ割り。	雲母 砂粒 黄灰色 普通	50% P782 覆土中層 〔南西寄り〕 覆土下層
		B 3.1				
		F 2.8				
		G 1.1				

### 第158号住居跡 (第153・154図)

位置 調査V区の東部、G9d8区。

重複関係 東部を第23号溝に掘り込まれている。

規模と平面形 本跡の東部分が調査区域外に延びており、明確ではないが、残存する床や壁や柱穴から、長軸4.28m、短軸(3.10)mの長方形と推定される。

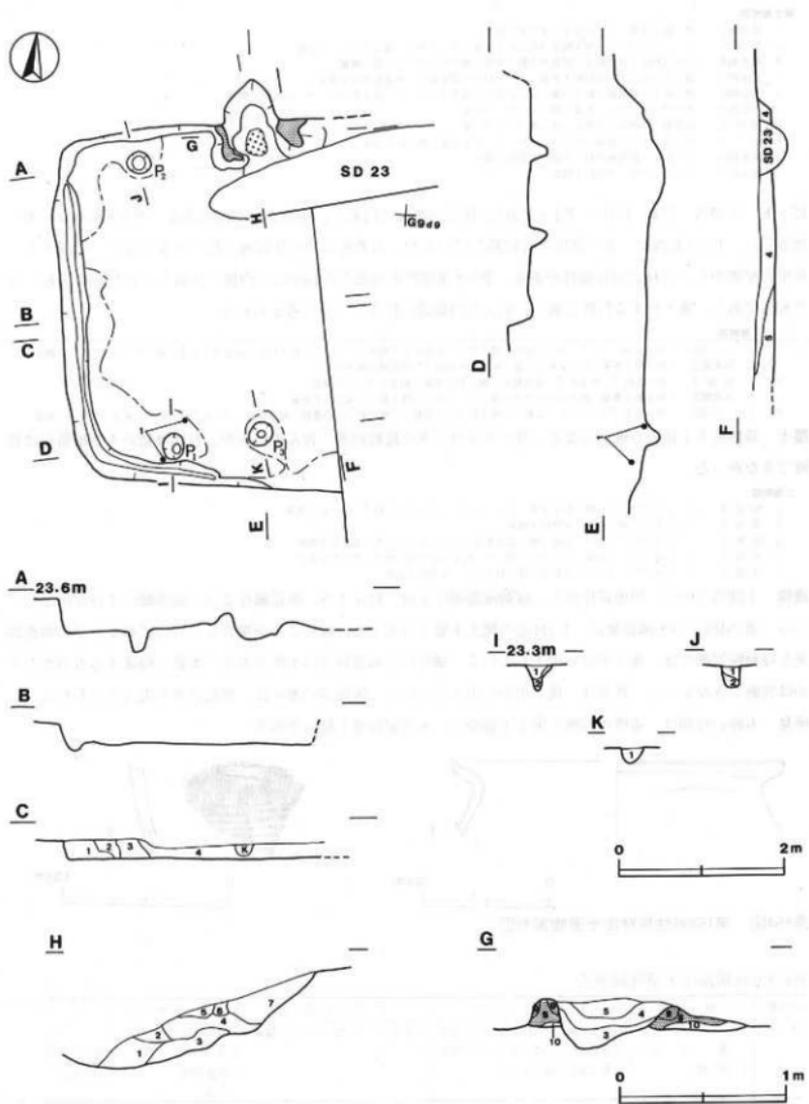
主軸方向 N-10°-W

壁 調査区域外に延びている部分及び第23号溝に掘り込まれている部分以外は確認できた。壁高は25～40cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 調査区域外及び第23号溝と重複している部分が不明であるほかは確認できた。上幅22～30cm、下幅3～11cm、深さ6cmで、断面形はU字形である。

床 ほほ平坦で、周辺部を除き、踏み固められている。

竈 北壁中央部に、壁外へ44cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで148cm、両袖幅140cmである。第23号溝によって東袖部の先端が掘り込まれている。天井部は崩落しており、第5層から第7層までが崩落土と考えられる。西袖部は良好に遺存しており、粘土塊を芯材にし、砂質粘土を貼り付けて構築しているのが確認された。土層断面図中の第8～10層が袖部の土層である。第3層の下面が火床面で、赤変硬化している部分が見られる。火床部は長径32cm、短径24cmの楕円形で、皿状に深さ14cmほど掘りくぼめられており、火熱を受けて赤変している。



第153图 第158号住居跡实测图

覆土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子・焼土中ブロック微量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量、焼土小ブロック・粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 5 濃い褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 6 明黄褐色 砂質粘土大ブロック多量、焼土大ブロック中量
- 7 暗褐色 砂質粘土中ブロック多量、焼土小ブロック少量
- 8 褐色 粘土大ブロック多量、ローム小ブロック・粒子少量、焼土粒子微量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 10 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量

ピット 3か所 (P1~P3)。P1・P2は、径22~26cmの円形で、深さ20~24cmである。P1は南西コーナー部寄りに、P2は北西コーナー部寄りに位置しているが、当遺跡の他の住居跡と比べかなり壁際に位置する。規模と配置から、主柱穴の可能性がある。P3は南壁際中央部から48cmほど内側に位置し、径12cmの円形、深さ8cmである。竈と対する位置にあり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

- P1 1 濃い褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム中ブロック微量
- 2 灰黄褐色 粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
- P2 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、粘土小ブロック微量
- 2 灰黄褐色 粘土粒子多量、粘土小ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- P3 1 濃い褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム中ブロック・粘土小ブロック微量

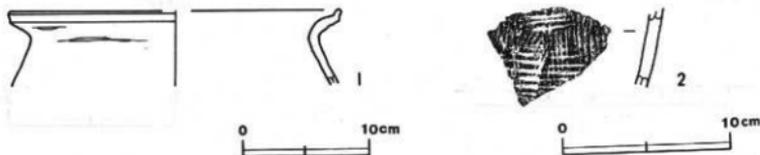
覆土 暗褐色土主体の5層からなる。ロームブロックを比較的多く含んでいるが、自然堆積か人為堆積かは判断できなかった。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片69点、須恵器片46点、緑釉陶器細片1点、鉄滓1点、陶器細片2点、磁器細片4点が出土している。第154図1の土師器甕は、P1付近の覆土下層から出土した破片2点が接合したものである。2の須恵器甕と緑釉陶器細片は、覆土中から出土している。細片のため器種等は不明であり、本跡に帰属するものかどうかは判断できなかった。鉄滓は、覆土中から出土している。陶磁器の細片は、攪乱による混入と思われる。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土土器から、8世紀後半と推定される。



第154図 第158号住居跡出土遺物実測図

第158号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第154図 1	甕 土師器	A [26.0] B (5.9)	口縁部の破片。口縁部は中位に明瞭な稜を持ち、つまみ上げられ、縁状工具による凹溝を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。外面輪縁のみ	砂粒 雲母 長石 スコリア 明赤褐色 普通	5% P273 覆土中・F層 (P1付近)

図取番号	器種	部分	器形・手法の特徴	備考(台帳番号, 出土位置, 色調など)
第154回 2	須恵器	素 体 部	外面格子叩き。内面ナデ。	TFP26 覆土中 黄灰色

### 第159号住居跡 (第155・156図)

位置 調査V区の東部, G9c9区。

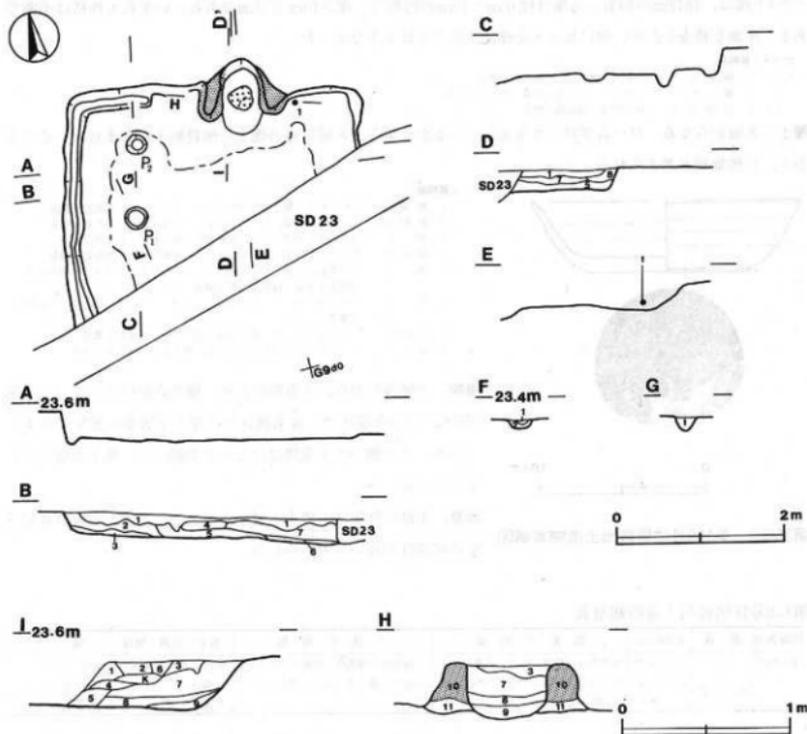
重複関係 南部を第23号溝に掘り込まれている。

規模と平面形 本跡の南東部分が調査区域外に延びており, 明確ではないが, 残存する床や壁から, 長軸3.50 m, 短軸 (2.80) mの長方形と推定される。

主軸方向 N-10°-E

壁 調査区域外に延びている部分以外は確認できた。壁高は30~32cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 南東部分が調査区域外に延びており, 不明であるが, 西壁下だけで確認できた。上幅8~14cm, 下幅2~5cm, 深さ8cmで, 断面形は逆台形である。



第155図 第159号住居跡実測図

床 は平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に、壁外へ12cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、笑口部から煙道部まで46cm、両袖幅48cmである。天井部は崩落しており、第1層から第6層までが崩落土と考えられる。袖部の残存状況は、非常に悪い。竈手前の床面には、袖部の痕跡は確認されておらず、袖部がどの程度張り出していたかは不明である。土層断面図中の第10・11層が袖部の土層である。第9層の下面が火床部で、赤変硬化している部分が見られる。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 に灰黄褐色 砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 に灰黄褐色 炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 に灰黄褐色 砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 4 暗褐色 炭化粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 5 暗赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
- 6 暗赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・炭化粒子中量、焼土中ブロック少量、ローム粒子微量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 9 暗赤褐色 炭化粒子少量、焼土粒子・灰微量
- 10 に灰黄褐色 砂質粘土大ブロック多量、焼土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 11 暗褐色 ローム粒子微量

ピット 2か所(P1・P2)。P1は中央部やや西寄りに、P2は北西コーナー部寄りに位置している。P1・P2の上端は、径12cmの円形、下端は径6cmと10cmの円形で、深さ10cmと14cmである。いずれも性格は不明である。床面を精査したが、他にピットを確認することはできなかった。

ピット土層解説

- P1 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  
 2 褐色 ローム小ブロック・粒子少量、焼土粒子微量  
 P2 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

覆土 8層からなる。ロームブロックを含んでいるが、第5・8層に竈の焼土や砂質粘土が含まれていることから、自然堆積と考えられる。



土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム中・小ブロック・粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量
- 6 褐色 ローム中ブロック・粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 土師器片28点、須恵器片31点、礫3点が出土している。第156図1の須恵器片は、竈東袖付近の覆土下層から盗位で出土している。その他の出土遺物はほとんどが細片で、覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は、覆土下層から出土した土器から、9世紀前葉の可能性が高いと考えられる。

第156図 第159号住居跡出土遺物実測図

第159号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第156図 1	須恵器 杯	A [16.0] B 4.3 C 9.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。底部は内側して立ち上がり、口縁部にはいる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し痕を残す方向のヘナデ。	砂粒 雲母 石英 灰黄色 不良	60% P276 覆土下層 (竈東袖付近)

第160号住居跡 (第157・158図)

位置 調査Ⅳ区の北部, F 8 i4区。

規模と平面形 長軸3.48m, 短軸3.40mの方形である。

主軸方向 N-7°-W

壁 壁高は22~25cmで, 外頼して立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅8~36cm, 下幅2~10cm, 深さ3cmで, 断面形はU字形である。

床 全面が平坦で, 2~6cmの褐色土により, 全体に貼床が施されており, 各コーナー部を除いてよく踏み固められている。掘り方は, 特に北西コーナー部と南西コーナー部付近を14cmほど掘り込んでいる。

竈 北壁中央部に, 壁外へ12cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで97cm, 両袖幅97cmである。火床部は, 床面を22cmほど掘りくぼめた後, にぶい赤褐色土を貼り付け, 深さ6cmほどの火床面が作られている。火床上面は火熱を受け, 赤変硬化している。煙道はほぼ垂直に立ち上がる。

覆土層解説

1	暗赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量, 粘土粒子微量
2	暗赤褐色	ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量, ローム小ブロック・粘土粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子・粘土粒子少量, ローム小ブロック微量
4	にぶ暗褐色	炭化粒子・焼土粒子・粘土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
5	赤褐色	焼土粒子多量, 炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
6	暗褐色	焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック微量
7	黄褐色	粘土粒子中量, ローム小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量
8	暗褐色	焼土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, 粘土粒子微量
9	赤褐色	焼土中・小ブロック・粒子多量, 炭化粒子少量, ローム粒子・粘土粒子微量
10	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
11	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量, 粘土粒子微量
12	黄褐色	ローム小ブロック・粘土粒子中量, ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量
13	にぶ暗褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子・粘土粒子微量
14	にぶ暗褐色	焼土粒子多量, 炭化粒子中量, ローム粒子・粘土粒子微量
15	暗赤褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量
16	にぶ暗褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子少量
17	褐色	炭化粒子・焼土粒子少量
18	暗褐色	焼土粒子中量
19	褐色	炭化粒子・焼土粒子微量
20	にぶ暗褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子少量

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は長径30cm, 短径26cmの楕円形で, 深さ22cmである。南壁寄りに位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は南西コーナー部に位置し, 径50cmの円形で, 深さ8cmである。性格は不明である。

ピット土層解説

1	褐色	ローム中ブロック少量
2	褐色	ローム大ブロック中量

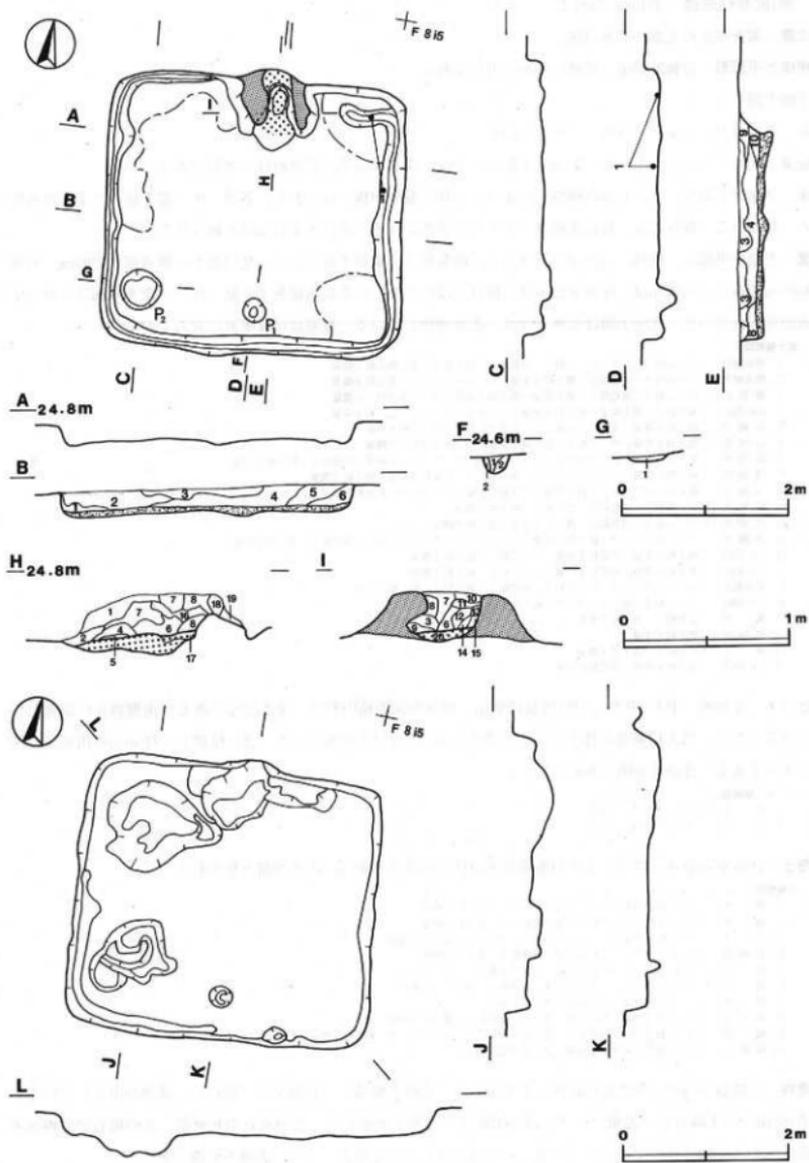
覆土 10層からなり, ブロック状の堆積状況が見られることから, 人為堆積と思われる。

土層解説

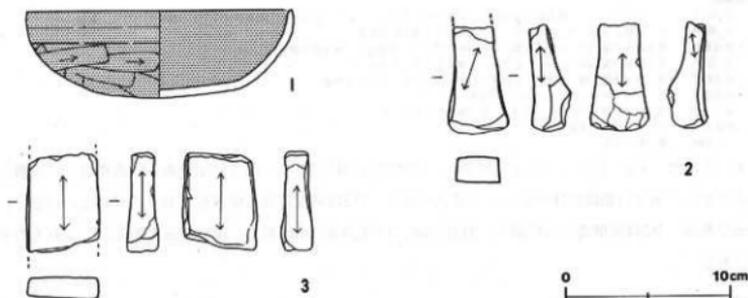
1	褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
2	褐色	ローム小ブロック・粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
3	褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
4	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
5	褐色	ローム小ブロック・粒子少量, 炭化粒子微量
6	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
7	褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子・焼土粒子微量
8	暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
9	褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子・焼土粒子少量, ローム小ブロック・粘土粒子微量
10	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量

遺物 土師器片75点, 須恵器片10点, 土製品1点 (不明土製品), 石器1点 (砥石), 鉄滓が出土している。第158図1の土師器片が北東コーナー部と東壁寄りの覆土下層から, 2の砥石が北東部, 3の砥石が北西部の覆土中からそれぞれ出土している。また, 土製品はもろくて崩れやすく, 実測不可能であった。

所見 本跡の時期は, 出土土器から8世紀前葉と推定される。



第157图 第160号住居跡実測図



第158図 第160号住居跡出土遺物実測図

第160号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第158図 1	坏 土師器	A 16.0 B 5.3	口縁部の一部欠損。丸床。体部から口縁部にかけ、内摩気味に立ち上がり、直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。外面中位から底部外面にかけ手持ちヘラ削り。底部ナデ。内・外面黒色処理。	スコリア 砂粒にふい粉色 普通	90% P784 PL75 覆土7層 (北東コーナー一部、東壁寄り)

図版番号	種別	計測値			石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)			
第158図2	砥石	(6.6)	3.6	(2.3)	(67.0)	凝灰岩	覆土中層(北東部) Q115 PL96
3	砥石	(6.0)	4.4	(1.7)	(67.1)	凝灰岩	覆土中層(北西部) Q116 PL95

### 第161号住居跡(第159・160図)

位置 調査IV区の北部, F 8 j3区。

重複関係 本跡は第566号土坑に掘り込まれていることから, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.85m, 短軸3.60mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は12~25cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅14~42cm, 下幅2~18cm, 深さ5~10cmで, 断面形はU字形である。

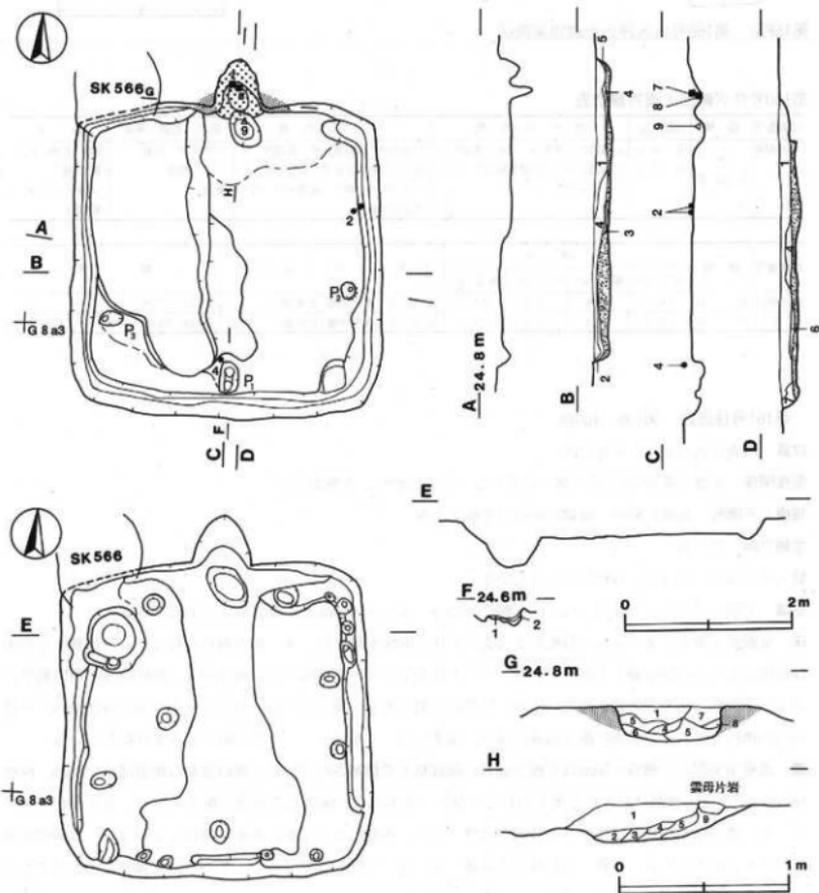
床 全面が平坦で, 2~8cmの暗褐色土により全体に貼床が施され, よく踏み固められている。西側半分の床は貼床によって約10cm盛り上がりしており, ベッド状を呈している。竈手前に長径50cm, 短径34cmの楕円形で, 深さ16cmの掘り込みが確認されているが, 性格は不明である。掘り方には, 北西コーナー部に長径82cm, 短径74cmの楕円形で, 深さ40cmの掘り込みのほか, 周溝に沿って小さなビット状の掘り込みが点在している。

竈 北壁中央部に, 壁外へ50cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで70cm, 両袖幅114cmである。袖部はほとんど張り出していない。火床部は, 床面を5cmほど掘りくぼめ, 火床面が作られている。焚口部から煙道部まで, 全体的に火熱を受け, 赤変しているが, あまり硬化していない。火床部中央奥に7と8の雲母片岩(写真のみ掲載)を設置している。火熱を受けていることから, 支脚として転用されたと考えられる。煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。

富士層解説

- |        |   |
|--------|---|
| 1 暗褐色  | ローム小ブロック・焼土粒子少量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック微量 |
| 2 黒褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量                          |
| 3 極暗褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量                   |
| 4 黒褐色  | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・焼土小ブロック少量                           |
| 5 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量                       |
| 6 暗赤褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量                                    |
| 7 褐色   | 焼土粒子中量、ローム小ブロック・炭化物・焼土粒子少量                            |
| 8 明赤褐色 | 焼土小ブロック多量   |
| 9 白粉状  | 焼土粒子多量  |

ピット 3か所 (P1~P3)。P1は長径30cm、短径22cmの楕円形で、深さ14cmである。南壁寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は東壁寄りに位置しており、径18cmの円形で、深さ24cmである。P3は南壁寄りに位置し、長径30cm、短径20cmの楕円形で、深さ17cmである。いずれも性格は不明である。



第159図 第161号住居跡実測図

P1土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック少量  
2 褐色 ローム大ブロック中量

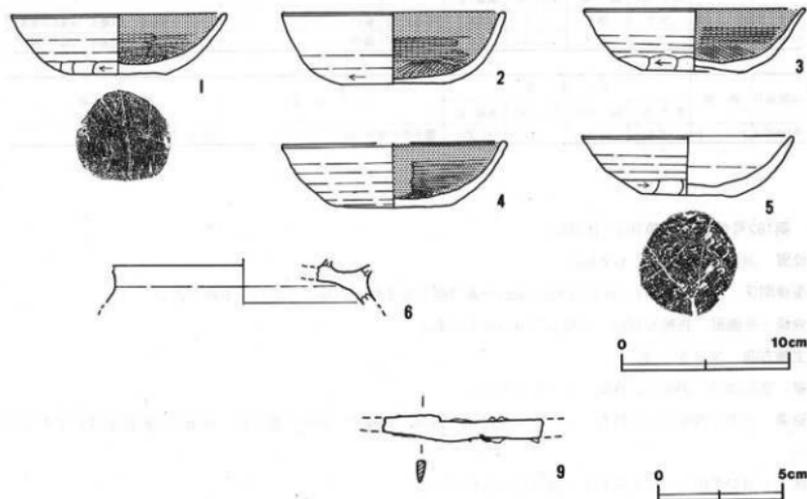
覆土 7層からなり、ブロック状の堆積状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量  
2 褐色 ローム粒子多量、ローム中・小ブロック中量、炭化粒子微量  
3 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量  
4 褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量、炭化粒子・焼土粒子微量  
5 褐色 ローム中・小ブロック・粒子中量  
6 褐色 ローム中・小ブロック多量、ローム粒子中量、炭化粒子・焼土粒子微量  
7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量

遺物 土師器片128点、須恵器片48点、灰釉陶器片1点、緑釉陶器片1点、金属製品1点(刀子)、石塊2点(雲母片岩)が出土している。第160図1の土師器杯と5の須恵器杯は竈内と覆土中から、2の土師器杯は北東部の覆土中と東壁寄りの床面直上から、4の土師器杯は南壁寄りの覆土中から、6の須恵器円面視は北西部の覆土中から、7と8の雲母片岩は竈内から、9の刀子は竈手前の掘り込みの中からそれぞれ出土している。また、竈内から出土した灰釉陶器片は皿の体部片、南西部の覆土中から出土した緑釉陶器片は椀の体部から口縁部片であり、ともに狭投窯産(黒笹90号窯式)と考えられる。

所見 本跡の時期は、重複している土坑の時期と出土土器から、9世紀後葉と推定される。



第160図 第161号住居跡出土遺物実測図

第161号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	直径(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第160図	1 杯 土師器	A 12.8	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ、内母気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちへう削り、体部から底部内面へう削ぎ。底部手持ちへう削り。内面黒色処理。	石英 雲母 砂粒	60% P788
		B 3.6			にぶい黄褐色	竈内
		C 5.8				普通

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第160図 2	坏 土師器	A 12.6	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ、内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転へり削り。体部から底部内面へり磨き。底部回転へり削り。内面黒色処理。	長石 砂粒 にぶい黄褐色 普通	50% P787 床面直上 (東壁寄り)
		B 4.3				
		C 6.2				
3	坏 土師器	A 13.3	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ、内彎気味に立ち上がり、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちへり削り。体部から底部内面へり磨き。底部回転へり削り。内面黒色処理。	雲母 砂粒 灰黄褐色 普通	40% P788 覆土中 (南東部)
		B 3.9				
		C 6.3				
4	坏 土師器	A [13.5]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ、内彎気味に立ち上がり、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部から底部内面へり磨き。底部回転へり削り後、ナデ。内面黒色処理。	石英 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	40% P789 覆土中 (南壁寄り)
		B 3.9				
		C 7.6				
5	坏 須恵器	A 12.6	口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけ内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちへり削り。底部回転へり削り。	スコリア 砂粒 橙色 普通	45% P785 PL75 覆内 覆土中
		B 3.7				
		C 5.6				
6	円面 須恵器	B (3.1)	脚部から内縁の破片。外縁・内縁ともに断面は三角形。脚部は内彎気味に内傾して立ち上がる。	視部ロクロナデ。	雲母 スコリア 砂粒 黄褐色 普通	10% P790 覆土中 (北西部)

写真図版	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
PL97 7	石 塊	20.2	19.2	9.1	4590.5	雲母片岩 覆内	Q117 支脚転用 二次焼成 写真のみ掲載	
PL97 8	石 塊	22.7	14.9	12.3	5110.4	雲母片岩 覆内	Q118 支脚転用 二次焼成 写真のみ掲載	

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第160図 9	刀 子	(6.4)	1.0	0.4	(7.25)	籠手前の握り込み	M48 PL102 脚部付近

### 第162号住居跡(第161・162図)

位置 調査IV区の北部，G 8 b3区。

重複関係 本跡は第541～543号土坑，第21号溝に掘り込まれていることから，本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.70m，短軸3.55mの方形である。

主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は15～20cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁と西壁沿いに残存している。上幅16～28cm，下幅3～16cm，深さ2～6cmで，断面形はU字形である。

床 全面が平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に，壁外へ58cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで102cm，両袖幅110cmである。竈の東側部分は粘土を貼り付けず，掘り込んだ北壁の角を利用している。火床部は，床面を12cmほど掘りくぼめ，火床面が作られている。焚口部から煙道部まで，全体的に火熱を受け，赤変しているが，あまり硬化していない。煙道は階段状に立ち上がる。

#### 壁土層解説

- 1 褐色 焼土小ブロック少量
- 2 におり褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土中ブロック少量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・焼土小ブロック少量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック少量，炭化灰・粉七粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，粘土粒子微量
- 6 におり褐色 焼土小ブロック・粘土中ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 7 におり褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土小ブロック・焼土小ブロック少量

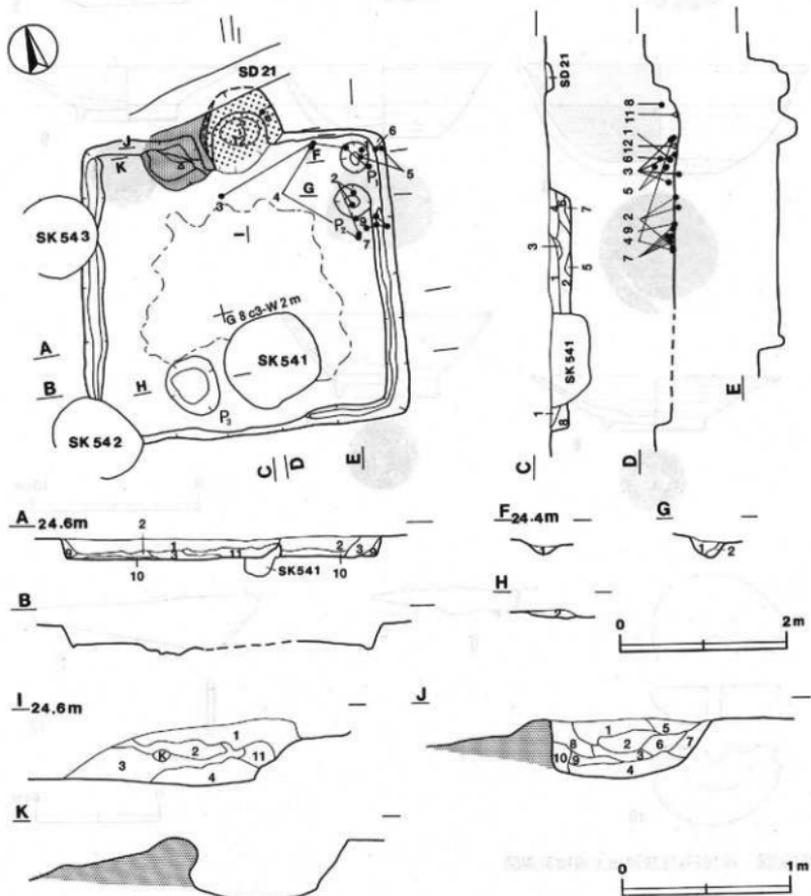
- 8 褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 9 暗赤褐色 炭化粒子・焼土小ブロック中量、焼土中ブロック少量、粘土粒子微量
- 10 紅褐色 粘土中・小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土小ブロック微量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック微量

ピット 3か所 (P1~P3)。P1とP2は北東コーナー部に、P3は南壁寄りに位置し、長径32~70cm、短径30~62cmの楕円形と円形で、深さ10~14cmである。いずれも性格は不明である。

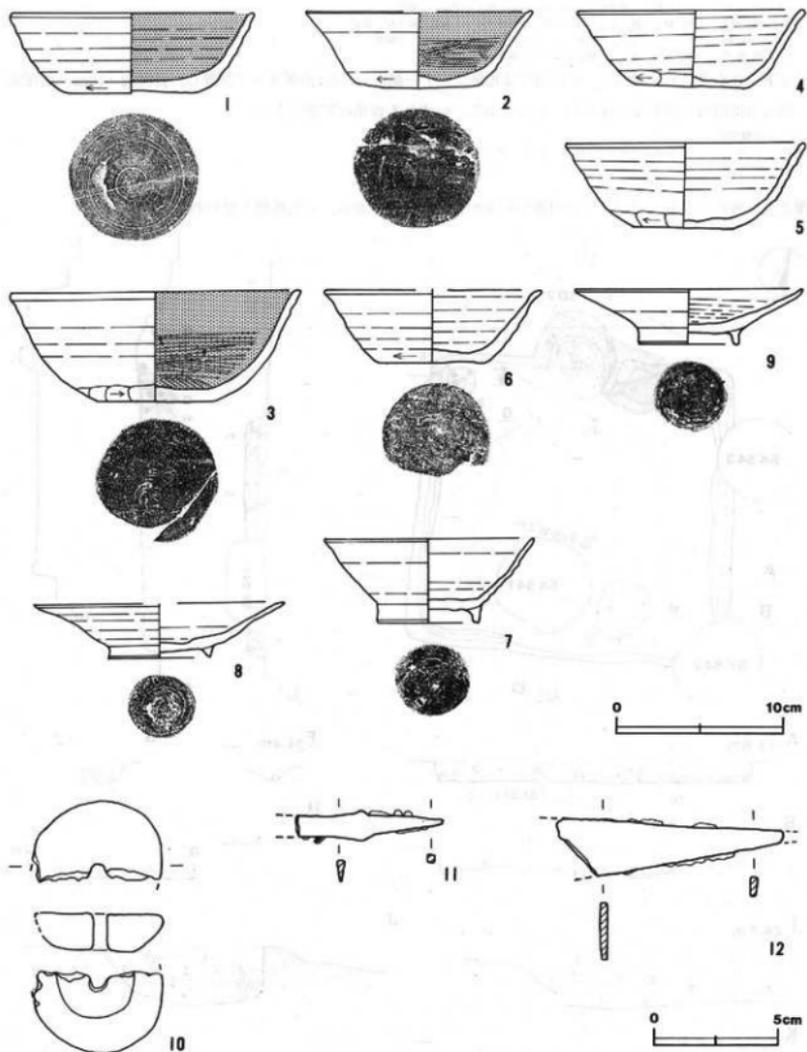
ピット土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子・焼土粒子微量

覆土 11層からなり、ブロック状の堆積状況が見られることから、人為堆積と思われる。



第161図 第162号住居跡実測図



第162图 第162号住居跡出土遺物実測図

## 土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、炭化物・焼土粒子微量
3	褐色	ローム中・小ブロック・粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック微量
7	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量
8	褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
9	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
10	褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
11	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片316点、須恵器片104点、土製品1点(紡錘車)、金属製品2点(刀子、不明鉄製品)、炭化物が、北東部の下層を中心に出土している。第162図1の土師器坏は竈内、北東コーナー部の覆土下層およびP2の覆土中から、2の土師器坏は東壁寄りの覆土下層と床面直上から、3の土師器碗は北東部の覆土上層、南東部の覆土中層および竈手前から北東コーナー部にかけての覆土下層と床面直上から、4の須恵器坏は北西部の覆土中層、北壁寄りの覆土下層および東壁寄りの床面直上から、9の須恵器高台付皿はP2脇の床面直上から、8の須恵器高台付皿と11の刀子は竈内から、7の須恵器高台付坏は東壁寄りの覆土下層から、10の紡錘車は北西部の覆土上層から、12の不明鉄製品は竈西袖からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、重複している遺構の時期と出土土器から、9世紀末葉と推定される。

第162号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第162図 1	土師器 坏	A 14.4	底部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面クロコナダ。体部外面下位回転へつ割り。底部回転へつ割り後、ナダ。内面黒色処理。	スコリア 砂粒 にぶい褐色 普通	90% P792 PL75 P2覆土中、竈内、 覆土下層 (北東コーナー)
		B 4.8				
		C 7.8				
2	土師器 坏	A [13.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面クロコナダ。体部外面下位回転へつ割り。体部から底部内面へつ割り。底部回転へつ割り後を残す手持ちへつ割り。内面黒色処理。	砂粒 にぶい褐色 普通	50% P793 床面直上。 覆土下層 (東壁寄り)
		B 4.7				
		C 7.4				
3	碗 土師器	A 17.2	体部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面クロコナダ。体部外面下位手持ちへつ割り。体部から底部内面へつ割り。底部回転へつ割り後、ナダ。内面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	90% P791 PL75 覆土上層(北東部) 覆土中層(南東部) 覆土下層 床面直上 (竈手前・北東コーナー部)
		B 6.7				
		C 7.0				
4	須恵器 坏	A 13.6	底部から口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面クロコナダ。体部外面下位手持ちへつ割り。底部手持ちへつ割り。	長石 石英 雲母 砂粒 黒褐色 普通	80% P794 PL75 覆土中層(北西部) 覆土下層(北壁寄り) 床面直上(東壁寄り)
		B 4.9				
		C 6.6				
5	須恵器 坏	A 16.4	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面クロコナダ。体部外面下位手持ちへつ割り。底部手持ちへつ割り。	雲母 スコリア 砂粒 褐色 普通	50% P795 覆土中層～ 覆土下層 (北東コーナー) 覆土中(南東部)
		B 5.4				
		C [6.2]				
6	須恵器 坏	A [13.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、外反する。	口縁部から体部内・外面クロコナダ。体部外面下位回転へつ割り。底部回転へつ割り後を残す一方向の手持ちへつ割り。	石英 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	50% P796 覆土中層 (北東コーナー)
		B 4.4				
		C 6.4				
7	高台付坏 須恵器	A 12.6	高台部から口縁部の破片。高台は長く、「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面クロコナダ。底部回転へつ割り。高台貼り付け、クロコナダ。	石英 雲母 砂粒 灰色 普通	60% P797 覆土下層 (東壁寄り)
		B 5.1				
		D 6.2				
		E 1.1				
		A [15.2]				
8	高台付皿 須恵器	B 3.3	高台部から口縁部の破片。高台は短く、「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて、内彎気味に開き、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面クロコナダ。底部回転へつ割り。高台貼り付け、クロコナダ。	石英 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	60% P799 竈内
		D 6.1				
		E 0.8				
		A [15.2]				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第162図 9	高台付直 頸 器	A 13.7	口縁部の一部欠損。高台は長く、「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて、内側気味に開き、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け、ロクロナデ。	石英 雲母 砂粒 灰色 普通	95% P78 PL75 床面産上 (P28)
		B 3.5				
		D 6.0				
		E 1.1				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第162図10	土製紡車	5.2	1.5	0.7	(25.1)	覆土上層(北西部)	DP110

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第162図11	刀子	(5.9)		0.3	(6.25)	甕内	M49 PL102 関部・釜部
12	不明鉄製品	(9.0)	2.4	0.4	(26.0)	甕内(西袖内)	M50 PL107

### 第163号住居跡 (第163・164図)

位置 調査IV区の北部，G 8 d3区。

規模と平面形 西側半分が調査区域外のため，南北軸4.86m，東西軸(3.14) mで長方形と推定される。

主軸方向 N-13°-E

壁 壁高は15~20cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 北東コーナー部と南東コーナー部付近に残存している。上幅18~24cm，下幅2~8cm，深さ6cmで，断面形はU字形である。

床 全面が平坦で，中央部がよく踏み固められている。

甕 北壁中央部に，壁外へ96cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。焚き口から煙道部まで112cmである。袖部は粘土を貼り付けているが，張り出しはほとんどない。火床部は，床面を7cmほど掘りくぼめ，火床面が作られている。焚き口から煙道部まで，全体的に火熱を受けているが，ほとんど赤変硬化していない。火床部奥西寄りに土製支脚が設置され，その上に第164図2の土師器坏が重ねてあり，支脚として使用されている。煙道は緩やかに外傾して，階段状に立ち上がる。甕の覆土は8層(第1~8層)に，西袖部の土層は6層(第9~14層)に分けられた。

#### 甕土層解説

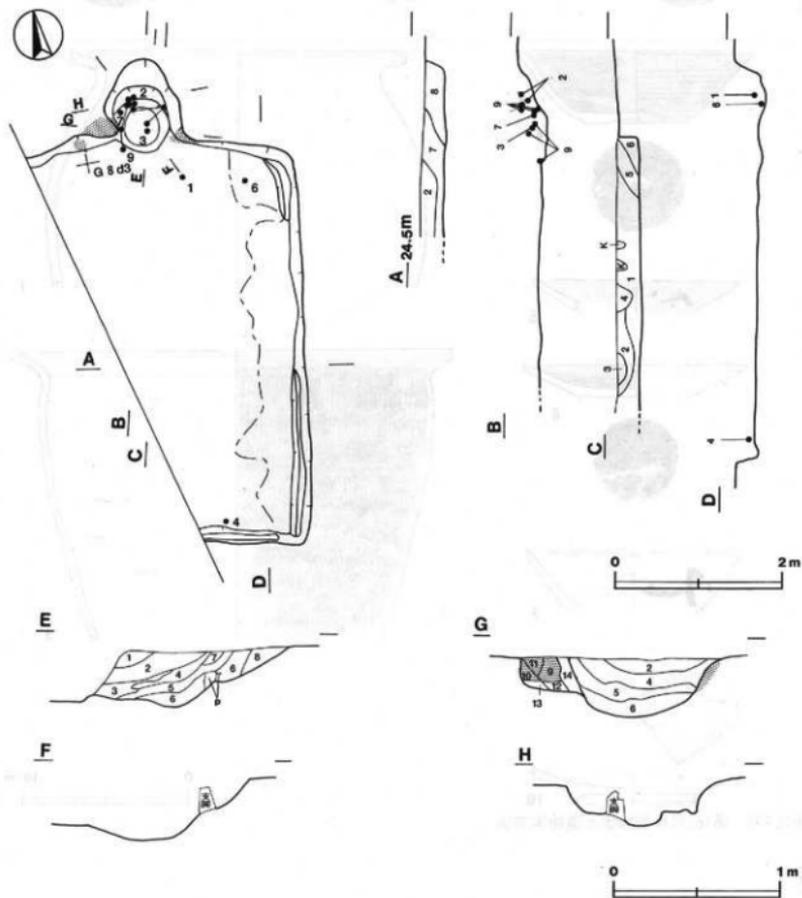
- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量，焼七粒子微量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中・小ブロック・焼七粒子微量
- 3 暗赤褐色 炭化粒子中量，ローム粒子・焼七粒子少量
- 4 赤褐色 焼七粒子多量，焼土中・小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 暗赤褐色 炭化粒子・焼七粒子中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック少量
- 6 赤褐色 焼七粒子多量，ローム粒子・炭化粒子・焼七小ブロック中量，焼土中ブロック少量
- 7 じいね褐色 炭化粒子・焼七小ブロック・焼七粒子中量，ローム粒子微量
- 8 赤褐色 炭化粒子・焼土中・小ブロック・粒子中量，ローム粒子微量
- 9 じいね褐色 粘土粒子中量，ローム粒子少量，炭化粒子・焼七粒子微量
- 10 じいね褐色 粘土粒子多量，ローム粒子少量，炭化粒子・焼七粒子微量
- 11 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子・焼七粒子・粘土粒子微量
- 12 褐色 ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量，炭化粒子・焼七粒子微量
- 13 褐色 ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量，焼七粒子微量
- 14 暗赤褐色 炭化粒子・焼七粒子少量，ローム粒子・焼七小ブロック微量

覆土 8層からなり，ブロック状の堆積状況が見られることから，人為堆積と思われる。

#### 土層解説

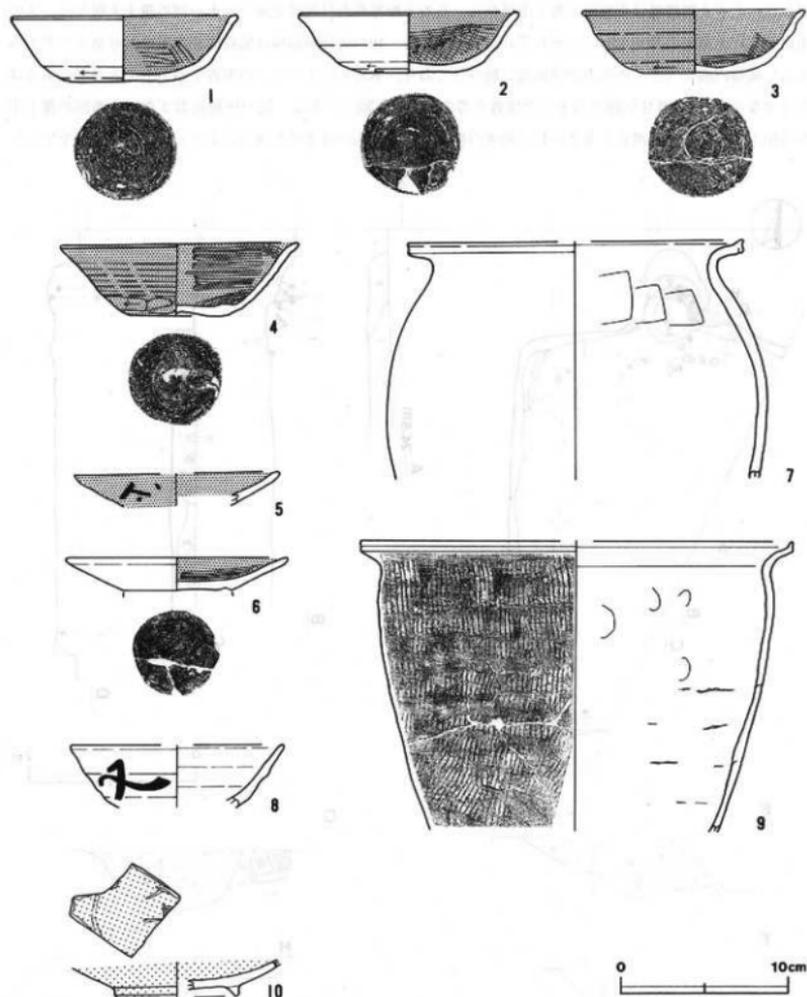
- 1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子・焼七粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼七粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子・焼七粒子微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子・焼七粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・焼七粒子少量
- 6 暗赤褐色 炭化粒子多量，ローム粒子・焼七粒子・灰少量
- 7 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック・焼七粒子微量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子・焼七粒子微量

遺物 土師器片210点, 須恵器片58点, 灰軸陶器片3点, 土製品1点(支脚)が出土している。竈に多くが集中している。第164図1の土師器坏は竈手前の覆土下層から, 2の土師器坏は竈内から支脚の上に重なって, 3の土師器坏と7の土師器甕・9の須恵器鉢・10の灰軸陶器椀は竈内から, 4の土師器坏は南壁寄りの覆土下層から, 5の土師器皿は南西部の覆土中層から, 6の土師器高台付皿は北東コーナー部の覆土下層から, 8の須恵器坏は北東部の覆土中層からそれぞれ出土している。10の灰軸陶器椀は狹投窯産の黒笹90号窯式と考えられる。底部内面に「丕」の刻書が焼成前に施されており, 本跡で出土している墨書土器のものと共通であるばかりでなく, 第154号住居跡で出土した墨書土器のものとも同じである。他の灰軸陶器2点は, 西部の覆土中から出土し, 折戸53号窯式と考えられ, 後世の擾乱による混入の可能性が高い。また, 支脚は円筒形を呈して



第163図 第163号住居跡実測図

おり、もろくて崩れやすいため実測は不可能であった。  
 所見 本跡の時期は、出土土器から、9世紀後葉と推定される。



第164図 第163号住居跡出土遺物実測図

第163号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第164図	1 土 師 器	A 13.4	平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転へう割り。体部から底部内面へう磨き。底部回転へう割り。内面黒色処理。	雲母 スコリア 砂粒 普通	100% P800 PL76 覆土下層 (電手層)
		B 4.1				
		C 5.8				
2	土 師 器	A 13.2	底部から口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転へう割り。口縁部から底部内面へう磨き。底部回転へう割り。内面黒色処理。	雲母 スコリア 砂粒 普通	95% P801 PL76 甕内 (文庫の上) 支脚柱用
		B 3.7				
		C 6.6				
3	土 師 器	A 13.4	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転へう割り。体部から底部内面へう磨き。底部回転へう割り。内・外面黒色処理。	雲母 スコリア 砂粒 普通	90% P802 PL76 甕内
		B 3.8				
		C 6.3				
4	土 師 器	A 14.3	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちへう割り。口縁部から底部内面へう磨き。底部回転へう割り。内・外面黒色処理。	長石 スコリア 砂粒 普通	70% P803 覆土下層 (南壁寄り)
		B 4.6				
		C 5.6				
5	土 師 器	A [12.4]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい褐色 普通	10% P805 体部外面磨削(玉) 覆土中層 (南西端)
		B (2.0)				
6	土 師 器	A 13.2	高台部、体部と口縁部の一部欠損。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部内面から底部内面にかけてへう磨き。底部回転へう割り。高台貼り付け。内面黒色処理。	石英 雲母 砂粒 スコリア にぶい褐色 普通	80% P808 PL76 覆土下層 (北東コーナー部)
		B (2.0)				
7	土 師 器	A [20.2]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ、内面一部へうナデ。	雲母 砂粒 明褐色 良好	30% P810 甕内
		B (14.5)				
8	土 師 器	A [13.0]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	雲母 砂粒 褐色 普通	20% P804 甕内 体部外面磨削(玉) 覆土中層(北東部)
		B (3.8)				
9	土 師 器	A [34.0]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面上位から中位に平行向き、下位へう割り。内面当て具裏と輪積み痕。	雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	40% P809 甕内 (西側内)
		B (23.2)				
10	土 師 器	B (2.2)	高台部から体部の破片。高台は三角形で短く、「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へう割り。高台貼り付け。ロクロナデ。内面黒色、胡毛塗り。	砂粒 灰黄色 釉 オリーブ黄色 良好	20% P811 PL76 底部内面磨削(玉) 甕内 装設痕 (原住30号式)
		D [5.2]				
		E 0.7				

## 第164号住居跡 (第165・166図)

位置 調査Ⅳ区の北部、G 8 d3区。

規模と平面形 長軸2.80m, 短軸2.72mの方形である。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は32~40cmで、垂直に立ち上がる。

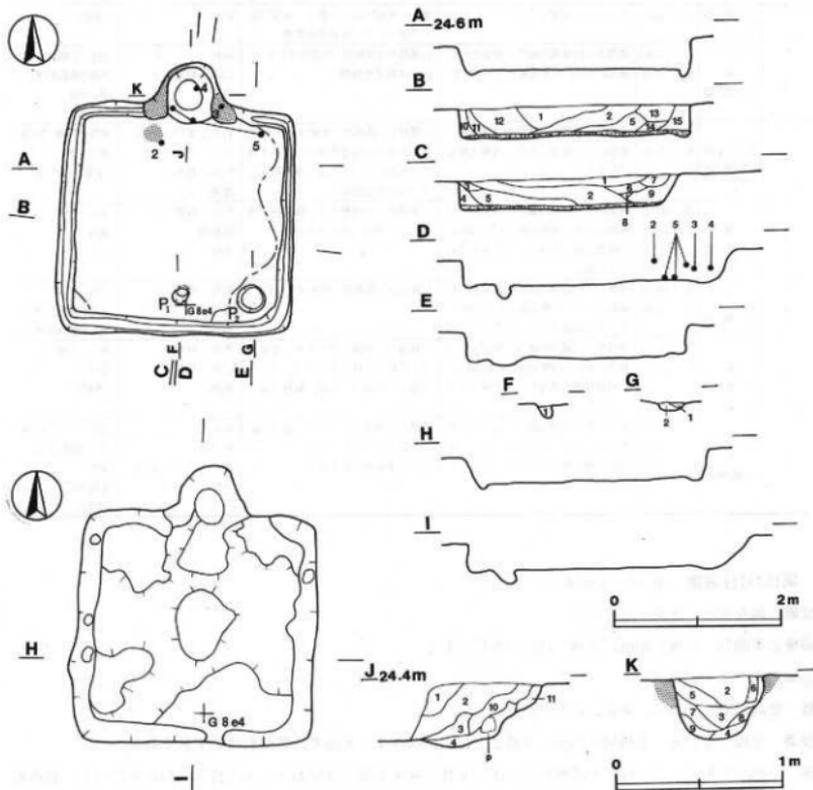
壁溝 全周している。上幅12~26cm, 下幅2~12cm, 深さ4~8cmで、断面形はU字形である。

床 全面が平坦で、2cmほどの暗褐色土により全体に貼床が施されており、よく踏み固められている。竈西袖の手前に粘土塊が確認されている。掘り方は、中央部と四隅を除き、落ち込んでいる。

竈 北壁中央部に、壁外へ52cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで77cm、両袖幅110cmである。火床部は、床面を6cmほど掘りくぼめ、火床面が作られている。火床面は火熱を受けてはいるが、赤変硬化していない。煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- |    |      |                                    |
|----|------|------------------------------------|
| 1  | 暗褐色  | 炭化粒子・焼土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量           |
| 2  | 暗褐色  | 炭化粒子・焼土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック微量        |
| 3  | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量         |
| 4  | 暗赤褐色 | ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量、粘土粒子微量           |
| 5  | 暗褐色  | ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量、粘土小ブロック微量        |
| 6  | 黒褐色  | 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量                |
| 7  | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子・焼土中ブロック・粘土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 8  | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量         |
| 9  | 黒褐色  | 炭化粒子・焼土粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量           |
| 10 | 暗褐色  | 炭化粒子少量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量       |
| 11 | 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量         |



第165図 第165号住居跡実測図

ビット 2か所 (P1・P2)。P1は長径20cm, 短径16cmの楕円形で, 深さ18cmである。南壁寄りに位置していることから, 出入口施設に伴うビットと考えられる。P2は南東コーナー部に位置し, 径33cmの円形で, 深さ10cmである。性格は不明である。

ビット土層解説

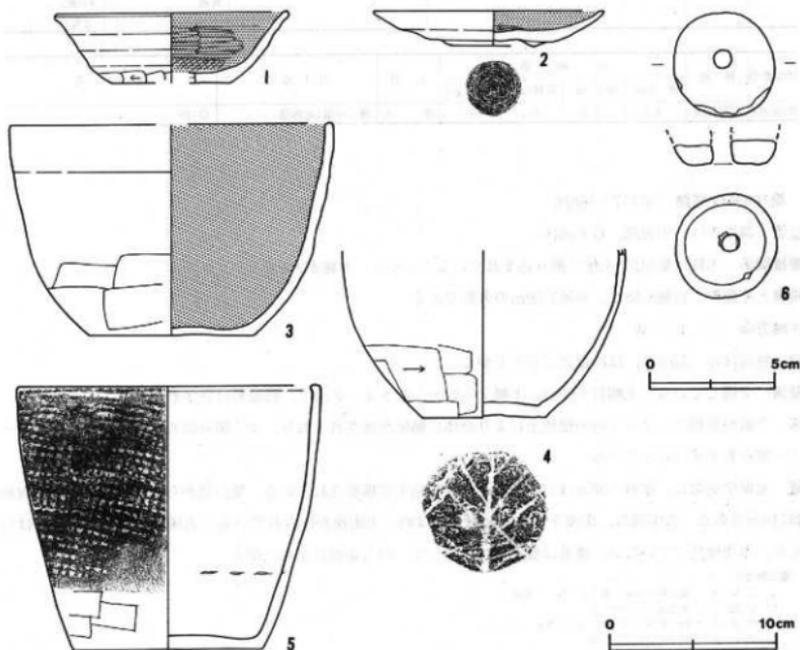
- |       |            |
|-------|------------|
| 1 褐色  | ローム中ブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量 |

覆土 15層からなり, ブロック状の堆積状況が見られることから, 人為堆積と思われる。

土層解説

- |        |   |
|--------|---|
| 1 褐色   | ローム小ブロック・粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量                |
| 2 暗褐色  | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量                      |
| 3 暗褐色  | ローム粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量                      |
| 4 暗褐色  | ローム粒子少量, 焼土粒子微量                           |
| 5 褐色   | ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色  | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量                      |
| 7 暗褐色  | 粘土中ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量              |
| 8 褐色   | ローム大ブロック多量                                |
| 9 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量             |
| 10 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量                      |
| 11 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, ローム中・小ブロック・炭化粒子微量           |
| 12 褐色  | ローム粒子中量, ローム中・小ブロック・炭化粒子・焼土粒子少量           |
| 13 褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量                  |
| 14 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量             |
| 15 暗褐色 | ローム中・小ブロック・粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量              |

遺物 土師器片159点, 須恵器片61点, 石製品1点(紡錘車), 礫2点が出土している。第166図1の土師器片, 3の土師器鉢および4の土師器小形壺は竈内から(3は西袖内から), 2の土師器高台付皿は竈手前の覆土上



第166図 第164号住居跡出土遺物実測図

層から、5の須恵器鉢は竈内、北東コーナー部の覆土中層と床面直上から、6の紡錘車は北西部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土土器から、9世紀末葉と推定される。

第164号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第166図	1 坏 土師器	A 14.0	底部から口縁部の一部欠損。平底。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	長石 砂粒	70% P812 PL76 竈内
		B 4.3	体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、外反する。	体部外面下位手持ちへう削り。口縁部から底部内面へう磨き。底部手持ちへう削り。内面黒色処理。	褐色 普通	
		C [ 7.0]				
2	高台付 土師器	A 14.0	高台部と口縁部の一部欠損。高台は短く傾く。体部から口縁部にかけて、内彎気味に開き、わずかに外反している。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部から底部内面へう磨き。底部回転へう削り。高台起り付け、ロクロナデ。内面黒色処理。	紫母 砂粒 赤褐色	90% P813 PL76 覆土上層 (覆手層)
		B 2.2				
		D 5.4				
		E 0.4				
3	鉢 土師器	A [19.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位へうナデ。底部ナデ。内面黒色処理。	長石 紫母 砂粒 赤褐色	50% P814 竈内
		B 12.9				
		C 9.8				
4	小形 土師器	B (10.3)	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ、外面下位へう削り。底部木重痕。	長石 石英 紫母 砂粒 にぶい褐色	40% P816 竈内
		C 7.4				
5	鉢 須恵器	A 18.3	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面上位から中位に平行叩き、下位へう削り。内面輪積み痕。底部ナデ。	長石 石英 紫母 スコリア 砂粒 にぶい黄褐色 普通	80% P815 PL76 竈内 覆土中層 床面直上 (北東コーナー)
		B 16.0				
		C 11.4				

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第166図6	石製紡錘車	4.2	1.0	0.7	23.1	滑石	覆土中層(北西部)	Q119

### 第165号住居跡 (第167・168図)

位置 調査IV区の中央部、G 8 e6区。

重複関係 本跡は第548号土坑に掘り込まれていることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.68m、短軸3.50mの方形である。

主軸方向 N-32°-W

壁 壁高は48~52cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅11~60cm、下幅7~40cm、深さ4~8cmで、断面形はU字形である。

床 全面が平坦で、2~4cmの褐色土により全体に貼床が施されており、よく踏み固められている。北東コーナー部が若干落ち込んでいる。

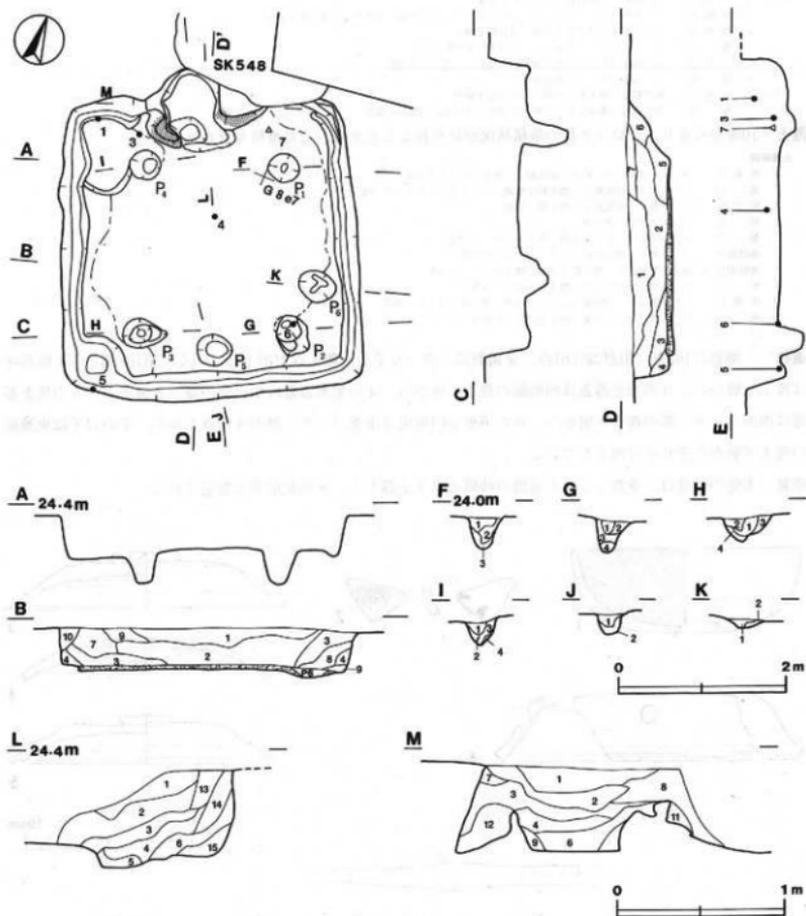
竈 北壁中央部に、壁外へ38cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで96cm、両袖幅144cmである。火床部は、床面を15cmほど掘りくぼめ、火床面が作られている。火床面は火熱を受けてはいるが、赤変硬化していない。煙道は緩やかに外傾して、のち垂直に立ち上がる。

#### 甌土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子中量、粘土小ブロック少量
- 2 暗褐色 粘土大ブロック中量
- 3 暗褐色 焼土粒子・粘土大ブロック少量
- 4 暗褐色 焼土中ブロック多量
- 5 褐色 ローム中ブロック中量

- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 8 暗褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 9 濃い赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量
- 10 濃い赤褐色 焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 11 暗褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック・粒子微量
- 12 褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
- 13 濃い赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 14 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量、粘土粒子微量
- 15 濃い赤褐色 焼土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量

ピット 6か所 (P1~P6)。P1とP4は径32~37cmの円形、P2とP3は長径50~52cm、短径38~40cmの楕円形で、深さ29~32cmである。いずれも各コーナー寄りに位置していることから、主柱穴と考えられる。P5は



第167図 第165号住居跡実測図

径40cmの円形で、深さ27cmである。南壁寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

P6は東壁寄りに位置し、長径45cm、短径39cmの楕円形で、深さ12cmである。性格は不明である。

ピット土層解説

P1	1	暗褐色	ローム中ブロック・粒子・炭化粒子・焼土粒子少量
	2	褐色	ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量、炭化粒子・焼土粒子微量
	3	暗褐色	ローム中・小ブロック・粒子少量
P2	1	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック微量
	2	褐色	ローム中ブロック・粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
	3	褐色	ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量
	4	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量
P3	1	暗褐色	ローム中ブロック・炭化粒子少量、ローム小ブロック・粒子・焼土粒子微量
	2	暗褐色	ローム中・小ブロック・粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
	3	暗褐色	ローム中ブロック中量、炭化粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック・粒子微量
	4	褐色	ローム中・小ブロック・粒子中量
P4	1	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
	2	暗褐色	ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量
	3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
	4	褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子少量
P5	1	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量
	2	褐色	ローム小ブロック・粒子少量
P6	1	暗褐色	炭化粒子・焼土粒子少量、ローム粒子微量
	2	褐色	ローム粒子多量、ローム中・小ブロック中量、炭化粒子微量

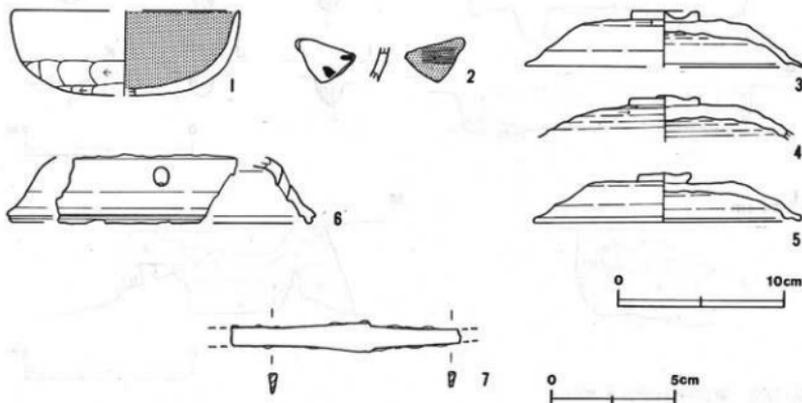
覆土 10層からなり、ブロック状の堆積状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック・粒子・炭化粒子・焼土小ブロック少量
2	褐色	ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子中量、ローム大・小ブロック少量
3	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量
4	褐色	ローム大ブロック中量
5	褐色	ローム中ブロック・炭化物・焼土小ブロック中量
6	暗褐色	ローム粒子・焼土中ブロック・小ブロック中量
7	暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土中ブロック少量
8	褐色	ローム中・小ブロック・焼土小ブロック少量
9	暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子微量
10	褐色	ローム大ブロック中量、焼土小ブロック少量

遺物 土師器片162点、須恵器片61点、金属製品1点(刀子)、礫1点が出土している。第168図2の土師器片は覆土上層から、3の須恵器蓋は西袖脇の覆土下層から、4の須恵器蓋は中央部の覆土下層から、5の須恵器蓋は南西コーナー部の覆土下層から、6の須恵器内面視は南東コーナー部の床面直上から、7の刀子は東袖脇の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、重複している遺構の時期と出土土器から、8世紀前葉と推定される。



第168図 第165号住居跡出土遺物実測図

第165号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第168図 1	坏土師器	A [13.6]	底唇から口縁部の破片。丸底。体部から口縁部にかけ、内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナゲ。体部内・外面ナゲ。体部外面下位手持ちへウ削り。底部手持ちへウ削り。内・外面黒色処理。	砂粒 橙色 良好	20% P817 覆土上層 (北西コーナー部)
		B 5.1				
2	坏土師器	B (2.1)	体部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面口ロナゲ。内面へウ磨き。内面黒色処理。	雲母 砂粒 にぶい黄橙色 普通	5% P818 体部外面黒色 判断不明 覆土上層
		A [16.9] B 3.4 F 4.0 G 0.7	つまみから口縁部の破片。扁平なボタン状のつまみを持ち、天井は平坦で、のち内彎気味に開く。口縁部は外反して外に開く。	つまみ、天井部から口縁部内・外面口ロナゲ。頂部回転へウ削り。	雲母 橙 砂粒 灰黄褐色 普通	40% P819 覆土下層 (西軸脇)
4	壺須恵器	B (2.8) F 4.2 G 0.5	つまみから天井部の破片。扁平なボタン状のつまみを持ち、天井は平坦で縁やかに開く。	つまみ、天井部内・外面口ロナゲ。頂部回転へウ削り。	雲母 砂粒 灰黄褐色 普通	40% P820 覆土下層 (中央部)
		A 16.1 B 3.0 F 3.2 G 0.7	つまみから口縁部の破片。扁平なボタン状のつまみを持ち、天井は平坦で縁やかに開く。口縁部内側には返りを持ち、屈曲し垂下する。	つまみ、天井部から口縁部内・外面口ロナゲ。頂部回転へウ削り。	石英 雲母 砂粒 糠 灰白色 普通	50% P821 PL76 覆土下層 (南西コーナー部)
6	円面須恵器	B (4.2) D [18.0]	脚部の破片。脚部は内傾して、内彎気味に立ち上がり、円形の通かし意を有する。	脚部内・外面口ロナゲ。	長石 石英 雲母 砂粒 灰色 良好	20% 822 床面直上 (南東コーナー部)

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第168図7	刀子	9.3	0.8	0.3	13.0	覆上下層(東軸脇)	M52 PL102 銚部、蓋部の一部欠損

## 第166号住居跡 (第169・170図)

位置 調査Ⅳ区の中央部，G 8 e8区。

重複関係 本跡は第176号住居跡を掘り込んでいることから、本跡が新しい。また、本跡は第549・564号土坑と第22号溝に掘り込まれていることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.18m，短軸3.12mの方形である。

主軸方向 N-12'-E

壁 壁高は15~24cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁周辺を除き巡っている。上幅16~28cm，下幅4~16cm，深さ8~12cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部がよく踏み固められている。中央部南寄りに径54cmの円形の落ち込みがある。

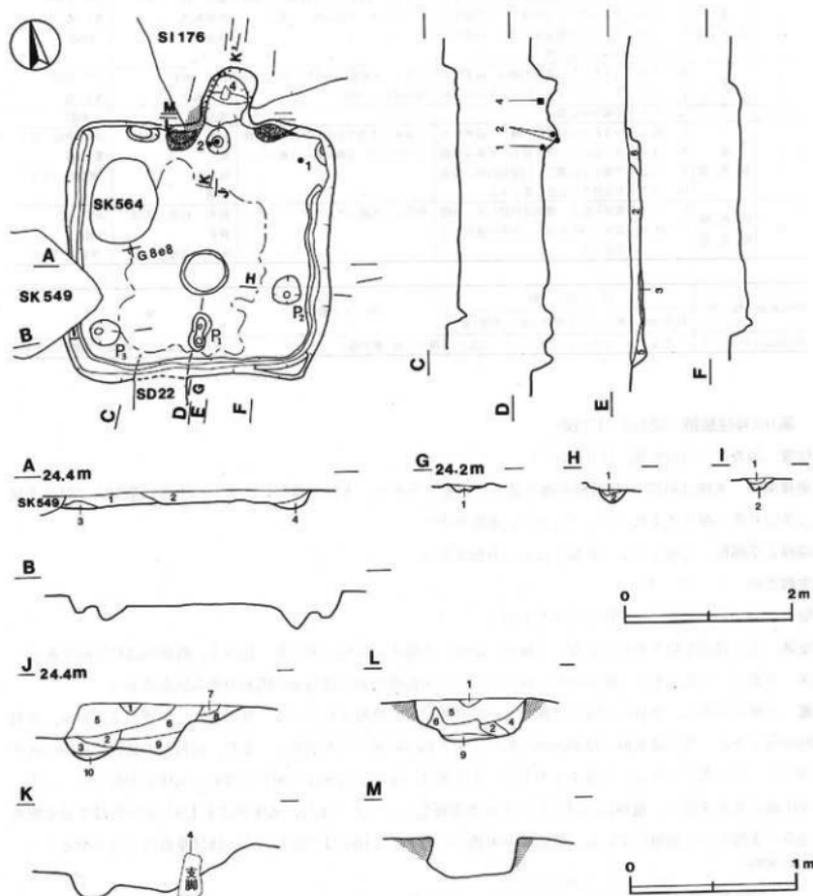
竈 北壁中央部に、壁外へ72cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで74cm，両袖幅90cmである。焚口部手前に径30cmの円形で、深さ18cmの掘り込みがある。また、両袖部の脇に、竈内の灰を掻き出したと考えられる、灰溜りがある。火床部は、床面を14cmほど掘りくぼめ、火床面が作られている。火床面は火熱を受け、竈奥にかけての一部が赤変硬化している。また、火床部にPL97-4の雲母片岩を埋め込み、支脚として使用している。煙道は火床部からいったん10cmほど落ち込み、ほぼ垂直に立ち上がる。

## 出土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量
- 2 暗赤褐色 炭化粒子・焼土小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 4 暗赤褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子・粘土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 5 褐色 炭化物・焼土小ブロック・焼土粒子少量

- 6 黒色 焼土大ブロック多量、粘土中ブロック中量、炭化粒子少量
- 7 明赤褐色 炭化粒子・焼土中ブロック中量
- 8 赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子微量
- 9 灰色 灰層
- 10 暗褐色 ローム小ブロック・炭化物中量、焼土小ブロック少量

ピット 3か所 (P1~P3)。P1は長径47cm、短径16cmの楕円形で、深さ10cmである。南壁寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は東壁寄り、P3は南西コーナー部に位置し、長径35~38cm、短径32cmの楕円形で、深さ14~27cmである。いずれも性格は不明である。



第169図 第166号住居跡実測図

ピット土層解説

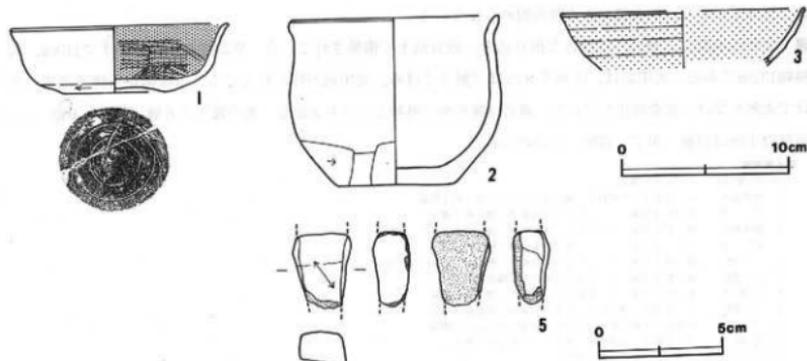
- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量  
 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

覆土 6層からなり、ブロック状の堆積状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子・焼土粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量  
 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量  
 3 褐色 ローム中量、炭化粒子・焼土粒子微量  
 4 褐色 ローム小ブロック・粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量  
 5 暗褐色 ローム中・小ブロック・粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量  
 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片250点、須恵器片69点、灰輪陶器片1点、石器1点(砥石)、石塊1点(雲母片岩)が、竈を中心とする北半分から多く出土している。第170図1の土師器坏は北東コーナー部の床面直上から、2の土師器小形甕は竈手前の掘り込み内から、3の灰輪陶器碗とP.L.97-4の雲母片岩は竈内から、5の砥石は北東部の覆土上層からそれぞれ出土している。竈内から出土した3の碗は猿投窯産(黒笹90号室式)と考えられる。所見 本跡の時期は、重複している遺構の時期と出土土器から、9世紀末葉と推定される。



第170図 第166号住居跡出土遺物実測図

第166号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第170図 1	坏 土師器	A 13.0	底部から口縁部の破片。平底。腰部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ磨き。体部から底部内面へラ磨き。底部回転ヘラ磨り。内面黒色処理。	雲母 砂粒 にぶい赤褐色 普通	50% P823 法面直上 (北東コーナー部)
		B 4.0				
		C 6.2				
2	小形甕 土師器	A [12.6]	底部から口縁部の破片。平底。腰部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面下位ヘラ磨り。底部ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい橙褐色 普通	60% P824 竈手前の掘り込み内
		B 10.2				
		C 7.0				
3	碗 灰輪陶器	A [14.6]	腰部から口縁部の破片。腰部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内・外面輪軸、刷毛盛り。	砂粒 灰黄色 輪 オリーブ黄色 良好	5% P825 竈内 猿投窯産 (黒笹90号室式)
		B ( 3.5)				

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
PL97 4	石塊	22.7	14.9	12.3	5110.4	雲母片岩	竈内	Q120 支脚板用 被熱痕 写真のみ掲載
第170図5	瓦石	(3.0)	2.4	(1.4)	(12.2)	凝灰岩	覆土上層(北東部)	Q121 PL96

### 第167号住居跡(第171・172図)

位置 調査IV区の中央部, G9d1区。

重複関係 本跡は第545・562号土坑に掘り込まれていることから, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸2.90m, 短軸2.80mの方形である。

主軸方向 N-15°-E

壁 壁高は45~50cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁と北東コーナー部付近を除き巡っている。上幅18~32cm, 下幅2~14cm, 深さ4~10cmで, 断面形はU字形である。

床 全面が平坦で, 中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に, 壁外へ76cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで110cm, 両袖幅132cmである。火床部は, 床面を8cmほど掘りくぼめ, 火床面が作られている。火床面から煙道部奥にかけて火熱を受け, 赤変硬化している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。竈の覆土は6層(第1~6層)に, 袖部の土層は11層(第7~17層)に分けられた。

#### 竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼小ブロック・焼土粒子微量
- 3 褐色 粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・焼土中・小ブロック微量
- 5 褐色 ローム中・小ブロック・粒子少量, 焼土粒子微量
- 6 比較的褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・焼土中・小ブロック微量
- 7 比較的褐色 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 8 暗褐色 粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
- 9 比較的褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 10 比較的褐色 炭化粒子・焼土粒子・粘土粒子少量, ローム粒子微量
- 11 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
- 12 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 13 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 14 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 15 褐色 ローム小ブロック・粒子中量
- 16 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子微量
- 17 比較的褐色 粘土粒子中量, 灰少量, ローム粒子・焼土粒子微量

ピット 4か所(P2~P5)。P1は確認できなかったが第562号土坑に掘り込まれたと考えられる。P2~P4は長径26~38cm, 短径23~32cmの楕円形で, 深さ11~38cmである。いずれも各コーナー部寄りに位置していることから, 支柱穴と考えられる。P5は長径38cm, 短径32cmの楕円形で, 深さ28cmである。南壁寄りに位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。

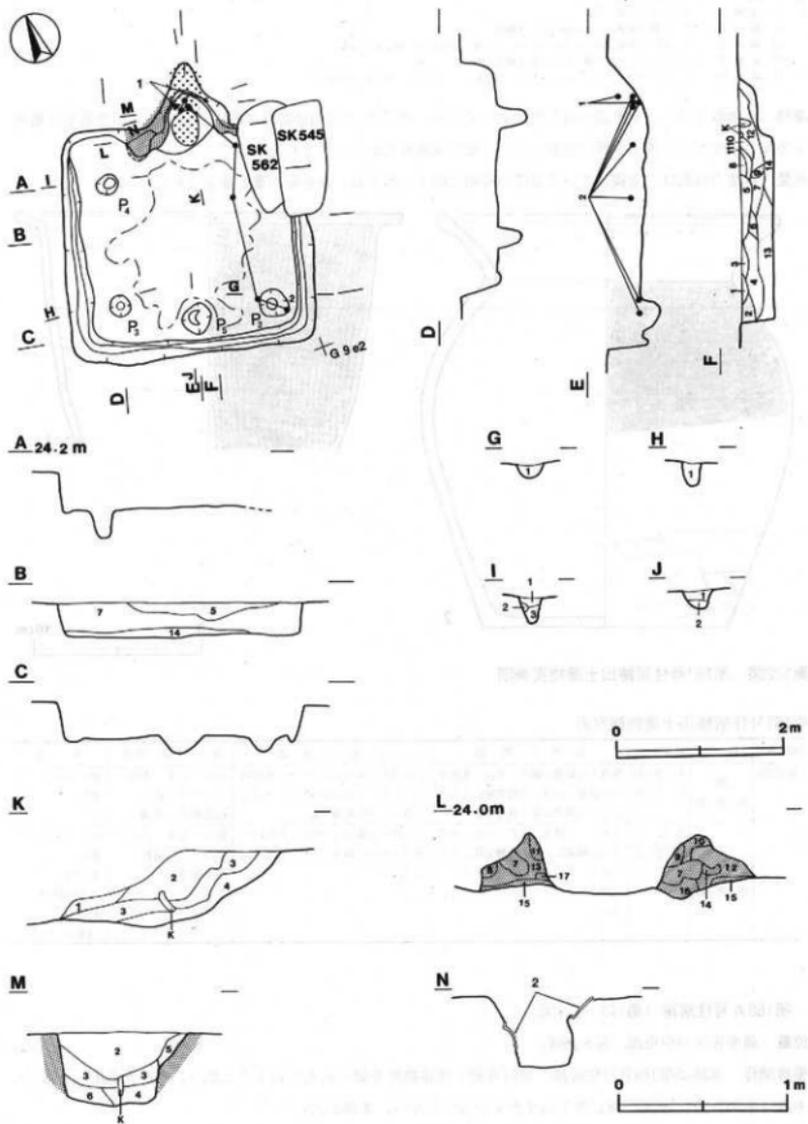
#### ピット土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量

覆土 14層からなり, ブロック状の堆積状況が見られることから, 人為堆積と思われる。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子微量

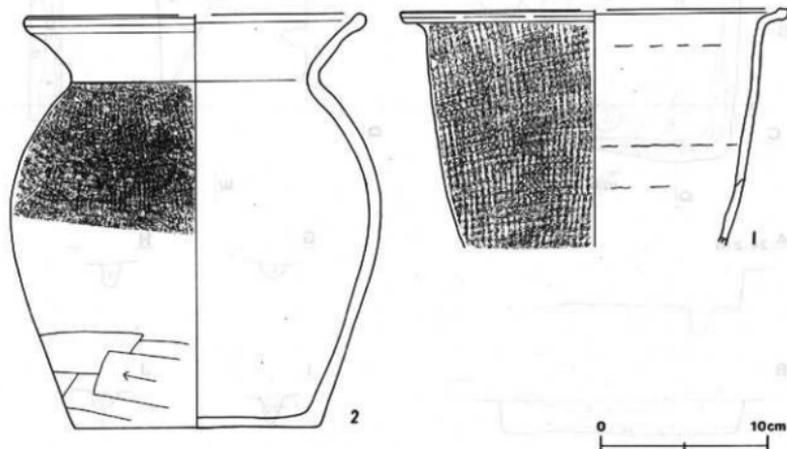


第171图 第167号住居跡实测图

8	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック微量
9	暗褐色	ローム粒子少量
10	暗褐色	ローム粒子中量
11	褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
12	褐色	ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量、炭化粒子・焼土粒子微量
13	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
14	暗褐色	ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子・粘土粒子微量

遺物 土師器片51点、須恵器片64点が出土している。第172図1の須恵器鉢は窠内から、2の須恵器甕は窠内、中央部と北壁寄りの覆土下層、南東コーナー部の床面直上からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、重複している遺構の時期と出土土器から、9世紀中葉と推定される。



第172図 第167号住居跡出土遺物実測図

#### 第167号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第172図 1	鉢 須恵器	A [30.4] B [19.0]	体部と口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ、内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面上位から中位に平行叩き、下位へク磨り。内面輪轆み痕。	長石 石英 雲母 スコリア 砂粒 浅黄褐色 普通	40% P827 窠内
2	甕 須恵器	A [20.0] B 25.3 C [14.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ、内彎気味に立ち上がり、上位に最大径を有する。口縁部は外反し、つまみ上げられている。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き、下位へク磨り。底部ナデ。	長石 石英 雲母 スコリア 砂粒 明赤褐色 普通	40% P828 PL77 窠内 覆土下層 (中央部北壁寄り) 床面直上 (南東コーナー部)

#### 第168A号住居跡 (第173・174図)

位置 調査IV区の中央部、G 8g6区。

重複関係 本跡は第168B号住居跡、第57号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから、本跡が新しい。また、本跡は第567・574・580号土坑に掘り込まれていることから、本跡が古い。

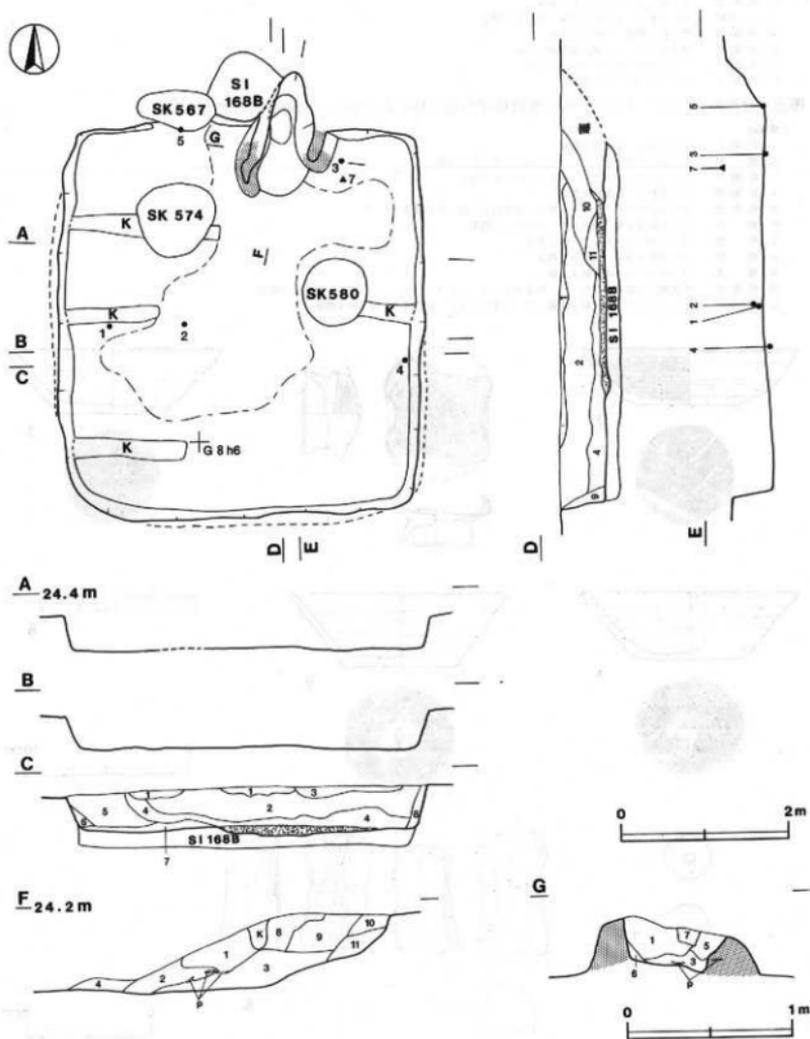
規模と平面形 長軸4.70m、短軸4.30mの方形である。

主軸方向 N-9°-E

壁 壁高は44~55cmで、外傾して立ち上がる。

床 全面が平坦で、3~12cmの褐色土により中央部から竈にかけて貼床が施されている。竈手前から中央部にかけて、よく踏み固められている。

竈 北壁中央部に、壁外へ35cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで151cm、両



第173図 第168A号住居跡実測図

袖幅118cmである。火床部は、床面を4cmほど掘りくぼめ、火床面が作られている。火床面は火熱を受けてはいるが、赤変硬化してはいない。煙道は緩やかな階段状に立ち上がる。

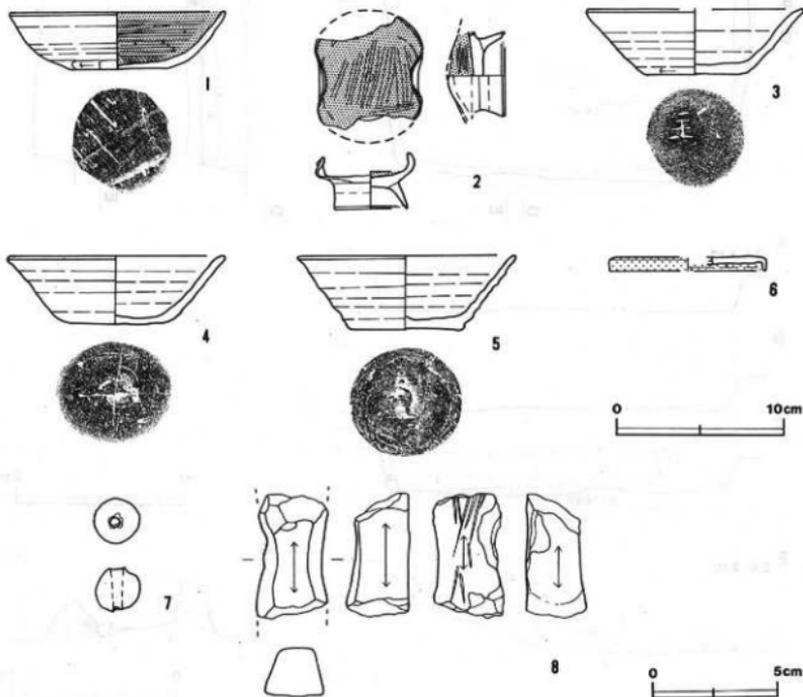
壁土層解説

- 1 暗褐色 粘土小ブロック中量、ローム小ブロック少量
- 2 黄褐色 焼土中ブロック・粘土大ブロック中量
- 3 暗灰黄色 灰多量、焼土小ブロック少量
- 4 褐色 粘土中ブロック中量
- 5 明褐色 焼土小ブロック中量、焼土中ブロック・粘土少量
- 6 明褐色 焼土中・小ブロック・粘土少量
- 7 石灰黄褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 8 黄褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量
- 9 赤褐色 焼土中ブロック中量、粘土粒子少量
- 10 黄褐色 ローム粒子・焼土中ブロック少量
- 11 黄褐色 ローム小ブロック少量

覆土 11層からなり、ブロック状の堆積状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子少量、ローム中・小ブロック微量
- 7 褐色 ローム中・小ブロック・粘土少量
- 8 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 9 褐色 ローム小ブロック・粘土少量
- 10 暗褐色 炭化粒子・焼土小ブロック・粘土少量、ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量
- 11 褐色 ローム小ブロック・粘土少量、ローム中ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量



第174図 第168A号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片637点, 須恵器片338点, 灰軸陶器片2点, 土製品1点(土玉), 石器1点(砥石), 鉄滓2点  
 が, 北西部を中心に, 覆土上層から中層にかけて集中して出土している。第174図1の土師器坏は西壁寄りの,  
 2の土師器耳皿は中央部の, 8の砥石は南西部のそれぞれ覆土下層から, 3の須恵器坏は東袖脇の, 4の須恵  
 器坏は東壁寄りの, 5の須恵器坏は北壁寄りのそれぞれ床面直上から, 6の灰軸陶器短頸壺の蓋は覆土下層か  
 ら, 7の土玉は東袖脇の覆土上層からそれぞれ出土している。灰軸陶器片2点は狹口産のもの, 6の短頸  
 壺の蓋が折戸10号窯式, 他が長頸瓶の口縁部片で黒笹14号窯式で, ともに後世の攪乱による混入と考えられる。  
 所見 本跡は, 第168B号住居跡の竈を作り替え, 貼床を施して建て替えた住居跡である。出土土器から, 時  
 期的にはあまり差がないと思われ, 9世紀中葉と推定される。

第168A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	形 状 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第174図 1	坏 土 師 器	A 13.0	体部と口縁部の一部欠損。平底。体 部から口縁部にかけて, 内彎気味に立 ち上がり, わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ, 体部外面下位手持ちへう割り。体部 から底部内面へう割り。底部手持ち へう割り。内面黒色処理。	石英 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	50% P829 PL77 覆土下層 (西壁寄り)
		B 3.5				
		C 5.8				
2	耳 土 師 器	A [ 8.0]	体部と口縁部の一部欠損。高台は長 く, 「ハ」の字状に開く。体部から 口縁部にかけて, 内彎気味に開き, 2 個面で内側に丸く, 折り上げられて いる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ, 体部から底部内面へう割り。底部回 転へう割り。高台貼り付け, ロクロ ナデ。内面黒色処理。	石英 砂粒 にぶい黄褐色 普通	70% P833 PL77 覆土下層 (中央部)
		B 3.4				
		D 5.0				
		E 1.7				
3	坏 須 恵 器	A [13.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部 から口縁部にかけて, 内彎気味に立 ち上がり, わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ, 体部外面下位回転へう割り。底部回 転へう割り裏を残す手持ちへう割り。	石英 雲母 砂粒 暗灰色 普通	30% P830 底部外面刻劃「土」 床面直上 (東袖脇)
		B 4.0				
		C 6.0				
4	坏 須 恵 器	A 13.0	体部と口縁部の一部欠損。平底。体 部から口縁部にかけて, 内彎気味に立 ち上がり, 外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ, 底部回転へう切り痕を残す手持ちへ う割り。	長石 石英 雲母 砂粒 灰白色 普通	90% P831 PL77 底部外面へう割り 床面直上 (東壁寄り)
		B 4.2				
		C 6.0				
5	坏 須 恵 器	A 13.0	体部と口縁部の一部欠損。平底。体 部から口縁部にかけて, 内彎気味に立 ち上がり, 外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ, 底部回転へう切り痕を残す手持ちへ う割り。	石英 雲母 砂粒 灰黄色 普通	70% P832 床面直上 (北壁寄り)
		B 4.6				
		C 6.9				
6	蓋 灰 軸 陶 器	A [ 9.4]	天井部から口縁部の破片。天井は平 坦で, 口縁部は屈曲し, 垂下する。	口縁部から天井部内・外面ロクロナ デ。内・外面施釉, 刷毛塗り。	砂粒 灰色 軸 灰オリーブ色 良好	20% P834 須恵器の蓋 覆土下層 狭口産 (折戸10号式)
		B (0.9)				

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第174図7	土 玉	1.8	1.8	0.5	4.42	覆土上層(東袖脇)	DF111 PL98

図版番号	種 別	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第174図8	砥 石	(5.2)	2.9	2.5	(40.9)	凝 灰 岩	覆土下層(南西部)	Q122 PL96

第168B号住居跡 (第175・176図)

位置 調査IV区の中央部, G 8 g6区。

重複関係 本跡は第168A号住居, 第567・574・580号土坑に掘り込まれていることから, 本跡が古い。第57号掘  
 立柱建物跡との新旧関係については, 切り合いがないことから不明である。

規模と平面形 長軸4.82m, 短軸4.38mの長方形である。

主軸方向 N-6°-W

壁 壁高は65~72cmで, 垂直に立ち上がる。

壁溝 東壁と西壁周辺に巡っている。上幅12~42cm, 下幅6~12cm, 深さ3~12cmで, 断面形はU字形である。

床 全面が平坦で, 竈手前から中央部にかけて, よく踏み固められている。

竈 北壁中央部に, 壁外へ100cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで166cm, 両袖幅115cmである。火床部は, 床面を8cmほど掘りくぼめている。火床面は火熱を受け, 赤変硬化している。

煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。

#### 竈土層解説

- |    |      |                             |
|----|------|-----------------------------|
| 1  | 褐色   | 焼土小ブロック・粘土中ブロック中量           |
| 2  | 灰褐色  | 焼土中ブロック・粘土中ブロック中量           |
| 3  | 灰色   | 灰多量, 焼土小ブロック少量              |
| 4  | 灰色   | 焼土中ブロック中量                   |
| 5  | 灰色   | 粘土粒子多量, 焼土小ブロック少量           |
| 6  | 赤褐色  | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒子少量   |
| 7  | 褐色   | 粘土粒子中量, 焼土小ブロック少量           |
| 8  | 赤褐色  | 焼土小ブロック・粒子中量                |
| 9  | 褐色   | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量         |
| 10 | 暗褐色  | 焼土粒子少量, 炭化粒子微量              |
| 11 | 褐色   | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 12 | 暗赤褐色 | 焼土粒子少量                      |
| 13 | 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子微量              |

ピット 7か所 (P1~P7)。P1からP4は長径32~42cm, 短径28~40cmの楕円形で, 深さ42~62cmである。

いずれも各コーナー寄りに位置していることから, 主柱穴と考えられる。P5は径40cmの円形で, 深さ20cmである。南壁寄りに位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は南壁沿いに位置し, 径28cmの円形で, 深さ42cm, P7は西壁寄りに位置し, 長径70cm, 短径58cmの楕円形で, 深さ14cmである。いずれも性格は不明である。

#### ピット土層解説

- |    |   |     |                      |
|----|---|-----|----------------------|
| P1 | 1 | 褐色  | ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量   |
|    | 2 | 明褐色 | ローム中ブロック中量           |
| P2 | 1 | 暗褐色 | 粘土粒子少量               |
|    | 2 | 明褐色 | ローム小ブロック中量           |
|    | 3 | 褐色  | ローム粒子中量              |
| P3 | 1 | 暗褐色 | ローム中ブロック中量           |
|    | 2 | 褐色  | ローム中ブロック多量           |
|    | 3 | 暗褐色 | ローム粒子少量              |
| P5 | 1 | 明褐色 | ローム中ブロック・粘土中ブロック少量   |
| P6 | 1 | 暗褐色 | 焼土粒子微量               |
|    | 2 | 暗褐色 | ローム粒子微量              |
|    | 3 | 褐色  | ローム小ブロック中量           |
| P7 | 1 | 褐色  | ローム小ブロック少量           |
|    | 2 | 褐色  | ローム中ブロック中量           |
|    | 3 | 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 |

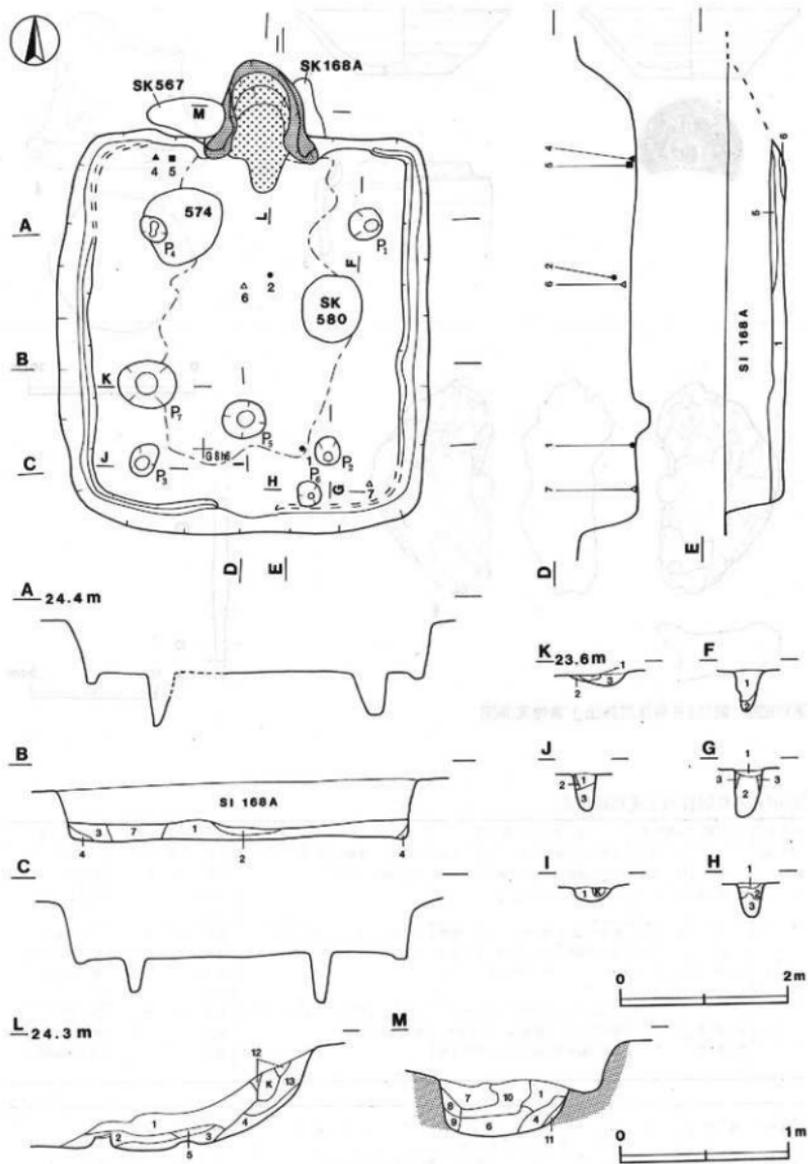
覆土 7層からなり, ブロック状の堆積状況が見られることから, 人為堆積と思われる。

#### 土層解説

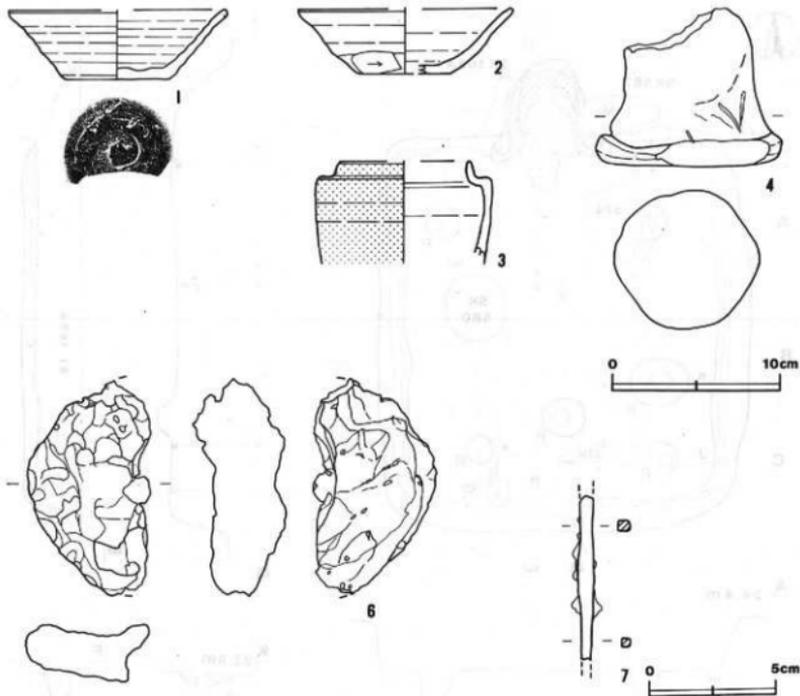
- |   |     |                               |
|---|-----|-------------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量                  |
| 2 | 褐色  | 灰多量, 焼土粒子中量, 炭化物少量, 焼土小ブロック微量 |
| 3 | 褐色  | ローム中ブロック中量                    |
| 4 | 明褐色 | ローム中ブロック多量                    |
| 5 | 暗褐色 | 焼土粒子多量, ローム中ブロック少量            |
| 6 | 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子少量               |
| 7 | 褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量         |

遺物 土師器片261点, 須恵器片122点, 土製品1点 (支脚), 金属製品1点 (鉄鏃), 椀状滓1点, 石塊1点 (雲母片岩) が, 全体から平均的に出土している。第176図1の須恵器杯は南壁寄りの床面直上から, 2の須恵器杯は北西部の覆土中と中央部の覆土下層から, 4の支脚は北壁寄りの, P.L.97-5の雲母片岩は西袖脇の, 6の椀状滓は中央部の, 7の鉄鏃は南東コーナー部のそれぞれ覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 重複している住居跡の時期と出土土器から, 9世紀前葉から中葉と推定される。



第175图 第168B号住居跡実測图



第176図 第168B号住居跡出土遺物実測図

第168B号住居跡出土遺物観察表

図取番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
第176図 1	坏	A 13.2	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石 石英 雲母 砂粒 黄灰色 普通	40% P884 未窯直上 (南壁寄り)	
	須恵器	B 4.3					
	C 6.2						
2	坏	A [12.8]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちヘラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 黄灰色 普通	40% P885 覆土下層(中央部) 覆土中(北西部)	
	須恵器	B 4.0					
	C [ 5.4]						
3	短頸壺	A [13.6]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、上位に最大径を有する。口縁部は直立する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面自然軸。	石英 砂粒 灰色 普通	20% P886 覆土中 (北東部・南西部)	
	須恵器	B ( 6.3)					
図取番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	最大径(cm)	最小径(cm)	重量(g)		
第176図4	土製支脚	(9.6)	11.2	(7.7)	(602.0)	覆土下層(北壁寄り)	DP113 PL99 被熱痕

写真 図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
PL97	5 石塊	15.3	13.4	5.1	1570.0	雲母片岩	覆土下層(西袖端)	Q123 写真のみ掲載

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第176図6	7 板状磚	8.6	5.0	3.9	145.8	覆土下層(中央部)	M109 PL109
	7 板状磚	(6.5)	0.8	0.4	(6.65)	覆土下層(南東コーナー部)	M59 PL106 基部

### 第169号住居跡(第177・178図)

位置 調査Ⅳ区の中央部，G 8 g9区。

規模と平面形 長軸2.82m，短軸2.45mの長方形である。竈の東側に棚部が付設されている。規模は長さ106cm，幅56cmの隅丸長方形で，床面からの高さは36cmである。

#### 棚部土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック中量
- 3 褐色 ローム中ブロック中量

主軸方向 N-9°-E

壁 壁高は32~40cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁と北西コーナー部を除き巡っている。上幅24~70cm，下幅2~32cm，深さ2~8cmで，断面形はU字形である。

床 全面が平坦で，中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に，壁外へ70cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで118cm，両袖幅90cmである。火床部は，床面を12cmほど掘りくぼめ，火床面が作られている。火床面は火熱を受けているが，赤変硬化化していない。煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。竈の覆土は7層(第1~7層)に，袖部の土層は2層(第8・9層)に分けられる。

#### 覆土層解説

- 1 灰褐色 粘土大ブロック多量
- 2 褐色 粘土中ブロック中量，炭化物・焼土小ブロック少量
- 3 褐色 焼土粒子・粘土中ブロック少量
- 4 灰褐色 粘土中ブロック中量
- 5 褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック中量
- 6 暗赤褐色 ローム粒子多量，焼土粒子中量
- 7 黄褐色 粘土小ブロック少量
- 8 暗褐色 粘土粒子少量
- 9 褐色 ローム中ブロック多量

ピット 3か所(P1~P3)。P1は長径30cm，短径20cmの楕円形で，深さ16cmである。南壁寄りに位置していることから，出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は南東コーナー部に位置し，長径28cm，短径22cmの楕円形，P3は西壁寄りに位置し，長径43cm，短径30cmの楕円形で，深さ18~20cmである。いずれも性格は不明である。

#### ピット土層解説

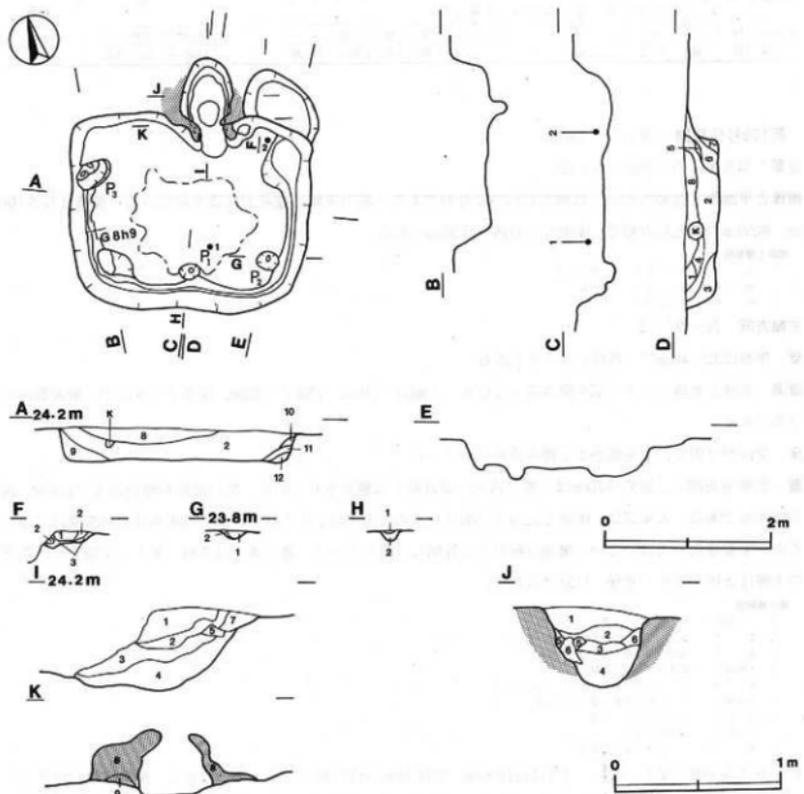
- 1 暗褐色 ローム中ブロック中量
- 2 褐色 ローム中ブロック多量

覆土 12層からなり，レンズ状の堆積状況が見られることから，自然堆積と思われる。

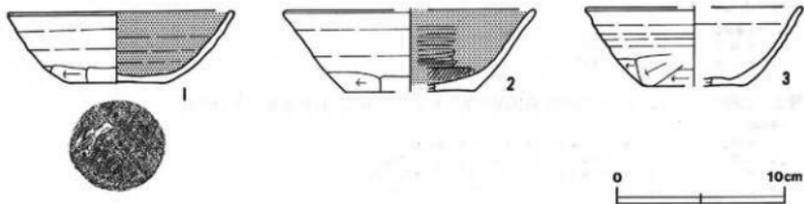
#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム中ブロック・粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・粒子少量，ローム大・中ブロック・焼土粒子微量
- 5 黄褐色 粘土大ブロック多量，ローム粒子少量

- 6 時 褐色 ローム粒子・粘土粒子・粘土粒子微量
- 7 時 褐色 焼土粒子・粘土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 8 時 褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量
- 9 時 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 10 時 褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量
- 11 時 褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 12 時 褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック微量



第177図 第169号住居跡実測図



第178図 第169号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片184点、須恵器片157点、灰釉陶器片2点が出土している。第178図1の土師器坏は南壁奇りの覆土中層から、2の土師器坏は北東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。灰釉陶器片2点は長頸瓶の頸部片と体部片で、猿投窯産(黒笹90号窯式)と考えられる。

所見 本跡は、出土遺物から、9世紀後葉と推定される。

### 第169号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第178図 1	坏 土師器	A 13.6	平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外圍ロクロナデ。体部外面下位手持ちヘラ割り。底部回転ヘラ切り痕を残す方向の手持ちヘラ割り。内面黒色処理。	石英 雲母 砂粒 スコリア 橙色 普通	100% P835 PL77 覆土中層 (南壁寄り)
		B 4.4				
		C 5.8				
2	坏 土師器	A [15.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外圍ロクロナデ。体部外面下位手持ちヘラ割り。口縁部から底部内面ヘラ割き。底部手持ちヘラ割り。内面黒色処理。	スコリア 砂粒 にぶい橙色 普通	40% P836 覆土下層 (北東コーナー部)
		B 5.0				
		C [7.8]				
3	坏 須恵器	A [13.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外圍ロクロナデ。体部外面下位手持ちヘラ割り。底部回転ヘラ切り痕を残す手持ちヘラ割り。	石英 雲母 砂粒 スコリア 灰黄色 普通	40% P837 覆土上層(北東部) 覆土中層～ 覆土下層(南東部)
		B 4.8				
		C [6.0]				

### 第170号住居跡 (第179・180図)

位置 調査IV区の中央部、G8j7区。

重複関係 本跡は第173号住居に掘り込まれていることから、本跡が古い。また、第171号住居跡を掘り込んでいることから、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸[4.32]m、短軸3.70mの長方形と推定される。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は40～45cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 西側半分に巡っている。上幅18～36cm、下幅2～8cm、深さ4～8cmで、断面形はU字形である。

床 全面が平坦で、2～8cmの暗褐色土により全体に貼床が施され、竈手前から中央部にかけて、よく踏み固められている。

竈 北壁中央部に、壁外へ20cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで118cm、両袖幅182cmである。火床部は、床面をほとんど掘りくぼめることなく、火床面が作られている。火床面は火熱を受けてはいるが、赤変硬化してはいない。煙道は外傾して立ち上がったのち、内傾している。竈の覆土は11層(第1～11層)に、袖部の土層は3層(第12～14層)に分けられた。

#### 覆土層解説

- 1 褐色 焼土小ブロック・粘土小ブロック少量
- 2 明褐色 焼土中ブロック中量、焼土小ブロック少量
- 3 黒褐色 灰・炭化物多量、焼土小ブロック少量
- 4 明褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
- 5 褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量
- 6 褐色 焼土中ブロック中量、炭化粒子・焼土粒子少量
- 7 灰黄褐色 焼土小ブロック・焼土中ブロック中量
- 8 灰黄褐色 焼土中ブロック中量、炭化粒子・焼土粒子少量
- 9 不分明褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック少量
- 10 褐色 焼土粒子多量
- 11 暗赤褐色 炭化物・炭化粒子・焼土粒子中量、焼土粒子少量
- 12 暗褐色 炭化粒子・焼土粒子微量
- 13 暗褐色 炭化粒子・焼土粒子少量
- 14 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量

ビット 1か所。P1は径50cmの円形で、深さ16cmである。南壁寄りに位置していることから、出入口施設に伴うビットと考えられる。

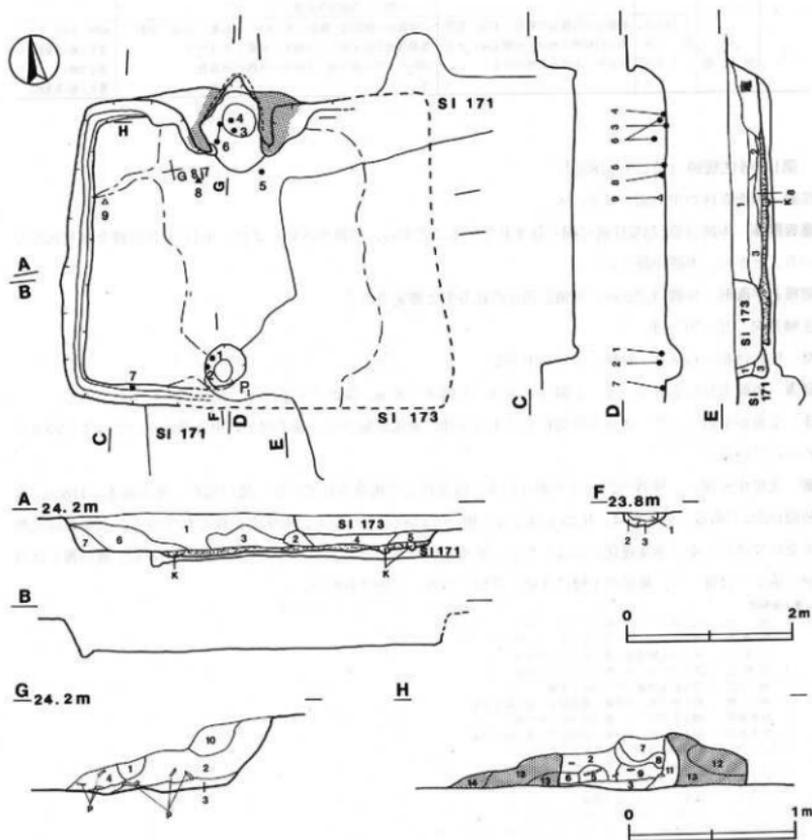
ビット土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック少量

覆土 8層からなり、ブロック状の堆積状況が見られることから、人為堆積と思われる。

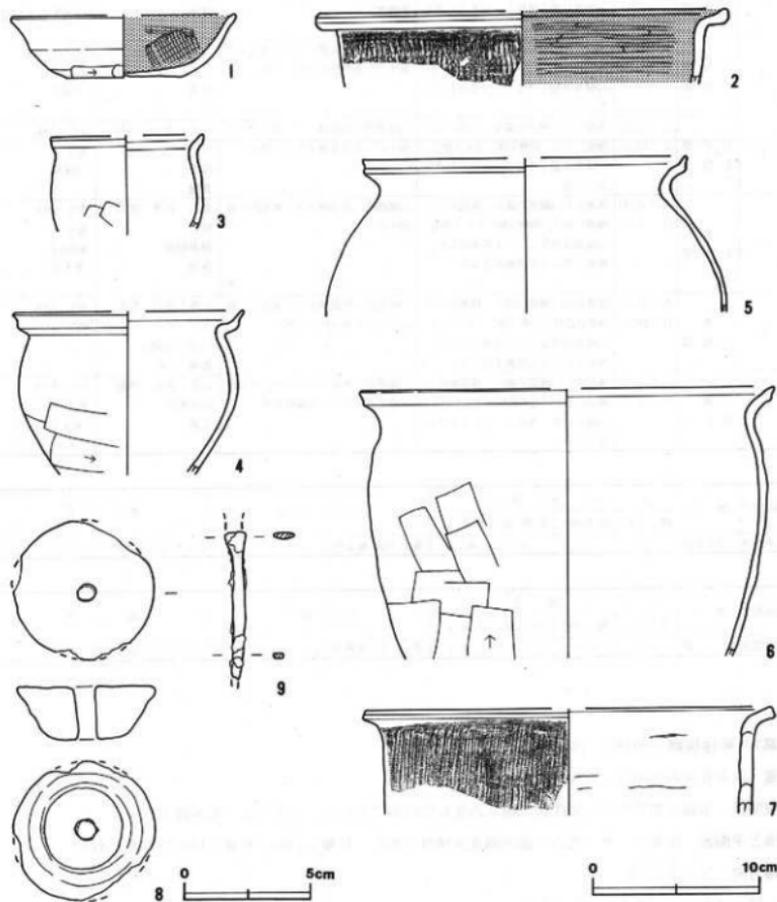
土層解説

- 1 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量
- 2 褐色 粘土小ブロック中量、ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 焼土中ブロック・粘土小ブロック少量
- 4 暗褐色 炭化粒子中量、炭化粒子・焼土小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック少量
- 6 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム中ブロック中量
- 8 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、炭化物・焼土小ブロック・粘土粒子少量



第179図 第170号住居跡実測図

遺物 土師器片580点, 須恵器片369点, 土製品1点(紡錘車), 金属製品1点(鉄鏝)が, 南半分に集中して出土している。第180図1の土師器坏と2の土師器鉢は南壁寄りの覆土下層から, 3と4の土師器小形甕, 6の土師器甕は竈内から, 5の土師器甕は竈手前の床面直上と竈内から, 8の土製紡錘車は覆土下層から, 7の須恵器鉢は南西コーナー部の覆土下層から, 9の鉄鏝は西壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。所見 本跡の時期は, 重複している住居跡の時期と出土遺物から, 9世紀初頭と推定される。



第180図 第170号住居跡出土遺物実測図

第170号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	首径値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第180図	坏 土師器	A [13.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナテ。体部外面下位手持ちへう削り。口縁部から底部内面へう磨き。底部同様にう磨きを残す手持ちへう削り。内面黒色処理。	雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	30% P838 覆土下層 (南壁寄り)
		B 3.8				
		C 6.8				
2	鉢 土師器	A [24.6]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ、内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナテ。体部外面平打叩き、内面へう磨き。内面黒色処理。	砂粒 にぶい褐色 普通	10% P839 覆土下層 (南壁寄り)
		B (4.6)				
3	小形 土師器	A [9.2]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ、内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナテ。体部内・外面ナテ。体部外面下位へう削り。	スコリア 砂粒 にぶい橙色 普通	20% P841 壺内 (火床部)
		B (5.7)				
4	小形 土師器	A [13.8]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ、内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナテ。体部内・外面ナテ。体部外面下位へう削り。	石英 雲母 砂粒 スコリア 橙色 普通	30% P842 壺内 (火床部)
		B (10.0)				
5	壺 土師器	A [19.4]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ、内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、つまみ上げられ、棒状工具による凹痕を認らす。	口縁部内・外面横ナテ。体部内・外面ナテ。	長石 石英 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	20% P843 壺内 床面直上 (電手前)
		B (9.5)				
6	壺 土師器	A [25.0]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ、内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、つまみ上げられ、棒状工具による凹痕を認らす。	口縁部内・外面横ナテ。体部内・外面ナテ。外面下位へう削り。	石英 雲母 砂粒 スコリア にぶい赤褐色 普通	20% P844 壺内
		B (16.4)				
7	鉢 須恵器	A [24.6]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ、内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナテ。体部外面格子目叩き、内面輪磨み肌。	石英 雲母 砂粒 灰黄褐色 普通	10% P840 覆土下層 (南西コーナー部)
		B (6.5)				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	質量(g)		
第180図8	土製紡錘車	5.7	2.2	0.9	(60.1)	覆土下層(電手前)	DP112 PL98

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)		
第180図9	鉄 鏝	(6.0)	0.8	0.4	(4.3)	覆土下層(西壁寄り)	M53 PL106 漆部

## 第171号住居跡(第181~184図)

位置 調査Ⅳ区の中央部, G8 j7区。

重複関係 本跡は第170・173号住居に掘り込まれていることから、いずれよりも本跡が古い。

規模と平面形 南東コーナー部の一部が調査区域外である。長軸5.15m, 短軸5.10mの方形である。

主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は60cmで、垂直に立ち上がる。

壁溝 ほは全周している。上幅18~32cm, 下幅6~14cm, 深さ10~14cmで、断面形はU字形である。

床 全面が平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に、壁外へ39cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで132cm、両袖幅120cmである。火床部は、床面をほとんど掘りくぼめることなく、作られている。火床面は火熱を受けてはいるが、赤変硬化してはいない。煙道は外傾して、階段状に立ち上がる。

■土層解説

- |   |      |                    |
|---|------|--------------------|
| 1 | 明黄褐色 | 粘土粒子多量、ローム粒子少量     |
| 2 | 褐色   | 焼土中ブロック少量          |
| 3 | 灰色   | 灰・炭化粒子多量           |
| 4 | 暗赤褐色 | 炭化粒子・焼土粒子少量        |
| 5 | 暗赤褐色 | 炭化粒子少量、焼土粒子微量      |
| 6 | 暗褐色  | ローム粒子微量            |
| 7 | 赤褐色  | 焼土小ブロック中量          |
| 8 | 褐色   | ローム中ブロック・焼土中ブロック中量 |

ピット 6か所（P1～P6）。P1からP4は長径50～78cm、短径31～60cmの楕円形で、深さ24～60cmである。いずれも各コーナー寄りに位置していることから、主柱穴と考えられる。P5は長径64cm、短径50cmの楕円形で、深さ53cmである。南壁寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は東袖部に位置し、径30cmの円形で、深さ46cmである。性格は不明である。

■ピット土層解説

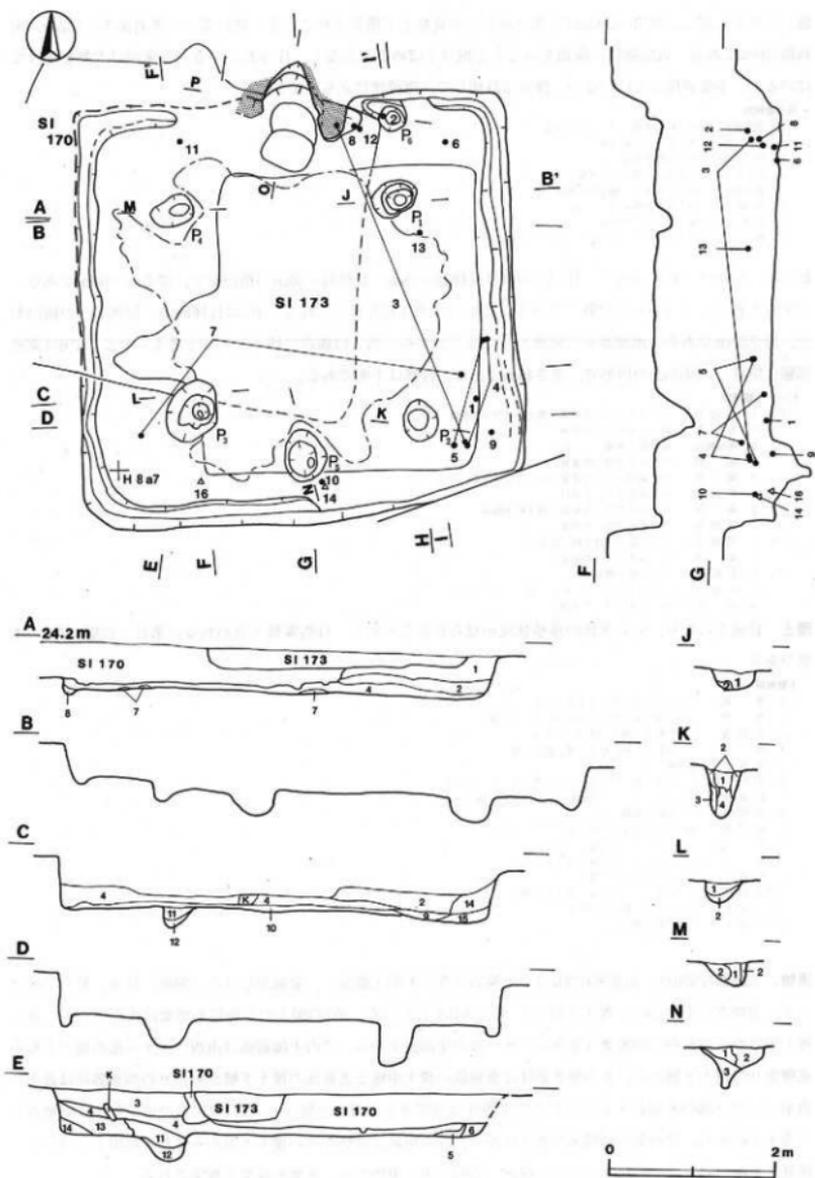
- |    |   |     |                      |
|----|---|-----|----------------------|
| P1 | 1 | 暗褐色 | ローム中ブロック中量、焼土小ブロック少量 |
|    | 2 | 褐色  | ローム中ブロック多量           |
| P2 | 1 | 暗褐色 | 炭化粒子少量               |
|    | 2 | 褐色  | ローム中ブロック多量           |
|    | 3 | 褐色  | ローム中ブロック多量、ローム粒子少量   |
|    | 4 | 暗褐色 | ローム小ブロック少量           |
| P3 | 1 | 褐色  | ローム小ブロック少量、焼土粒子微量    |
|    | 2 | 暗褐色 | ローム小ブロック少量           |
| P4 | 1 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量         |
|    | 2 | 褐色  | ローム中ブロック中量           |
| P5 | 1 | 暗褐色 | ローム粒子微量              |
|    | 2 | 暗褐色 | ローム小ブロック・粒子少量        |
|    | 3 | 褐色  | ローム小ブロック少量           |

覆土 15層からなり、レンズ状の堆積状況が見られることから、自然堆積と思われる。第11・12層はP3の土層である。

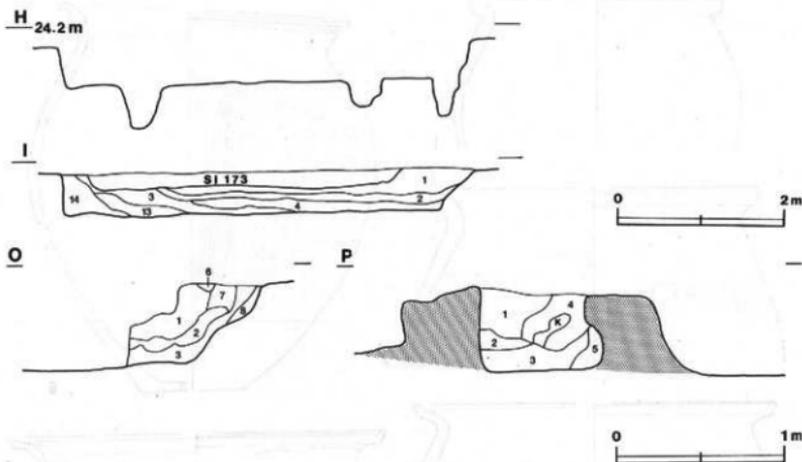
■土層解説

- |    |     |                         |
|----|-----|-------------------------|
| 1  | 褐色  | ローム小ブロック・焼土粒子中量         |
| 2  | 褐色  | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量     |
| 3  | 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック少量         |
| 4  | 褐色  | ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量       |
| 5  | 黄褐色 | 砂多量                     |
| 6  | 黄褐色 | ローム中ブロック・炭化粒子・焼土小ブロック少量 |
| 7  | 暗褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子中量    |
| 8  | 黄褐色 | ローム粒子微量                 |
| 9  | 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック少量      |
| 10 | 褐色  | ローム中ブロック中量              |
| 11 | 褐色  | ローム小ブロック少量、焼土粒子微量       |
| 12 | 暗褐色 | ローム小ブロック少量              |
| 13 | 暗褐色 | ローム中ブロック少量、焼土粒子少量       |
| 14 | 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量            |
| 15 | 暗褐色 | ローム粒子微量                 |

遺物 土師器片550点、須恵器片304点、土製品2点（不明土製品）、金属製品3点（銅鏡、鉈尾、釘）、礫2点が、南壁寄りを中心に、覆土下層から多くが出土している。第183図1の土師器小形甕は南東コーナー部の覆土下層から、6の土師器甕は北東コーナー部の床面直上から、7の土師器甕は南西コーナー部の覆土上層と東壁寄りの覆土下層から、8の須恵器甕は東袖脇の覆土中層と北東部の覆土下層から、9の須恵器甕は竈内と南東コーナー部の床面直上から、10の須恵器甕は南壁寄りの覆土中層から、第184図11の須恵器甕は北壁寄りの覆土下層から、15の帯金具鉈尾は覆土中から、16の銅鏡は南壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。所見 本跡の時期は、重複している住居跡の時期と出土遺物から、8世紀後葉と推定される。



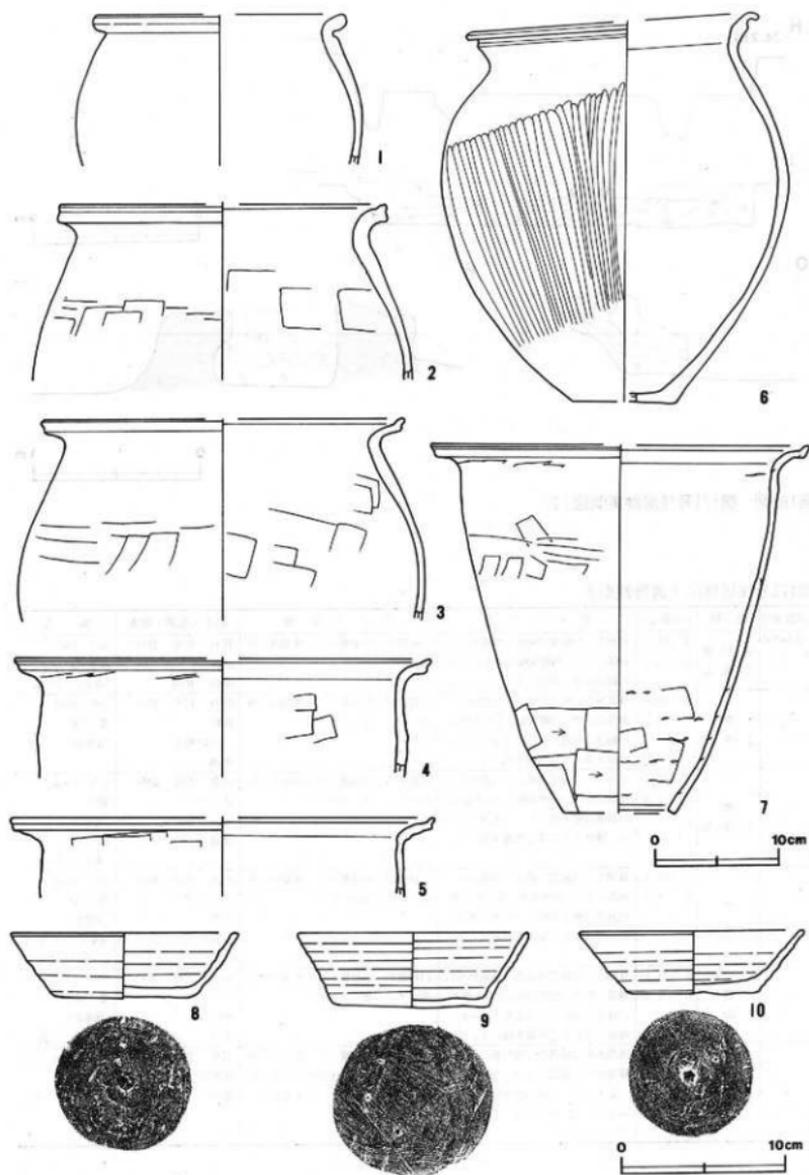
第181圖 第171号住居跡実測図(1)



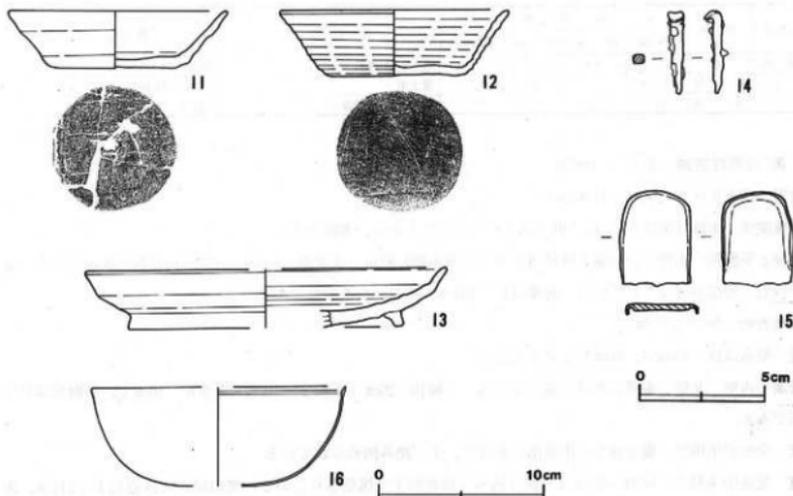
第182図 第171号住居跡実測図(2)

第171号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	測定値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第183図 1	小形 土師器	A [14.8]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	灰石 石英 雲母 砂粒 褐色 普通	20% P851 覆土下層 (南東コーナー部)
		B (9.2)	口縁部は強く外反する。			
2	壺 土師器	A [19.6]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。一部ヘラナデ。	灰石 石英 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	20% P852 覆土中層 (北観寄り)
		B (10.7)	口縁部は外反し、つまみ上げられ、棒状工具による凹線を巡らす。			
3	壺 土師器	A [22.0]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。一部ヘラナデ。	石英 雲母 砂粒 スコリア にぶい黄褐色 普通	20% P853 壺内 (東端内) 覆土中層 (南東コーナー部)
		B (12.3)	口縁部は強く外反し、つまみ上げられ、棒状工具による凹線を巡らす。			
4	壺 土師器	A [33.4]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。一部ヘラナデ。	石英 雲母 砂粒 スコリア 褐色 普通	20% P854 覆土中層 (東観寄り、 南東コーナー部)
		B (8.9)	口縁部は強く外反し、つまみ上げられ、棒状工具による凹線を巡らす。			
5	壺 土師器	A [33.2]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。一部ヘラナデ。	石英 雲母 砂粒 スコリア 褐色 普通	10% P855 覆土中層 (東観寄り、 南東コーナー部)
		B (6.3)	口縁部は強く外反し、つまみ上げられ、棒状工具による凹線を巡らす。			
6	壺 土師器	A [22.2]	底部から口縁部の一部欠損。平底。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面上位から下位にかけてヘラ書き。底部直上、木葉痕。	石英 雲母 砂粒 灰褐色 普通	90% P856 PL7 床面直上 (北東コーナー部)
		B 30.8	体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、つまみ上げられ、棒状工具による凹線を巡らす。			
		C [ 8.0]				



第183图 第171号住居跡出土遺物実測図(1)



第184図 第171号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第183図	7 甗 土師器	A [30.0]	底部から口縁部の破片。平底。無底式。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上げられる。口縁部は外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。一部ヘラナデ。体部外面下位ヘラ削り、内・外面輪襖み痕。	長石 石英 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	30% P857 覆土上層 (南西コーナー部) 覆土下層 (東壁寄り)
B 29.4						
C [ 8.8]						
8	坏 須恵器	A 13.8	口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ削り。	雲母 スコリア 砂粒 黄灰色 普通	90% P845 PL77 覆土中層(東壁部) 覆土下層(北東部)
		B 4.0				
		C 8.4				
9	坏 須恵器	A 13.8	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がり、中位から口縁部にかけて、外反気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面口クロナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石 石英 砂粒 灰色 普通	90% P846 PL77 甗内 床面直上 (南東コーナー部)
		B 4.6				
		C 9.2				
10	坏 須恵器	A 13.4	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	石英 雲母 砂粒 黄灰色 普通	90% P847 PL77 覆土中層 (南壁寄り)
		B 3.9				
		C 7.5				
第184図	11 坏 須恵器	A 13.2	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がり、中位に不明瞭な稜を持つ。	口縁部から体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り痕を残す手持ちヘラ削り。	雲母 砂粒 黄灰色 普通	80% P848 覆土下層 (北壁寄り)
		B 3.5				
		C 7.3				
12	坏 須恵器	A 13.8	底部から口縁部の破片。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部にかけて、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面口クロナデ。底部手持ちヘラ削り。	石英 雲母 砂粒 灰色 普通	60% P849 覆土中層 (北東部、東壁部)
		B 4.0				
		C 7.8				
13	甗 須恵器	A [14.8]	高台部から口縁部の破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて、内彎気味に開き、中位に明瞭な稜を持ち、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け、口クロナデ。	長石 砂粒 黄灰色 普通	30% P850 覆土中層 (東壁寄り)
		B 3.6				
		D [16.4]				
		E 1.0				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第184図4	釘	3.3	0.6	0.7	1.5	覆土中層(南壁寄り)	M54 PL105
15	鈍尾	(3.9)	2.8	0.4	(12.0)	覆土中	M104 PL104
16	銅線 A [15.1]	B6.0		0.03	(16.0)	覆土下層(南壁寄り)	M105 PL104

### 第172号住居跡 (第185・186図)

位置 調査IV区の中央部, G 8 j9区。

重複関係 本跡は第573号土坑に掘り込まれていることから, 本跡が古い。

規模と平面形 南側半分が調査区域外のため, 東西軸5.82m, 南北軸(4.08)mで, 長方形と推定される。竈の西側に欄部が付設されている。規模は長さ164cm, 幅34cmの不定形である。

主軸方向 N-1°-W

壁 壁高は18~30cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 西壁・北壁・東壁にかけ, 巡っている。上幅18~20cm, 下幅2~10cm, 深さ6~10cmで, 断面形はU字形である。

床 全面が平坦で, 竈手前から中央部にかけて, よく踏み固められている。

竈 北壁中央部に, 壁外へ50cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで144cm, 両袖幅124cmである。火床部は, 床面を6cmほど掘りくぼめ, 火床面が作られている。火床面は火熱を受けてはいるが, 赤変硬化してはいない。煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。竈の覆土は13層(第1~13層)に, 袖部の土層は3層(第14~16層)に分けられた。

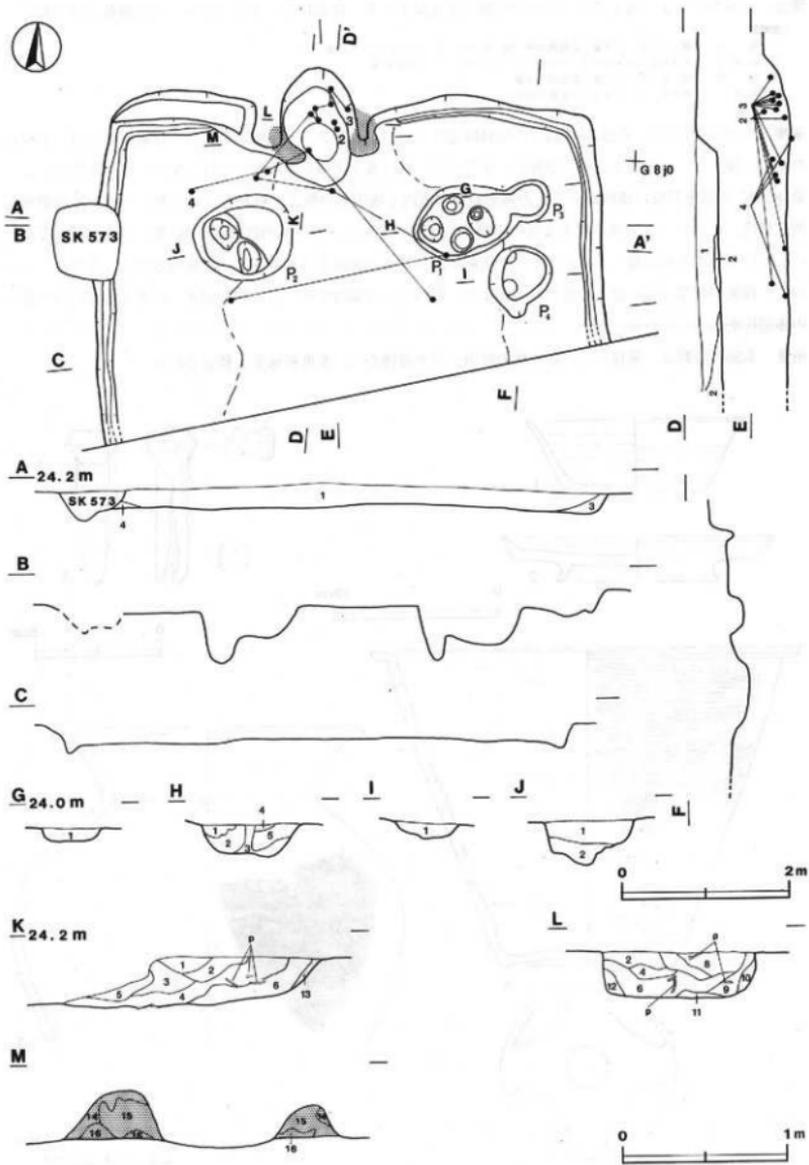
#### 竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土小ブロック・灰子中量, 炭化粒子・焼土中ブロック・粘土粒子少量, ローム中ブロック微量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック中量, 炭化粒子・焼土粒子少量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム小ブロック・粘土粒子少量, 炭化材・炭化物微量
- 4 暗赤褐色 焼土中・小ブロック・灰子多量, 炭化粒子中量, 炭化物・焼土大ブロック少量, 炭化材微量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・灰子中量, ローム小ブロック・炭化粒子・焼土中ブロック・粘土粒子少量, 炭化物微量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量, 炭化物少量
- 7 黒褐色 焼土小ブロック・灰子中量, ローム小ブロック・炭化粒子・焼土中ブロック少量, 粘土粒子微量
- 8 黒褐色 焼土大・中・小ブロック・灰子中量, ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 9 黒褐色 焼土小ブロック・灰子中量, 炭化粒子・粘土粒子少量
- 10 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土中・小ブロック少量, 炭化粒子・焼土大ブロック・粘土粒子微量
- 11 黒褐色 焼土中ブロック・灰子中量, 炭化物・炭化粒子・焼土小ブロック・粘土粒子少量
- 12 暗赤褐色 焼土粒子多量, ローム小ブロック少量, 粘土粒子微量
- 13 黄褐色 焼土小ブロック少量
- 14 暗褐色 炭化物・焼土小ブロック少量
- 15 褐色 ローム粒子・焼土大ブロック中量, 焼土小ブロック少量
- 16 褐色 焼土小ブロック多量, ローム粒子中量

ピット 4か所(P1~P4)。P1とP2は長径120~126cm, 短径88~106cmの楕円形で, 深さ62~66cmである。北東コーナー部と北西コーナー部に位置していることから, 主柱穴と考えられる。P3はP1脇に位置し, 径48cmの円形, P4は東壁寄りに位置し, 長径80cm, 短径72cmの楕円形で, いずれも深さ18cmである。ともに性格は不明である。

#### ピット土層解説

- P1 1 暗褐色 ローム小ブロック・灰子少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・灰子中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・灰子多量, 炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・灰子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- P2 1 暗褐色 ローム小ブロック・灰子少量, ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・灰子中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量
- P3 1 黒褐色 ローム小ブロック・灰子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量
- P4 1 暗褐色 ローム小ブロック・灰子中量, 炭化粒子微量



第185图 第172号住居跡実測図

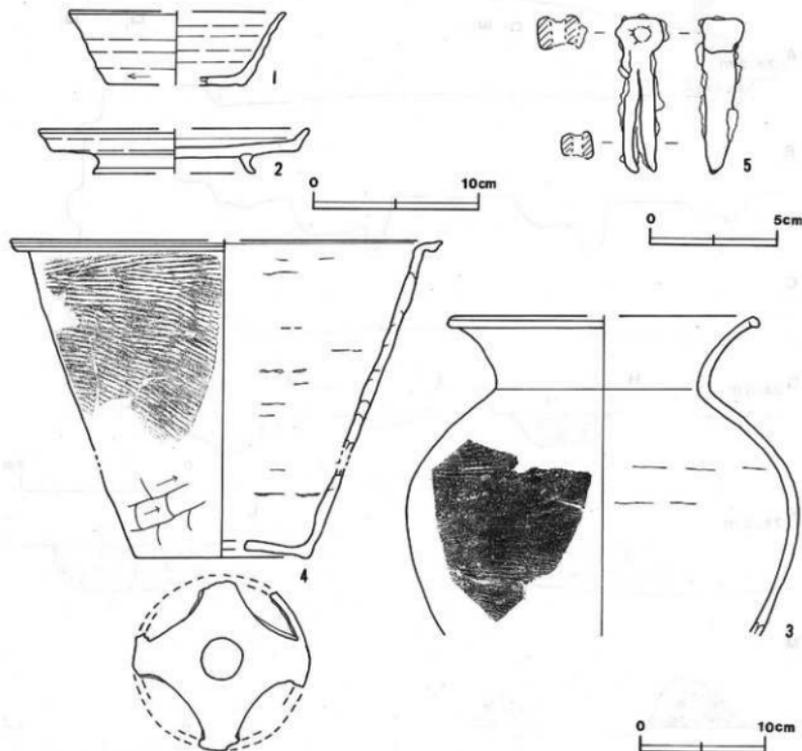
覆土 4層からなり、焼土ブロック・炭化物・炭化粒子が多く含まれていることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 焼 色 焼土小ブロック多量、炭化物中量、焼土中ブロック・粘土小ブロック少量
- 2 暗 褐色 炭化粒子・焼土小ブロック中量、ローム小ブロック・炭化物少量
- 3 暗 褐色 焼土小ブロック中量、炭化粒子少量
- 4 暗 褐色 焼土小ブロック少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片537点、須恵器片444点、灰軸陶器片1点、土製品3点（不明土製品）、金属製品1点（不明鉄製品）、碟1点、炭化物2点が、全体から平均的に、特に覆土上層から中層にかけて集中して出土している。第186図2の須恵器盤は竈内から、3の須恵器甕は竈内と竈手前の覆土上層から下層にわたって、4の須恵器甕は竈内、北西コーナー部の覆土中層、中央部の床面直上から、5の不明鉄製品はP4覆土中からそれぞれ出土している。南東部の覆土上層が出土した灰軸陶器長頸瓶の頸部片は猿投窯産（黒笹90号窯式）と考えられるので、後世の攪乱による混入と思われる。また、竈内からは猿投窯産（岩崎41号窯式）と考えられる須恵器坏の体部片が出土している。

所見 本跡の時期は、重複している土坑の時期と出土遺物から、8世紀前葉と推定される。



第186図 第172号住居跡出土遺物実測図

第172号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第186図 1	坏 須恵器	A [12.9]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転へつ削り。底部回転へつ削り。	雲母 砂粒 灰白色 普通	30% P858 覆土層
		B 4.4				
		C [ 8.1]				
2	甗 須恵器	A [16.2]	高台部から口縁部の破片。高台は長く、「」の字状に開く。体部から口縁部にかけ、直線的に開き、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転へつ削り。高台貼り付け、ロクロナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	30% P859 甗内
		B 2.7				
		D [ 9.8]				
		E 1.1				
3	釜 須恵器	A [23.8]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ、内彎気味に立ち上がり、上位に最大径を有する。口縁部は強く外反し、外側に折り返されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き、内面輪襞み痕。	雲母 砂粒 灰色 普通	50% P860 甗内 覆土上層～ 覆土下層 (甗手前)
		B (25.5)				
4	瓶 須恵器	A [33.8]	底部から口縁部の破片。平底。5孔式。体部から口縁部にかけ、内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、つまみ上げられ、棒状工具による凹線を流らす。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き、下位からへつ削り。体部内面輪襞み痕。底部ナデ。	長石 石英 砂粒 灰色 良好	20% P861 甗内 覆土中層 (北西コーナー部) 灰面直上 (中央部)
		B [26.3]				
		C 13.8				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第186図5	小銅鉄製品	6.5	2.2	1.9	19.4	P4覆土中	M55 PL108

## 第173号住居跡 (第187・188図)

位置 調査IV区の中央部、G8 j7区。

重複関係 本跡は第170・171号住居跡を掘り込んでいることから、いずれよりも本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.72m、短軸3.10mの長方形である。

主軸方向 N-86°-W

壁 壁高は4~16cmで、外傾して立ち上がる。

床 全面が平坦で、中央部から北壁にかけて、2~8cmの暗褐色土により貼床が施されている。

竈 西壁際に多量の焼土を含む砂質粘土塊が確認された。西壁中央部に、壁外へ102cmほど掘り込み、最大南北幅120cm、同東西幅150cmの三角形状を呈している。その範囲から竈が破壊された痕と考えられる。

## 焼土層解説

- 黒褐色 炭化粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
- 暗褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 極暗褐色 炭化粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
- 暗褐色 粘土粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量
- 暗褐色 粘土粒子多量、炭化物・焼土粒子少量
- 極暗褐色 焼土小ブロック中量、焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 極暗褐色 炭化粒子・焼土小ブロック・粘土粒子・粘土粒子少量
- 黒褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・焼土粒子少量
- 灰褐色 粘土粒子中量、炭化粒子・焼土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 暗褐色 焼土粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 黒褐色 焼土小ブロック中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子・粘土粒子少量、焼土中・小ブロック微量
- 黒褐色 炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量
- 暗褐色 粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム小ブロック微量
- 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
- 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
- 暗褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 粘土大ブロック多量

- 20 麻暗褐色 粘土粒子・炭化粒子・焼土小ブロック微量  
 21 黒褐色 粘土粒子中量, 炭化粒子・焼土粒子少量, ローム粒子微量  
 22 暗褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量

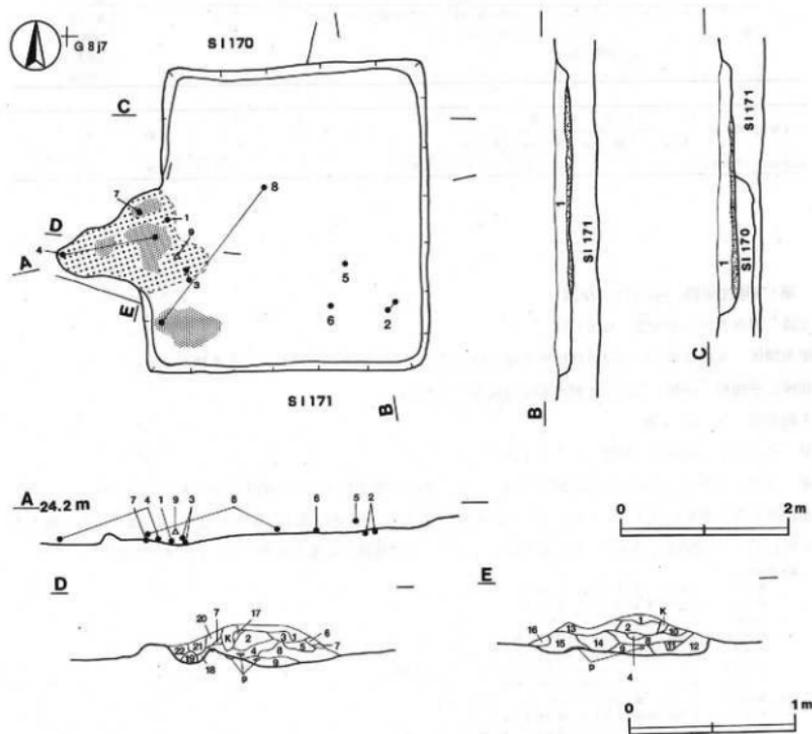
覆土 単一層で、自然堆積か人為堆積か不明である。中央部から南部にかけて覆土は浅くなっている。

土層解説

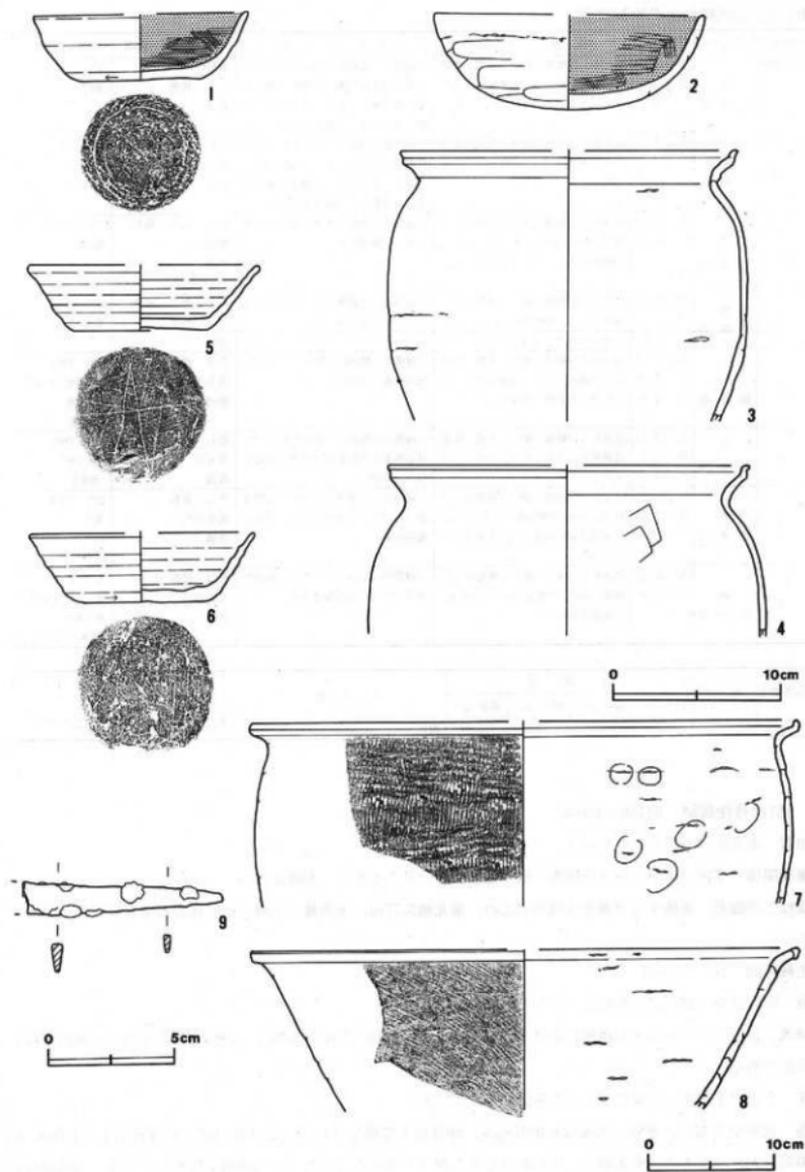
- 1 褐色 炭化粒子・焼土粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量

遺物 土師器片296点, 須恵器片229点, 金属製品1点(刀子)が出土している。第188図1の土師器坏, 3と4の土師器甕, 7の須恵器鉢, 9の刀子は竈内から, 8の須恵器鉢は南西コーナー部の粘土塊内と中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。2の土師器坏, 5と6の須恵器坏が南東コーナー付近から出土しているが, これらは第171号住居跡からの混入の可能性が高い。

所見 本跡の時期は、重複している住居跡の時期と出土遺物から、9世紀前半と推定される。



第187図 第173号住居跡実測図



第188图 第173号住居跡出土遺物実測図

第173号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第188図	1 坏土器	A [13.0]	底面から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘリ削り。体部から底面内面ヘリ磨き。底面回転ヘリ削り後、ナデ。内面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通	50% P862 壺内
		B 4.0				
		C 6.3				
2	坏土器	A [16.3]	底面から口縁部の破片。丸底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面一部ヘラナデ。輪轆み痕。体部から底面内面ヘリ磨き。底面手持ちヘリ削り。内面黒色処理。	長石 石英 砂粒 橙黄色 良好	40% P863 床直上 (南東コーナー部)
		B 5.8				
3	壺土器	A [20.2]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。輪轆み痕。	長石 石英 砂粒 橙黄色 普通	30% P868 壺内
		B (16.4)				
4	壺土器	A [21.8]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内面一部ヘラナデ。	石英 雲母 砂粒 にぶい橙黄色 普通	20% P869 壺内
		B (10.4)				
5	坏須臾器	A [13.9]	底面から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底面回転ヘリ削り。	雲母 砂粒 灰黄色 普通	50% P864 底面外縁ヘリ記号 覆土層 (中央部)
		B 4.0				
		C 7.9				
6	坏須臾器	A [13.5]	底面から口縁部の破片。平底。体部は直線的に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘリ削り。底面手持ちヘリ削り。	長石 石英 砂粒 灰黄色 普通	50% P865 覆土下層 (南壁寄り)
		B 4.2				
		C 8.2				
7	鉢須臾器	A [43.4]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面円形の器具痕と輪轆み痕。	雲母 砂粒 灰青褐色 普通	20% P866 壺内
		B (14.6)				
8	鉢須臾器	A [43.2]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き。内面輪轆み痕。	雲母 砂粒 黄灰色 普通	30% P870 覆土下層(中央部) 粘土内 (南西コーナー)
		B (12.8)				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第188図	刀子	(9.3)	0.8	0.3	(13.0)	壺内	M56 FL102 関部~基部

## 第174号住居跡(第189・190図)

位置 調査IV区の南部, G9j4区。

重複関係 本跡は第48号掘立柱建物に掘り込まれていることから、本跡が古い。

規模と平面形 東側半分が調査区域外のため、南北軸3.77m, 東西軸(2.88)mで長方形または方形と推定される。

主軸方向 N-12°-W

壁 壁高は28~38cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北西コーナー部から西壁にかけて巡っている。上幅19~32cm, 下幅3~10cm, 深さ2cmで、断面形はU字形である。

床 全面が平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に、壁外へ26cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで120cm, 両袖幅(96)cmである。火床部は、床面をほとんど掘りくぼめることなく、火床面が作られている。火床面は火熱を受け、赤変硬化している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。

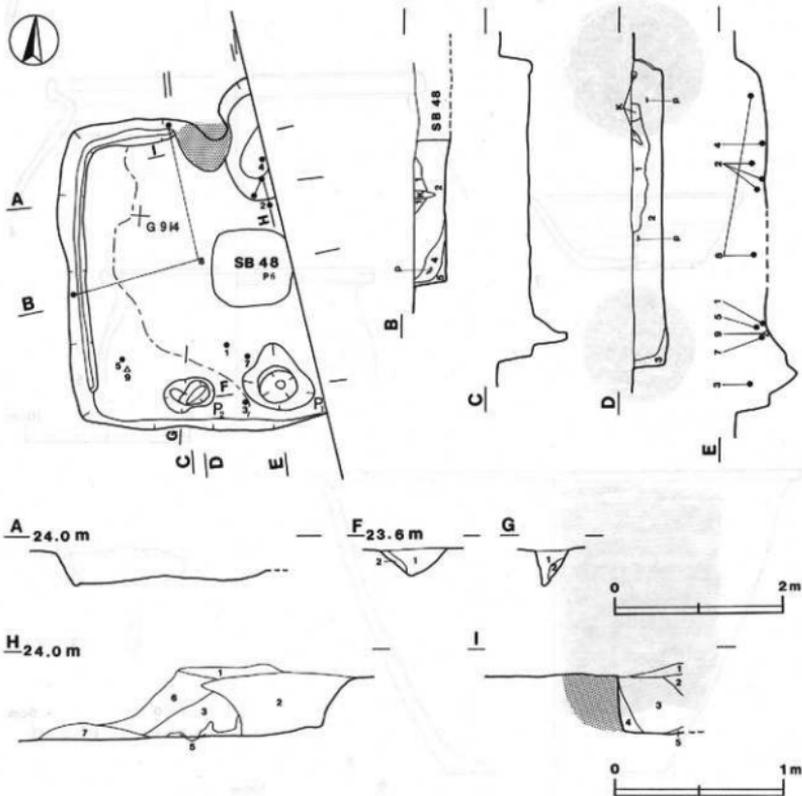
層土層解説

- |   |      |  |
|---|------|--|
| 1 | 暗褐色  | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量                     |
| 2 | 暗褐色  | 炭化粒子・焼土粒子少量, ローム粒子微量                     |
| 3 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・焼土小ブロック少量, ローム小ブロック微量 |
| 4 | 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量        |
| 5 | 黒褐色  | 焼土粒子多量, 炭化粒子・焼土小ブロック少量, ローム粒子微量          |
| 6 | 褐色   | 焼土小ブロック中量, 粘土小ブロック少量                     |
| 7 | 暗褐色  | 焼土中ブロック・粘土中ブロック少量                        |

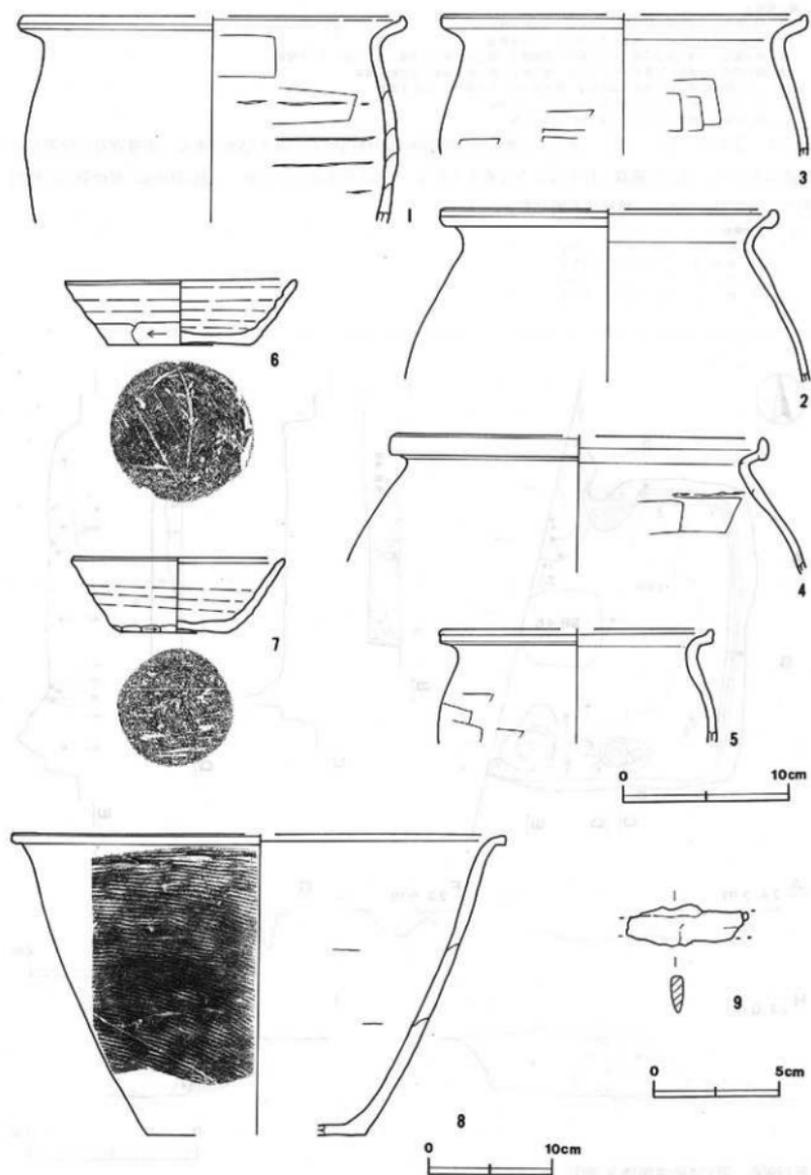
ピット 2か所 (P1・P2)。P1は長径80cm, 短径66cmの楕円形で、深さ32cmである。南壁寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は南壁寄りに位置し、長径60cm, 短径38cmの楕円形で、深さ40cmである。性格は不明である。

ピット土層解説

- |    |   |     |            |
|----|---|-----|------------|
| P1 | 1 | 褐色  | ローム中ブロック少量 |
|    | 2 | 黄褐色 | ローム中ブロック多量 |
| P2 | 1 | 暗褐色 | ローム中ブロック少量 |
|    | 2 | 褐色  | ローム小ブロック少量 |



第189図 第174号住居跡実測図



第190图 第174号住居跡出土遺物実測図

覆土 5層からなり、レンズ状の堆積状況が見られることから、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、ローム小ブロック・炭化灰少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、粘土粒子微量

遺物 土師器片186点、須恵器片216点、土製品1点（不明土製品）、金属製品1点（刀子）が出土している。

第190図1の土師器甕は南壁寄りの床面直上から、2と4の土師器甕は竈内から、5の土師器甕は南西コーナー部の覆土下層から、7の須恵器坏は南壁寄りの覆土下層から、8の須恵器鉢は竈西袖脇と西壁寄りの覆土下層から、9の刀子は南西コーナー部の床面直上からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、重複している掘立建物跡の時期と出土遺物から、8世紀後半と推定される。

第174号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	若層番号(m)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第190図 1	土師器	A [23.0]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面一部ヘラナデ。輪積み痕。	長石 石英 雲母 砂粒 スコリア 褐色 普通	20% P874 床面直上 (南壁寄り)
		B (12.0)				
2	土師器	A [20.0]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	石英 雲母 砂粒 スコリア 褐色 普通	20% P875 竈内
		B (10.6)				
3	土師器	A [21.8]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ、一部ヘラナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 スコリア にぶい褐色 普通	10% P876 覆土中層 (南壁寄り)
		B (8.5)				
4	土師器	A [22.2]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面一部ヘラナデ。輪積み痕。	長石 石英 砂粒 褐色 普通	10% P877 竈内
		B (8.3)				
5	土師器	A [16.2]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、つまみ上げられ、棒状工具による凹線を通らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ、外面一部ヘラナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	5% P878 覆土下層 (南西コーナー部)
		B (7.0)				
6	須恵器	A 13.8	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面クロコナデ。体部外面下位手持ちヘラ磨り。底部回転ヘラ切り痕を残す手持ちヘラ磨り。	石英 雲母 砂粒 スコリア にぶい黄褐色 普通	80% P871 PL77 覆土中層
		B 4.0				
7	須恵器	A 12.6	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面クロコナデ。体部外面下位手持ちヘラ磨り。底部回転ヘラ切り痕を残す一方の手持ちヘラ磨り。	長石 石英 砂粒 灰色 普通	60% P872 覆土下層 (南壁部、 南壁寄り)
		B 4.6				
8	須恵器	A [38.8]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、折り返されている。	口縁部内・外面クロコナデ。体部外面平行磨き、下位ヘラ磨り。内面輪積み痕。底部ナデ。	長石 雲母 砂粒 灰白色 普通	30% P873 覆土下層 (竈西袖脇、 西壁寄り)
		B 23.9				
C [17.2]						

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第190図9	刀子	(4.9)	1.7	0.4	(7.35)	床面直上(南西コーナー部)	M57 PL102 刀身部

第175号住居跡 (第191・192図)

位置 調査IV区の中央部, G9hl区。

重複関係 本跡は第53号掘立柱建物, 第570・571号土坑に掘り込まれていることから, いずれよりも本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.00m, 短軸3.70mの方形である。

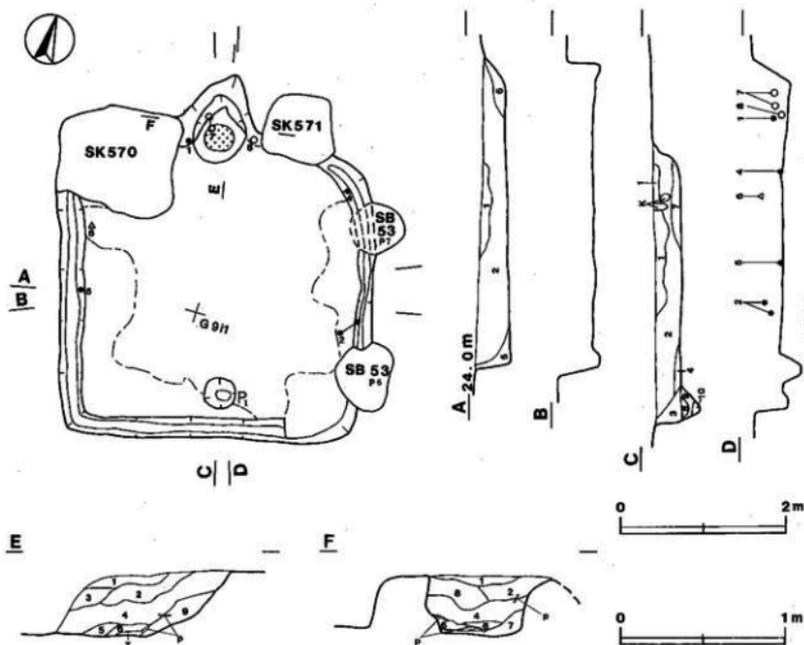
主軸方向 N-2°-W

壁 壁高は36~50cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁・南壁・西壁沿いに巡っている。上幅12~30cm, 下幅4~16cm, 深さ6~10cmで, 断面形はU字形である。

床 全面が平坦で, 東壁・南壁・西壁付近の一部を除いて, よく踏み固められている。

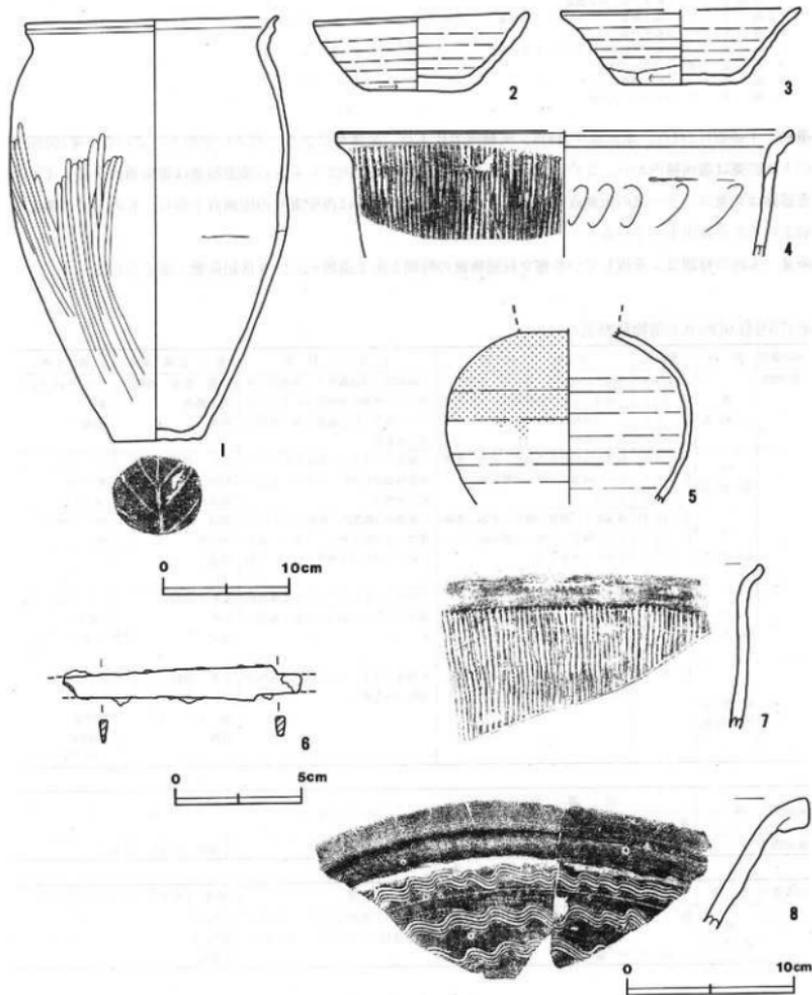
竈 北壁中央部に, 壁外へ56cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。第570・571号土坑に袖部の一部を掘り込まれている。焚口部から煙道部まで109cm, 両袖幅(100)cmである。火床部は, 床面を10cmほど掘りくぼめ, 火床面が作られている。火床面は火熱を受け, 赤変しているが, あまり硬化していない。煙道は外傾して立ち上がる。



第191図 第175号住居跡実測図

甌土層解説

- |   |      |                      |
|---|------|----------------------|
| 1 | 褐色   | ローム粒子・炭化粒子少量         |
| 2 | 濃い褐色 | 粘土粒子中量、炭化粒子微量        |
| 3 | 濃い褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 4 | 褐色   | ローム小ブロック・焼土粒子少量      |
| 5 | 暗褐色  | ローム小ブロック少量           |
| 6 | 黄褐色  | 粘土粒子中量、焼土中ブロック少量     |
| 7 | 暗緑灰色 | 灰多量、焼土小ブロック中量        |
| 8 | 褐色   | ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量  |
| 9 | 黒褐色  | 灰多量、炭化粒子中量           |



第192図 第175号住居跡出土遺物実測図

ビット 1か所。P1は径38cmの円形で、深さ26cmである。南壁寄りに位置していることから、出入口施設に伴うビットと考えられる。

覆土 7層からなり、ブロック状の堆積状況が見られることから、人為堆積と思われる。第8～10層はP1の覆土である。

土層解説

1	褐色	ローム粒子微量
2	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭土粒子微量
3	褐色	ローム粒子少量
4	褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
5	褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
6	褐色	ローム粒子少量
7	褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
8	褐色	焼土小ブロック微量
9	褐色	ローム粒子微量
10	褐色	ローム中ブロック少量

遺物 土師器片244点、須恵器片218点、灰釉陶器片1点、金属製品2点(刀子)が出土している。第192図1の土師器甕は甕西袖内から、3の須恵器坏と7の須恵器鉢は甕内から、8の須恵器甕は甕東袖内から、4の須恵器鉢は北東コーナー部の床面直上から、5の灰釉陶器長頸瓶は西壁寄りの床面直上から、6の刀子は覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、重複している掘立柱建物跡の時期と出土遺物から、9世紀前葉と推定される。

第175号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第192図 1	甕 土師器	A 19.8	体部と口縁部の一部欠損。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナゲ。体部内・外面ナゲ。体部外面中位から下位にかけてヘラ磨き、内面輪積み。底部ナゲ、木重痕。	石灰 雲母 砂粒 赤褐色 普通	70% P883 PL78 甕内 (西袖内)
		B 33.5				
		C 7.0				
2	坏 須恵器	A 13.0	底面から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナゲ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 純灰色 普通	60% P879 覆土中層 (東壁寄り)
		B 4.8				
		C 6.4				
3	坏 須恵器	A [14.4]	底面から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナゲ。体部外面下位手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り痕を残す手持ちヘラ削り。	雲母 砂粒 黄灰色 普通	40% P880 甕内
		B 4.5				
		C [7.0]				
4	鉢 須恵器	A [27.4]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナゲ。体部外面平行磨き、内面当て具痕と輪積み痕。	長石 砂粒 灰色 普通	10% P881 床面直上 (北東コーナー部)
		B (7.7)				
5	長頸瓶 灰釉陶器	B (10.7)	体部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、上位で最大径を有する。	体部内・外面ロクロナゲ、体部外面輪積、刷毛塗り。	石英 砂粒 にぶい黄色 釉 オリーブ色 良好	30% P883 床面直上 (西壁寄り) 接点痕 (井ヶ谷78号形式)

図版番号	種類	計測値			出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)		
第192図6	刀子	(9.6)	1.4	0.4	(14.2)	覆土中層(西壁寄り) M58 PL102 刀身部

図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴	備考(台帳番号、出土位置、色調など)
第192図 7	鉢 須恵器	体部 ～ 口縁部	体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、つまみ上げられている。口縁部内・外面ロクロナゲ。体部外面平行磨き、内面当て具痕と輪積み痕。	T P 205 甕内 灰褐色

図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴	備考(台帳番号, 出土位置, 色調など)
第192図	須恵器	口縁部	口縁部は外反し, つまみあげられ, 外方に折り返されている。4本一単位の襷目による, 横走波状文が施されている。口縁部内・外面ロクロナデ。	T P 203
8				SI 155 覆土上層 甕内(東軸内)

### 第176号住居跡 (第193・194図)

位置 調査Ⅳ区の中央部, G 8 d8区。

重複関係 本跡は第166号住居に掘り込まれていることから, 本跡が古い。

規模と平面形 北部分が調査区域外のため, 東西軸3.01m, 南北軸(1.60)mで長方形または方形と推定される。

主軸方向 不明である。

壁 壁高は30cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁・南壁・西壁に巡っている。上幅16~30cm, 下幅4~12cm, 深さ6~10cmで, 断面形はU字形である。

床 平坦で, 南東コーナー部と南西コーナー部を除いて, よく踏み固められている。

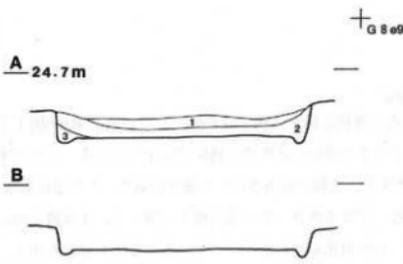
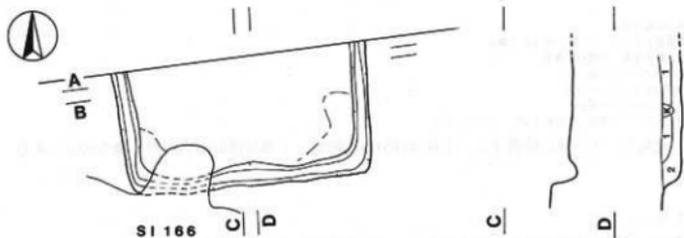
覆土 3層からなり, レンズ状の堆積状況が見られることから, 自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子中量, 中ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量



第193図 第176号住居跡  
出土遺物実測図



第194図 第176号住居跡実測図

遺物 土師器片30点, 須恵器片12点, 金属製品2点(不明鉄製品)が出土している。第193図1の須恵器鉢は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 重複している住居跡の時期と出土土器から, 8世紀と推定されるが, 詳細は不明である。

第176号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴	備考(台帳番号, 出土位置, 色調など)
第193図	鉢	体部	体部は内湾気味に立ち上がる。体部外面平行厚さ。	TP204
1	須恵器			覆土中 黒褐色 普通

第177号住居跡(第195・196図)

位置 調査V区の中央部, G9a8区。

規模と平面形 長軸4.06m, 短軸3.80mの方形である。

主軸方向 N-17°-W

壁 壁高は34~40cmで, 外傾して立ち上がる。

床 ほほ平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に, 壁外へ62cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は, 焚口部から煙道部まで127cm, 両袖幅118cmである。天井部は崩落しており, 第2・5層が崩落土と考えられる。両袖部は, 内面が赤変硬化している。竈手前の床面から, 粘土痕は確認できず, 袖部が張り出していたかどうか不明である。火床部は長径44cm, 短径32cmの円形で, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。火床面は床面と同じ平坦面を使用している。赤変しているが, あまり硬化していない。火床部から土師器小形甕が逆位で出土しており, 支脚に転用された可能性がある。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 砂質粘土小ブロック中量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 灰黄褐色 粘土中ブロック中量
- 5 褐色 砂質粘土中ブロック中量
- 6 褐色 ローム中ブロック多量
- 7 黒褐色 粘土大ブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量

ピット 1か所。北東コーナー部に位置する。上端は径54cmの円形, 下端は径40cmの円形, 深さ10cmである。

性格は不明である。

ピット土層解説

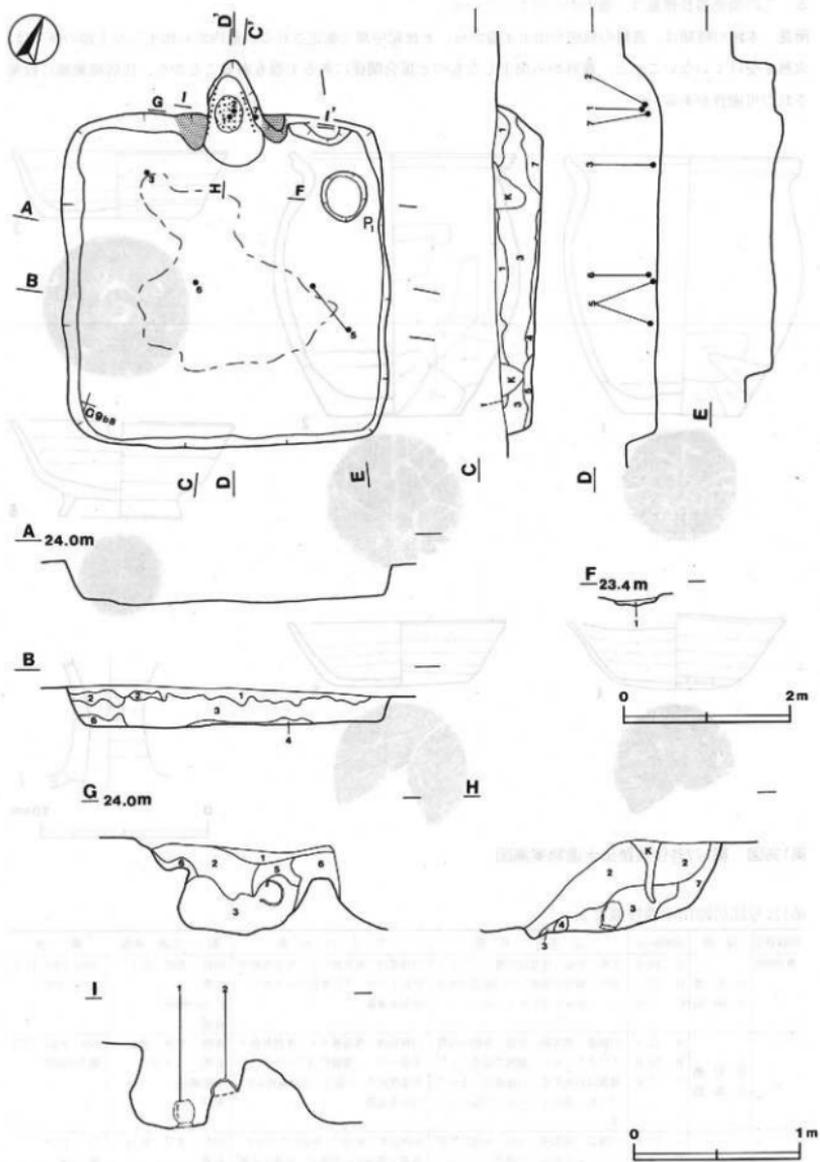
- 1 褐色 焼土小ブロック少量

覆土 7層からなる。各層に焼土ブロック・粒子を含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック微量
- 2 暗褐色 焼土粒子少量
- 3 灰黄褐色 焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
- 5 褐色 焼土小ブロック少量
- 6 灰黄褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 7 灰黄褐色 焼土中・小ブロック少量, 炭化物・砂質粘土粒子微量

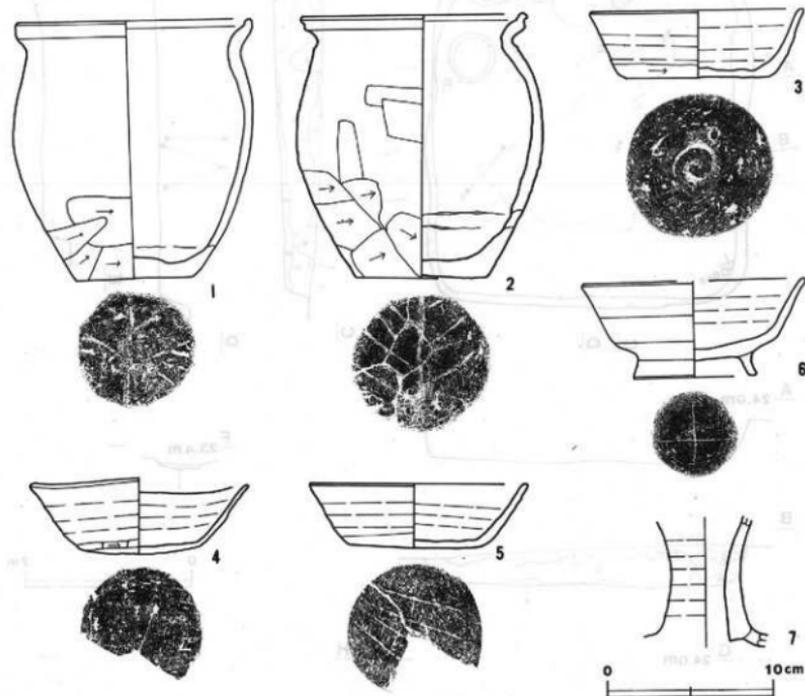
遺物 土師器片208点, 須恵器片318点, 土製品1点(球状土錘), 礫3点が出土している。第196図1と2の土師器小形甕は, 竈の火床部から出土している。1はやや浮いた状態で, 横位で出土している。2は火床面から逆位で出土しており, 二次焼成を受けていることから, 支脚に転用された可能性がある。1と2は製作技法・形状ともに類似している。3~5は須恵器坏である。3は北西コーナー部の覆土下層から, 4は覆土中から, 5は東壁中央部付近の覆土下層から出土している。6の須恵器高台付坏は, 中央部の覆土下層から出土してい



第195图 第177号住居跡実測图

る。7の須恵器長頸瓶は、竈内から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土土器から、8世紀中葉と推定される。竈内から出土した土器の多くは、火熱を受けていないことと、竈外から出土したものと接合関係にある土器もあることから、住居廃後に投棄された可能性がある。



第196図 第177号住居跡出土遺物実測図

第177号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第196図 1	小形 土師器	A 14.0	完形。平底。体部は内唇して立ち上がり、頸部で屈曲して口縁部は外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位以上ナデ。下位部位のヘラ削り。底部本葉痕。	砂粒 雲母 長石 石英 にぶい褐色 普通	100% P281 PL78 竈内(大床部)
		B 15.7				
		C 7.0				
2	小形 土師器	A 13.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内唇して立ち上がり、頸部で屈曲して口縁部は外反する。口縁部はつまみ上げられ、棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半部ナデ。一部部位のヘラナデ。下半部横位のヘラ削り。内面輪積み痕。底部本葉痕。	砂粒 雲母 長石 石英 スコリア 明赤褐色 普通	95% P285 PL78 竈内(大床部)
		B 16.0				
		C 7.8				
3	坏 須恵器	A 12.8	口縁部一部欠損。平底。体部は外唇して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面クロコナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部切り難し痕を残す一方向のヘラナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 陶灰色 普通	95% P278 竈土下層 (北西コーナー部)
		B 4.2				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第196図 4	坏 須恵器	A 12.9	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方方向のヘラ削り。	砂粒 長石 石英 灰色 普通	75% P279 覆土中
		B 4.6				
		C 7.2				
5	坏 須恵器	A 13.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部不定方向のヘラ削り。	砂粒 雲母 長石 石英 普通 二次焼成	60% P280 覆土下層・ (直線中央部付近)
		B 3.9				
		C 7.9				
6	高台付坏 須恵器	A [13.3]	高台部から口縁部にかけての破片。体部は下位に壁を有し、外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け、ナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 オリブ黄色 普通	60% P281 直線外周ヘラ記号「+」 覆土下層 (中央部)
		B 5.8				
		D 7.5				
		E 1.5				
7	長頸瓶 須恵器	B (7.4)	頸部の破片。頸部はラッパ状に開く。	頸部内・外面ロクロナデ。	砂粒 長石 石英 小石 灰オリブ色 普通	10% P283 壺内

### 第179号住居跡 (第197・198図)

位置 調査V区の中央部，G 9 a5区。

重複関係 北部を第73号掘立柱建物P3に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.20m，短軸2.94mの方形である。

主軸方向 N-0°

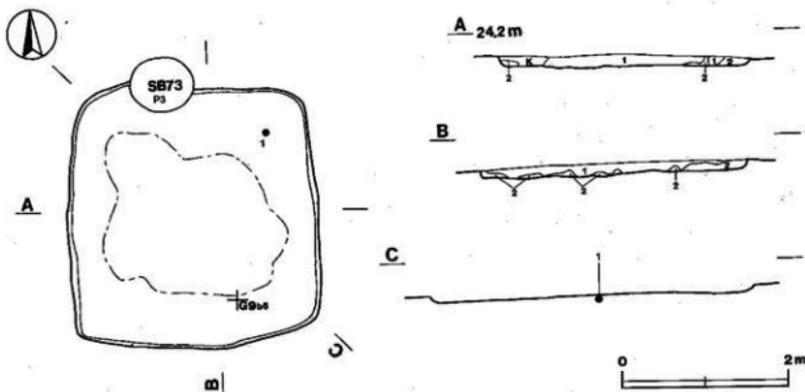
壁 壁高は4～6cmで，外傾して立ち上がる。

床 ほほ平坦である。

覆土 2層からなる。ロームブロックを含んでいるが，覆土が薄く，自然堆積か人為堆積かは判断できなかった。

#### 土層解説

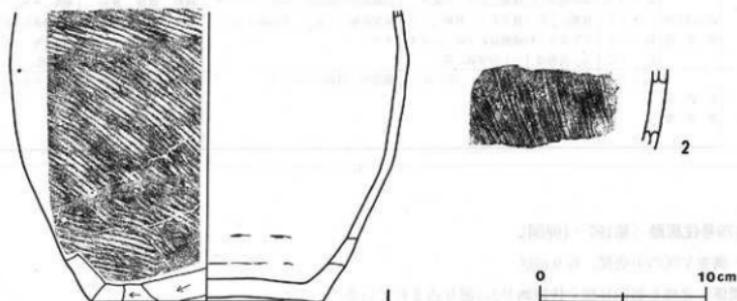
- 1 暗褐色 ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム大ブロック中量



第197図 第179号住居跡実測図

遺物 土師器片10点, 須恵器片16点, 陶器細片1点が出土している。第198図1の須恵器鉢は, 北東コーナー部の覆土下層から出土している。2の土師器甕は, 覆土中から出土している。陶器細片は, 攪乱による混入と思われる。

所見 本跡に, 竈が付設された痕跡がないが, 床面から住居跡であると判断した。本跡の時期は, 出土土器が少なく判断材料に乏しいが, 覆土下層から出土した土器から, 8世紀後葉と推定される。



第198図 第179号住居跡出土遺物実測図

第179号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第198図 1	鉢 須恵器	B (17.6) C 14.0	体部中位以上欠損。平底。体部は内響して立ち上がる。	体部外面斜位の平行叩き。下層横位のヘラ削り。内面ナデ。輪轆み痕。底部ナデ。	赤母 長石 石英 黄灰色	40% P28 覆土下層 (北東コーナー部)
図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴		備考(台帳番号, 出土位置, 色調など)	
第198図 2	甕 土師器	体部	外面縦位のヘラ削り。内面ナデ。		T P 27 覆土中 明褐色	

第180号住居跡 (第199・200図)

位置 調査V区の東部, F 9 h8区。

規模と平面形 長軸4.18m, 短軸3.80mの南西辺に比べ北東辺のやや長い長方形である。

主軸方向 N-23°-W

壁 壁高は16~40cmで, 外傾して立ち上がる。

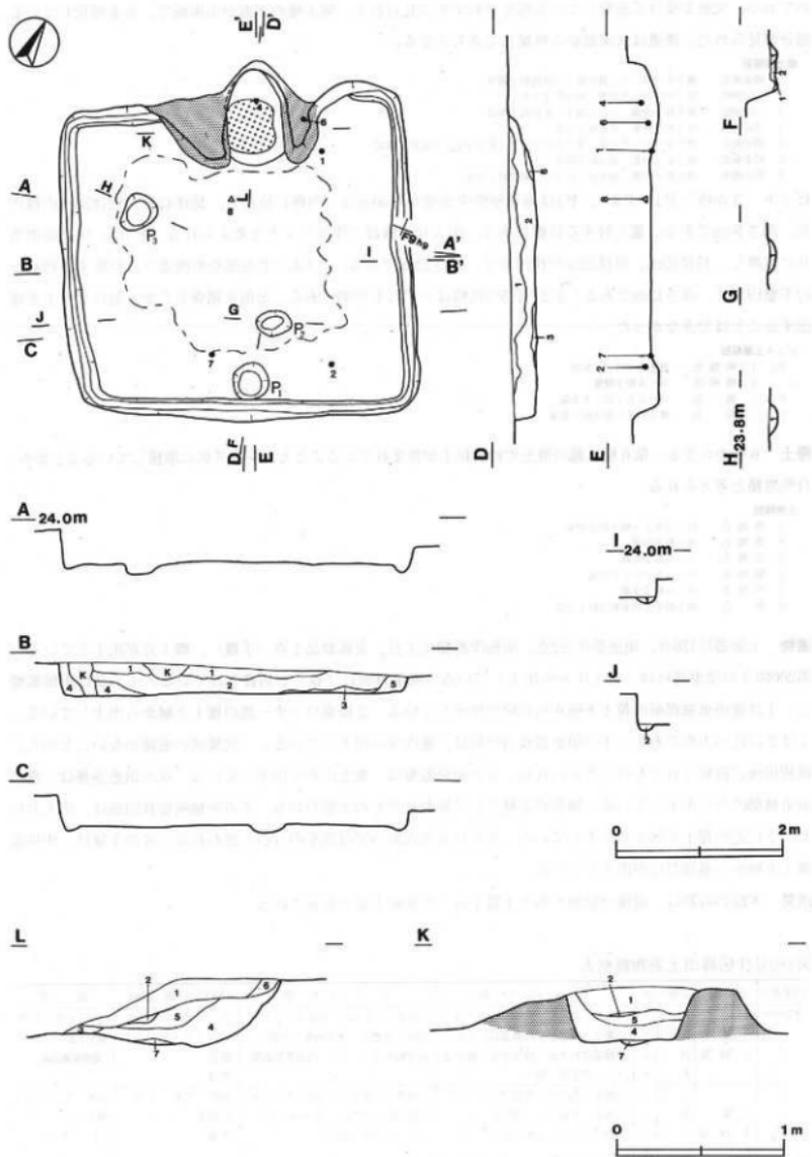
壁溝 全周している。上幅16~26cm, 下幅4~12cm, 深さ5cmで, 断面形は緩やかなU字形である。

壁溝土層解説

- 1 暗褐色 焼上粒子微量  
2 黒色 ローム小ブロック少量

床 はほぼ平坦で, 踏み固められている。

竈 北東壁中央部に, 壁外へ26cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は, 焚口部から煙道部まで124cm, 両袖幅170cmである。天井部は崩落している。両袖部は良好に遺存しており, 須恵器甕を芯材とし, 砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は長径74cm, 短径65cmの楕円形で, 皿状に深さ7cmほど掘りくぼ



第199图 第180号住居跡実測图

めており、火熱を受けて赤変している部分がわずかに見られる。第4層の下面が火床面で、赤変硬化している部分が見られた。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 にもみ褐色 粘土中ブロック中量、粘土粒子少量
- 3 にもみ褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量
- 5 明赤褐色 粘土中ブロック中量、焼土小ブロック・粘土少量、炭化粒子微量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 7 明赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量

ピット 3か所 (P1~P3)。P1は南東壁際中央部から30cmほど内側に位置し、長径42cm、短径38cmの楕円形、深さ8cmである。竈と対する位置にあり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は、中央部南寄りに位置し、長径40cm、短径32cmの楕円形で、深さ23cmである。P3は、中央部やや西寄りに位置する径44cmの不整形形で、深さ12cmである。P2・P3の性格はいずれも不明である。床面を精査したが、他にピットを確認することはできなかった。

ピット土層解説

- P1 1 暗褐色 焼土小ブロック少量  
 2 暗褐色 ローム粒子微量  
 P2 1 褐色 ローム大ブロック少量  
 P3 1 褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

覆土 6層からなる。第6層に竈の焼土や砂質粘土が含まれていること、レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説

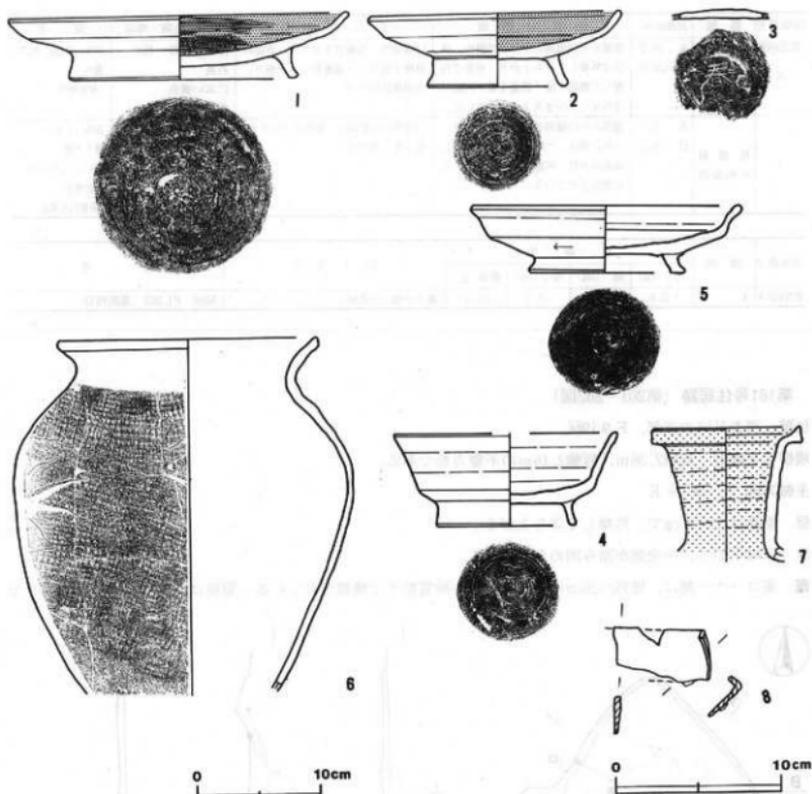
- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム大ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量
- 6 褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量

遺物 土師器片136点、須恵器片152点、灰軸陶器細片1点、金属製品1点(手鎌)、礫1点が出土している。第200図3の須恵器坏は、覆土中から出土している。底部外面に「春」と刻書されている。1・2は土師器盤で、1は竈南東袖部前の覆土下層から正位で出土している。2は東コーナー部の覆土下層から出土している。1は2に比べ大形である。4の須恵器高台付坏は、竈内から出土している。二次焼成の痕跡がないことから、竈使用後に投棄されたものと考えられる。5の須恵器盤は、覆土中から出土している。6の須恵器差は、竈の南東袖部内から出土している。袖部の芯材として置かれたものと思われる。7の灰軸陶器長頸瓶は、出入り口ピット付近の覆土下層から出土している。黒塗14号窯式期の猿投窯産のものと思われる。8の手鎌は、中央部覆土下層から基部だけが出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土土器から、9世紀中葉と推定される。

第180号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色質・焼成	備考
第200図 1	壺 土師器	A 20.4	口縁部一部欠損。体部は大きく外方に開き、屈曲して口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面クロコナデ。内面へつ磨き。底部回転へつ磨り。	雲母 長石 石英	95% P282 PL78 覆土下層 (竈南東袖部前)
		B 4.0	口縁部はわずかに外反する。高台は「ハ」の字状に開く。	高台貼り付け、ナデ。内面黒色処理。	スコリア	
		D 13.5			褐色	
		E 1.9			普通	
2	壺 土師器	A 15.2	口縁部一部欠損。体部は大きく外方に開き、屈曲して口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面クロコナデ。底部回転へつ磨り。高台貼り付け、ナデ。内面黒色処理。	砂鉄 雲母 石英	80% P284 PL78 覆土下層 (東コーナー部)
		B 4.5			明褐色	
		D 8.3			普通	
		E 1.9				



第200図 第180号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	寸法(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第200図 3	坏 須恵器	C ( 5.8)	底部の破片。平底。	底部切り離し痕を残す一方肉のヘウナデ。	砂粒 雲母 長石 明赤褐色 普通	10% P 289 PL78 北部外面層書「春」 置土中
4	高台付坏 須恵器	A (13.4)	高台部から口縁部にかけての破片。	口縁部から体部内・外面口クロナデ。	砂粒 長石 石英 灰色 普通	60% P 291 甕内
		B 5.6	体部は下位に稜を有し、外反気味に	底部回転ヘウ削り。高台貼り付け、 ナデ。		
		D 8.4	外傾して立ち上がり、口縁部にいた			
		E 1.5	る。高台は「ハ」の字状に開く。			
5	甕 須恵器	A 15.8	口縁部一部欠損。体部は大きく外方	口縁部から体部内・外面口クロナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 暗灰黄色 普通	85% P 293 置土中
		B 4.1	に開き、屈曲して口縁部にいたる。	体部下端横位のヘウ削り。底部回転 ヘウ削り。高台貼り付け、ナデ。		
		D 9.2	口縁部は丸く収めている。高台は			
		E 1.2	「ハ」の字状に開く。			

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第200図 6	壺 須恵器	A 20.2	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり、中位で内彎して頸部で強く屈曲する。口縁部は外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。胴部外面粘土叩き。下腹部位のへう割り。内面横位のナデ。	砂粒 表面 長石 石英 にぶい黄色 普通	70% P296 PL78 頸内 (南東縁部)
		B (28.3)				
7	長頸瓶 灰胎陶器	A 8.7	頸部から口縁部の破片。頸部はラッパ状に開き、口縁部で外反する。口縁部は中位に明瞭な稜を持ち、上下に突出させている。	口縁部から頸部内・外面ロクロナデ。脛は流し掛けか。	砂粒 灰オリーブ色 釉 暗灰黄色 良好	20% P295 腹土下層 (出入り口F付近) 復元遺産 (原形14号室式)
		B (8.1)				

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第200図8	手 鏝	(5.9)	3.0	0.3	(15.4)	腹土下層(中央部)	M60 PL103 基部残存

### 第181号住居跡 (第201・202図)

位置 調査V区の東部, F9 i9区。

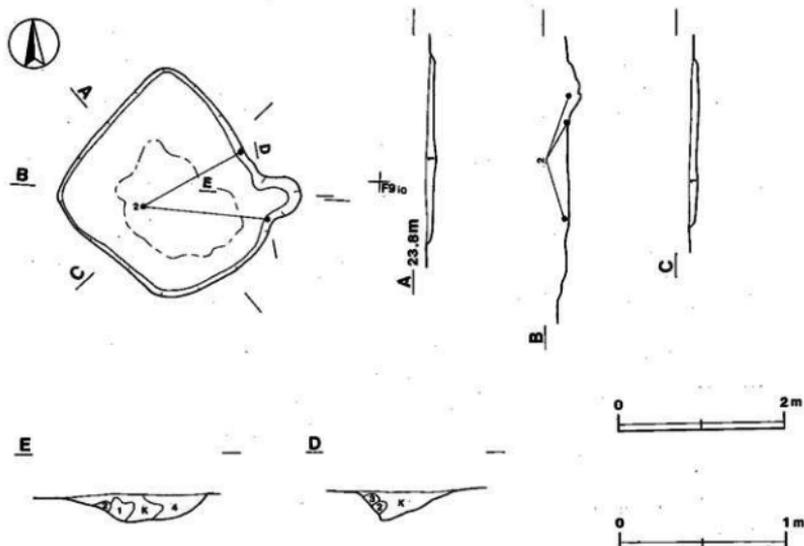
規模と平面形 長軸2.36m, 短軸2.16mの不整形である。

主軸方向 N-90°-E

壁 壁高は4~6cmで, 外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 東コーナー部に, 壁外へ26cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は, 焚口部から煙道部まで



第201図 第181号住居跡実測図

58cm, 両袖幅 [50] cmである。覆土が薄く、残存部は、南袖部と火床部の一部である。南袖部は、コーナー壁を利用し、砂質粘土を貼り付けて構築している。火床部は擾乱を受け、火熱を受けて赤変している部分がわずかに確認されただけである。

**覆土層解説**

- |   |       |                     |
|---|-------|---------------------|
| 1 | にんげん色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 | 暗赤褐色  | 焼土粒子少量、炭化粒子微量       |
| 3 | にんげん色 | 焼土粒子少量              |
| 4 | 暗赤褐色  | 焼土粒子・炭化粒子少量         |

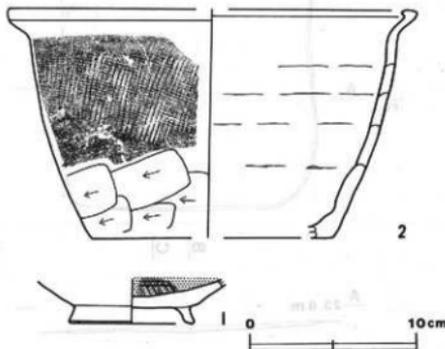
**覆土** 単一層である。覆土が薄いため、自然堆積か人為堆積かは判断できなかった。

**土層解説**

- |   |    |                    |
|---|----|--------------------|
| 1 | 褐色 | ローム中ブロック・焼土小ブロック少量 |
|---|----|--------------------|

**遺物** 土師器片20点、須恵器片14点が出土している。覆土が薄く、出土遺物は少ない。第202図1の土師器高台付杯は、覆土中から出土している。2の須恵器鉢は、北東壁際と竈の南袖部及び中央部やや西寄りの覆土下層から出土した破片が接合したものである。

**所見** 本跡の時期は、遺構の形態や出土土器から、9世紀中葉と推定される。



第202図 第181号住居跡出土遺物実測図

**181号住居跡出土遺物観察表**

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第202図 1	高台付杯 土師器	B (2.7)	高台部から体部にかけての破片。体部は外展して立ち上がる。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。内面丁家なヘラ書き。底部回転ヘラ削り。高台削り付け。ナデ。内面黒色処理。	砂粒 スコリア にんげん色 普通	40% P207 覆土中
		D 7.6				
		E 1.1				
2	鉢 須恵器	A [24.6]	体部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内湾して立ち上がり、頸部で強く屈曲して口縁部外方へ短く開く。口縁部はつまみ上げられ、内側へ折り返されている。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面中位以上棒子叩き。下位横位のヘラ削り。内面黒ナデ。輪襷み裏。	砂粒 雲母 長石 石英 褐色 普通 二次焼成	50% P208 竈内(南袖部) 覆土下層 (北東壁際~中央部)
		B 13.7				
		C [14.5]				

**第182号住居跡 (第203・204図)**

**位置** 調査V区の東部, F 9 i9区。

**規模と平面形** 覆土が薄く明確ではないが、残存する床や壁から、長軸 [2.96] cm, 短軸 2.90cmの方形と推定される。

**主軸方向** 主軸方向は、判断材料が乏しいため、不明である。

**壁** 東壁を除いて確認できた。壁高は4 cmである。

**床** おおむね平坦であるが、中央部でわずかに凹凸がみられる。北東部が踏み固められている。

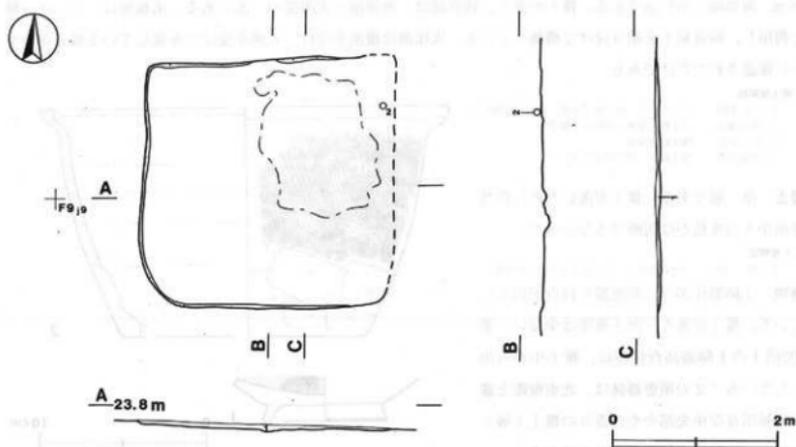
**覆土** 単一層である。覆土が薄いため、自然堆積か人為堆積かは判断できなかった。

**土層解説**

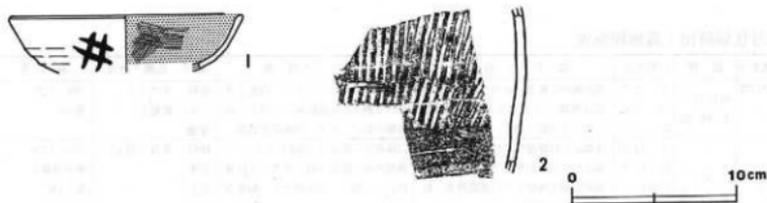
- |   |     |                                 |
|---|-----|---------------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・粒子少量、焼土粒子微量 |
|---|-----|---------------------------------|

**遺物** 土師器片13点、須恵器片14点が出土している。第204図1の土師器杯は、覆土中から出土している。体部外面に「井」と墨書されている。2の須恵器鉢は、北東コーナー部の覆土下層から出土している。

**所見** 本跡の時期は、遺構の形態や出土土器から、9世紀中葉と推定される。



第203図 第182号住居跡実測図



第204図 第182号住居跡出土遺物実測図

第182号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第204図 1	坏 土 毎 器	A [14.1] B ( 3.5)	体部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内甍して立ち上がり、口縁部はいたる。	口縁部から体部内・外部クロナダ。内面へラ磨き。内面黒色処理。	砂粒 雲母 辰石 石英 にぶい褐色 普通	20% P289 体部外面黒書〔井〕 質土中
図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴		備考(台帳番号、出土位置、色調など)	
第204図 2	甍 土 器	体 部	外面上半部縦位の平行明き。下半部横位のへラ削り。内面ナダ。		T P 28 覆土下層(北東コーナー部) 暗灰黄色	

### 第183号住居跡 (第205・206図)

位置 調査V区の西部, G9a4区。

重複関係 切り合い関係は不明であるが, 第76号掘立柱建物跡の時期が9世紀前葉と推定されることから, 南西コーナー部で, 第76号掘立柱建物のP1に掘り込まれていると考えられる。

規模と平面形 長軸3.30m, 短軸2.87mの長方形である。

主軸方向 N-12°-E

壁 壁高は32~35cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁を除いて巡っている。上幅12~24cm, 下幅2~6cm, 深さ4cmで, 断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦で, 東壁及び西壁の周辺部を除き, 踏み固められている。

竈 北壁中央部に, 壁外へ38cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は, 焚口部から煙道部まで72cm, 両袖幅(94)cmである。天井部は崩落しており, 両袖部も攪乱を受けているため, わずかに基部が残存しているだけである。火床部は長径36cm, 短径30cmの楕円形である。第5層の下面が火床面で, 赤変硬化している部分が見られる。火床面は床面と同じ平坦面を使用している。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。小形竈が竈中軸線上の火床部と煙道の境界から逆位で出土している。支脚に転用されたものと思われる。

#### 覆土層解説

1	暗褐色	粘土粒子少量, ローム粒子微量
2	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
3	灰黄褐色	焼土粒子微量
4	明褐色	焼土中ブロック・粒子中量, 炭化粒子微量
5	暗赤褐色	炭化粒子少量, 焼土粒子微量
6	こみ黄褐色	焼土粒子微量
7	こみ黄褐色	砂質粘土大ブロック多量, 焼土粒子少量
8	こみ黄褐色	砂質粘土大ブロック多量
9	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

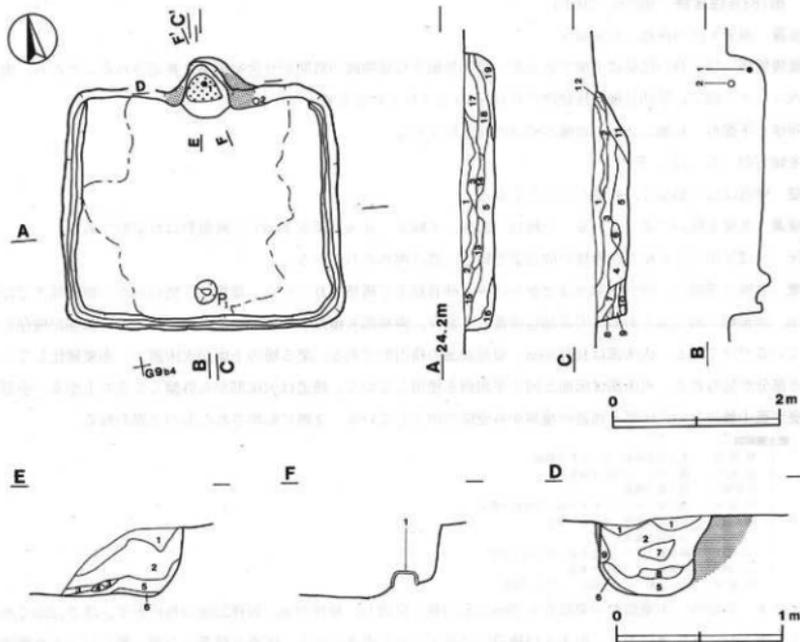
ピット 1か所。南壁際の中央部から29cmほど内側に位置し, 長径29cm, 短径22cmの楕円形で, 深さ12cmである。竈と対する位置にあり, 出入口口施設に伴うピットと考えられる。床面を精査したが, 他にピットを確認することはできなかった。

覆土 19層からなる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

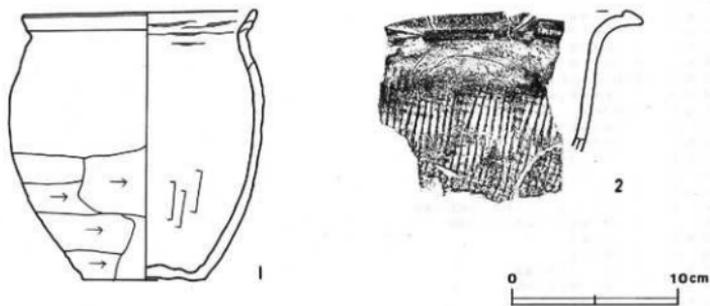
#### 土層解説

1	暗褐色	ローム粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
7	暗褐色	炭化粒子微量
8	褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
9	暗褐色	ローム粒子微量
10	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
11	褐色	ローム小ブロック・粒子少量
12	暗褐色	ローム小ブロック・粒子微量
13	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
14	褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
15	暗褐色	ローム粒子微量
16	褐色	ローム粒子少量
17	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
18	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
19	暗褐色	ローム粒子微量

遺物 土師器片102点, 須恵器片71点, 金属製品1点(不明鉄製品)が出土している。第206図1の土師器小形竈は, 竈中軸線上の火床部と煙道の境界から逆位で出土している。支脚に転用されたものと思われる。2の須恵器鉢は, 竈東袖部外側の覆土上層から出土している。不明鉄製品は, 北壁中央部付近の床面から出土している。所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土土器から, 8世紀後葉と推定される。出土した土器の多くは, 覆土上層を中心に出土しており, 住居廃絶後に投棄されたものと考えられる。



第205图 第183号住居跡实测图



第206图 第183号住居跡出土遺物实测图

第183号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第208図 1	小形壺	A 13.9	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、頸部で屈曲して口縁部外方へ短く長く。口縁部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面輪積み痕。体部外面上半部ナデ。下半部横位のへう崩り。内面ナデ。一部へうナデ。底部ナデ。	砂粒 委母 長石 石英 スコリア 明赤褐色 普通	85% P300 PL78 覆内 (火床部) 支脚転用
	土師器	B 16.2				
	土師器	C 7.3				

図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴	備考(台帳番号, 出土位置, 色調など)
2	鉢 須恵器	体部 口縁部	口縁部は上下に突出させている。口縁部内・外面横ナデ。体部外面格子印き。内面ナデ。当て具痕。	TP29 灰土上層(竈東袖部外側) 灰黄色

第184号住居跡(第207・208図)

位置 調査V区の東部, F9e9区。

規模と平面形 長軸4.45m, 短軸4.16mの方形である。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は2~12cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅8~18cm, 下幅4~8cm, 深さ6cmで, 断面形は緩やかなU字形である。

床 はほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は, 焚口部から煙道部まで(84)cm, 両袖幅86cmである。上部が削平されているため, 天井部と煙道部及び両袖部の上部は確認できなかった。火床部は長径80cm, 短径62cmの楕円形で, 火床面は床面と同じ平面面を使用している。煙道は, かけ上がり部だけが確認された。火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。

覆土層解説

- 1 灰褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子少量
- 3 灰褐色 焼土粒子中量, 焼土粒子少量

ピット 2か所(P1・P2)。P1は南壁際中央部に位置し, 長径60cm, 短径56cmの楕円形, 深さ6cmのピットである。竈と対する位置にあり, 位置的に入り口施設に伴うピットと考えられる。P2は南西コーナー部に位置し, 長径48cm, 短径40cmの楕円形で, 深さ12cmである。性格は不明である。床面を精査したが, 他にピットを確認することはできなかった。

ピット土層解説

- P1 1 暗褐色 炭化粒子微量
- P2 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子微量

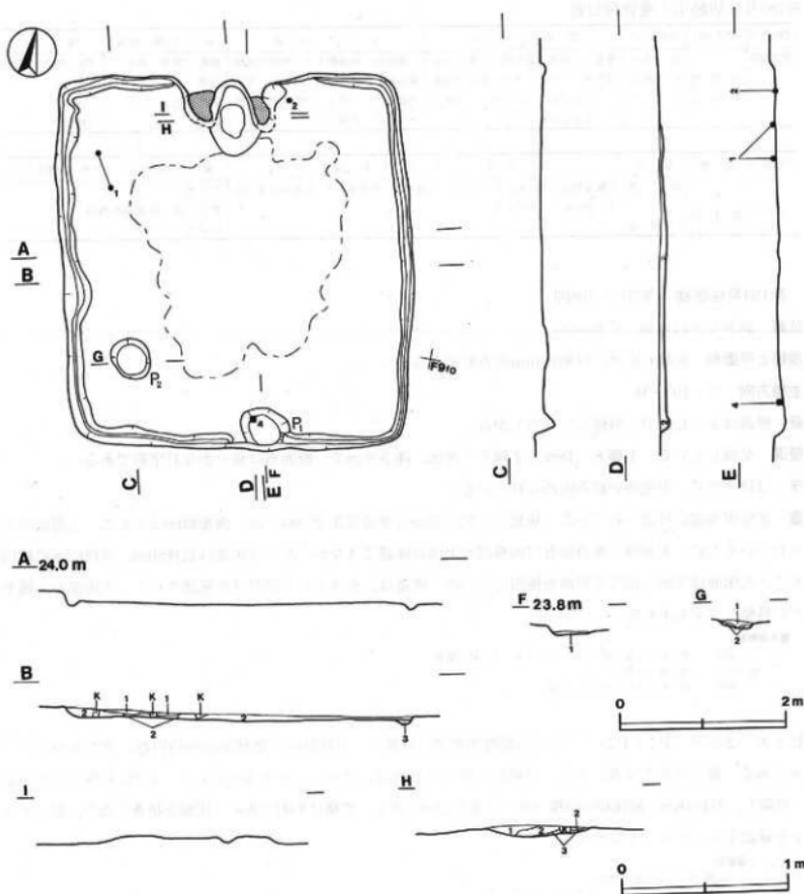
覆土 2層からなる。覆土が薄いため, 自然堆積か人為堆積かは判断できなかった。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 粘土粒子少量, 炭化粒子微量

遺物 土師器片43点, 須恵器片17点, 土製品1点(支脚), 石器2点(砥石)が出土している。第208図1の土師器甕は北西コーナー部の覆土下層から出土している。2の須恵器坏は, 竈東袖付近の覆土下層から出土している。3の土製支脚は, 覆土中から出土している。4の砥石は, P1の覆土中から出土している。

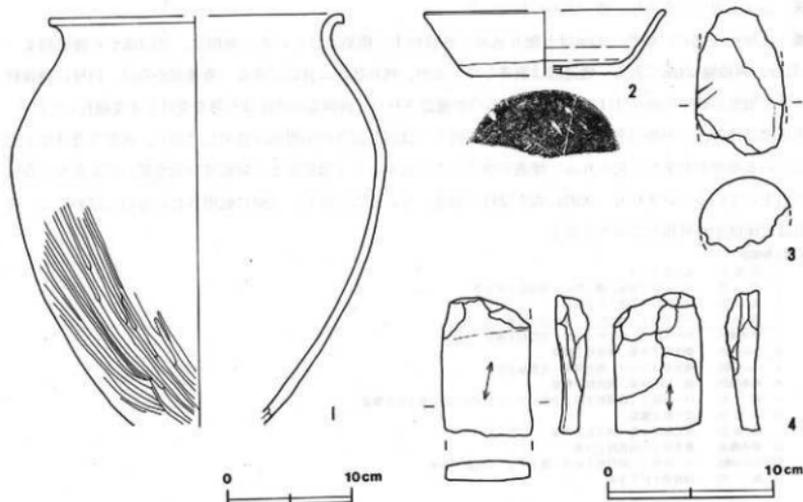
所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土土器から, 8世紀中葉と推定される。



第207図 第184号住居跡実測図

第184号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第208図 1	壺 土師器	A [23.4]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部で強く屈曲して口縁部は外反する。口縁部は中位に明瞭な稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半部ナデ。下半部縦位のヘウ磨き。内面ナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 スコリア 明赤褐色 普通	35% P302 履土下層 (北西コーナー部)
		B (32.5)				
2	坏 須恵器	A [14.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部不定方向のヘウ割り。	砂粒 雲母 長石 石英 灰黄褐色 普通 二次焼成	30% P301 履土下層 (電線溝部付近)
		B 3.9				
		C [ 8.6]				



第208図 第184号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		高さ(cm)	最大径(cm)	最小径(cm)	重量(g)		
第208図3	土製支脚	(8.9)	5.5	(5.0)	(146.2)	覆土中	DP11 PL.99 二次焼成

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第208図4	砥石	(8.4)	5.4	1.9	(91.4)	凝灰岩	P1覆土中	Q32 PL.96

### 第185号住居跡 (第209・210図)

位置 調査V区の中央部, F 9 f4区。

重複関係 東部で第189号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 棚部が、竈の西側に砂質粘土で構築されている。棚部を除いた規模と平面形は、長軸3.24m、短軸3.12mの方形である。棚部は長さ60cm、幅104cmの長方形で、床面からの高さは28cmである。棚部を含めると、東辺3.08mに対し、西辺は3.58mとなる。

#### 棚部土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

主軸方向 N-8°-W

壁 壁高は28~38cmで、外傾して立ち上がる。北壁は、焼土混じりの砂質粘土を最大幅26cmの厚さで貼り付け、補強している。

#### 北壁土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量  
2 暗褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量

壁溝 全周している。上幅16~32cm、下幅4~12cm、深さ8cmで、断面形は逆台形である。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に、壁外へ80cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで142cm、両袖幅124cmである。煙道部は崩落しているが、残存状況は良好である。東袖部からは、内壁に補強材として須恵器破片を貼り付けて構築しているのが確認された。両袖部の内面は火熱を受けて赤変硬化している。火床部は径50cmの不整形円形である。火床面は床面とほぼ同じ高さの平坦面を使用しており、火熱を受けて赤変している部分がわずかに見られる。煙道のかげ上がり部から、土師器甕と土師器及び須恵器の坏が重なり合っ出て出土している。いずれも二次的に火を受けて赤変していることから、支脚に転用されたものと思われる。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

#### 覆土層解説

1	暗褐色	焼土粒子少量
2	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・砂質粘土七粒子微量
3	褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
6	にんべん色	焼土粒子少量、炭化粒子微量
7	にんべん色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
8	暗赤褐色	焼土粒子少量、炭化粒子微量
9	褐色	ローム粒子・砂質粘土七粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量
10	暗褐色	焼土粒子微量
11	暗褐色	炭化粒子少量、焼土粒子微量
12	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量
13	にんべん色	ローム粒子・砂質粘土七粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
14	褐色	砂質粘土七粒子多量

ピット 2か所（P1・P2）。P1は南壁際中央部から64cmほど内側に位置し、長径34cm、短径26cmの楕円形、深さ14cmである。竈と対する位置にあり、出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は、南西コーナー部に位置する長径50cm、短径44cmの楕円形、深さ24cmである。性格は不明である。床面を精査したが、他にピットを確認することはできなかった。

#### ピット土層解説

P1	1	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
	2	褐色	ローム小ブロック・粒子少量
P2	1	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
	2	褐色	ローム粒子少量
	3	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
	4	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量

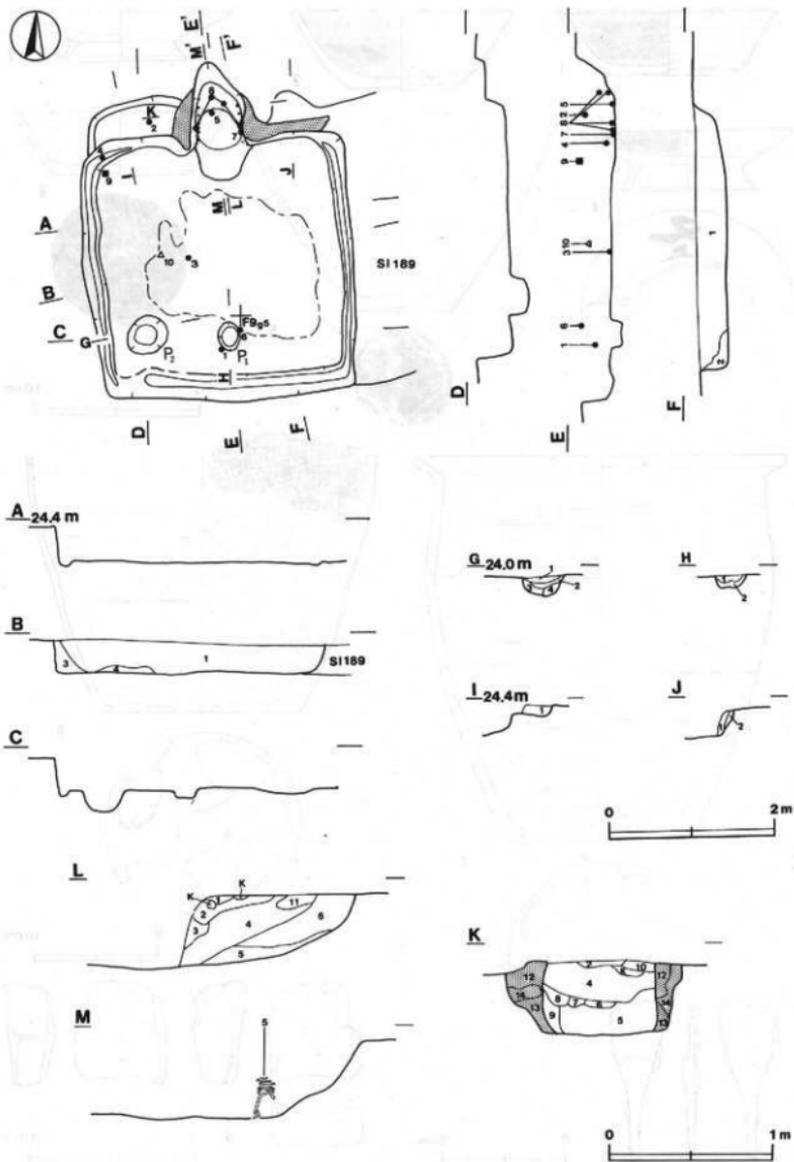
覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

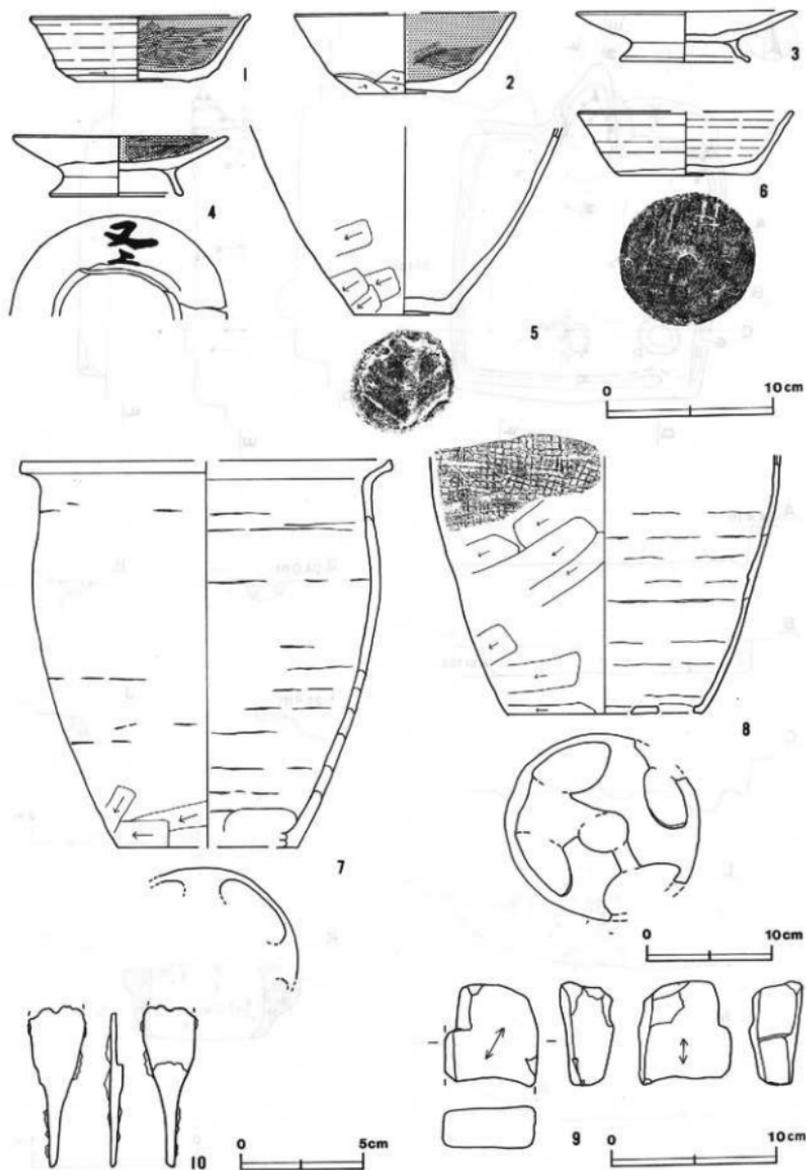
1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
2	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
3	暗褐色	ローム小ブロック・粒子微量
4	褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量

遺物 土師器片443点、須恵器片150点、金属製品3点（鉄鏃1・不明鉄製品2）、石器1点（砥石）が出土している。第210図1と2は土師器坏である。1は出入口ピット付近の覆土中層から、2は棚部の上面から出土している。3と4は土師器高台付皿である。3は中央部の覆土下層から正位で出土している。4は北西コーナー部の北壁際の覆土下層から出土している。5の土師器甕は、竈火床部から出土している。二次焼成を受けていることから支脚に転用されたものと思われる。6の須恵器坏は、中央部やや南寄りの覆土上層から出土している。混入と思われる。7の須恵器破片は、東袖部の内壁に補強材として貼り付けられた状態で出土している。8の須恵器破片は、竈内及び住居跡全体に散在していた破片19点が接合したものである。9の砥石は、西壁際北寄りの覆土上層から出土している。10の鉄鏃は、中央部やや西寄りの覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土土器から、9世紀後葉と推定される。覆土上層を中心に多量の土器が出土しており、住居廃絶後に投棄されたと考えられる。



第209图 第185号住居跡実測图



第210图 第185号住居跡出土遺物実測図

第185号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第210図 1	坏 土師器	A 13.3	底部から口縁部にかけての破片。平底。底部は外側に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面下平なへら磨き。体部下端回転へら磨り。底部回転へら磨り。内面黒色処理。	砂粒 雲母 スコリア にぶい褐色 普通	60% P304 覆土中層 (出入り口付近)
		B 4.0				
		C 6.8				
2	坏 土師器	A [3.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にはいる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下平手持ちへら磨り。内面へら磨き。底部一方向のへら磨り。内面黒色処理。	砂粒 雲母 長石 にぶい褐色 普通	25% P305 灰層直上 (轉縁)
		B 5.9				
		C 6.0				
3	高台付瓦 土師器	A 13.2	高台部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にはいる。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転へら磨り。高台貼り付け、ナデ。	砂粒 雲母 にぶい褐色 普通	95% P307 PL79 覆土下層 (中央部)
		B 3.2				
		D 8.0				
		E 1.4				
4	高台付瓦 土師器	A 13.0	高台部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にはいる。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。内面へら磨き。底部回転へら磨り。高台貼り付け、ナデ。内面黒色処理。	砂粒 雲母 長石 スコリア 褐色 普通	95% P308 PL79 灰層「五」 覆土下層 (北西コーナー部)
		B 3.7				
		D 8.0				
		E 1.7				
5	楽 土師器	B (11.5)	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面下位位置のへら磨り。内面ナデ。底部ナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 スコリア にぶい褐色 普通 二次焼成	55% P310 覆内 (火床部) 支障転運
		C 5.9				
6	坏 須恵器	A [13.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外側に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し痕を残す一方向のへらナデ。	砂粒 長石 スコリア 黄灰色 普通	60% P306 覆土上層 (中央部)
		B 3.9				
		C 7.9				
7	版 須恵器	A [29.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。多孔式。体部は内彎気味に立ち上がり、腹縁で強く屈曲して口縁部外方へ反く。口縁部は上下に突出させている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ、下縁横位のへら磨り。内面横ナデ。輪積み痕。底部ナデ。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	25% P311 覆内 (東縁部)
		B 30.0				
		C [14.2]				
8	瓶 須恵器	B (20.5)	底部から体部にかけての破片。五孔式。体部は外側に直線的に立ち上がる。	体部外面上半部格子叩き。下半部横位のへら磨り。内面ナデ。輪積み痕。底部ナデ。	長石 石英 にぶい褐色 普通	50% P312 PL79 覆内 覆土中
		C 17.4				

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第210図9	砥石	(6.3)	5.4	2.7	(125.5)	凝灰岩	覆土上層(西壁際北寄り)	Q33 PL95

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第210図10	鉄鏝	(6.6)	(2.3)	0.4	(6.4)	覆土上層(中央部)	M63 PL106

第186号住居跡 (第211・212図)

位置 調査V区の北部、F9a区。

規模と平面形 覆土が薄く明確ではないが、残存する床や壁溝から、長軸 [4.40] m、短軸 [4.30] mの方形と推定される。

主軸方向 N-80°-E

壁溝 北壁下で確認できた。上幅10~14cm、下幅3~6cm、深さ5cmで、断面形は緩やかなU字形である。

床 中央部の一部に凸凹がみられる。

竈 東壁中央部の壁面に火床部と両袖部の基部だけが確認できた。火床部は、床面を皿状に深さ5cmほど掘り込んである。

覆土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土小ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 焼土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量

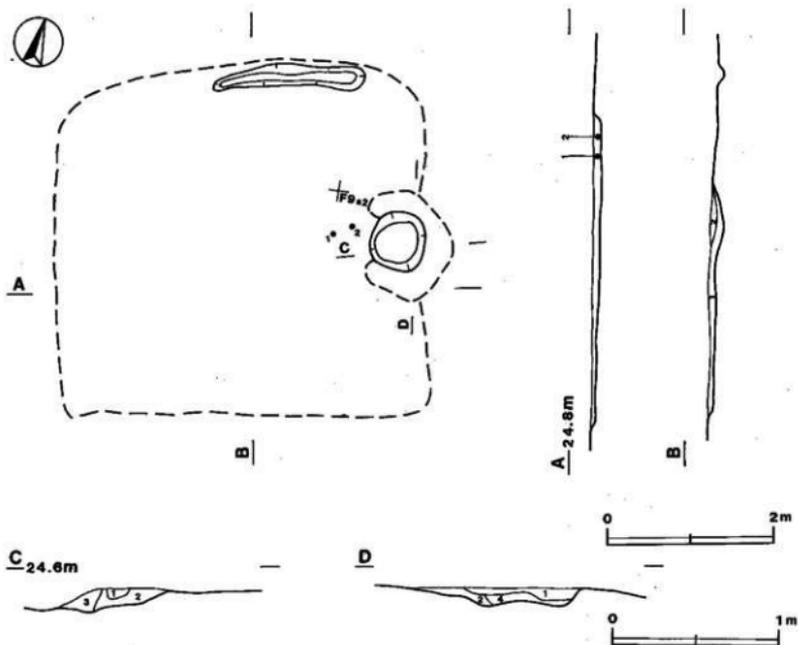
覆土 2層からなる。覆土が薄いため、自然堆積か人為堆積かは判断できなかった。

土層解説

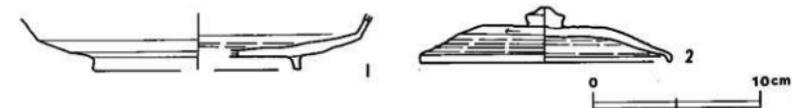
- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子微量

遺物 土師器片32点、須恵器片46点が出土している。第212図1の須恵器盤及び2の須恵器蓋は、竈前の床面から出土している。その他の土器のほとんどは、中央部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土土器から、8世紀後葉と推定される。



第211図 第186号住居跡実測図



第212図 第186号住居跡出土遺物実測図

第186号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第212図 1	壺 須恵器	B (3.4)	高台部から体部にかけての破片。体部は大きく外方に開き、屈曲する。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘウ割り。高台貼り付け、ナデ。	砂粒 雲母 長石 黄灰色 普通	20% P314 床面直上 (後部)
		D [12.5]				
		E 0.9				
2	壺 須恵器	A 15.2	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は頂部が平坦で、外周部はなだらかに下降する。口縁部は屈曲し、短く垂下する。つまみは腰高の腰宝珠状。	天井頂部回転ヘウ割り。外周部、口縁部ロクロナデ。	砂粒 雲母 長石 スコリア 黄灰色 普通	50% P315 床面直上 (後部)
		B 3.3				
		F 2.3				
		G 1.2				

## 第187号住居跡 (第213・214図)

位置 調査V区の北部, E 9 j3区。

規模と平面形 覆土が薄く明確ではないが、残存する床や壁から、長軸 [3.70] m, 短軸3.40mの方形と推定される。

主軸方向 N-17°-W

壁 壁高は5~14cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 地山が露出している部分が不明であるほかは巡っている。上幅16~28cm, 下幅3~8cm, 深さ5cmで、

断面形は緩やかなU字形である。

## 壁溝土層解説

- 1 褐色 rome粒子中量, rome中ブロック微量

床 ほほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部で、火床部だけが確認された。火床部は、床面を皿状に深さ4cmほど掘り込んでいる。規模は不明である。

## 竈土層解説

- 1 暗赤褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, rome粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 1か所。北西コーナー部に位置し、径40cmの円形、深さ12cmである。性格は不明である。

## ピット土層解説

- 1 褐色 rome小ブロック・粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 rome粒子中量, rome小ブロック少量

覆土 2層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

## 土層解説

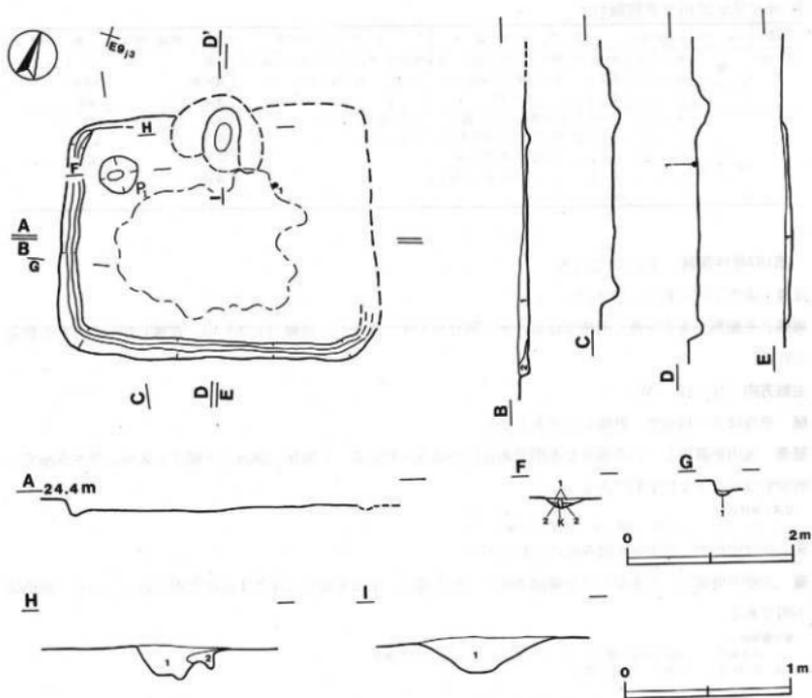
- 1 暗褐色 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 rome粒子少量

遺物 土師器片8点, 須恵器片26点が出土している。第214図1と2は, 須恵器甕である。1は, 中央部の床面から出土している。2は, 覆土中から出土した破片が接合したものである。

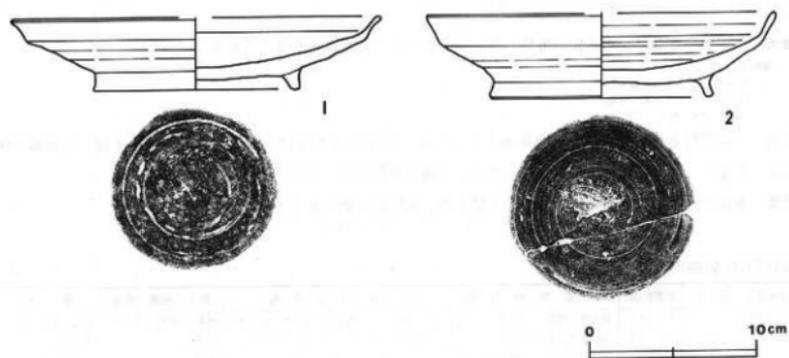
所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土土器から, 8世紀後葉と推定される。

第187号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第214図 1	壺 須恵器	A [22.4]	高台部・体部・口縁部一部欠損。体部は大きく外方に開き、屈曲して口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。高台はほぼ垂下する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘウ割り。高台貼り付け、ナデ。	砂粒 雲母 長石 黄灰色 普通	85% P316 床面直上 (中央部)
		B 4.4				
		D 12.4				
		E 1.3				



第213图 第187号住居跡实测图



第214图 第187号住居跡出土遺物实测图

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第214図		A [21.0]	高台部・体部・口縁部一部欠損。体部は大きく外方に開き、わずかに外反する。高台はわずかに「ハ」の字状に開く。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ、底面回転ヘラ削り。高台削り付け、ナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 スコリア	75% P317 覆土中
2	須恵器	B 5.1 D 13.4 E 1.4			灰オリーブ色 普通	

### 第188号住居跡 (第215・216図)

位置 調査V区の北東部、F 9e7区。

規模と平面形 長軸3.80m, 短軸3.25mの長方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は12~30cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 ほぼ全周している。上幅10~22cm, 下幅5~10cm, 深さ4cmで、断面形は逆台形である。

床 ほぼ平坦で、周辺部を除き、踏み固められている。

竈 北壁中央部に、壁外へ10cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで100cm, 両袖幅125cmである。天井部は崩落しており、第1・2層が崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存している。両袖部の内面は、火熱を受けて赤変硬化している。第3層の下面が火床面と思われる。赤変はしているが、あまり硬化はしていない。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

#### 覆土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子微量
- 2 暗赤褐色 炭化粒子少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量
- 3 暗褐色 炭化粒子中量
- 4 にごり褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子微量
- 6 にごり褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量

ピット 1か所。南壁際中央部から22cmほど内側に位置し、長径36cm, 短径26cmの楕円形、深さ19cmである。

竈に対する位置にあり、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

#### ピット土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

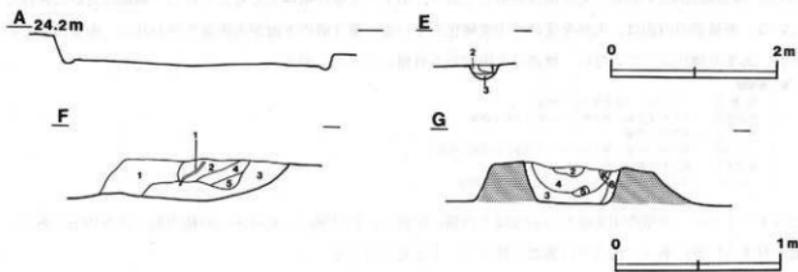
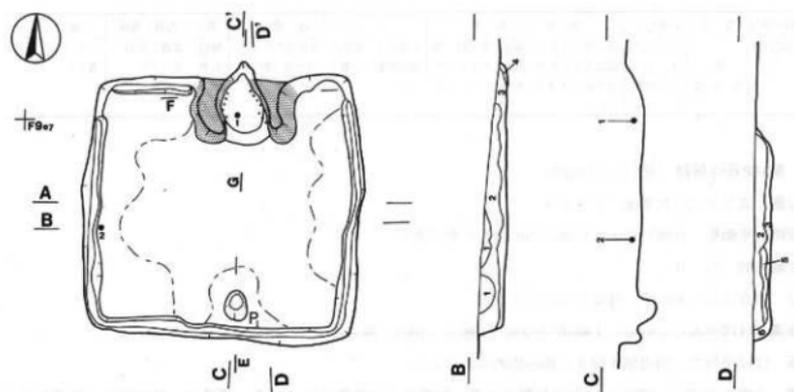
覆土 6層からなる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

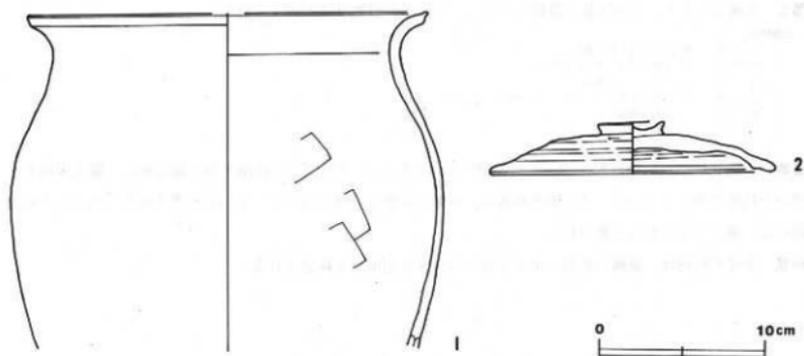
- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器片39点, 須恵器片19点, 磁器細片1点が出土している。第216図1の土師器甕は、竈火床部から浮いた状態で出土している。2の須恵器蓋は、西壁際の覆土下層から出土している。覆土中から出土した磁器細片は、攪乱による混入と思われる。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土土器から、8世紀前葉と推定される。



第215图 第188号住居跡实测图



第216图 第188号住居跡出土遺物实测图

第188号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	首周長(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第216図	壺 土 脚 器	A [24.2]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部で屈曲して口縁部は外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面横位のヘラナデ。	砂粒 雲母 長石 石英 スコリア にぶい褐色 普通	50% P318 甕内(火床部)
1		B (20.5)				
2	壺 須 恵 器	A 17.2	口縁部一徹欠損。天井部は丸く、外周部はなだらかに下降する。口縁部内面に短いかえりが付く。つまみは扁平なボタン状。	天井頂部回転へつ磨り。外周部・口縁部ロクロナデ。ロクロ目は強い。	砂粒 雲母 長石 石英 スコリア オリーブ黄色 普通	80% P319 PL79 甕土下層 (西壁部)
		B 3.4				
		F 4.0				
		G 0.8				

第189号住居跡 (第217・218図)

位置 調査V区の中央部, F9 f5区。

重複関係 西部が第185号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 西部が第185号住居に掘り込まれており, 規模も平面形も明確ではないが, 残存する床や壁から, 長軸3.40m, 短軸 [3.20] mの方形と推定される。

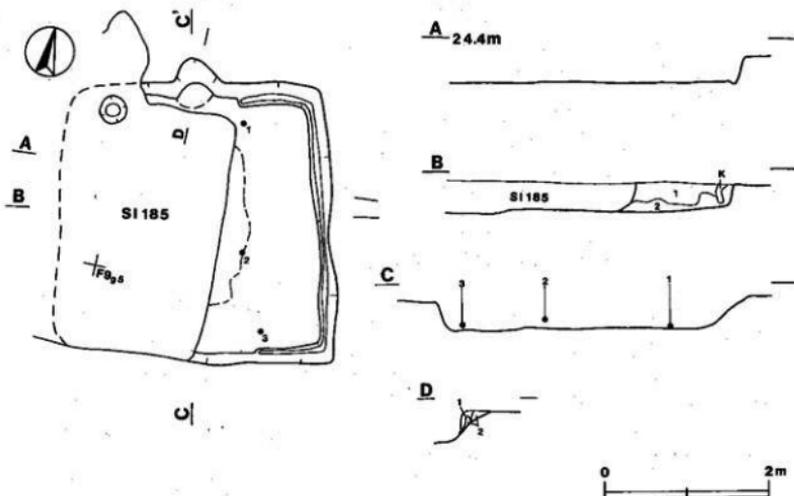
主軸方向 N-10°-W

壁 第185号住居に掘り込まれている部分以外は確認できた。壁高は31~36cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 第185号住居と重複している部分が不明であるほかは巡っている。上幅8~10cm, 下幅3~6cm, 深さ4cmで, 断面形は緩やかなU字形である。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。北西部にピットのような落ち込みがある。

竈 北壁中央部に, 壁外へ24cmほど掘り込み, 付設されている。第185号住居によって両袖部及び火床部が掘り込まれており, 残存部は煙道だけである。



第217図 第189号住居跡実測図

覆土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒・炭化粒子微量  
2 褐色 炭化粒子微量

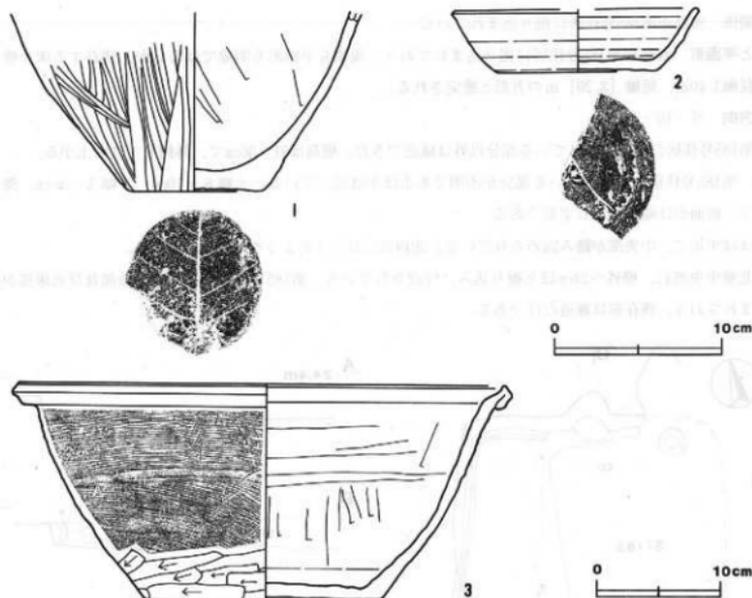
覆土 2層からなる。覆土が薄いため、自然堆積か人為堆積かは判断できなかった。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量  
2 褐色 ローム中・小ブロック・粒子少量

遺物 土師器片13点、須恵器片3点が出土している。第218図1の土師器甕は、北壁付近の覆土下層から出土している。2の須恵器坏は、中央部やや東寄りの覆土中層から出土している。3の須恵器鉢は、南壁付近東寄りの覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土土器から、8世紀中葉と推定される。



第218図 第189号住居跡出土遺物実測図

第189号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第218図 1	土師器 甕	B 10.9	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、中位でやや内彎する。	体部外面縦位のヘラ磨き。内面横位のヘラナデ。底部本葉痕。	砂粒 雲母 長石 石英 スコリア 褐色 普通	29% P330 覆土下層 (北壁付近)
		C 7.7				
		C 9.7				
2	須恵器 坏	A [14.9]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面クロロナデ。底部回転ヘラ磨り。	砂粒 雲母 長石 暗灰黄色 普通	30% P321 覆土下層 (中央部)
		B 3.8				
		C 9.7				
3	鉢 須恵器	A 38.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、胴部で強く屈曲して口縁部外方へ強く開く。口縁部は上下に突出させている。	口縁部内・外面クロロナデ。体部外面横位の平行磨き。下端横位のヘラ磨り。内面横位のヘラナデ。底部不定方向のヘラ磨り。	砂粒 雲母 長石 灰黄色 普通	60% P322 覆土下層 (南壁跡)
		B 17.6				
		C 18.4				

第190号住居跡 (第219・220図)

位置 調査V区の北部, F 9e4区。

規模と平面形 長軸4.00m, 短軸3.95mの方形である。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は30~40cmで, 外傾して立ち上がる。

壁跡 北東コーナー部を除いて巡っている。上幅16~34cm, 下幅3~8cm, 深さ4cmで, 断面形は緩やかなU字形である。

床 ほぼ平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に, 壁外へ20cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は, 焚口部から煙道部まで118cm, 両袖幅114cmである。煙道部・天井部は崩落している。第1層から第3層までが天井部の崩落土と考えられる。袖部は良好に遺存している。土層断面図中の第8~14層が袖部の土層である。第5層の下面が火床面で, 赤変硬化している部分が見られる。火床部は長径58cm, 短径40cmの楕円形で, 火床面は床面と同じ高さである。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層解説

1	にんべん褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量
2	にんべん褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土中ブロック・粒子微量
3	にんべん褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量
4	暗赤褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子少量
5	暗赤褐色	炭化粒子中量, 焼土粒子少量
6	にんべん褐色	焼土小ブロック・粒子中量, 炭化粒子微量
7	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
8	暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子微量
9	暗褐色	砂質粘土粒子少量, 焼土粒子微量
10	褐色	ローム粒子中量
11	にんべん褐色	砂質粘土粒子少量
12	暗褐色	焼土粒子微量
13	にんべん褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子少量
14	暗褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4の上端は長径44~60cm, 短径31~38cmの楕円形, 下端は径10~14cmの円形で, 深さ20~30cmである。いずれも各コーナー部寄りに位置している。規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は南壁際中央部から36cmほど内側に位置し, 長径44cm, 短径30cmの楕円形, 深さ32cmである。竈と対する位置にあり, 出入口施設に伴うピットと考えられる。

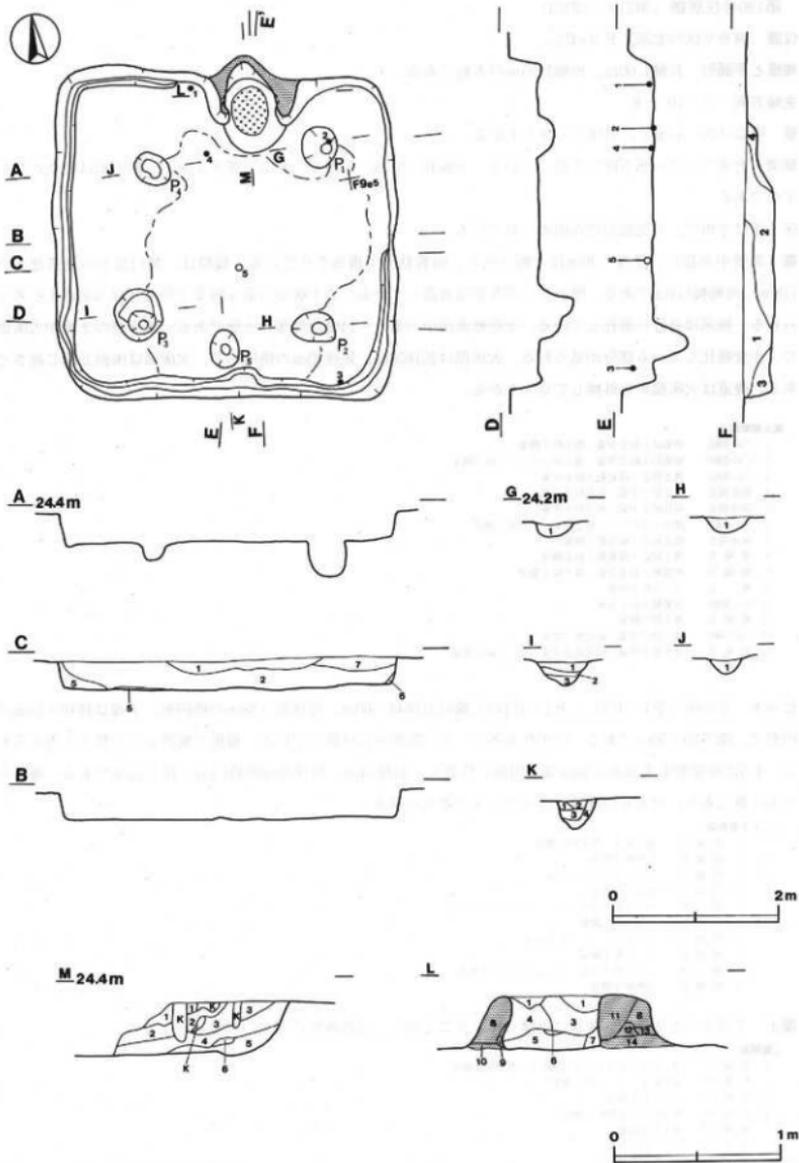
ピット土層解説

P1	1	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
P2	1	暗褐色	炭化粒子微量
P3	1	暗褐色	ローム小ブロック少量
	2	暗褐色	炭化粒子微量
	3	褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
P4	1	暗褐色	ローム粒子微量
P5	1	暗褐色	炭化粒子・ローム粒子微量
	2	暗褐色	ローム粒子微量
	3	褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
	4	暗褐色	炭化粒子微量

覆土 7層からなる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積と考えられる。

土層解説

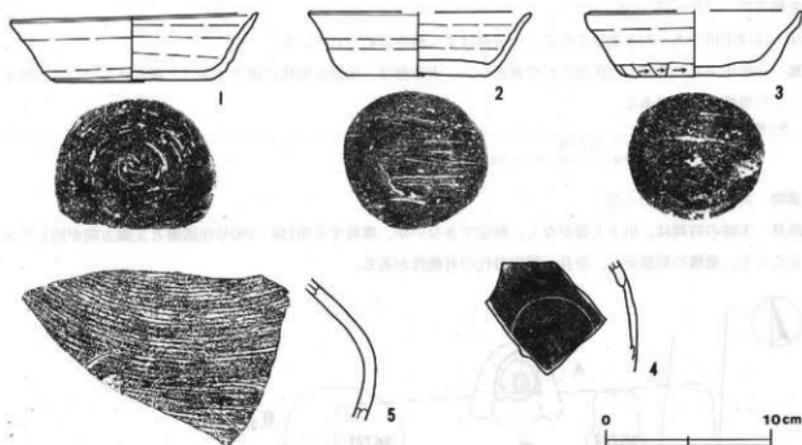
1	暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
2	暗褐色	炭化粒子・ローム粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子微量
4	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	焼土粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子少量
7	暗褐色	炭化粒子微量



第219图 第190号住居跡実測図

遺物 土師器片28点, 須恵器片52点が出土している。第220図1~3は須恵器坏である。1は, 竈西袖部付近と竈内から出土した破片が接合したものである。2は, 北東コーナー部の覆土下層から出土している。3は, 南東コーナー部の覆土中層から出土している。4の須恵器提瓶は, 竈前の覆土下層から出土している。5の須恵器甕は, 中央部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土土器から, 8世紀中葉と推定される。



第220図 第190号住居跡出土遺物実測図

第190号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第220図 1	坏 須恵器	A 14.8	底面から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	砂粒 雲母 長石 石英 暗灰黄色 普通	65% P323 竈内 覆土中 (竈西袖部付近)
		B 4.1				
		C 8.9				
2	坏 須恵器	A [13.2]	底面から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部にいたる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部一方のヘラ削り。	砂粒 雲母 長石 石英 スコリア 灰青リブ色 普通	40% P324 覆土下層 (北東コーナー部)
		B 3.9				
		C 8.6				
3	坏 須恵器	A [12.8]	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部は外反し, 丸くおさめている。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部端手持ちヘラ削り。竈部一方のヘラ削り。	砂粒 長石 石英 灰黄色 普通	75% P325 覆土中層 (南東コーナー部)
		B 3.9				
		C 8.3				
4	提瓶 須恵器	B (6.6)	体部の破片。体部は内傾して立ち上がる。	外面カキ目。内面ナデ。	砂粒 灰白色 良好	5% P326 覆土下層(竈前)
図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴		備考(台帳番号, 出土位置, 色調など)	
第220図 5	甕 須恵器	体部	外面横位の平行叩き。内面ナデ。		T P 35 覆土下層(中央部) 黄灰色	

第191号住居跡 (第221図)

位置 調査V区の北西部, F 9 f1区。

重複関係 北東部を第721号土坑に, 東部を第714号土坑に, 北西部を第194号住居・第732号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 覆土が薄く, 床面が一部露出しているため明確ではないが, 長軸 [4.30] m, 短軸 [4.20] m の方形と推定される。

主軸方向 [N-15°-W]

床 ほぼ平坦であったと推定される。中央部はよく踏み固められている。

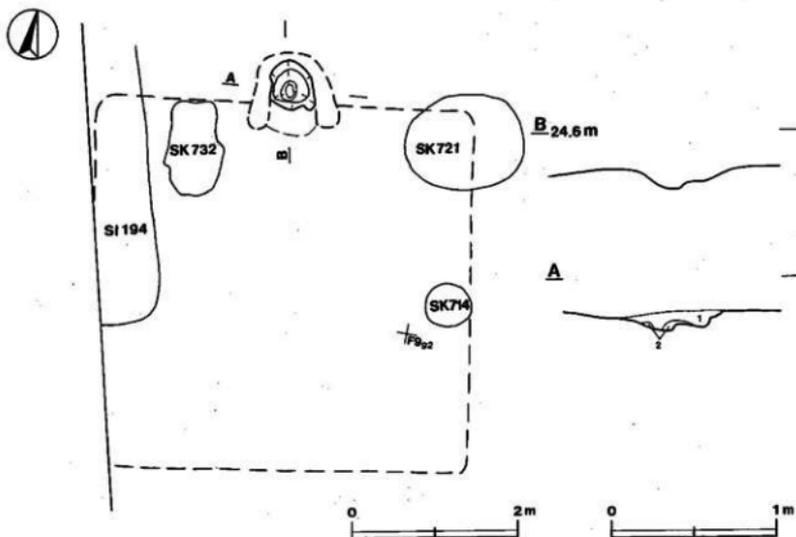
竈 北壁中央部の壁面に火床部だけを確認した。火床部は, 床面を皿状に深さ3cmほど掘り込んでいる。削平により規模は不明である。

竈土層解説

- |   |      |                     |
|---|------|---------------------|
| 1 | 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・粒子少量        |
| 2 | 褐色   | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |

遺物 出土遺物はなかった。

所見 本跡の時期は, 出土土器がなく, 断定できないが, 隣接する第148・190号住居跡と主軸方向が同じであることと, 遺構の形態から, 奈良・平安時代の可能性がある。

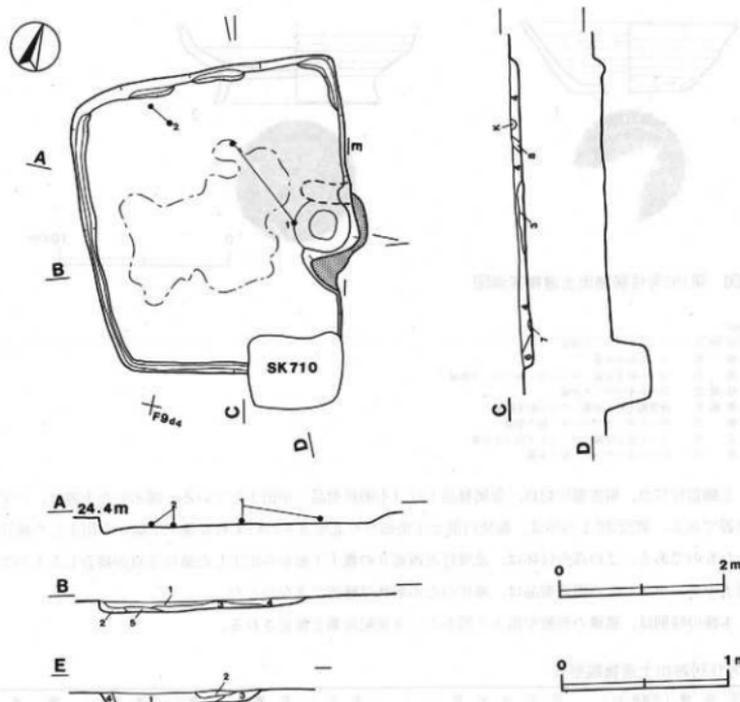


第221図 第191号住居跡実測図

第192号住居跡 (第222・223図)

位置 調査V区の北部, F 9 c4区。

重複関係 南東コーナー部を第710号土坑に掘り込まれている。



第222図 第192号住居跡実測図

規模と平面形 長軸3.60m，短軸3.26mの西辺に比べやや東辺の長い長方形である。

主軸方向 N-73°-E

壁 壁高は10~12cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 ほぼ全周しているが，北壁下は不規則に途切れ，幅も不均一である。上幅12~20cm，下幅2~8cm，深さ6cmで，断面形は緩やかなU字形である。

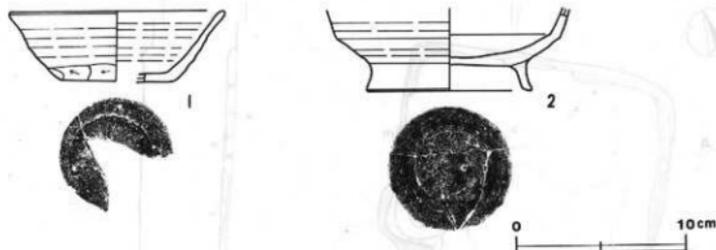
床 ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈 東壁中央部に，壁外へ12cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は，焚口部から煙道部まで82cm，両袖幅 [122] cmである。天井部は崩落している。北袖部は擾乱により壊され，わずかに袖部の基部が残存しているだけである。火床面は床面と同じ平坦面を使用している。赤変しているが，あまり硬化はしていない。煙道は火床部から外傾して立ち上がる。

竈土層特徴

- |        |                     |
|--------|---------------------|
| 1 褐色   | ローム粒子中量             |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量         |
| 4 褐色   | ローム粒子少量             |

覆土 8層からなる。ロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。



第223図 第192号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量, ローム中・小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 5 黄褐色 砂質粘土粒子中量, ローム粒子微量
- 6 褐色 ローム中・小ブロック・粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 8 褐色 ローム小ブロック・粒子少量

遺物 土師器片17点, 須惠器片42点, 金属製品1点(不明鉄製品)が出土している。図示した土器は, いずれも須惠器である。第223図1の坏は, 竈焚口部と中央部や北壁寄りのいずれも覆土下層から出土した破片が接合したものである。2の高台付坏は, 北壁付近西寄りの覆土下層から出土した破片3点が接合したものである。覆土中から出土した不明鉄製品は, 細片のため形状は確認できなかった。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土土器から, 9世紀後半と推定される。

第192号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・地成	備考
第223図 1	坏 須惠器	A 12.7	体部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへう削り。底部回転へう削り。	砂粒 雲母 長石 石英 オリーブ色 普通	75% P327 P179 堀内 覆土下層 (北壁付近)
		B 4.5				
		C 6.7				
2	高台付坏 須惠器	B (5.0)	高台部から体部にかけての破片。体部は下位に接を有し, 外傾して立ち上がる。高台は「ハ」の字状に開く。に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へう削り。高台貼り付け。ナデ。	砂粒 長石 石英 灰色 普通	65% P328 覆土下層 (北壁際)
		D 9.9				
		E 1.7				

第193号住居跡 (第224・225図)

位置 調査V区の北端部, E 8 j0区。

規模と平面形 北部が調査区域外に延びており, 明確ではないが, 残存する床や壁から, 南北軸(3.40)m, 東西軸3.40mの方形または長方形と推定される。

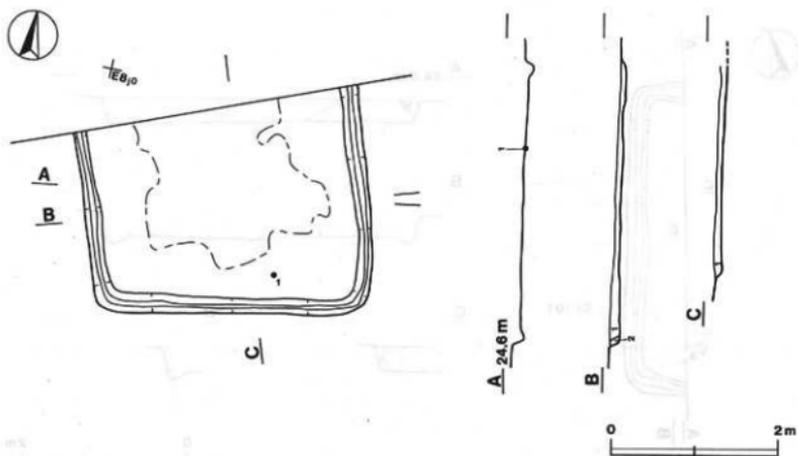
主軸方向 不明

壁 調査区域外に延びている部分以外は確認できた。壁高は8~13cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 調査区域外が不明であるほかは通っている。上幅12~22cm, 下幅2~8cm, 深さ5cmで, 断面形は逆台形である。

床 ほは平坦で, 中央部が踏み固められている。

覆土 2層からなる。覆土が薄いため, 自然堆積か人為堆積かは判断できなかった。



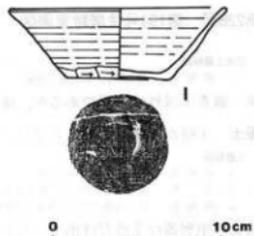
第224図 第193号住居跡実測図

土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子微量  
2 暗褐色 ローム粒子微量

遺物 土師器片7点, 須恵器片25点, 灰軸陶器細片1点, 陶器細片1点が出土している。第225図1の須恵器坏は, 南壁付近やや東寄りの覆土下層から正位で出土している。灰軸陶器細片は, 覆土中から出土している。長頸瓶の頸部片と思われる。内外面に施釉されるが, 器面は荒れ, 釉の残存状態は悪い。陶器細片は, 攪乱による混入と思われる。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土土器から, 9世紀後葉と推定される。



第225図 第193号住居跡出土遺物実測図

第193号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第225図	坏	A 13.0 B 4.5 C 6.2	作部・口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部から体部内・外面口クロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部切り離し痕を残す。一方向のヘラナデ。ラナデ。	粘土・色調・焼成 砂較 雲母 長石 石英 スコリア 灰黄色 普通	9% P330 PL79 覆土下層 (南壁付近)

第194号住居跡 (第226図)

位置 調査V区の北西部, F9f1区。

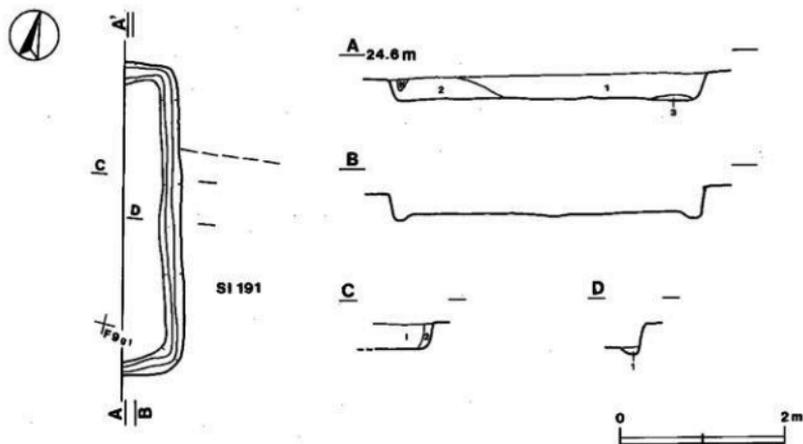
重複関係 東部で第191号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 本跡の中央部以西が, 調査区域外に延びており, 規模も平面形も不明である。東辺3.80m, 北辺(0.60)mである。

主軸方向 不明

壁 東壁だけ確認できた。壁高は25~33cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 調査区域外が不明であるほかは, ほぼ巡っている。上幅12~24cm, 下幅4~9cm, 深さ6cmで, 断面形は逆台形である。



第226図 第194号住居跡実測図

發掘土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

床 調査区域外は不明であるが、確認できた部分はほぼ平坦である。

覆土 4層からなる。ロームブロックを含んでいることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量  
 2 褐色 ローム小ブロック・粒子少量  
 3 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子微量

遺物 須恵器片5点だけ出土している。細片のため図示できなかった。

所見 本跡の時期は、調査範囲が狭く明確ではないが、遺構の形態や出土土器から、奈良・平安時代の可能性がある。

第200号住居跡 (第227・228図)

位置 調査Ⅲ区の東部、E 8 c6区。

規模と平面形 東半分が調査区域外のため、南北軸3.38m、東西軸(2.41)mの長方形または方形と推定される。

主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は32~65cmで、垂直に立ち上がる。

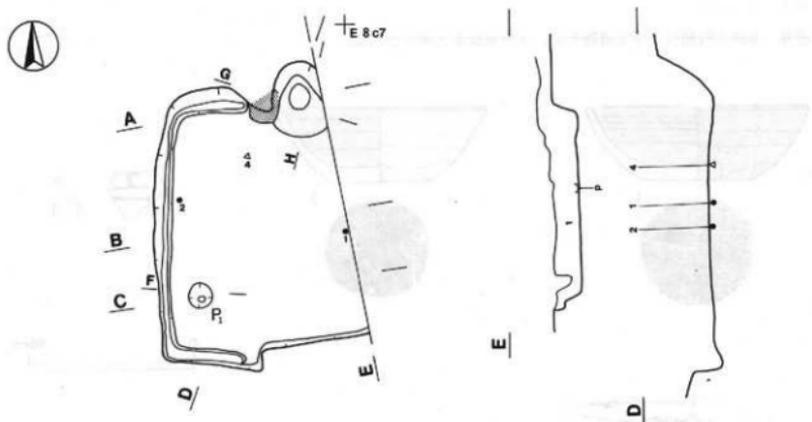
壁溝 北西コーナー部、西壁、南西コーナー部に巡っている。上幅14~30cm、下幅6~10cm、深さ8~10cmで、断面形はU字形である。

床 全面が平坦である。

竈 北壁中央部に、壁外へ20cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。東袖部は調査区域外のため、焚口部から煙道部まで94cm、両袖幅(88)cmである。火床部は、床面を12cmほど掘りくぼめ、火床面が作られている。その上面は火熱を受けてはいるが、赤変硬化してはいない。煙道は外傾して立ち上がる。竈の覆土は10層(第1~10層)に、西袖部の土層は5層(第11~15層)に分けられた。

堀土層略図

- |    |        |                                 |
|----|--------|---------------------------------|
| 1  | にんじょう色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量             |
| 2  | にんじょう色 | ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量               |
| 3  | にんじょう色 | 炭化粒子・焼土粒子少量、ローム粒子微量             |
| 4  | にんじょう色 | 焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量           |
| 5  | 暗赤褐色   | 焼土粒子多量、炭化粒子中量、焼土小ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 6  | 暗褐色    | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量       |
| 7  | 暗褐色    | ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量               |
| 8  | にんじょう色 | 炭化粒子・焼土粒子少量、ローム粒子微量             |
| 9  | 明黄褐色   | 焼土中ブロック・粘土粒子中量                  |
| 10 | 褐色     | 焼土粒子少量、焼土小ブロック微量                |
| 11 | 褐色     | 粘土粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子少量        |
| 12 | 褐色     | 粘土小ブロック中量、ローム粒子少量               |
| 13 | にんじょう色 | ローム小ブロック少量                      |
| 14 | 暗赤褐色   | ローム粒子・焼土中ブロック少量                 |
| 15 | 褐色     | 粘土粒子微量                          |



A 25.4m



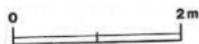
C



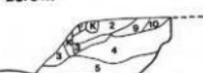
B



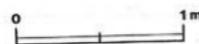
F 22.2m



H 25.0m



G



第227図 第200号住居跡実測図

ビット 1か所。P1は西南コーナー部に位置し、長径30cm、短径27cmの楕円形で、深さ27cmである。性格は不明である。

ビット土層解説

- 1 層 色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量  
2 層 色 ローム小ブロック・粒子少量

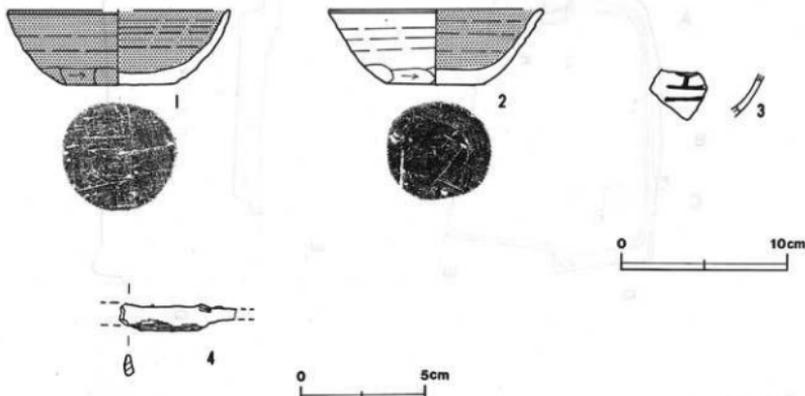
覆土 2層からなり、ロームブロックを含んでいることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 層 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量  
2 層 色 ローム小ブロック・粒子少量

遺物 土師器片153点、須恵器片53点、金属製品1点(刀子)が出土している。第228図1の土師器環は中央部、2の須恵器環は西壁寄り、4の刀子は竈西袖手前の床面直上から、3の土師器環は北東部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から、9世紀後葉と推定される。



第228図 第200号住居跡出土遺物実測図

第200号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
1	土師器 環	A [13.2]	口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ、体部外面下位回転ヘラ割り。底部一方向の手持ちヘラ割り。内・外面黒色処理。	雲母 砂粒 黒色 普通	80% P500 PL79 床面直上 (中央部)
		B 4.5				
		C 6.6				
2	土師器 環	A 12.8	平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ、体部外面下位手持ちヘラ割り。底部回転ヘラ割り痕を残す手持ちヘラ割り。内面黒色処理。	雲母 砂粒 黄褐色	100% P501 PL79 床面直上 (西壁寄り)
		B 4.7				
		C 5.6				
3	土師器 環	B (3.0)	体部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。内面黒色処理。	スコリア 砂粒 暗赤褐色 普通	5% P502 口縁部外面露出・ 割込不備 覆土中(北東部)

図取番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第228図4	刀子	(4.7)	1.1	0.4	(5.15)	床前直上(西袖手前)	M64 PL102 木質付着 刀身部-胴部

### 第201号住居跡 (第229~231図)

位置 調査Ⅲ区の東部, E 8 d4区。

重複関係 本跡は第65号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから, 本跡が新しい。

規模と平面形 南壁上部は調査区域外である。長軸4.13m, 短軸3.66mの長方形である。

主軸方向 N-13'-W

壁 壁高は60~76cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅22~40cm, 下幅4~12cm, 深さ2~10cmで, 断面形はU字形である。

床 ほぼ全面が平坦で, 2~7cmの褐色土により全体に貼床が施されており, 中央部がよく踏み固められている。竈手前が小高くなっている。

竈 北壁中央部に, 壁外へ20cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで118cm, 両袖幅149cmである。火床部は, 床面を15cmほど掘りくぼめた後, にぶい赤褐色土と褐色土を貼り, 深さ7cmほどの火床面が作られている。火床面から煙道部の一部にかけて火熱を受け, 赤変硬化している。火床部中央にPL97-12の石塊を埋め込んでいる。煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。竈の覆土は11層(第1~11層)に, 火床部下の掘り方は6層(第12~17層)に, 袖部の土層は3層(第18~20層)に分けられた。

#### 竈土層解説

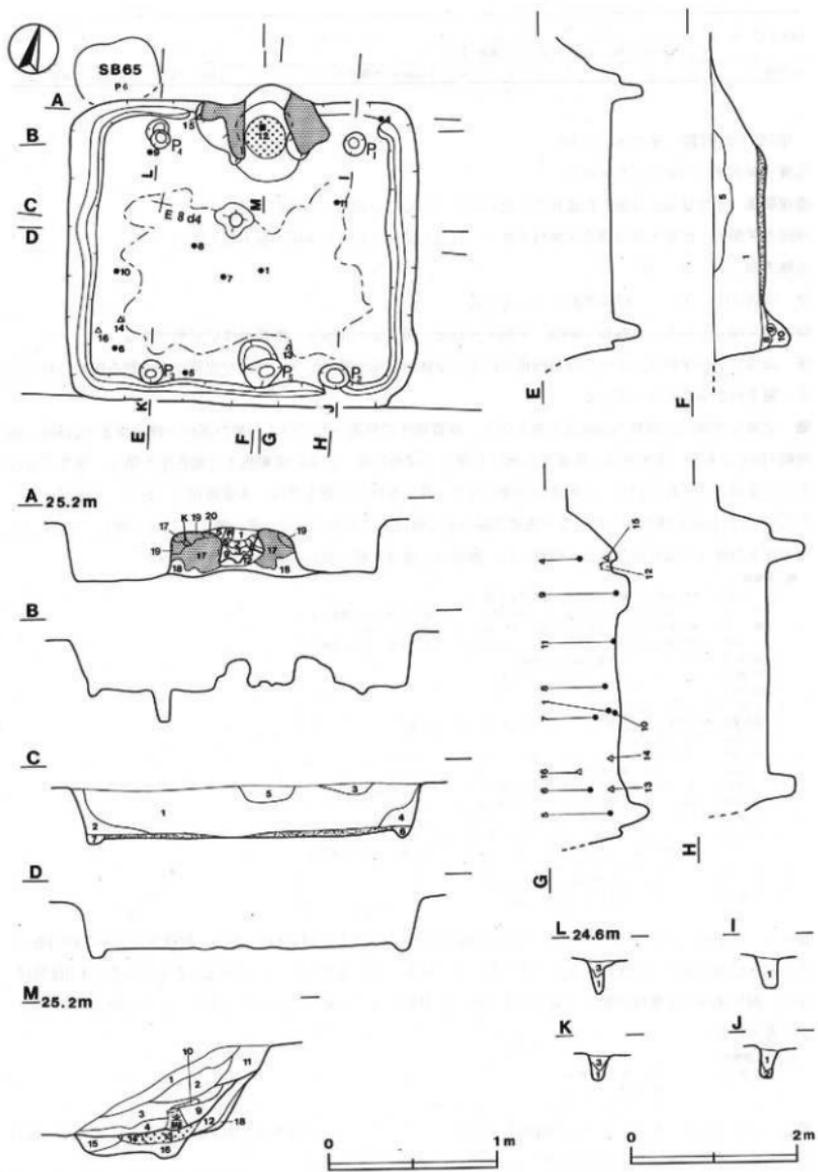
1	にぶ褐色	ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子微量
2	褐色	ローム粒子・粘土粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
3	褐色	粘土粒子中量, ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック微量
4	にぶ褐色	焼土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, 粘土粒子微量
5	暗褐色	粘土小ブロック少量, 焼土粒子微量
6	暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
7	暗褐色	ローム中ブロック少量
8	暗褐色	焼土粒子微量
9	暗赤褐色	炭化粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
10	にぶ褐色	粘土粒子少量
11	暗赤褐色	焼土粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
12	にぶ褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
13	にぶ褐色	焼土粒子少量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック少量, 炭化粒子微量
14	にぶ褐色	焼土粒子少量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量
15	暗赤褐色	炭化粒子・焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, ローム粒子微量
16	暗赤褐色	ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量
17	にぶ褐色	粘土粒子中量, ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
18	褐色	ローム小ブロック・粒子中量
19	褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
20	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量

ピット 5か所(P1~P5)。P1とP3は径30cmの円形, P2とP4は長径32~38cm, 短径26~30cmの楕円形で, 深さ32~42cmである。いずれも各コーナー部寄りに位置していることから, 主柱穴と考えられる。P5は長径58cm, 短径46cmの不整楕円形で, 深さ32cmである。南壁寄りに位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。

#### ピット土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
2	褐色	ローム粒子少量
3	褐色	ローム粒子・炭化粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量

覆土 5層からなり, ブロック状の堆積状況が見られることから, 人為堆積と思われる。なお, 6・7層は壁溝の土層, 8~10層はP5の土層である。



第229图 第201号住居跡実測図

## 土器解説

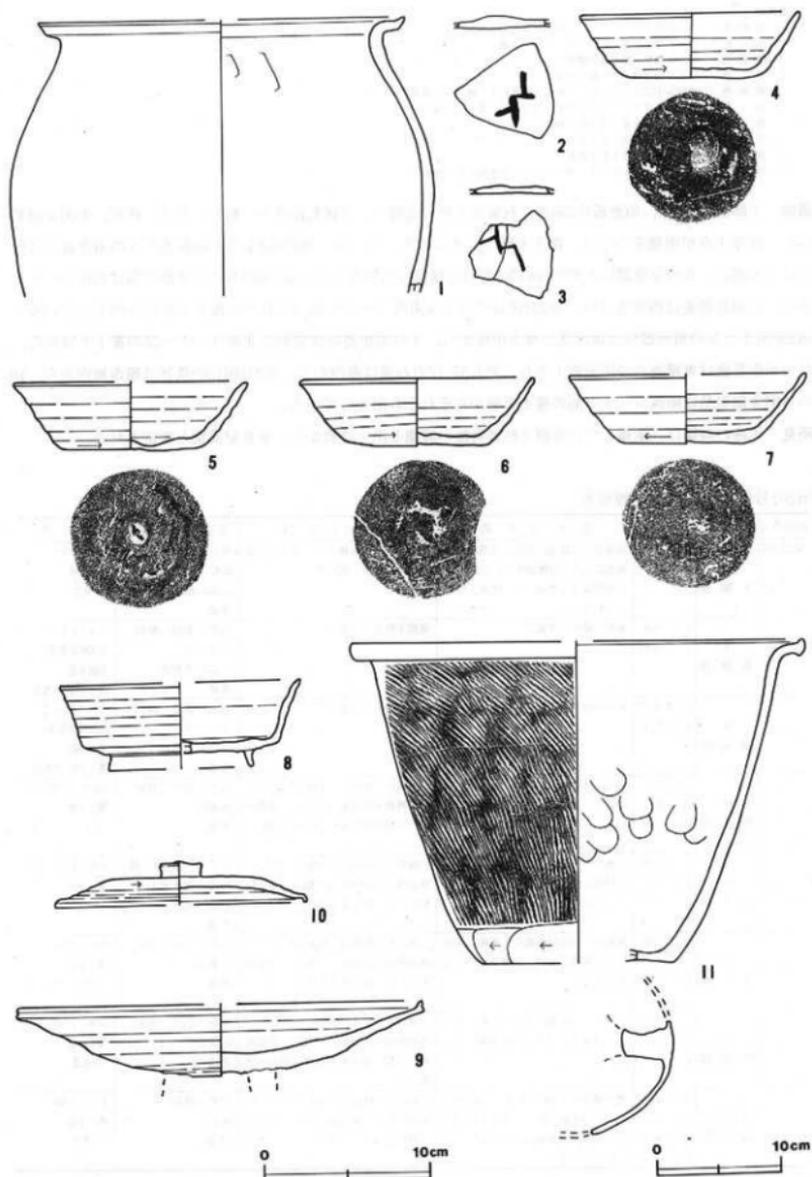
1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
4	褐色	ローム小ブロック・粒子少量
5	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
6	褐色	ローム小ブロック・粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量
7	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
8	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
9	褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
10	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量

遺物 土師器片375点、須恵器片239点、石製品1点(支脚)、金属製品4点(短刀、刀子、鉄斧、不明金銅製品)、鉄滓1点が南部を中心に、覆土上層から多く出土している。第230図1の土師器蓋と8の須恵器高台付坏は中央部の、5の須恵器坏と第231図13の短刀は横位で南壁寄りの、第230図9の須恵器高盤は北西コーナー部の、10須恵器蓋は西壁寄りの、第231図14の刀子は南西コーナー部のそれぞれ覆土下層から出土している。第230図2と3の須恵器坏は南西部の覆土中層から、4の須恵器坏は完形で北東コーナー部の覆土上層から、11の須恵器瓶は東壁寄りの床面直上から、P L97-12の石塊は窟内から、第231図15の鉄斧は竈西袖内から、16の不明金銅製品は南西コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。

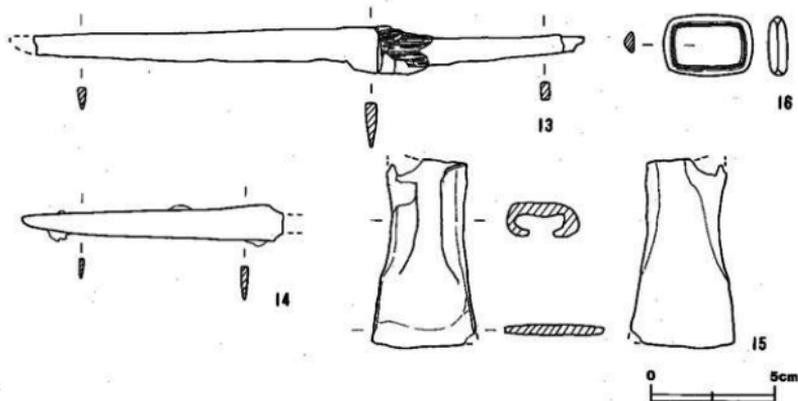
所見 本跡の時期は、重複している掘立柱建物跡の時期と出土遺物から、9世紀前葉と推定される。

第201号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	首径(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第230図 1	土師器	A [22.0] B [16.7]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ、内彎一部ヘラナデ。	灰石 石英 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	20% P512 覆土下層 (中央部)
		B (0.8) C [5.8]	底部の破片。平底。	底部手持ちヘラ削り。	石英 雲母 砂粒 スコリア にぶい黄褐色 普通	5% P503 底部外面墨書 判読不能 覆土中層(南西部)
3	須恵器	B (0.5) C [5.1]	底部の破片。平底。	底部手持ちヘラ削り。	石英 雲母 砂粒 スコリア にぶい黄褐色 普通	5% P504 底部外面墨書 判読不能 覆土中層(南西部)
4	須恵器	A 13.2 B 4.1 C 7.6	平底。体部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がり、わずかに外反している。	口縁部から体部内・外面クロコナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り痕を残す手持ちヘラ削り。	石英 雲母 砂粒 灰黄色 普通	100% P505 PL79 覆土上層 (北東コーナー部)
		A [14.0] B 4.1 C 8.0	口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がり、わずかに外反している。	口縁部から体部内・外面クロコナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り痕を残す手持ちヘラ削り。	石英 雲母 砂粒 礫 内面 明赤褐色 外面 褐色 普通	80% P506 PL79 覆土中層 (南壁部)
6	須恵器	A 13.9 B 4.1 C 8.4	体部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面クロコナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り痕を残す手持ちヘラ削り。	石英 雲母 砂粒 灰黄色 普通	60% P507 覆土上層 (南西コーナー部)
		A [14.2] B 4.3 C 7.6	体部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面クロコナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り痕を残す手持ちヘラ削り。	石英 雲母 砂粒 灰黄色 普通	60% P508 PL80 覆土中層 (中央部)
8	高台付須恵器	A [14.4]	高台部から口縁部の破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面クロコナデ。底部回転ヘラ削り後、ナデ。高台削り付け、クロコナデ。	石英 砂粒 普通	40% P509 覆土下層 (中央部)
		B 5.3				
		D [8.8]				
		E 1.0				



第230图 第201号住居跡出土遺物実測図(1)



第231図 第201号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第230図 9	高須 須恵器	A [24.0]	坏部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、直立する。	口縁部から体部内・外面クロコナダ。体部外面下位回転ヘラ削り。	石英 雲母 砂粒 灰黄色 普通	40% F510 覆土下層 (北西コーナー部)
		B (4.4)				
10	蓋 須恵器	A [15.1]	天井部と口縁部の一部欠損。扁平なボタン状のつまみを持ち、天井蓋は平皿で縁やかに開く。口縁部は屈曲し垂下する。	つまみから口縁部内・外面クロコナダ。頂部回転ヘラ削り。	雲母 砂粒 黄褐色 普通	70% F511 覆土下層 (西壁寄り)
		B 2.7				
		F 2.5				
		G 1.0				
11	甗 須恵器	A [35.6]	底部から口縁部の破片。平底。多孔式。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面クロコナダ。体部外面上位から中位に平行押し、下位手持ちヘラ削り。内面当て具痕。底部ナダ。	石英 砂粒 灰色 普通	30% F513 床面直上 (東壁寄り)
		B 25.7				
		C [15.0]				

写真 図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
PL97 12	石塊	16.1	10.7	7.6	1850.2	不明	竈内(火床部中央)	Q100 支脚転用 被熱痕 写真のみ掲載

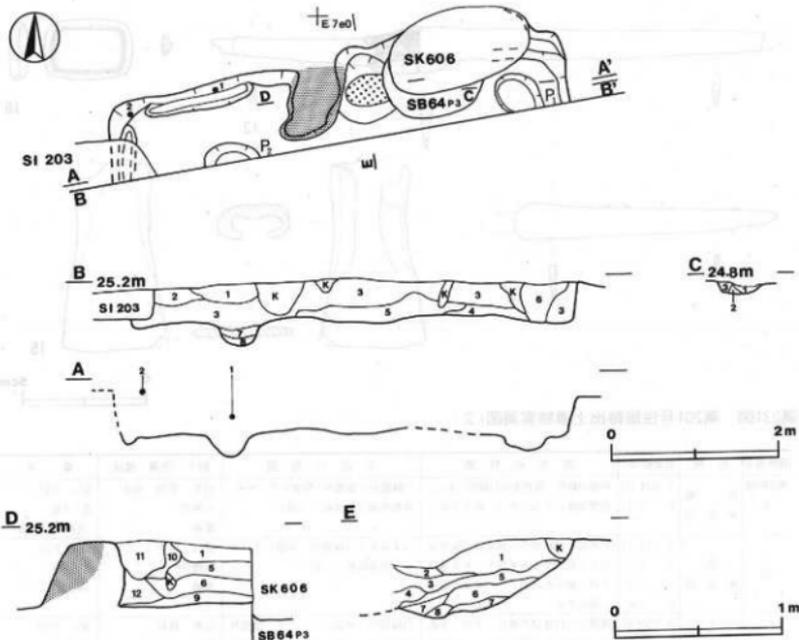
図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第231図13	短刀	(22.1)	1.8	0.4	(5.15)	覆土下層(南壁寄り)	M65 PL102 木部付着 鋒先欠損
14	刀子	(10.4)	1.5	0.3	(11.3)	覆土下層(南西コーナー部)	M66 PL102 刀身部
15	鉄斧	(7.7)	4.1	1.4	(84.2)	竈西袖	M67 PL105 刀部・袋部・一部
16	不明金属製品	3.6	2.4	0.8	9.45	覆土上層(南西コーナー部)	M68 PL109

第202号住居跡(第232・233図)

位置 調査Ⅲ区の南部, E7e0区。

重複関係 本跡は第203号住居, 第64号掘立柱建物と第606号土坑に掘り込まれていることから, いずれよりも本跡が古い。

規模と平面形 北側の一部分を除き, 調査区域外であることから詳細は不明であるが, 東西軸5.43m, 南北軸(1.04)mで長方形または方形と推定される。



第232図 第202号住居跡実測図

主軸方向 N-8°-W

壁 壁高は44~50cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁から西壁にかけて巡っている。上幅24~30cm、下幅10cm、深さ8cmで、断面形はU字形である。

床 中央部がやや凹凸である。

竈 北壁中央部に、壁外へ10cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。東袖部は第606号土坑に掘り込まれたために、残存していない。焚口部から煙道部まで97cm、両袖幅(120)cmである。火床部は、床面を10cmほど掘りくぼめ、火床面が作られている。火床面は火熱を受け、赤変しているが、あまり硬化していない。煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- |           |                                   |
|-----------|-----------------------------------|
| 1 にみょう褐色  | 粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量  |
| 2 暗赤褐色    | 粘土粒子微量                            |
| 3 暗赤褐色    | ローム粒子・焼土粒子微量                      |
| 4 暗赤褐色    | 焼土粒子微量                            |
| 5 暗赤褐色    | 炭化粒子・焼土粒子微量                       |
| 6 明赤褐色    | 焼土大・中ブロック多量、焼土小ブロック少量             |
| 7 にみょう褐色  | 粘土大ブロック中量                         |
| 8 暗赤褐色    | 炭化粒子微量                            |
| 9 にみょう褐色  | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土中ブロック少量          |
| 10 にみょう褐色 | 粘土中ブロック少量、炭化粒子・焼土中ブロック・焼土粒子微量     |
| 11 にみょう褐色 | 粘土中・小ブロック少量、焼土粒子微量                |
| 12 暗赤褐色   | 粘土大ブロック中量、焼土中・小ブロック少量、炭化粒子・焼土粒子微量 |

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は北東コーナー部に位置し、長径(62)cm、短径50cmの楕円形で、深さ22cmである。P2は北西コーナー部寄りに位置し、長径68cm、短径(25)cmの楕円形で、深さ30cmである。いずれも性格は不明である。

ピット土層解説

- P1 1 暗褐色 ローム小ブロック少量  
 2 褐色 ローム小ブロック少量  
 3 暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック少量

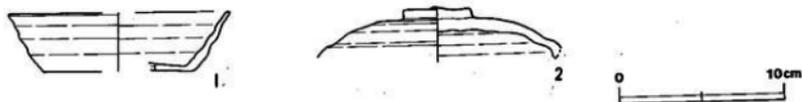
覆土 6層からなり、ブロック状の堆積状況が見られることから、人為堆積と思われる。7・8層はP2の土層である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
 2 褐色 ローム中・小ブロック少量、ローム粒子・粘土粒子微量  
 3 暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、ローム粒子少量  
 4 暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック少量  
 5 黄褐色 粘土大ブロック少量  
 6 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量  
 7 暗褐色 ローム粒子微量  
 8 褐色 ローム小ブロック微量

遺物 土師器片197点、須恵器片63点、鉄滓1点、炭化材が出土している。第233図1の須恵器坏は北壁際の覆土中層から、2の須恵器蓋が北西コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、重複している遺構の時期と出土遺物から、8世紀中葉と推定される。



第233図 第202号住居跡出土遺物実測図

第202号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・造成	備考
第233図 1	坏 須恵器	A [13.4]	底部から口縁部の破片。平底。侈部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がり、わずかに外反している。	口縁部から体部内・外面ロクロナダ。底部 方向の手持ちヘラ磨り。	石英 炭母 砂粒 灰色 普通	40% P514 覆土中層 (北壁際)
		B 3.6				
		C [ 9.0]				
2	蓋 須恵器	B ( 3.4)	つまみから口縁部の破片。扁平なボタン状のつまみを持ち、天井部は平坦で、のち緩やかに開く。口縁部は短直し垂下する。	つまみ、天井部から口縁部内・外面ロクロナダ。頂部回転ヘラ磨り。	石英 炭母 砂粒 灰白色 普通	40% P515 覆土上層 (北西コーナー部)
		F 3.9				
		G 0.7				

第203号住居跡 (第234・235図)

位置 調査Ⅲ区の南部，E7e9区。

重複関係 本跡が第202号住居跡を掘り込んでいることから、本跡が新しい。また、第602号土坑に掘り込まれていることから、本跡が古い。

規模と平面形 北側の一部分を除き、調査区域外であることから詳細は不明であるが、東西軸3.88m、南北軸(0.92)mで長方形または方形と推定される。

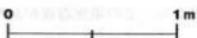
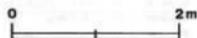
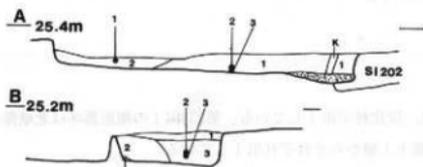
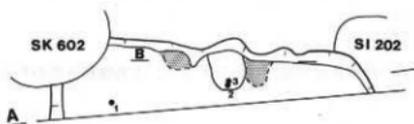
主軸方向 N-7°-W

壁 壁高は18~24cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 全面がほぼ平坦で、東壁付近は4cmほどの暗褐色土による貼床が施されている。



E 7 69



第234図 第203号住居跡実測図

**竈** 北壁中央部に、壁外へ10cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。袖部は西袖の一部しか残存しておらず、袖部が構築されていたと考えられる場所に粘土痕が確認されている。焚口部から煙道部まで62cm、両袖幅[126]cmである。火床部は、床面をほとんど掘りくぼめ、火床面が作られている。火床面は火熱を受けているが、赤変硬化してはいない。煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。

**覆土層解説**

- |          |                               |
|----------|-------------------------------|
| 1 暗赤褐色   | 焼土粒子少量、炭化粒子微量                 |
| 2 暗赤褐色   | 焼土粒子少量、炭化粒子・焼土小ブロック微量         |
| 3 灰色~暗褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子・焼土小ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 4 褐色     | ローム粒子少量                       |

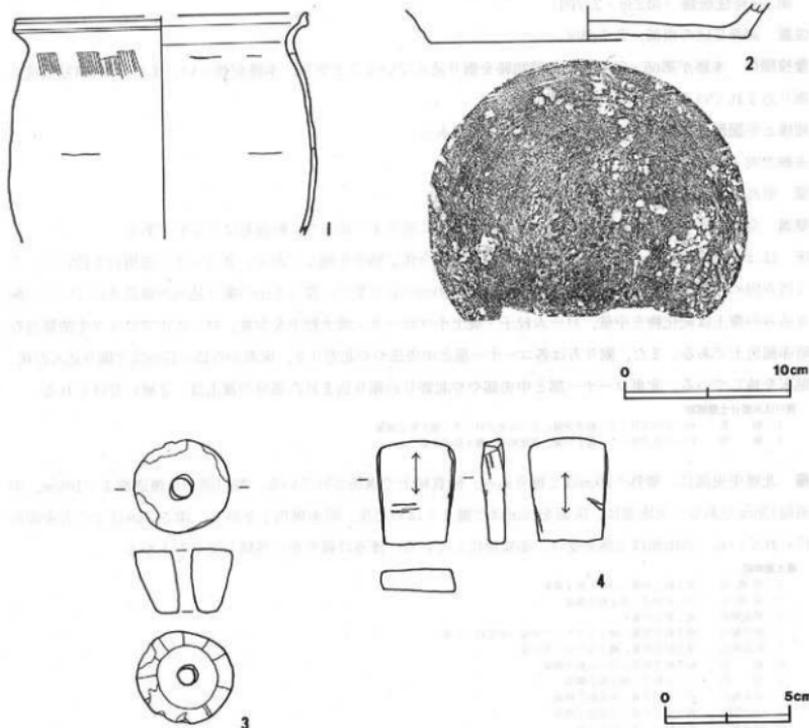
**覆土** 2層からなり、ブロック状の堆積状況が見られることから、人為堆積と思われる。

**土層解説**

- |       |                       |
|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量          |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 |

**遺物** 土師器片207点、須恵器片79点、灰軸陶器片1点、石製品1点（紡錘車）、石器1点（砥石）が出土している。第235図1の土師器小形甕は北西コーナー部の覆土下層から、2の須恵器鉢と3の石製紡錘車、4の砥石は竈内からそれぞれ出土している。北西部の覆土上層から出土した灰軸陶器片は、長頸瓶の底部から体部片で、猿投窯産（黒笹90号窯式）と考えられることから、後世の混入と思われる。

**所見** 本跡の時期は、重複している遺構の時期と出土遺物から、8世紀後葉から9世紀前葉と推定される。



第235図 第203号住居跡出土遺物実測図

第203号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第235図 1	小形 土師器	A [17.4]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、つまみ上げられ、棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面一部ヘラナデ。内・外面輪轆み痕。	長石 石英 雲母 砂粒 橙色 普通	30% PS17 覆土下層 (北西コーナー部)
		B (13.4)				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第235図 2	鉢 須恵器	B (2.1) C 19.2	底部の破片。平底。	底部ナデ。	石英 雲母 砂粒 灰黄色	10% PS16 底部外面モミ痕 甕内(甕口部) 覆土中(北東部)

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		径(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第235図3	石製粘棒	3.9	—	2.5	1.1	41.6	滑石	甕内(甕口部)	Q101
4	紙石	(6.3)	4.7	1.5	—	(61.4)	凝灰石	甕内	Q102 PL96

第204号住居跡 (第236・237図)

位置 調査Ⅲ区の南部, E7d8区。

重複関係 本跡が第66・70号獨立建建物跡を掘り込んでいることから, 本跡が新しい。また, 第604号土坑に掘り込まれていることから, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.64m, 短軸3.52mの方形である。

主軸方向 N-2°-E

壁 壁高は45~50cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅16~26cm, 下幅8~12cm, 深さ4~10cmで, 断面形はU字形である。

床 ほぼ全面が平坦で, 2~5cmの暗褐色土により全体に貼床を施しており, 各コーナー部周辺を除いて, よく踏み固められている。竈手前に長径70cm, 短径60cmのL字型で, 深さ4cmの掘り込みが確認されている。掘り込みの覆土は炭化物を中量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子を少量, ローム小ブロックを微量含む暗赤褐色土である。また, 掘り方は各コーナー部と中央部やや北寄りを, 床面から15~17cmほど掘り込んだ後, 貼床を施している。北東コーナー部と中央部やや北寄りの掘り込まれた部分の覆土は, 2層に分けられる。

掘り込み部分土層解説

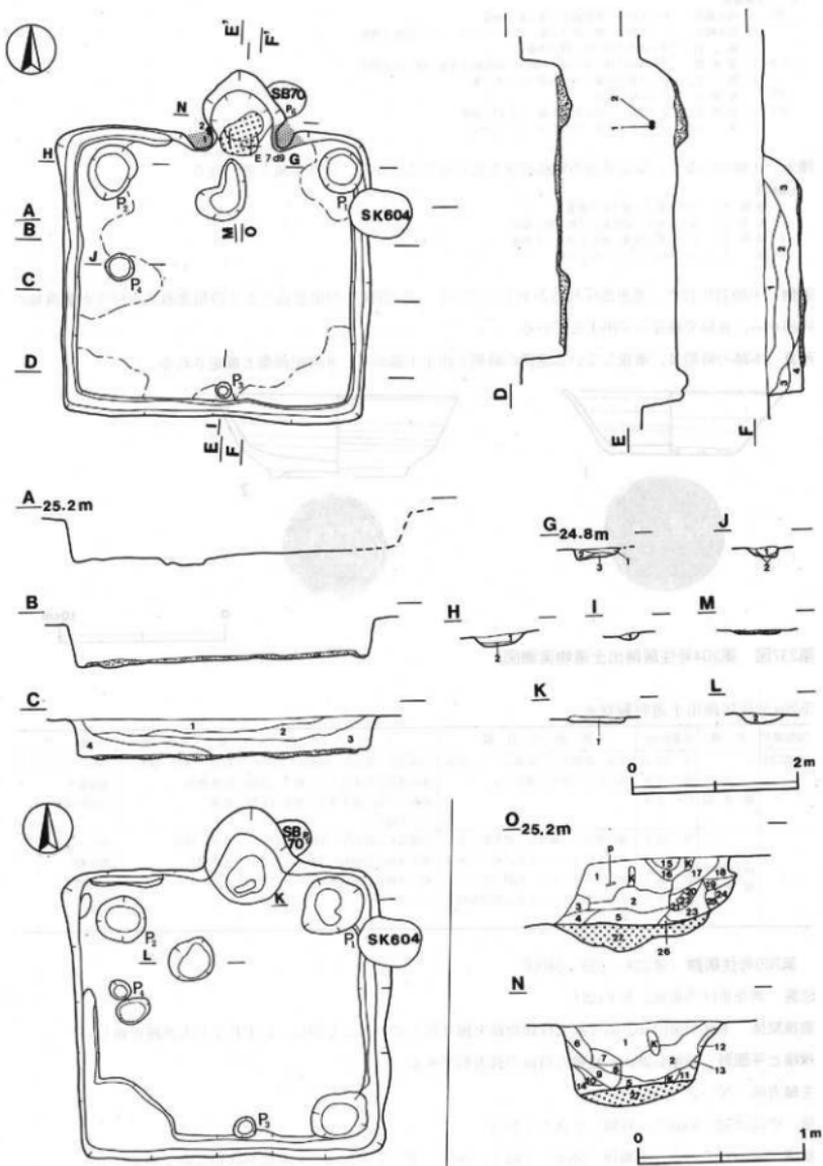
- 1 層 色 ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子微量
- 2 層 色 ローム小ブロック・粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量

竈 北壁中央部に, 壁外へ70cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。竈口部から煙道部まで104cm, 両袖幅136cmである。火床部は, 床面を16cmほど掘りくぼめた後, 暗赤褐色土を貼り, 深さ3cmほどの火床面が作られている。火床面は火熱を受け, 赤変硬化している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 層 層 色 焼土粒子少量, ローム粒子微量
- 2 層 層 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 層 暗赤褐色 焼土粒子中量
- 4 層 暗赤褐色 焼土粒子少量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒子少量
- 5 層 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量
- 6 層 色 粘土粒子中量, ローム粒子微量
- 7 層 色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 8 層 暗赤褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 9 におき暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子微量
- 10 暗赤褐色 炭化粒子・焼土粒子少量
- 11 におき暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
- 12 層 色 ローム小ブロック・粒子少量
- 13 層 色 ローム粒子少量
- 14 層 色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 15 暗赤褐色 ローム粒子微量
- 16 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, ローム小ブロック微量
- 17 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
- 18 暗赤褐色 焼土粒子微量
- 19 暗赤褐色 炭化粒子・焼土粒子中量
- 20 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量
- 21 暗赤褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子中量, 焼土小ブロック微量
- 22 暗赤褐色 炭化粒子・焼土粒子中量, 焼土小ブロック微量
- 23 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量, 粘土粒子微量
- 24 暗赤褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子少量
- 25 におき暗赤褐色 焼土粒子少量
- 26 暗赤褐色 炭化粒子・焼土粒子・粘土粒子中量
- 27 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子・炭化粒子・焼土小ブロック少量, 炭化物・焼土中ブロック微量

ピット 4か所 (P1~P4)。P1は径53cmの円形で, 深さ12cmである。P2は長径70cm, 短径54cmの楕円形で, 深さ14cmである。それぞれ北東コーナー部と北西コーナー部に位置していることから, 主柱穴と考えられる。P3は径20cmの円形で, 深さ12cmである。南壁寄りに位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P4は西壁寄りに位置し, 径32cmの円形で, 深さ12cmである。性格は不明である。



第236图 第204号住居跡実測図

ピット土層解説

- P1 1 暗赤褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量  
 2 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量  
 3 褐色 ローム小ブロック・粒子中量  
 P2 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量  
 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量  
 P3 1 暗褐色 ローム粒子微量  
 P4 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量  
 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

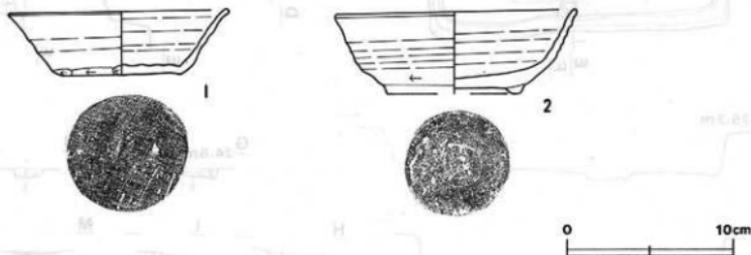
覆土 4層からなり、レンズ状の堆積状況が見られることから、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量  
 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量  
 3 暗褐色 ローム粒子少量、連続小ブロック微量  
 4 褐色 ローム小ブロック・粒子少量

遺物 土師器片47点、須恵器片40点が出土している。第237図1の須恵器杯と2の須恵器高台付杯が竈西袖の内部から、正位で重なって出土している。

所見 本跡の時期は、重複している遺構の時期と出土土器から、8世紀後葉と推定される。



第237図 第204号住居跡出土遺物実測図

第204号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第237図 1	杯 須恵器	A 13.2	平底。体部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がり、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちへら削り。底部回転へら切り痕を残す一方の手持ちへら削り。	石英 雲母 砂粒 灰黄褐色 普通	100% PS18 PL80 竈西袖内 (P519と重なって)
		B 3.9				
		C 7.0				
2	高台付杯 須恵器	A 14.4	高台部から口縁部の一部欠損。高台は厚く、「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり外反する。下位に明確な線を持たず。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転へら削り。底部回転へら削り。高台貼付付け、ロクロナデ。	石英 砂粒 灰黄褐色 普通	80% PS19 PL80 竈西袖内 (P518と重なって)
		B 5.2				
		D 8.2				
		E 0.6				

第205号住居跡 (第238・239・240図)

位置 調査Ⅲ区の東部、E 8c2区。

重複関係 本跡が第61・62・65号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから、いずれよりも本跡が新しい。

規模と平面形 長軸4.28m、短軸3.74mの長方形である。

主軸方向 N-2°-W

壁 壁高は52~55cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅18~56cm、下幅8~28cm、深さ7~12cmで、断面形はU字形である。

床 全面が平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に、壁外へ56cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで148cm、両袖幅174cmである。火床部は、床面を24cmほど掘りくぼめた後、暗赤褐色土と明赤褐色土を貼り、深さ8cmほどの火床面が作られている。火床面は火熱を受け、赤変しているが、あまり硬化していない。この火床部奥にP.L.99-11の土製支脚を埋め込んで使用している。また、第239図9の須恵器甕を東袖部の補強材として使用している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。

#### 竈土層解説

1	灰青褐色	粘土粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子少量
3	暗褐色	炭化粒子・焼土粒子微量
4	暗赤褐色	焼土粒子少量、炭化粒子微量
5	暗赤褐色	炭化粒子・焼土粒子少量
6	にんべん焼色	焼土粒子中量、焼土小ブロック少量
7	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量
8	暗褐色	焼土粒子微量
9	褐色	炭化粒子・粘土粒子少量
10	にんべん焼色	炭化粒子少量、焼土粒子微量
11	暗赤褐色	炭化粒子少量、焼土粒子微量
12	明赤褐色	焼土大ブロック多量

#### 地部・火床部掘り方土層解説

1	暗赤褐色	炭化粒子・焼土粒子微量
2	にんべん焼色	粘土粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量
3	褐色	ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
4	暗赤褐色	炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量
5	にんべん焼色	ローム小ブロック・粒子・粘土粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量
6	褐色	ローム小ブロック・粒子中量、ローム中ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
7	明赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子少量
8	暗赤褐色	炭化粒子・炭化粒子・焼土粒子中量
9	暗赤褐色	炭化粒子・焼土粒子少量、ローム粒子微量
10	暗赤褐色	ローム小ブロック・粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量
11	暗赤褐色	ローム中・小ブロック・粒子・焼土粒子少量

ピット 4か所（P1～P4）。P1とP2は長径38～64cm、短径30～42cmの楕円形で、深さ18～22cmである。P3は径28cmの円形で、深さ18cmである。いずれも南西コーナー部を除いて、各コーナー部寄りに位置していることから支柱穴と考えられる。P4は長径118cm、短径84cmの楕円形で、深さ30cmである。南壁寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

#### ピット土層解説

P1	1	褐色	炭化粒子中量、焼土小ブロック少量
	2	褐色	ローム中ブロック中量、焼土粒子少量
	3	褐色	ローム小ブロック少量
P3	1	褐色	炭化物・焼土小ブロック少量
	2	褐色	ローム中ブロック少量
P4	1	灰褐色	粘土粒子中量、炭化粒子・焼土粒子少量
	2	褐色	ローム小ブロック・粒子中量、炭化粒子・焼土粒子微量

覆土 9層からなり、ブロック状の堆積状況が見られることから、人為堆積と思われる。10層は壁溝の土層である。

#### 土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量
2	暗褐色	炭化粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子少量
4	暗褐色	粘土小ブロック少量、ローム中・小ブロック微量
5	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
6	褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
7	暗褐色	ローム小ブロック微量
8	暗褐色	ローム粒子微量
9	褐色	ローム小ブロック多量、ローム粒子中量
10	褐色	ローム粒子少量

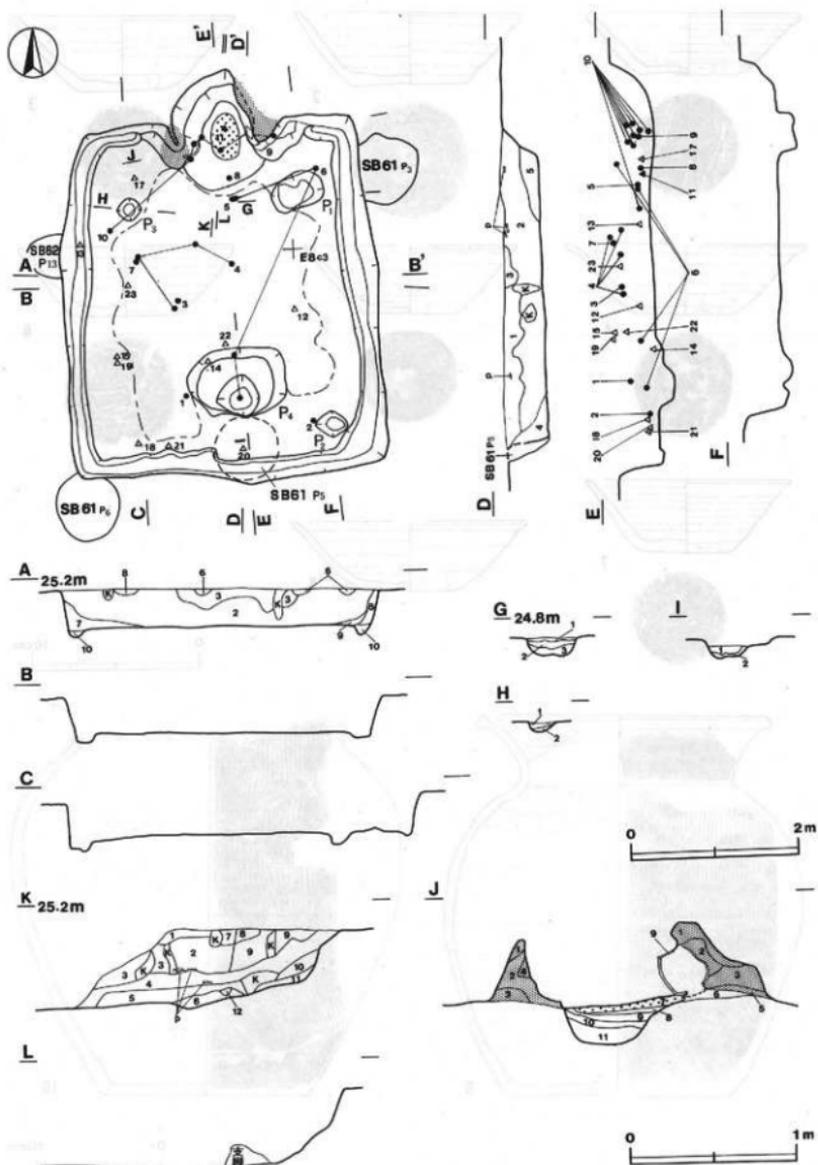
遺物 土師器片752点、須恵器片974点、灰胎陶器片3点、土製品1点（支脚）、金属製品12点（短刀3、刀子、手鐲2、円2、紡錘車、不明鉄製品3）、鉄滓3点が、南部に集中し、覆土上層から下層にかけて平均的に出土している。第239図1の須恵器坏は完形で南壁寄りの、3の須恵器坏と第240図22の不明鉄製品は中央部の覆土中層から出土している。第239図2の須恵器坏は南東コーナー部の、5の須恵器坏は竈手前の、第240図12の

短刀は東壁寄りの、13の短刀は西壁よりの、14の短刀は中央部の、17の手鎌は北西コーナー部の、18の手鎌は南西コーナー部の、20の刀と21の不明鉄製品は南壁寄りの覆土下層から出土している。12から13の短刀はすべて横位で出土している。第239図6の須恵器坏は北東コーナー部の覆土上層と甕手前から南壁にかけての覆土下層から、8の須恵器坏とP.L99-11の支脚は竈内から、9の須恵器甕は東東袖部内から、10の須恵器甕は竈内と東南部・北西部・西壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。覆土中から出土した3点の灰陶陶器片は、長頸瓶の口縁部片と体部片で、猿投煎産の折戸10号窯式・井ヶ谷78号窯式・黒笹14または90号窯式のもの1点ずつである。

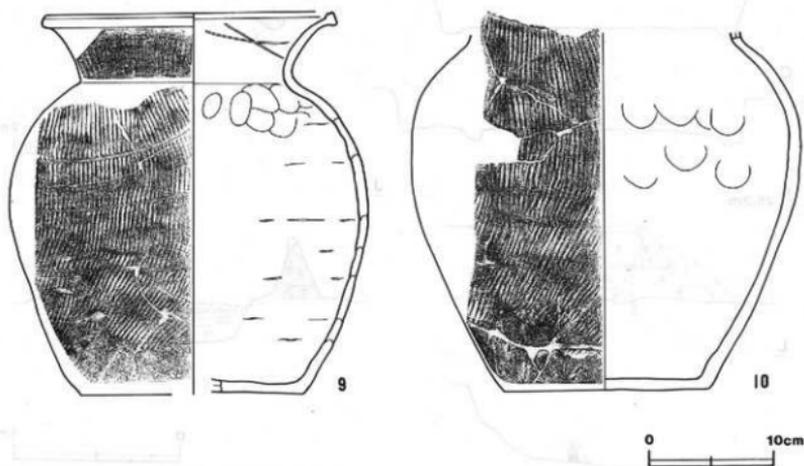
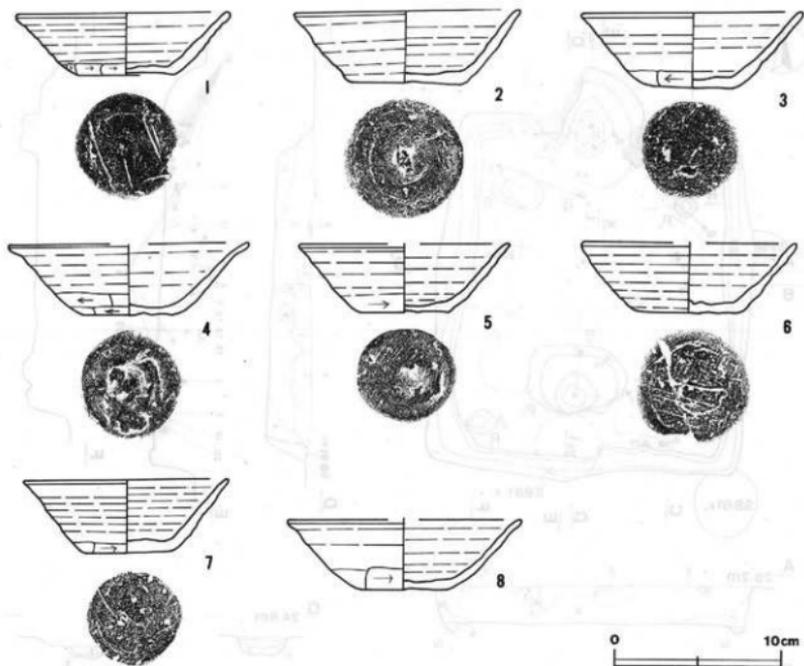
所見 本跡の時期は、重複している掘立柱建物跡の時期と出土遺物から、9世紀中葉と推定される。

第205号住居跡出土遺物観察表

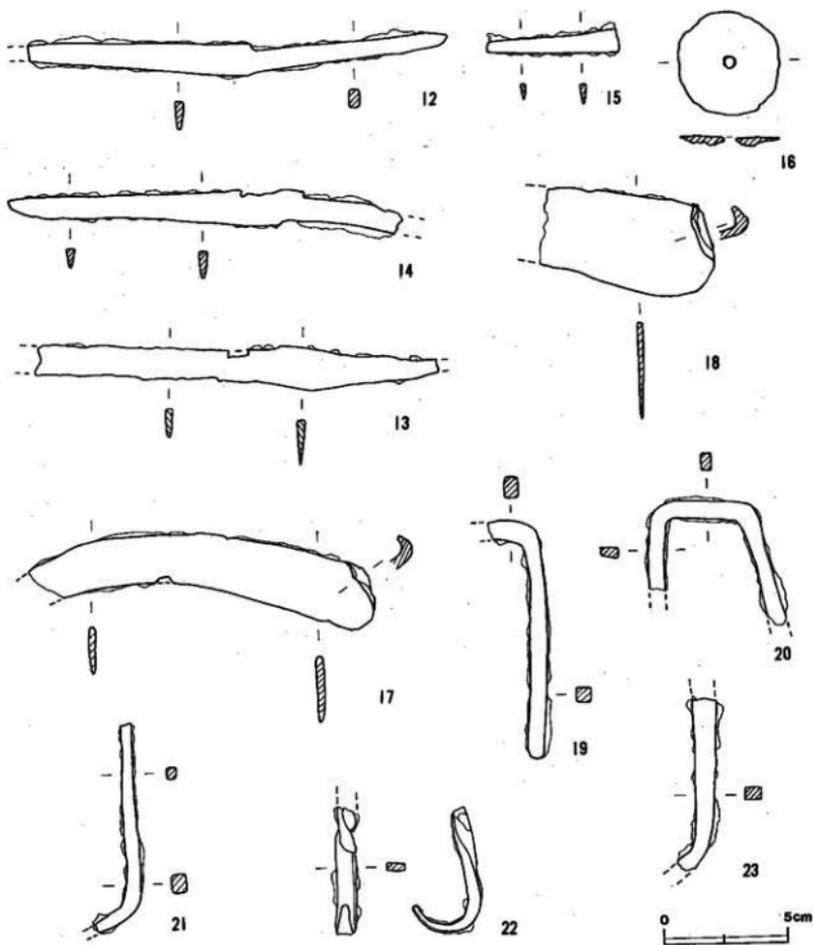
図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第239図 1	坏 須恵器	A 12.8	平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちへつ削り。底部手持ちへつ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 黄灰色 普通	100% P520 PL80 覆土中層 (南壁寄り)
		B 3.9 C 5.7				
2	坏 須恵器	A 13.6	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転へつ削り。	石英 雲母 砂粒 灰黄色 普通	90% P522 PL80 覆土下層 (南東コーナー部)
		B 4.62 C 7.0				
		A 13.5 B 4.6 C 5.2				
3	坏 須恵器	A 13.5	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちへつ削り。底部回転へつ削り痕を残す手持ちへつ削り。	長石 雲母 砂粒 灰黄色 普通	70% P523 PL80 覆土中層 (中央部)
		B 4.6 C 5.2				
		A [14.2] B 4.3 C 5.6				
4	坏 須恵器	A [14.2]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、強く外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転へつ削り。底部回転へつ削り痕を残す手持ちへつ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 灰黄色 普通	60% P524 PL80 覆土上層(東南部) 覆土上層へ中層 (中央部)
		B 4.3 C 5.6				
		A [12.6] B 4.1 C 5.4				
5	坏 須恵器	A [12.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転へつ削り。底部回転へつ削り痕を残す一方の手持ちへつ削り。	長石 石英 砂粒 灰黄色 普通	60% P525 PL80 覆土下層 (甕手前)
		B 4.1 C 5.4				
		A [12.8] B 4.3 C 6.0				
6	坏 須恵器	A [12.8]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転へつ削り。底部回転へつ削り痕を残す手持ちへつ削り。	長石 石英 砂粒 灰黄色 普通	60% P526 PL80 覆土上層 (北西コーナー部) 覆土下層 (甕手前・南壁)
		B 4.3 C 6.0				
		A 12.4 B 4.5 C 5.5				
7	坏 須恵器	A 12.4	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちへつ削り。底部回転へつ削り痕を残す手持ちへつ削り。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	60% P527 PL80 覆土上層 (西壁寄り)
		B 4.5 C 5.5				
		A [14.0] B 4.2 C [5.6]				
8	坏 須恵器	A [14.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちへつ削り。底部手持ちへつ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 内面 灰黄褐色 外面 褐色 普通	40% P528 竈内 (灰口部)
		B 4.2 C [5.6]				
		A [14.0] B 4.2 C [5.6]				
9	薬 須恵器	A 22.3 B (30.7) C [17.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、上位に最大径を有する。口縁部は外反し、つまみ上げられ、棒状工具による凹線を施す。	口縁部から体部外面中位にかけ平行叩き、下位へつ削り。内面円形の当て具痕と輪痕み痕。底部ナデ。	雲母 砂粒 灰黄色 普通	60% P529 PL80 口縁部外面へつ削り 竈内 (竈内)
		A 22.3 B (30.7) C [17.4]				
		B (28.6) C 16.0				
10	薬 須恵器	B (28.6) C 16.0	底部から口縁部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、上位に最大径を有する。	体部外面上位から中位にかけ平行叩き、下位へつ削り。内面円形の当て具痕。底部ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 灰白色 普通	40% P530 竈内(東袖、火床部) 覆土下層 (東南部、北西部、 西壁寄り)
		B (28.6) C 16.0				



第238图 第205号住居跡实测图



第239图 第205号住居跡出土遺物実測図(1)



第240図 第205号住居跡出土遺物実測図(2)

写真 図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	最大径(cm)	最小径(cm)	重量(g)		
PL99 11	土製支脚	(9.8)	(9.3)	(6.9)	(420.2)	籠内	DF100 被熱痕 写真のみ掲載

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第240図12	短刀	(16.8)	1.3	0.4	(25.1)	覆土下層(東壁寄り)	M69 PL102 鋒先欠損
13	短刀	(16.1)	1.9	0.3	(25.0)	覆土下層(西壁寄り)	M72 PL102 鋒先・基部一部欠損

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第240図14	短刀	(15.7)	(1.6)	0.4	(23.0)	覆土下層(中央部)	M71 PL103 基部一部欠損
15	刀子	(5.3)	0.9	0.3	(4.16)	覆土上層(西壁寄り)	M70 PL103 刀身部
16	紡錘車	4.2	4.1	0.4	9.75	覆土中	M73 PL105 軸欠損
17	手鏝	(14.1)	2.6	0.3	(35.1)	覆土下層(北西コーナー部)	M74 PL104 銜先欠損
18	手鏝	(7.1)	(4.6)	0.2	(39.0)	覆土下層(南西コーナー部)	M75 PL104 刃部欠損
19	門	9.7	1.0	0.6	22.0	覆土上層(南壁寄り)	M76 部位不明
20	門	(5.3)	0.8	0.4	(15.2)	覆土下層(南壁より)	M78 PL105 部位不明
21	不明鉄製品	(8.6)	0.6	0.7	12.0	覆土下層(南壁より)	M77 PL108
22	不明鉄製品	(5.2)	0.9	0.3	(9.85)	覆土中層(中央部)	M79 PL108
23	不明鉄製品	(7.1)	(1.6)	0.5	(13.0)	覆土上層(西壁寄り)	M80 PL108

### 第206号住居跡(第241~243図)

位置 調査Ⅲ区の西部, E7c6区。

重複関係 本跡は第5号柱穴群に掘り込まれていることから, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.14m, 短軸3.89mの方形である。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は50cmで, 垂直に立ち上がる。

壁溝 北壁際を除いて巡っている。上幅18~35cm, 下幅4~12cm, 深さ3~18cmで, 断面形はU字形である。

床 全面がほぼ平坦で, 2~10cmの暗褐色土により全体に貼床を施しており, 中央部がよく踏み固められている。掘り方は各コーナー部付近を中心に17~30cmほど掘り込んでいる。

竈 北壁中央部に, 壁外へ72cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで156cm, 両袖幅132cmである。火床部は, 床面を20cmほど掘りくぼめた後, 赤褐色土・灰褐色土・褐色土を貼り, 深さ8cmほどの火床面が作られている。火床面は火熱を受け, 赤変硬化している。東袖部内に土師器を補強材として使用している。煙道は緩やかに外傾して, のち垂直に立ち上がる。竈の覆土は11層(第1~11層)に, 火床部の掘り方の土層は5層(第12~16層)に, 竈袖部の土層は4層(第17~20層)に分けられた。

#### 覆土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・炭化粒子・焼土小ブロック少量
- 2 暗褐色 焼土大ブロック多量, 焼土粒子少量
- 3 褐色 粘土中ブロック多量, 焼土小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・炭化物・焼土粒子少量
- 5 暗褐色 焼土小ブロック・粘土中ブロック中量, ローム中ブロック少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子・粘土中ブロック少量
- 7 暗褐色 焼土粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 9 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 10 暗赤褐色 焼土粒子少量, 粘土粒子微量
- 11 暗褐色 焼土粒子・粘土粒子少量
- 12 暗褐色 焼土粒子中量, ローム中ブロック・焼土小ブロック少量, ローム大ブロック・炭化粒子微量
- 13 褐色 焼土小ブロック少量
- 14 褐色 焼土粒子微量
- 15 暗赤褐色 焼土大ブロック多量, 炭化粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
- 16 暗褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化物・焼土小ブロック・粘土小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 17 暗赤褐色 炭化粒子・粘土小ブロック少量, 焼土粒子・粘土粒子微量
- 18 暗褐色 粘土粒子中量, 粘土小ブロック少量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 19 暗褐色 炭化粒子・焼土粒子・粘土小ブロック少量, 粘土粒子微量
- 20 暗褐色 ローム中ブロック・粘土粒子少量, ローム粒子・焼土粒子少量

ピット 6か所(P1~P6)。P1は南東コーナー寄りに位置し, 長径64cm, 短径54cmの楕円形で, 深さ36cmである。P2は南西コーナー部寄りに位置し, 長軸56cm, 短軸52cmの方形で, 深さ24cmである。主柱穴と考えられる。P3は長径82cm, 短径63cmの不整形楕円形で, 深さ30cmである。南壁寄りに位置していることから, 出入口施設に伴うピットと考えられる。P4は長径59cm, 短径50cmの楕円形, 深さ14cmで, 北東コーナー部に位

置している。P5は長さ40cm, 短径30cmの楕円形, 深さ35cmで, 東壁中央部際に位置している。P6は長さ73cm, 短径39cmの楕円形, 深さ22cmで, 北西コーナー部寄りに位置している。いずれも性格は不明である。

ピット土層解説

P1	1	褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
	2	褐色	ローム小ブロック中量
P3	1	暗褐色	ローム小ブロック少量
P5	1	暗褐色	ローム粒子微量
	2	褐色	ローム粒子微量
	3	褐色	ローム中ブロック少量

覆土 8層からなり, ブロック状の堆積状況が見られることから, 人為堆積と思われる。

土層解説

1	暗褐色	炭化粒子・焼土粒子微量
2	暗褐色	焼土粒子微量
3	褐色	ローム中・小ブロック中量, ローム粒子少量
4	暗褐色	ローム小ブロック・粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子微量
6	黒褐色	炭化粒子・焼土中ブロック微量
7	暗褐色	ローム粒子・焼土中ブロック微量
8	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量

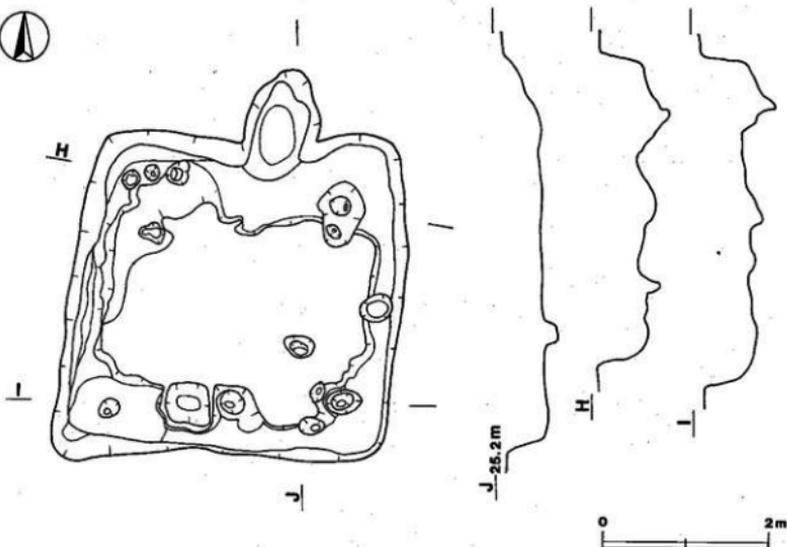
遺物 土師器片427点, 須恵器片426点, 灰胎陶器片3点, 石製品1点(紡錘車)が南部を中心に, 覆土上層から覆土中層にかけて集中して出土している。第243図2の土師器高台付坏は竈西袖脇の, 9の須恵器高台付坏は中央部の覆土下層から出土している。3の土師器甕は竈内と南壁寄りの覆土下層から出土している。4の須恵器坏は南壁寄りの, 8の須恵器高台付坏は西壁寄りの覆土中層から出土している。7の須恵器坏, 10の須恵器盤, 11の須恵器高盤は竈内から(特に7と11は火床部中央から)出土している。7の坏は火熱を受けておらず, 支脚として使用されたものか不明である。12の紡錘車は北西部の貼床内からそれぞれ出土している。覆土中から出土した3点の灰胎陶器片は, 碗の口縁部片と高台部から体部片の2点, 長頸瓶の口縁部片の1点である。碗は猿投窯産(黒塗90号窯式)と二川窯産のものと考えられ, 特に二川窯産のものは第222号住居跡から出土したもの(P541)と接合している。他の土器と時期的な差があることから, 後世の擾乱による混入の可能性が高い。長頸瓶の口縁部片は猿投窯産(折戸10号窯式)と考えられ, 時期的な差がなく, 本跡に伴う可能性が高い。

所見 本跡の時期は, 出土土器から, 8世紀末葉と推定される。

第206号住居跡出土遺物観察表

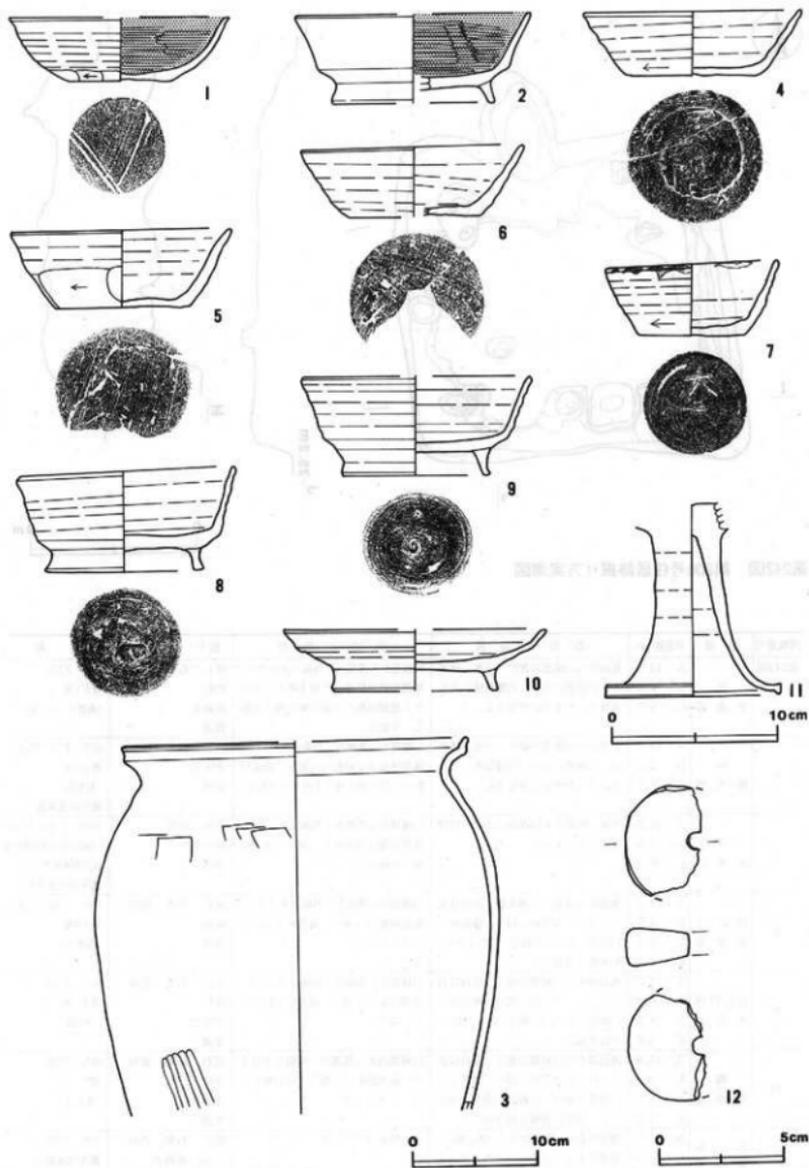
図版番号	器種	目録表(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
第243図 1	坏 土師器	A 13.3	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて, 内彎矢状に立ち上がり, わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面クロロナダ。体部外面下位手持りへう割り, 口縁部から底部内面へう磨き。底部回転へう割り。内面黒色処理。	灰黄褐色 普通	50% P531 PL.R1 覆土上層 (西壁寄り) 覆土下層(南東部)	
		B 3.8					
		C 6.1					
2	高台付坏 土師器	A [14.0]	高台部から口縁部の破片。高台は長く, 「ハ」の字状に高く。体部から口縁部にかけて, 直線的に立ち上がり, わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面クロロナダ。口縁部から底部内面へう磨き。底部回転へう割り。高台貼り付け, ロクロナダ。内面黒色処理。	灰石 石英 雲母 砂粒 褐色 普通	40% P535 覆土下層 (西袖脇)	
		B 5.4					
		D [9.7]					
		E 1.3					
3	甕 土師器	A [20.6]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて, 内彎矢状に立ち上がる。口縁部は外反し, つまみ上げられ, 棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面横ナダ。体部内・外面ナダ。一部ヘラナダ。体部外面中位から下位にかけてへう磨き。	灰石 石英 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	30% P540 竈内 覆土下層 (南壁寄り)	
		B (22.6)					
4	坏 須恵器	A 12.9	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて, 直線的に立ち上がり, わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面クロロナダ。体部外面下位回転へう割り。底部回転へう割り重を残す手持りへう割り。	石英 雲母 砂粒 灰黄色 普通	80% P532 PL.R1 覆土中層 (南壁寄り)	
		B 4.9					
		C 7.9					





第242図 第206号住居跡掘り方案測図

版画番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	坏須恵器	A 13.1	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面中位から下位手持ちへラ削り。底部回転へラ切り痕を残す手持ちへラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 灰黄色 普通	50% P533 覆土上層 (南西コーナー部)
		B 4.8				
		C 8.0				
6	坏須恵器	A 13.1	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転へラ削り。底部回転へラ切り痕を残す手持ちへラ削り。	長石 石英 砂粒 灰黄色 普通	60% P534 PLR1 覆土中層 (南西部) 覆土上(北東部)
		B 4.4				
		C 8.0				
7	坏須恵器	A 10.2	平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転へラ削り。底部回転へラ削り。	石英 砂粒 灰黄色 普通	100% P552 PLR1 I口縁部内外面流線付着 底部外面別書「犬」 壺内(火床部中央)
		B 4.6				
		C 6.2				
8	高台付坏須恵器	A 13.0	体部と口縁部の一部欠損。高台は長く、「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り。高台貼り付け、ロクロナデ。	長石 石英 砂粒 灰色 普通	70% P536 PLR1 覆土中層 (西壁寄り)
		B 6.2				
		D 9.4				
		E 1.3				
9	高台付坏須恵器	A [13.7]	高台部から口縁部の破片。高台は長く、「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がり、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り。高台貼り付け、ロクロナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 灰黄色 普通	50% P537 覆土下層 (中央部)
		B 6.0				
		D 8.8				
		E 1.6				
10	瀬須恵器	A [15.6]	高台部から口縁部の破片。高台は長く、「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて、直線的に開き、外反する。中位に明確な線を持つ。	口縁部内から体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り。高台貼り付け、ロクロナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 灰黄色 普通	40% P538 砂粒 壺内 (須道場)
		B 3.7				
		D [9.6]				
		E 1.2				
11	高須恵器	B [11.7]	脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。脚部は大きく広がり、屈曲し垂下する。	内・外面ロクロナデ。	長石 石英 砂粒 にぶい赤褐色 普通	30% P539 壺内(火床部)
		D [10.6]				
	F 9.7					



第243图 第206号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第243図12	紡錘車	5.7	1.5	0.9	39.2	凝灰岩	貼床内(北西部)	Q103

### 第207号住居跡 (第244～246図)

位置 調査Ⅲ区の西部, E7e4区。

重複関係 本跡が第208号住居跡を掘り込んでいることから, 本跡が新しい。

規模と平面形 南側と西側の一部が調査区域外のため, 南北軸 (5.25) m, 東西軸 (4.14) mの長方形または方形と推定される。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は66cmで, 垂直に立ち上がる。竈東側の北壁から北東コーナー部にかけて, 焼土混じりの砂質粘土を壁に貼り付けて, 補強している。

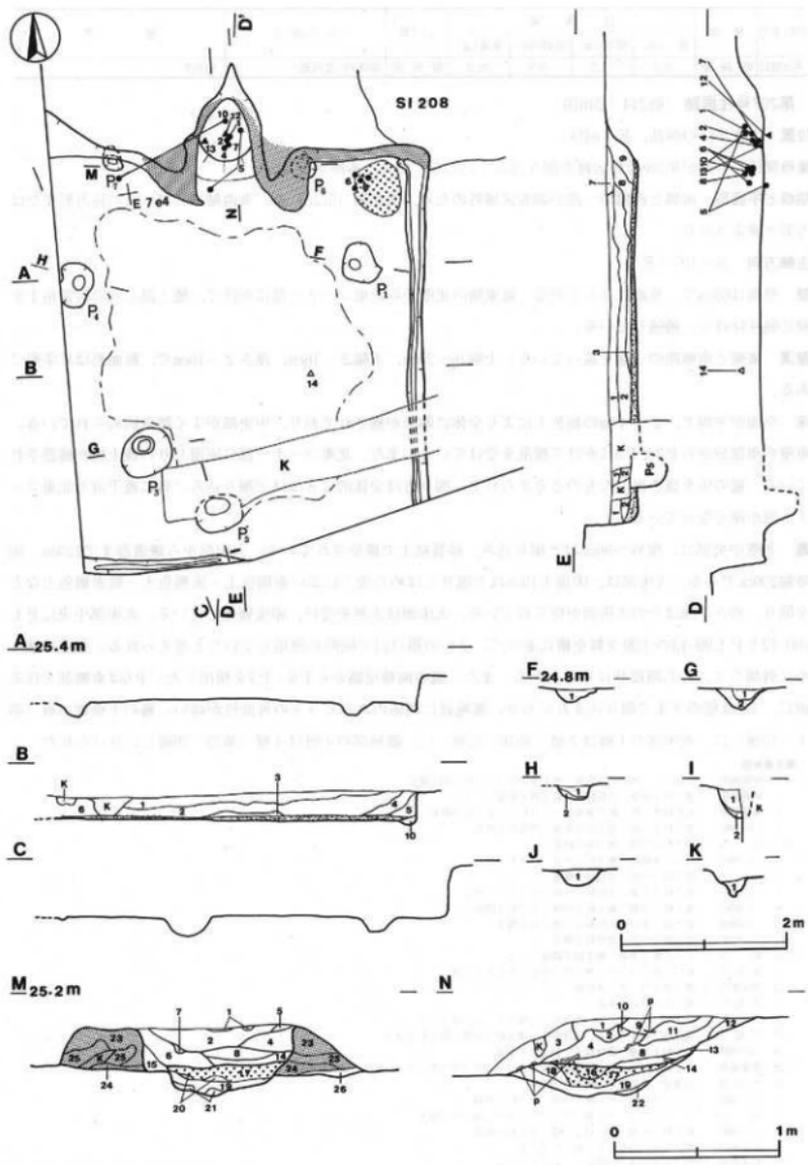
壁溝 東壁と南壁際の一部を巡っている。上幅16～25cm, 下幅2～16cm, 深さ2～10cmで, 断面形はU字形である。

床 全面が平坦で, 2～4cmの褐色土により全体に貼床が施されており, 中央部がよく踏み固められている。東壁の南部分からP3とP5にかけて攪乱を受けている。また, 北東コーナー部に灰混じりの焼土塊が確認されている。竈の灰を掻き出したものと考えられる。掘り方は全体的に8cmほど掘り込み, 特に竈手前と北東コーナー部が深くなっている。

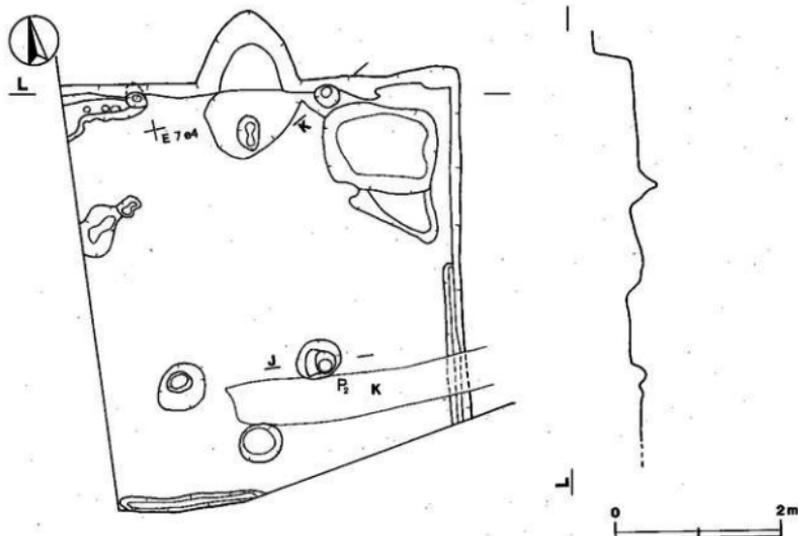
竈 北壁中央部に, 壁外へ96cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。火床部から通過部まで120cm, 両袖幅200cmである。火床部は, 床面を12cmほど掘りくぼめた後, にぶい赤褐色土・灰褐色土・暗赤褐色土などを貼り, 高さ7cmほどの火床面が作られている。火床面は火熱を受け, 赤変硬化している。火床部中央にP.L.100-12とP.L.99-13の土製支脚を横に並べて, 2つの掛け口で同時に使用していたと考えられる。煙道は緩やかに外傾して, のち階段状に立ち上がる。また, 竈の両袖部脇からP6・P7を検出した。P6は東袖部を作る前に, P7は壁の下まで掘り込まれており, 竈施設に関係のあるピットの可能性が高い。竈の土層は11層 (第1～15層) に, 火床部の土層は7層 (第16～22層) に, 竈袖部の土層は4層 (第23～26層) に分けられた。

#### 竈土層解説

- |    |       |  |
|----|-------|--|
| 1  | 極暗褐色  | 炭化粒子・焼土粒子少量, 焼土小ブロック・粘土粒子微量            |
| 2  | 極暗褐色  | 焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量                    |
| 3  | 極暗褐色  | 炭化粒子・焼土粒子少量, ローム粒子・粘土粒子微量              |
| 4  | にぶ暗褐色 | 焼土粒子中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量                 |
| 5  | 褐色    | 粘土粒子中量, 焼土粒子微量                         |
| 6  | にぶ暗褐色 | にぶい赤褐色土 焼土粒子中量, 炭化粒子微量                 |
| 7  | 灰ナール色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子微量                         |
| 8  | にぶ暗褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子・焼土小ブロック少量                 |
| 9  | にぶ暗褐色 | 焼土粒子中量, 粘土粒子少量, 炭化粒子微量                 |
| 10 | にぶ暗褐色 | 粘土粒子少量, 炭化粒子・焼土粒子微量                    |
| 11 | にぶ暗褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子微量                         |
| 12 | 褐色    | ローム粒子少量, 焼土粒子微量                        |
| 13 | 赤褐色   | ローム小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子少量                |
| 14 | 明赤褐色  | 焼土中ブロック・灰中量                            |
| 15 | 黄褐色   | 焼土小ブロック少量                              |
| 16 | 灰褐色   | 焼土小ブロック多量, 焼土粒子・灰中量, 炭化粒子少量            |
| 17 | 灰褐色   | 焼土小ブロック多量, 炭化粒子・焼土粒子中量, 粘土粒子少量         |
| 18 | にぶ暗褐色 | 焼土粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子少量                    |
| 19 | 暗赤褐色  | ローム小ブロック・焼土粒子少量, ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 20 | 灰白色   | 灰多量, 炭化粒子・焼土粒子少量                       |
| 21 | にぶ暗褐色 | ローム小ブロック・粘土少量, 焼土粒子微量                  |
| 22 | 褐色    | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量            |
| 23 | にぶ暗褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量                 |
| 24 | 暗赤褐色  | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量                       |
| 25 | 暗赤褐色  | 焼土粒子中量, 炭化粒子・粘土粒子少量                    |
| 26 | 暗褐色   | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量                   |



第244图 第207号住居跡実測図



第245図 第207号住居跡掘り方実測図

ビット 7か所 (P1~P7)。P1・P3・P4は長径46~54cm, 短径34~52cmの楕円形または不整楕円形で、深さ16~24cmである。中央部の東壁または西壁寄りに位置していることから、支柱穴と考えられる。P2は中央部やや南壁寄りに位置し、貼床の下で確認された。長径54cm, 短径50cmの円形で、深さ20cmである。締まりのない暗褐色土が堆積しており、攪乱部分に近いことから床面での確認ができなかった可能性があるため、P2も支柱穴と考えることとした。P5は長径54cm, 短径(45)cmで楕円形と推定されて、深さ(40)cmである。南壁寄りに位置していることから、出入口施設に伴うビットと考えられる。P6は竈東袖下に位置し、径30cmの円形で、深さ20cmである。P7は竈西袖脇に位置し、長径24cm, 短径20cmの楕円形で、深さ(14)cmである。いずれも性格は不明であるが、前述したように、竈を構築する前に掘り込まれていることから、竈施設に関するビットの可能性も考えられる。

ビット土層解説

P1	1	褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
P2	1	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
P3	1	褐色	ローム小ブロック・粒子少量
	2	褐色	ローム中ブロック中量
P4	1	暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
	2	褐色	ローム中ブロック中量
P5	1	暗褐色	ローム小ブロック微量
	2	褐色	ローム粒子少量
P6	1	暗褐色	ローム中・小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

覆土 9層からなり、レンズ状の堆積状況が見られることから、自然堆積と思われる。10層は壁溝の土層である。

## 土層解説

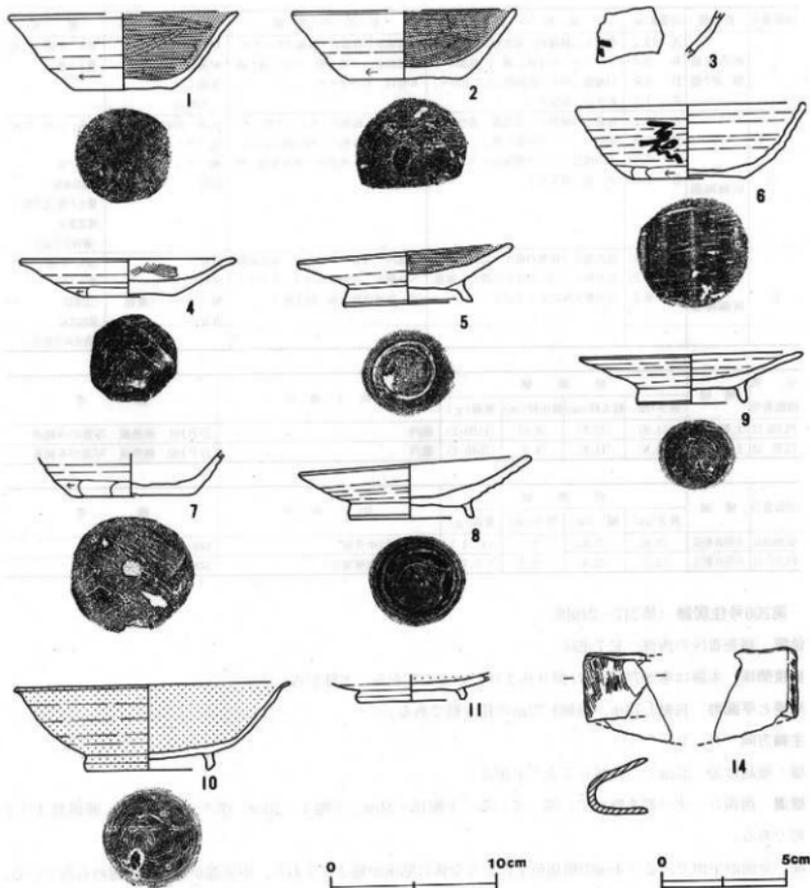
1	褐色	ローム中ブロック・粘土少量、ローム小ブロック・焼土粒少量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
3	褐色	ローム中・小ブロック中量、ローム粒子少量
4	暗褐色	ローム粒子微量
5	暗褐色	ローム中ブロック・粘土微量
6	褐色	ローム小ブロック・粘土少量、ローム中ブロック微量
7	暗褐色	焼土粒少量
8	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
9	暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
10	褐色	ローム小ブロック少量

遺物 土師器片345点, 須恵器片222点, 灰軸陶器片5点, 土製品1点(支脚), 金属製品2点(不明鉄製品), 炭化材, 礫が出土している。遺物の多くは竈に集中している。竈内から出土したほとんどの土器は火熱を受けておらず, 住居廃絶後に投棄された可能性がある。第246図1と2の土師器坏, 4の土師器皿, 5の土師器高台付皿, 7の須恵器坏, PL100-12とPL99-13の土製支脚は竈内から出土している。3の土師器坏は南西部, 11の灰軸陶器碗は北東部の覆土上層から, 6の須恵器坏は北東コーナー部の覆土下層から, 8の須恵器高台付皿は覆土中層から完形でそれぞれ出土している。10の灰軸陶器碗は竈内と北西部の覆土中層, 竈西袖脇の覆土下層から, 14の不明鉄製品が中央部の覆土中層から, PL107-15の不明鉄製品は東壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。また, 5点の灰軸陶器片は, ほとんどが覆土中から出土している。器種は, 碗の高台部から体部片2点(猿投窯産・黒笹90号窯式)と高台部から口縁部片1点(尾北窯産・篠岡窯式), 皿の体部から口縁部片1点(猿投窯産・黒笹90号窯式), 長頸瓶の頸部片1点(猿投窯産・黒笹14または90号窯式)である。他の遺物との時期的な差が少なく, 本跡に伴う可能性が高い。

所見 本跡の時期は, 重複している住居跡の時期と出土土器から, 9世紀末葉と推定される。第208号住居跡との時期差は少ないと思われる。

## 第207号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第246図 1	坏 土師器	A [13.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて, 内彎気味に立ち上がり, 外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転へう。口縁部から底部内面へう磨き。底部手持ちへう削り。内面黒色処理。	雲母 スコリア 砂粒 褐色 普通	60% P542 PL81 竈内
		B 4.7				
		C 6.0				
2	坏 土師器	A [13.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて, 内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転へう削り。口縁部から底部内面へう磨き。底部回転へう切り底を残す手持ちへう削り。内・外面黒色処理。	雲母 砂粒 褐色 普通	50% P543 竈内
		B 4.1				
		C 6.6				
3	坏 土師器	B (2.6)	体部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面へう磨き。内面黒色処理。	雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	5% P551 体部内面磨き・[上] 覆土上層(南西部)
		A 12.8 B 2.3 C 5.4	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて, 内彎気味に磨き, 外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちへう削り。口縁部から底部内面へう磨き。底部手持ちへう削り。	石英 雲母 砂粒 明赤褐色 普通 二次焼成	60% P546 PL81 竈内
4	皿 土師器	A 12.8	高台部から口縁部の破片。高台は長く, 「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて, 内彎気味に磨き, わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。口縁部から底部内面へう磨き。底部回転へう削り。高台貼り付け, ロクロナデ。内面黒色処理。	石英 雲母 砂粒 黄褐色 普通	60% P547 PL82 竈内
		B 4.4				
		D 7.6				
		E 1.2				



第246図 第207号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	坏 須恵器	A 13.5	口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちへら削り。底部回転へら切り痕を残す手持ちへら削り。	石英 雲母 砂粒 灰黄色 普通	90% P54 PL61 体部外面磨き・ 内反不能 置土下層 (北東コーナー部)
		B 4.5				
		C 6.8				
7	坏 須恵器	B (2.8)	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちへら削り。底部回転へら切り痕を残す手持ちへら削り。	石英 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通 二次焼成	50% P545 層内
		C 7.4				
8	高台付皿 須恵器	A 13.6	高台部は「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて、内彎気味に開き、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転へら切り。高台貼り付け、ロクロナデ。	雲母 砂粒 灰黄色 普通	100% P548 PL82 置土中層 (北東コーナー部)
		B 3.7				
		D 7.4				
		E 1.0				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
9	高台付風 須臾器	A 13.2	体部と口縁部の一部欠損。高台は狭く、「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、ナデ。高台貼り付け、ロクロナデ。	砂粒 灰黄色 普通 二次焼成	50% P569 PLR2 覆土上層
		B 3.0				
		D 6.4				
		E 1.3				
10	純 灰輪陶器	A 16.2	体部と口縁部の一部欠損。高台は四角形で「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて内彎気味に立ち上がり、強く外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け、ロクロナデ。体部内・外面施釉、刷毛塗り。	石英 砂粒 灰白色 釉 オリーブ灰色 良好	70% P560 PLR2 覆土内層 覆土下層 (東西横断) 覆土中層(北西部) 尾北横断 (窪田1号壺式)
		B 5.3				
		D 7.5				
		E 1.0				
11	純 灰輪陶器	B ( 1.6)	高台部から体部の破片。高台は四角形で短く、「ハ」の字状に開く。体部内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け、ロクロナデ。体部内面施釉、刷毛塗り。	砂粒 灰白色 釉 オリーブ黄色 良好	20% P562 覆土上層 (北東部) 横段横断 (原野9号壺式)
		D [ 6.2]				
		E 0.7				

写真 図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	最大径(cm)	最小径(cm)	重量(g)		
PL100 12	土製支脚	(14.0)	(12.0)	(6.7)	(1150.2)	壺内	D P101 被熱痕 写真のみ掲載
PL99 13	土製支脚	(13.8)	(11.8)	(9.3)	(1040.4)	壺内	D P102 被熱痕 写真のみ掲載

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第248図14	不明炊器品	(3.8)	(3.4)	2.3	(15.4)	覆土中層(中央部)	M81 PL109
PL107 15	不明炊器品	(4.2)	(2.4)	0.2	(7.15)	覆土下層(東壁寄り)	M82 写真のみ掲載

### 第208号住居跡(第247~249図)

位置 調査Ⅲ区の西部, E 7d5区。

重複関係 本跡は第207号住居に掘り込まれていることから, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.73m, 短軸3.32mの長方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は30~37cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 南西コーナー部を除いて, 巡っている。上幅15~24cm, 下幅4~20cm, 深さ9~14cmで, 断面形はU字形である。

床 全面が平坦で, 2~4cmの暗褐色土により全体に貼床が施されており, 中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に, 壁外へ82cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。火床部から煙道部まで145cm, 両袖幅220cmである。火床部は, 床面を33cmほど掘りくぼめた後, 暗褐色土と暗赤褐色土を貼り, 深さ13cmほどの火床面が作られている。火床面は火熱を受け, 煙道奥にかけて赤変硬化している。火床部に第248図8の須臾器小形鉢を逆位で設置し, その上に6の須臾器坏を逆位で重ね, 支脚として使用している。また, 3の土師器甕を西袖部の補強材として使用している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。竈の土層は7層(第1~7層)に, 火床部の土層は6層(第8~13層)に分けられた。

#### 竈土層解説

- 1 白黄色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 焼土粒子・粘土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 炭化粒子・焼土粒子少量
- 5 白黄色 焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 6 白黄色 焼土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 7 赤褐色 焼土粒子多量, 粘土粒子微量

- 8 暗赤褐色 焼土粒子・灰中量  
 9 暗赤褐色 炭化粒子少量、焼土粒子微量  
 10 暗赤褐色 灰中量、炭化粒子・焼土粒子少量  
 11 暗褐色 炭化粒子・焼土粒子・灰微量  
 12 暗赤褐色 炭化粒子・焼土粒子少量、粘土粒子微量  
 13 暗赤褐色 炭化粒子・焼土粒子・粘土粒子微量

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は東壁中央沿いに位置し、長径70cm、短径52cmの楕円形で、深さ15cmである。P2は中央部に位置し、長径58cm、短径49cmの楕円形で、深さ29cmである。いずれも性格は不明である。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量  
 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

覆土 11層からなり、ブロック状の堆積状況が見られることから、人為堆積と思われる。12層は壁溝の土層である。

土層解説

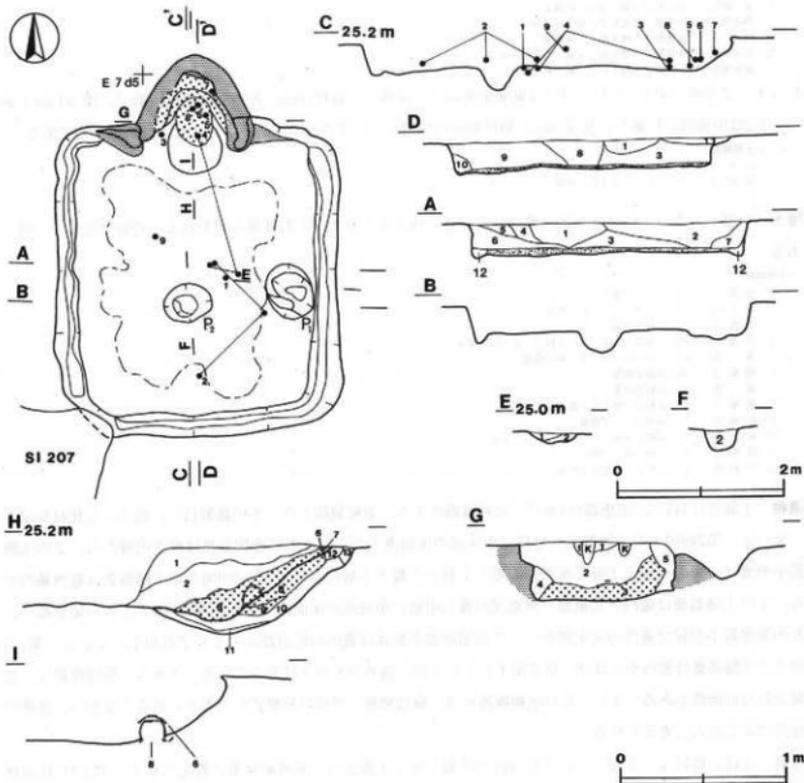
- 1 暗褐色 ローム粒子微量  
 2 暗褐色 ローム中ブロック・粒子微量  
 3 暗褐色 ローム粒子少量  
 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量  
 5 褐色 ローム中・小ブロック・粒子微量  
 6 暗褐色 ローム粒子微量  
 7 褐色 ローム粒子少量  
 8 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量  
 9 暗褐色 ローム中ブロック微量  
 10 褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック少量  
 11 暗褐色 ローム小ブロック微量  
 12 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片447点、須恵器片136点、灰釉陶器片1点、金属製品1点(不明鉄製品)、鉄滓、炭化材が出土している。第248図1の土師器高台付皿は中央部の床面直上から、9の灰釉陶器皿は覆土中層から、2の土師器小形甕は中央部の覆土下層と南東部の覆土上層から覆土下層にかけて、第249図3の土師器甕は甕西袖内から、4の土師器甕は甕内と北東部・南東部の覆土中層、中央部の床面直上から、第248図5と6の須恵器杯、8の須恵器小形鉢は甕内の火床部から、7の須恵器小形鉢は甕内の煙道部からそれぞれ出土している。第249図4の土師器甕は甕内からほぼ一括で出土しているが、甕外のものと同接合していることから、住居廃絶後に投棄された可能性がある。また、9の灰釉陶器片は、猿投窯産(黒笹14号窯式)と考えられることから、後世の擾乱による混入と考えられる。

所見 本跡の時期は、重複している住居跡の時期と出土土器から、9世紀後葉と推定される。第207号住居跡との時期差は少ないと考えられる。

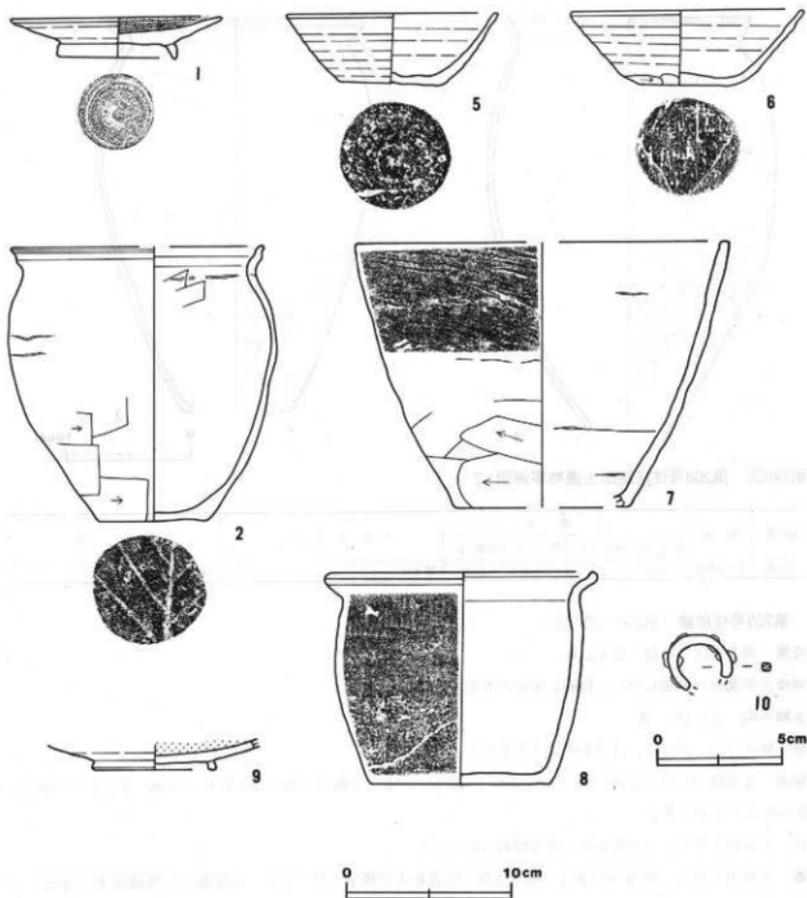
第208号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
第248図	高台付皿 土師器	A 12.7	体部と口縁部の一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて、内響気味に開き、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。口縁部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り後、ナデ。高台貼り付け。ロクロナデ。内面黒色処理。	雲母 砂粒 にぶい橙色	80% P555 PLR2 床面直上 (中央部)	
		B 2.6					
		D 7.2					
		E 1.0					
2	小形甕 土師器	A [15.1]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内響気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、つまみ上げられ、棒状工具による凹線を返らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部内外面ナデ。体部外面下位ヘラ削り、内面一部ヘラナデ。轆轤みね。底部本葉痕。	長石 石英 雲母 砂粒 暗褐色 普通	60% P556 PLR3 覆土上層~中層 (南東部) 覆土下層 (中央部、南東部)	
		B 16.6					
		C 6.5					
第249図	甕 土師器	A 20.0	底部から口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内響気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、つまみ上げられ、棒状工具による凹線を返らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面下位ヘラ削り、内面一部ヘラナデ。	石英 雲母 砂粒 スコリア にぶい赤褐色 普通	70% P569 PLR3 甕内 (西袖内)	
		B 31.4					
		C [ 8.7]					



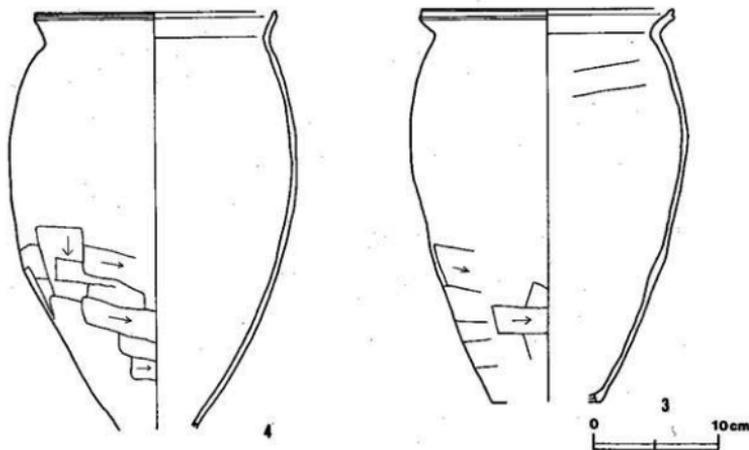
第247図 第208号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第249図 4	堿土器	A 19.2	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ、内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、つまみ上げられ、棒状工具による凹線を巡らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ、外面下位へラ削り。	石英 雲母 砂粒 明赤褐色 普通	60% P560 PL82 壺内 覆土中層 (北東部・南東部) 床面直上(中央部)
		B (33.5)				
第248図 5	坏器	A 12.7	平底。体部から口縁部にかけ、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ切り。	石英 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	100% P533 PL82 壺内(大床部)
		B 4.5				
		C 6.1				
6	坏器	A 13.7	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけ、内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちへラ削り。底部手持ちへラ切り痕を残す手持ちへラ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい黄色	90% P554 PL82 壺内 (大床部)
		B 4.7				
		C 5.6				
7	小形鉢器	A [22.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ、内彎気味に立ち上がる。	口縁部外面から体部外面中位にかけ平行叩き、下位へラ削り。内面輪襷み痕。底部ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい赤褐色 普通	40% P566 壺内(溝道部) 覆土中(東西部)
		B 16.1				
		C [10.5]				



第248図 第208号住居跡出土遺物実測図(1)

図版番号	器種	寸法(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第248図 8	小形鉢	A 15.8	口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、上方向につまみ上げられている。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面上位から中位にかけて平行印き、下位へラ削り。底部ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	70% P557 PL83 覆内 (火床部)
	須恵器	B 12.8				
		C 10.8				
9	皿	B 1.8	高台部から体部の破片。高台は四角形で短く、「ハ」の字状に囲く。体部は内彎気味に囲く。	体部内・外面ロクロナデ。底部同軸へラ削り。高台貼り付け、ロクロナデ。体部内面施釉。鬚毛垂り。	砂粒 灰白色 釉 オリーブ灰色 良好	30% P561 PL82 覆土中層(中央部) 築設痕跡 (黒器14号室式)
	灰軸陶器	D [ 7.4]				
		E 0.5				



第249図 第208号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	種類	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第248図10	小形鉄製品	(2.2)	0.4	0.3	(2.36)	覆土中	M83 PL108

#### 第209号住居跡(第250・251図)

位置 調査Ⅲ区の東部, E 8 a4区。

規模と平面形 長軸4.79m, 短軸4.56mの方形である。

主軸方向 N-15°-W

壁 壁高は54~60cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 竈東側の北壁と北西コーナー部を除いて巡っている。上幅17~36cm, 下幅6~19cm, 深さ4~9cmで, 断面形はU字形である。

床 全面が平坦で, 中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に, 壁外へ22cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。火床部から煙道部まで110cm, 両袖幅126cmである。火床部は, 床面を10cmほど掘りくぼめて作られている。火床面は火熱を受けているが, 赤変硬化してはいない。天井部の内側の一部が赤変している。煙道はほぼ垂直に立ち上がったのち, 内彎している。竈の土層は8層(第1~8層)に, 袖部の土層は2層(第9・10層)に分けられた。

#### 竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子微量
- 2 灰黄褐色 粘土粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 灰褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック少量
- 4 灰黄褐色 粘土粒子少量
- 5 灰褐色 焼土粒子少量
- 6 灰褐色 焼土小ブロック・粒子中量, 粘土粒子少量, 焼土中ブロック微量
- 7 暗褐色 焼土粒子中量, 粘土粒子微量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子少量
- 9 明黄褐色 粘土粒子少量, ローム粒子微量
- 10 褐色 粘土粒子少量

ピット 7か所(P1~P7)。P1~P3は径28~42cmの円形で, 深さ28~37cmである。北東コーナー部を除く

各コーナー部寄りに位置していることから、主柱穴と考えられる。P4は長径48cm、短径32cmの楕円形で、深さ16cmである。南壁寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P5は北東コーナー部寄りに位置し、長径90cm、短径68cmの楕円形で、深さ21cm、P6は南東コーナー部に位置し、径30cmの円形で、深さ14cm、P7は北西コーナー部寄りに位置し、長径74cm、短径62cmの楕円形で、深さ20cmである。いずれも性格は不明である。

ピット土層解説

P1	1	暗褐色	ローム粒子少量
P2	1	暗褐色	ローム粒子少量
P3	1	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
P4	1	暗褐色	ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量、炭化粒子微量
P5	1	暗褐色	炭化粒子・焼土粒子少量
	2	褐色	ローム小ブロック・粒子少量、ローム中ブロック微量
P6	1	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
P7	1	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
	2	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

覆土 10層からなり、レンズ状の堆積状況が見られることから、自然堆積と思われる。

土層解説

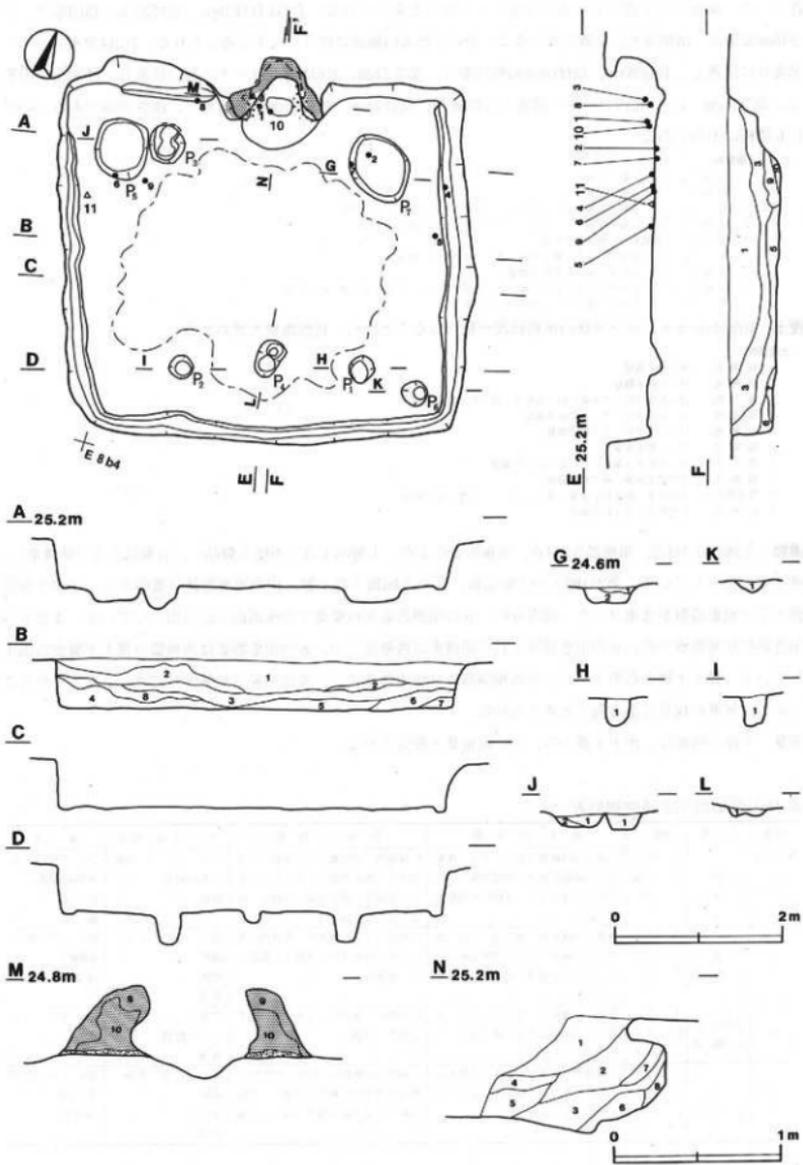
1	暗褐色	焼土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子微量
3	褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量
4	暗褐色	ローム中ブロック・炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム小ブロック・粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子少量
7	褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
8	暗褐色	炭化粒子少量、焼土粒子微量
9	暗赤褐色	炭化粒子・焼土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
10	暗褐色	炭化粒子・焼土粒子微量

遺物 土師器片344点、須恵器片254点、灰軸陶器片1点、土製品1点（不明土製品）、石製品1点（紡錘車）、礫1点が出土している。第251図1の土師器盤、3の土師器手捏土器、10の須恵器鉢は竈内から、2の土師器甕と7の須恵器盤が北東コーナー部寄りの、9の須恵器蓋が西壁寄りの床面直上から出土している。4と5の須恵器坏が東壁寄りの、6の須恵器坏と11の紡錘車は西壁寄りの、8の須恵器蓋は西脇筋の覆土下層から出土している。覆土上層から出土している灰軸陶器片は皿の体部片で、狼狽窯産（黒笹90号窯式）と考えられることから、後世の攪乱による混入と考えられる。

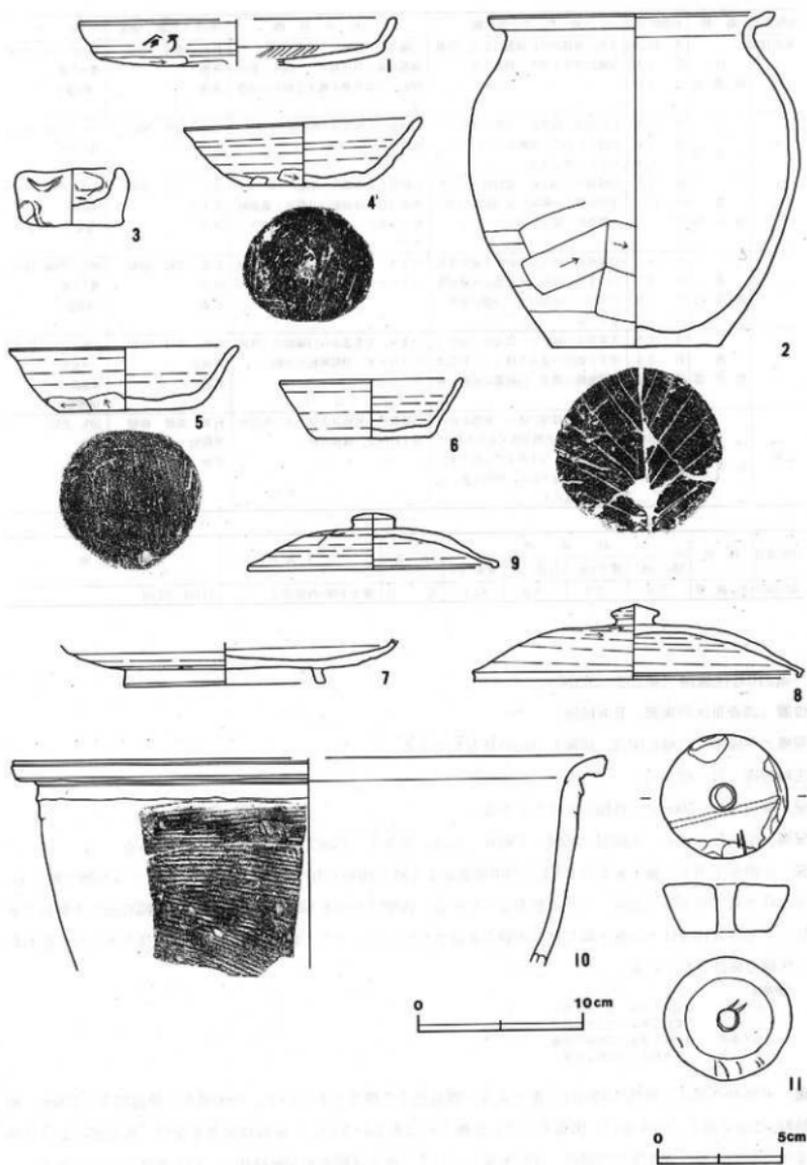
所見 本跡の時期は、出土土器から、8世紀後葉と推定される。

第209号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	形状の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第251図 1	土師器 盤	A 19.0	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、外反する。下に不明確な敷を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面下位手持ちへつ削り。体部から底部内面へつ磨き。底部手持ちへつ削り。	雲母 スコリア 砂粒 にぶい褐色 普通	20% P563 PL84 体部外面磨き・ 羽茂不能 竈内
		B (2.9)				
2	甕 土師器	A 17.0	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。外面下位へつ削り。底部ナデ、木葉成。	長石 石英 雲母 砂粒 褐色 普通	80% P571 PL83 床面直上 (北東コーナー部)
		B 20.2				
		C 10.0				
3	手捏土器 土師器	A 5.9	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、直立する。	口縁部から体部内・外面ナデ。底部手持ちへつ削り。	雲母 スコリア 砂粒 にぶい褐色 普通	80% P572 PL84 竈内
		B 3.5				
		C 5.6				
4	坏 須恵器	A 14.2	口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面クロクナデ。体部外面下位手持ちへつ削り。底部回転へつ削りや残す手持ちへつ削り。	長石 石英 雲母 砂粒 黄灰色 普通	95% P566 PL83 覆土下層 (東壁寄り)
		B 4.0				
		C 7.4				



第250图 第209号住居跡実測图



第251图 第209号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第251図 5	坏 須恵器	A 13.6	平底。体部から口縁部にかけて、内彎 気味に立ち上がり、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。 体部外面下位手持ちヘラ削り。底部 回転ヘラ切り痕を幾す手持ちヘラ削 り。	長石 雲母 砂粒 灰色 普通	100% P565 PL83 裏土下層 (西壁寄り)
		B 3.8				
		C 8.0				
6	坏 須恵器	A 10.8	口縁部の一部欠損。平底。体部から 口縁部にかけて、直線的に立ち上がり、 わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。 底部ナデ。	長石 石英 砂粒 灰白色 普通	95% P566 PL83 裏土下層 (西壁寄り)
		B 3.6				
		C 6.8				
7	盤 須恵器	B (2.6)	口縁部の一部欠損。高台は「ハ」の 字状に開く。体部から口縁部にかけて、 内彎気味に開き、外反している。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。 体部外面下位回転ヘラ削り。底部回 転ヘラ削り。高台起り付け、ロクロ ナデ。	長石 石英 砂粒 黄灰色 普通	80% P567 PL83 床面直上 (北東コーナー部)
		D 12.1				
		E 1.0				
8	蓋 須恵器	A 19.5	口縁部の一部欠損。扁平な擬半球状 のつまみを持ち、天井部は内彎気味 に開き、口縁部はやや内側に屈曲し 垂下する。	つまみ、天井部から口縁部内・外面 ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	石英 雲母 砂粒 灰色 普通	96% P568 PL84 裏土下層 (西壁端)
		B 3.5				
		F 2.9				
		G 1.2				
9	蓋 須恵器	A 14.9	天井部と口縁部の一部欠損。扁平な ボタン状のつまみを持ち、天井部は 内彎気味に開き、口縁部は屈曲し垂 下する。	つまみ、天井部から口縁部内・外面 ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	石英 雲母 砂粒 黄灰色 普通	80% P569 PL84 ヘラ記号 床面直上 (西壁寄り)
		B 3.4				
		F 2.7				
		G 0.9				
10	鉢 須恵器	A [35.6]	体部から口縁部の破片。体部から口 縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、 強く外反し、つまみ上げられた後、 外側に折り返される。排状工具による 凹痕を混らす。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外 面平行可き、輪襷み痕。	石英 雲母 砂粒 黄褐色 普通	10% P570 甕内
		B (12.8)				

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第251図11	紡錘車	5.0	2.0	1.0	61.0	滑石	裏土下層(西壁寄り)	Q104 PL94

### 第210号住居跡 (第252・253図)

位置 調査Ⅲ区の東部、E 8 b5区。

規模と平面形 長軸4.00m、短軸3.55mの長方形である。

主軸方向 N-82°-E

壁 壁高は45~50cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅24~45cm、下幅6~12cm、深さ4~15cmで、断面形はU字形である。

床 全面が平坦で、竈手前からP1までの中央部がよく踏み固められている。北側の床はロームを掘り残して、8cmほど盛り上がり、ベッド状を呈している。西壁寄りのP1周辺から長さ132cm、幅81cmの不整長方形状で、厚さは10cmほどの焼土混じりの灰層が確認されている。また、竈の南袖脇に竈から掻き出したと思われる灰層も確認されている。

#### 灰層解説

- 1 暗赤褐色 炭化粒子中量、焼土粒子少量
- 2 赤褐色 炭化粒子多量、焼土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

竈 東壁中央部に、壁外へ62cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。火床部から煙道部まで116cm、両袖幅142cmである。火床部は、床面をほとんど掘りくぼめていない。火床面は火熱を受け、煙道部にかけて赤変硬化している。天井部の内側の一部が赤変している。煙道は緩やかな階段状に、のち垂直に立ち上がる。

覆土層解説

- |   |          |                        |
|---|----------|------------------------|
| 1 | 暗褐色      | ローム粒子微量                |
| 2 | 褐色       | ローム粒子少量                |
| 3 | 褐色       | ローム粒子少量、炭化粒子微量         |
| 4 | 黄褐色      | 粘土粒子中量                 |
| 5 | IIa-IIIa | 粘土小ブロック・粒子中量、粘土中ブロック少量 |
| 6 | IIa-IIIa | 炭化粒子・粘土中・小ブロック・粘土粒子少量  |
| 7 | 暗褐色      | 炭化粒子微量                 |
| 8 | 灰褐色      | 灰多量、炭化粒子微量             |

竪穴部土層解説

- |   |      |                                   |
|---|------|-----------------------------------|
| 1 | 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 | 褐色   | ローム粒子中量、粘土粒子少量                    |
| 3 | 灰黄褐色 | 粘土粒子少量                            |
| 4 | 灰黄褐色 | 炭化粒子・粘土粒子少量、粘土粒子微量                |
| 5 | 暗褐色  | ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子・粘土粒子微量          |
| 6 | 褐色   | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、ローム小ブロック・粘土粒子微量 |
| 7 | 黄褐色  | 炭化粒子多量、粘土粒子少量                     |

ビット 4か所 (P1~P4)。P1は径22cmの円形で、深さ11cmである。西壁寄りに位置していることから、出入口施設に伴うビットと考えられる。P2は南東コーナー部寄りに位置し、径43cmの円形で、深さ20cm、P3は東壁中央部に位置し、長径54cm、短径44cmの楕円形で、深さ12cm、P4は南西コーナー部寄りに位置し、長径62cm、短径50cmの不整楕円形で、深さ12cmである。いずれも性格は不明である。

ビット土層解説

- |    |   |     |                    |
|----|---|-----|--------------------|
| P1 | 1 | 暗褐色 | ローム粒子微量            |
|    | 2 | 褐色  | ローム中ブロック中量         |
| P2 | 1 | 暗褐色 | 炭化粒子・粘土粒子微量        |
|    | 2 | 褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |
| P3 | 1 | 暗褐色 | ローム小ブロック・粒子少量      |
| P4 | 1 | 暗褐色 | 炭化粒子微量             |
|    | 2 | 褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |

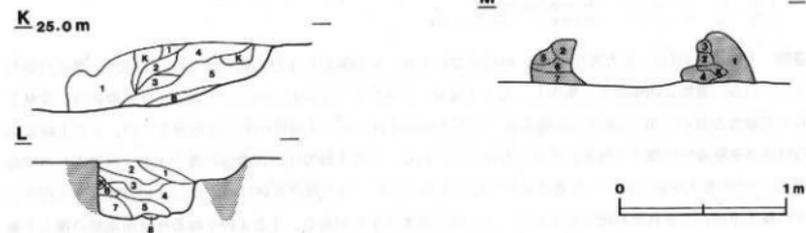
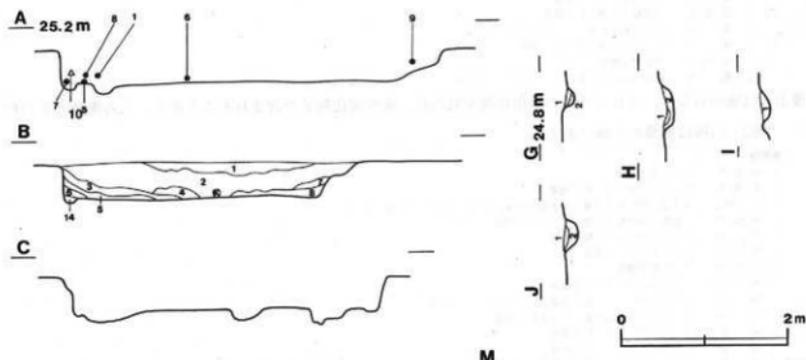
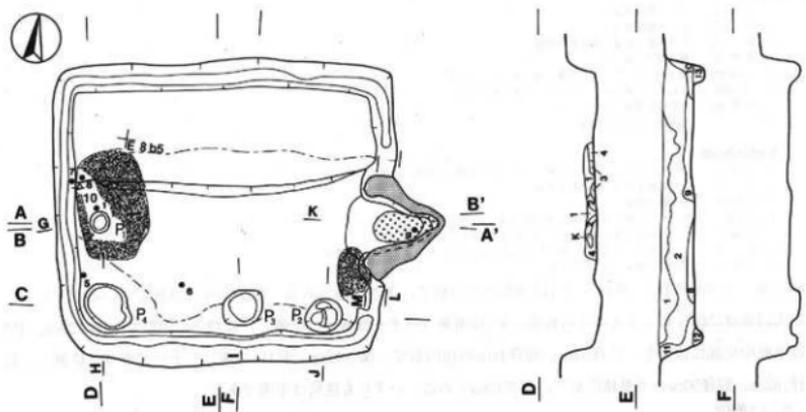
覆土 11層からなり、ブロック状の堆積状況が見られ、灰や炭化粒子が含まれることから、人為堆積と思われる。第12~14層は壁溝の土層である。

土層解説

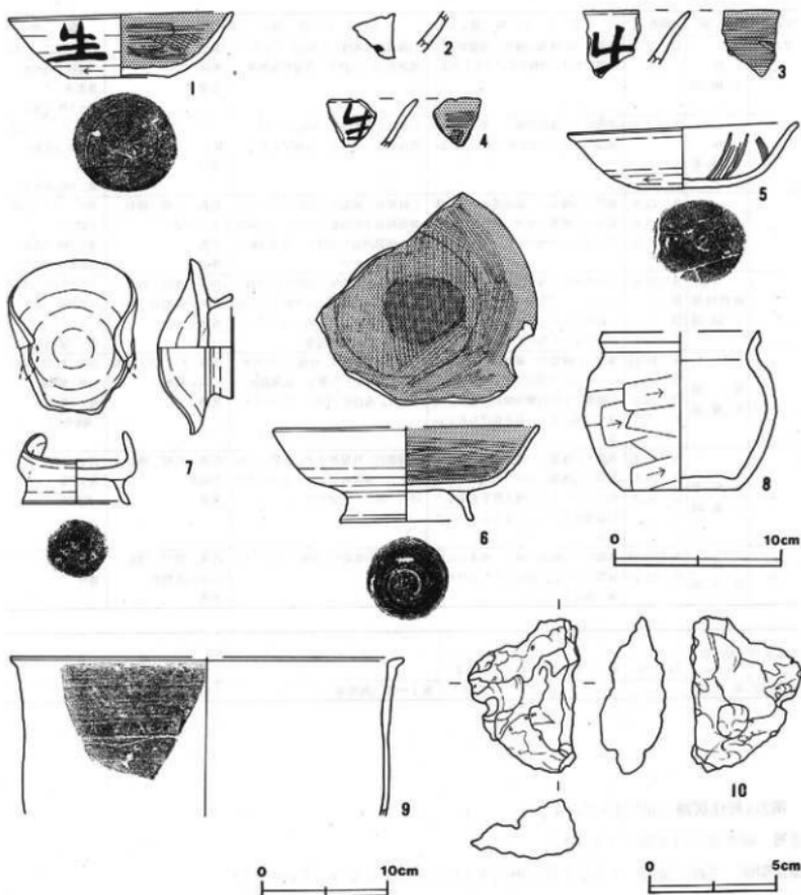
- |    |         |                              |
|----|---------|------------------------------|
| 1  | 暗褐色     | ローム粒子微量                      |
| 2  | 暗褐色     | ローム小ブロック・粒子微量                |
| 3  | III-IVa | 灰多量、炭化粒子中量、粘土粒子少量、ローム小ブロック少量 |
| 4  | 暗褐色     | 炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック微量           |
| 5  | 褐色      | ローム小ブロック・粒子少量                |
| 6  | 暗褐色     | ローム小ブロック微量                   |
| 7  | 暗褐色     | ローム粒子微量                      |
| 8  | 褐色      | ローム小ブロック・粒子微量                |
| 9  | 褐色      | ローム小ブロック・粒子少量、ローム中ブロック微量     |
| 10 | 褐色      | ローム小ブロック中量、ローム粒子少量           |
| 11 | 褐色      | ローム小ブロック・粒子少量                |
| 12 | 褐色      | ローム小ブロック・粒子中量                |
| 13 | 褐色      | ローム小ブロック・粒子中量、炭化粒子微量         |
| 14 | 褐色      | ローム小ブロック・粒子中量、ローム中ブロック微量     |

遺物 土師器片531点、須恵器片102点、灰釉陶器片1点、緑釉陶器片1点、椀状滓1点、炭化米、礫8点が出土している。遺物は西壁寄りに集中し、覆土上層から下層にかけて平均的に出土しており、住居廃絶時に投棄された可能性が高い。第253図1の土師器坏、7の土師器耳皿、8の土師器小形壺は西壁寄りの、6の土師器高台付坏は南壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。5の土師器坏は南西部の覆土下層、西壁寄りの床面直上、P4の覆土中から出土した破片が接合したものである。9の須恵器鉢は竈内から、10の椀状滓は西壁寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。1と同じ墨書「生」がある、3と4の土師器坏は南東部の覆土下層や南西部の覆土中層から出土している。南西部の覆土中層から出土した灰釉陶器片は椀の体部片、南壁寄りの覆土中層から出土した緑釉陶器片は稜椀の体部片で、ともに猿投窯産(黒笹90号窯式)と考えられる。

所見 本跡の時期は、出土土器から、9世紀後葉と推定される。



第252图 第210号住居跡実測図



第253図 第210号住居跡出土遺物実測図

第210号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第253図 1	坏 土 脚 器	A 13.3	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。口縁部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	スコリア 砂粒 橙色 普通	60% P573 PL84 口縁部・体部外側 未蓋造「生」 層土下層 (西壁寄り)
		B 3.9				
		C 6.0				
2	坏 土 脚 器	B (2.2)	体部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒 橙色 普通	5% P574 体部外面磨き・ 割破不能 層土中層(南東部)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第253図 3	坏 土器器	B ( 3.5)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。内面黒色処理。	雲母 砂粒 褐色 普通	5% P575 PL84 口縁部・体部外面 曇色「生」 覆土下層(南東部)
		B ( 2.8)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。内面黒色処理。	スコリア 砂粒 褐色 普通	5% P576 PL84 口縁部・体部外面 曇色「生」 覆土中層(南西部)
		A 13.6 B 3.8 C 5.0	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転へラ磨き。口縁部から底部内面へラ磨き。底部回転へラ磨き後、ナデ。	長石 石英 砂粒 スコリア 褐色 普通	70% P577 PL84 P4覆土中 覆土下層(南西部) 底面直上(西壁寄り)
6	高台付坏 土器器	A [16.8]	高台部から口縁部の破片。高台は長く、「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。口縁部から底部内面へラ磨き。底部回転へラ磨き。高台貼り付け、ロクロナデ。内面黒色処理。	石英 雲母 砂粒 スコリア 普通	50% P578 PL84 底面外面 ペンダラ付着 覆土下層(西壁寄り)
		B 5.7				
		D 7.8				
		E 1.9				
7	耳 土器器	A [10.8]	体部と口縁部の一部欠損。高台は長く、「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて内彎気味に開き、2側面で内側に丸く、折り曲げられている。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面弱いへラ磨き。底部回転へラ磨き。高台貼り付け、ロクロナデ。	雲母 スコリア 砂粒 にぶい褐色 普通	70% P579 PL84 外面一部黒黒 覆土下層 (西壁寄り)
		B 4.5				
		D 6.4				
		E 1.5				
8	小形 土器器	A [ 9.4]	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、上位に最大径を有する。口縁部は直立し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面中位から下位にかけてへラ磨き。底部ナデ。	石英 雲母 砂粒 黒褐色 普通	70% P581 PL85 覆土下層 (西壁寄り)
		B 9.6				
		C 7.0				
9	鉢 土器器	A [30.8]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がり、強く外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。	石英 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	20% P580 壺内
		B (12.6)				

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)		
第253図10	碗状鉢	6.3	4.4	2.4	72.6	覆土中層(西壁寄り) M110 PL109

### 第211号住居跡(第254・255図)

位置 調査Ⅲ区の東部、D 8 j5区。

重複関係 本跡は第620・624号土坑に掘り込まれていることから、本跡が古い。

規模と平面形 東半分が調査区域外のため、南北軸6.10m、東西軸(3.53)mで長方形または方形と推定される。

主軸方向 N-15°-W

壁 壁高は50~61cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 調査範囲のうちで全周している。上幅26~50cm、下幅6~22cm、深さ8~16cmで、断面形はU字形である。

床 全面が平坦である。

竈 北壁中央部に、壁外へ17cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。東袖が調査区域外であることから、火床部から煙道部まで126cm、両袖幅(138)cmである。火床部は、床面を24cmほど掘りくぼめて作られている。火床面は火熱を受けているが、赤変硬化してはいない。煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。

覆土層解説

- 1 黄褐色 粘土粒子多量
- 2 褐色 粘土中ブロック多量
- 3 褐色 焼土粒子・粘土中ブロック少量
- 4 暗赤褐色 灰土中ブロック多量、粘土中ブロック少量
- 5 濃い青色 粘土粒子多量、焼土小ブロック少量
- 6 赤褐色 焼土大ブロック多量
- 7 暗赤褐色 灰土中ブロック・粘土中ブロック多量
- 8 赤褐色 灰土中ブロック・粘土小ブロック多量
- 9 黄褐色 灰土小ブロック・粘土小ブロック多量
- 10 暗褐色 焼土粒子少量
- 11 暗褐色 粘土大ブロック少量
- 12 暗赤褐色 焼土粒子少量
- 13 暗赤褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック微量

ピット 4か所 (P1~P4)。P1とP2は長径83cm、短径763cmの楕円形で、深さ50cmである。それぞれ北西コーナー部と南西コーナー部寄りに位置していることから、主柱穴と考えられる。P3は長径80cm、短径(32)cmの楕円形で、深さ20cmである。南壁寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P4は北西コーナー部に位置し、径43cmの円形で、深さ20cmである。性格は不明である。

ピット土層解説

- P1 1 暗褐色 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量
- P2 1 暗褐色 炭化粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子少量、粘土粒子微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・粘土少量
- 5 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- P3 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- P4 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量

覆土 7層からなり、ブロック状の堆積状況が見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

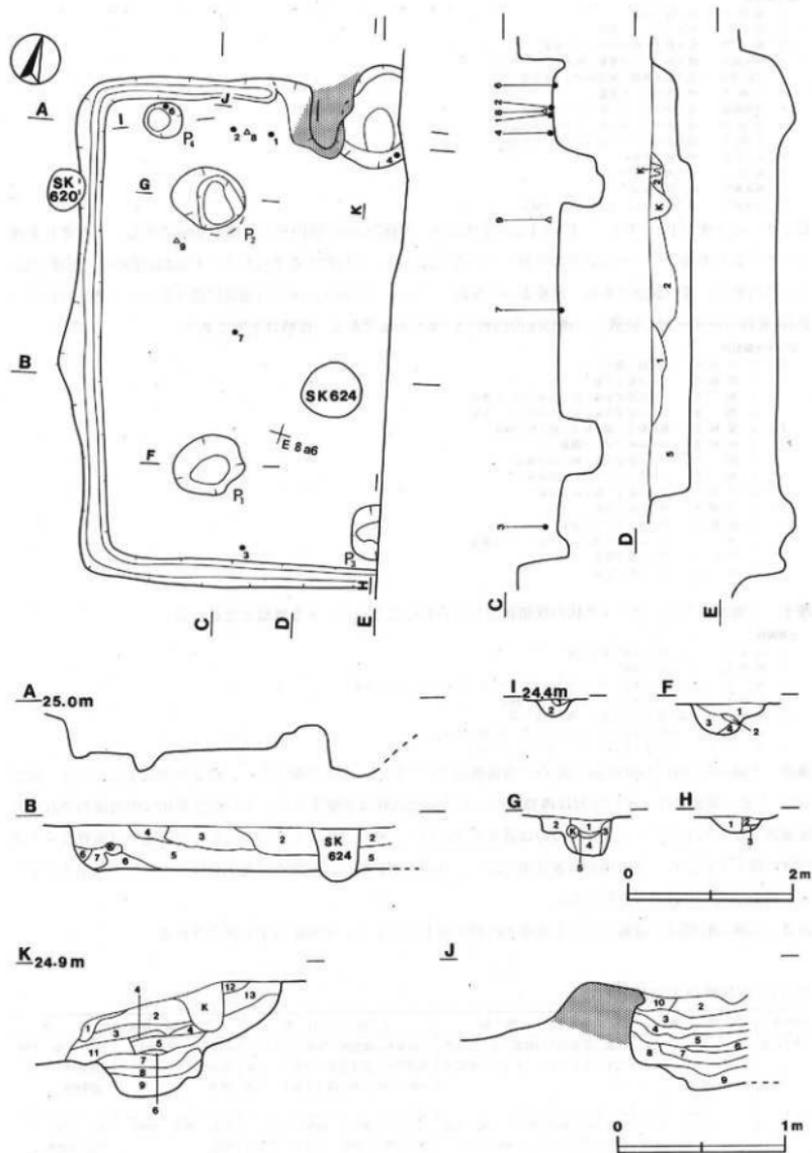
- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム中・小ブロック少量、ローム大ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子多量、ローム中・小ブロック少量

遺物 土師器片276点、須恵器片237点、金属製品6点(短刀、不明鉄製品5)、礫2点が出土している。第255図1と2の須恵器坏、8の短刀は西袖脇の、6の須恵器鉢は北壁寄りの、7の須恵器鉢は中央部のそれぞれ床面直上から出土している。8の短刀は鋒先を北に向け、横位で出土している。3の須恵器坏は南壁寄りと南西部の覆土下層から、4の須恵器壺は竈内から、9の不明鉄製品は西袖脇の覆土下層からそれぞれ出土している。断面が角状で釘の可能性がある。

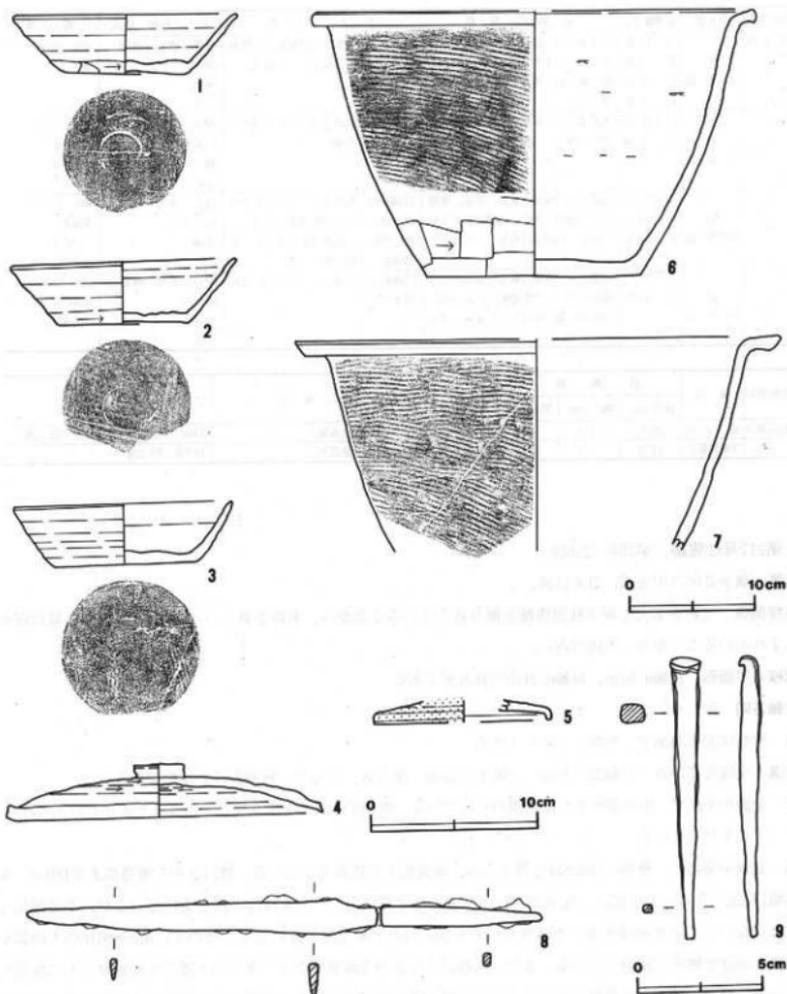
所見 本跡の時期は、重複している遺構の時期と出土土器から、8世紀後葉と推定される。

第211号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第255図 1	坏 須恵器	A 13.4	平底。体部から口縁部にかけ、内脣気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面クロコナデ。体部外面下位手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り痕を残す手持ちヘラ削り。	石英 雲母 砂粒 灰白色 普通	100% P583 PL85 床直上土 (西袖脇)
		B 3.7				
2	坏 須恵器	A 13.4	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけ、直線的に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面クロコナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り痕を残す手持ちヘラ削り。	長石 雲母 砂粒 橙色 普通	60% P584 体部内面剥離 床直上 (西袖脇)
		B 3.9				
		C 8.0				



第254图 第211号住居跡実測図



第255図 第211号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	寸法(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第255図	3 坏 須恵器	A 13.0	底部から口縁部の破片。平底。腰部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面クロナデ。底部回転へラ切り痕を残す手持ちへラ削り。	長石 石英 砂粒 黄灰色 普通	50% P585 PL85 覆土上層 (南隣寄り) 覆土下層 (南西部)
		B 3.7				
		C 8.4				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第255図	4 壺 須恵器	A 19.0	つまみから口縁部の破片。扁平ボタン状のつまみを持ち、天井部は平坦で緩やかに開く。口縁部は屈曲し垂下する。	つまみ、天井部から口縁部内・外面ロクロナデ。頂部回転ヘラ削り。	石英 雲母 砂粒 礫 灰白色 不良	60% PS66 甕内
		B 3.2				
		F 3.1				
		G 0.9				
5	壺 須恵器	A [10.6] B (1.3)	天井部から口縁部の破片。天井部は平坦に開く。口縁部は屈曲し垂下する。	天井部から口縁部内・外面ロクロナデ、外面自然焼。	砂粒 灰白色 釉 灰オリーブ色 良好	5% PS69 甕土中層 (東西部)
		A [35.6] B 21.1 C 16.8	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、つまみ上げられる。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面上位から中位にかけて平行引き。下位ヘラ削り。体部内面輪襷のみ。底部回転ヘラ削り後、ヘラナデ。	灰石 雲母 砂粒 灰白色 普通	40% PS87 床面直上 (北側寄り)
7	鉢 須恵器	A [38.5] B (16.8)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行引き。	灰石 雲母 砂粒 灰白色 普通	20% PS68 床面直上 (中央部)

図版番号	種別	計測値 (cm)				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第258図	短刀	(20.6)	1.3	0.4	(25.8)	甕土下層 (甕西袖部)	M84 PL103 間部付近一部欠損
9	不明敷製品	11.4	1.2	0.75	28.0	甕土下層 (西側寄り)	M106 PL108

### 第212号住居跡 (第256~259図)

位置 調査Ⅲ区の中央部、D 8 j1区。

重複関係 本跡が第62号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから、本跡が新しい。また、第623号土坑に掘り込まれていることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸6.94m、短軸6.24mの長方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は30~34cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅22~40cm、下幅8~27cm、深さ8~12cmで、断面形はU字形である。

床 全面が平坦で、中央部がよく踏み固められている。西側半分の床を掘り残して10cmほど盛り上がり、ベッド状を呈している。

竈 北壁中央部に、壁外へ100cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道部まで180cm、両袖幅160cmである。火床部は、床面を8cmほど掘りくぼめている。火床面は火熱を受けているが、赤変硬化してはいない。この火床部中央やや西寄りにP L100-24の土製支脚を埋め込み、その上に第258図16の土師器小形甕を逆位で被せて使用している。また、両袖部には9の土師器甕など、多くの土器片を補強材として使用している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。竈の覆土は17層(第1~17層)に、袖部の土層は3層(第18~20層)に分けられた。

#### 覆土層解説

- 暗褐色 焼土粒子微量
- 紅褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量
- 紅褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化粒子微量
- 紅褐色 焼土小ブロック・粘土少量、炭化物・炭化粒子微量
- 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子・焼土小ブロック微量
- 暗赤褐色 炭化粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 暗赤褐色 焼土小ブロック・粘土中量、炭化粒子少量
- 紅褐色 粘土中ブロック中量、焼土粒子少量、焼土粒子微量
- 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、炭化粒子微量

10	にひ赤褐色	粘土粒子多量、焼土粒子微量
11	明赤褐色	焼土大ブロック多量、焼土小ブロック・粒子中量
12	にひ赤褐色	粘土粒子多量、焼土小ブロック中量
13	暗赤褐色	炭化物・焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
14	暗赤褐色	炭化物・焼土粒子少量
15	暗赤褐色	炭化粒子中量、焼土粒子微量
16	暗赤褐色	焼土粒子少量、炭化粒子微量
17	暗褐色	焼土粒子微量
18	にひ赤褐色	焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
19	にひ赤褐色	粘土粒子少量
20	にひ赤褐色	粘土大ブロック多量、砂中量

ピット 5か所 (P1～P5)。P1からP4は長径38～89cm、短径32～70cmの楕円形または不整形楕円形で、深さ52～74cmである。いずれも各コーナー部寄りに位置していることから、主柱穴と考えられる。P5は長径72cm、短径62cmの不整形楕円形で、深さ29cmである。南壁寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

#### ピット土層解説

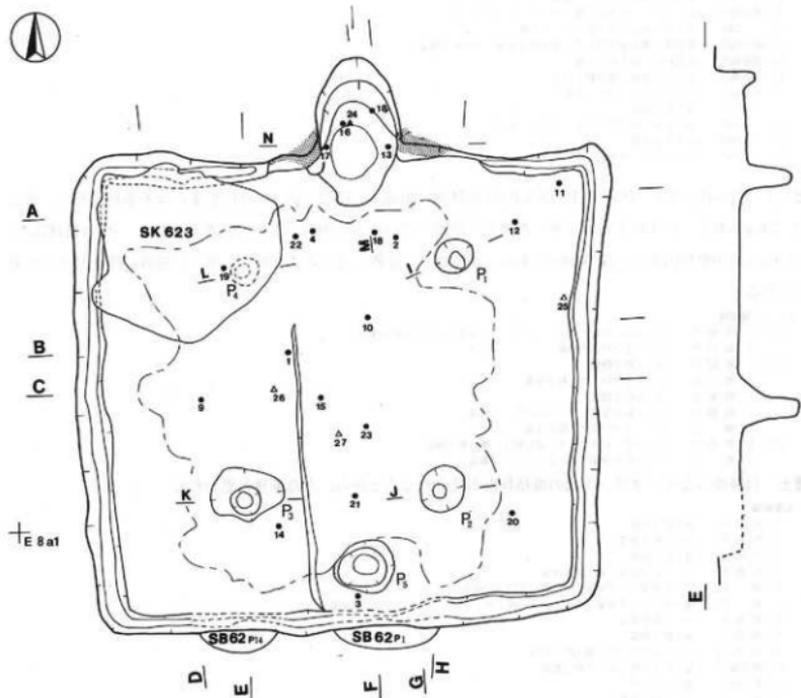
P1	1	暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
	2	暗褐色	ローム小ブロック微量
P2	1	暗褐色	ローム粒子微量
	2	褐色	ローム小ブロック・粒子少量
P3	1	暗褐色	ローム粒子微量
	2	暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
	3	褐色	ローム小ブロック・粒子少量
P4	1	暗褐色	ローム中・小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
	2	褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

覆土 14層からなり、ブロック状の堆積状況が見られることから、人為堆積と思われる。

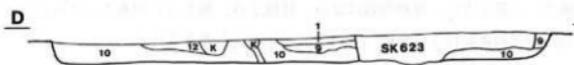
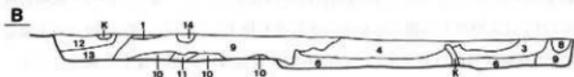
#### 土層解説

1	暗褐色	焼土粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子少量
3	暗褐色	焼土粒子中量
4	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
5	褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
6	褐色	焼土中ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック微量
7	暗褐色	ローム粒子微量
8	暗褐色	焼土粒子微量
9	暗褐色	ローム中ブロック・焼土粒子微量
10	暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量
11	暗赤褐色	焼土粒子少量
12	褐色	ローム粒子少量
13	褐色	焼土粒子微量
14	暗褐色	炭化粒子微量

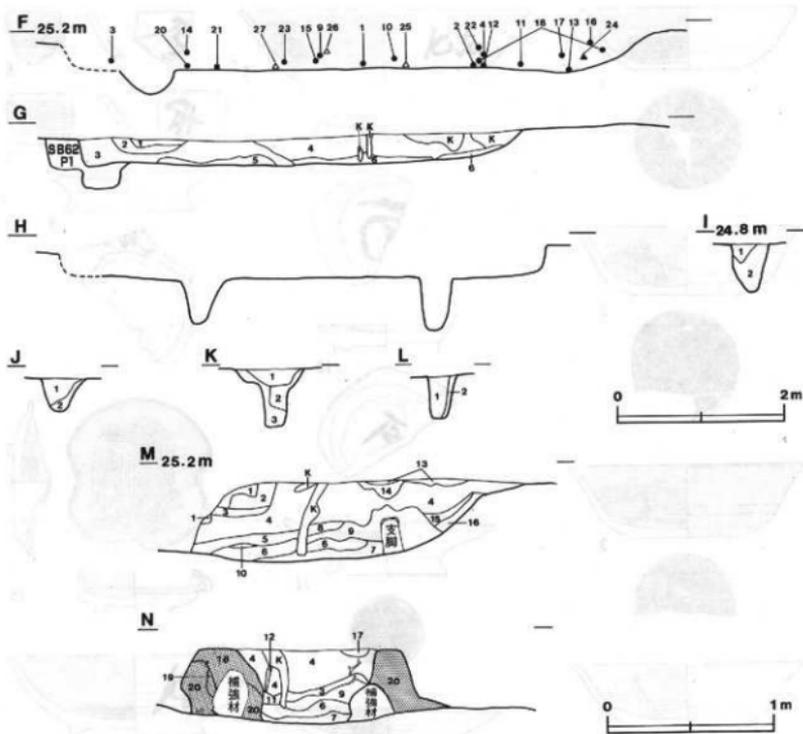
遺物 土師器片1249点、須恵器片663点、灰軸陶器片10点、緑軸陶器片2点、土製品1点(支脚)、金属製品3点(刀子、鉄鏃、不明鉄製品)、瓦1点(平瓦)が出土している。第258図1の土師器坏、10の土師器高台付坏、15の土師器耳皿、第259図23の緑軸陶器稜碗、27の鉄鏃は中央部の、第258図2の土師器坏は竈手前の、3の土師器坏と21の灰軸陶器長頸瓶は南壁寄りの、11の土師器高台付杯は北東コーナー部の、20の灰軸陶器碗は南東コーナー部の、第259図25の刀子は東壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。第258図14の土師器高台付皿は南壁寄りの、第259図22の緑軸陶器碗は竈手前の、26の不明鉄製品は中央部の覆土中層から出土している。第258図12の土師器高台付皿は北東コーナー部の床面直上から、13の土師器高台付皿、16の土師器小形甕、第259図18の土師器甕、P L100-24の土製支脚は竈内から、17の土師器甕は西袖部内から、28の平瓦は覆土上層からそれぞれ出土している。第258図10を含め、5～9は土師器の坏または高台付坏で、それぞれ墨書が施されているが、文字の共通性はみられない。また、本跡から出土した灰軸陶器片は10点(碗3点、高台付皿1点、長頸瓶2点、手付小瓶2点、皿2点)、緑軸陶器は2点(稜碗1点、碗1点)である。これらはすべて築設産産であり、折戸53号窯式の灰軸陶器碗2点を除いて、黒征90号窯式と考えられる。



A 25.2 m



第256图 第212号住居跡实测图(1)

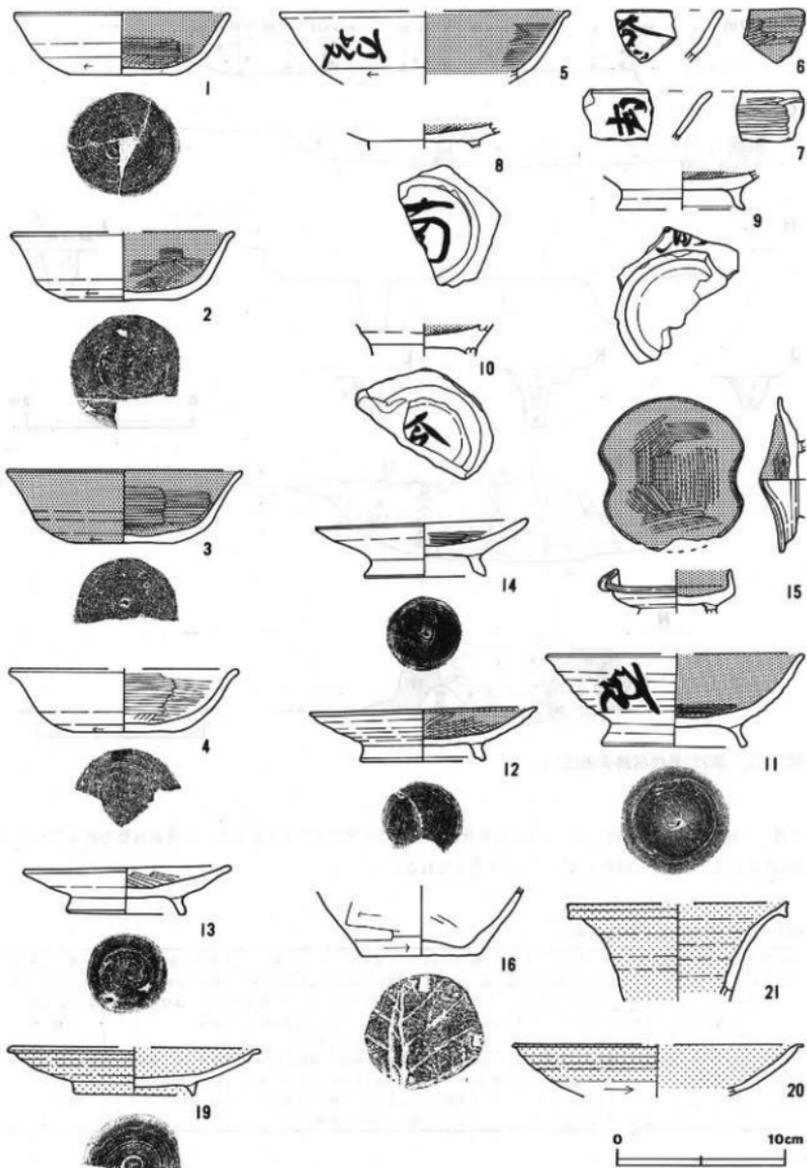


第257図 第212号住居跡実測図(2)

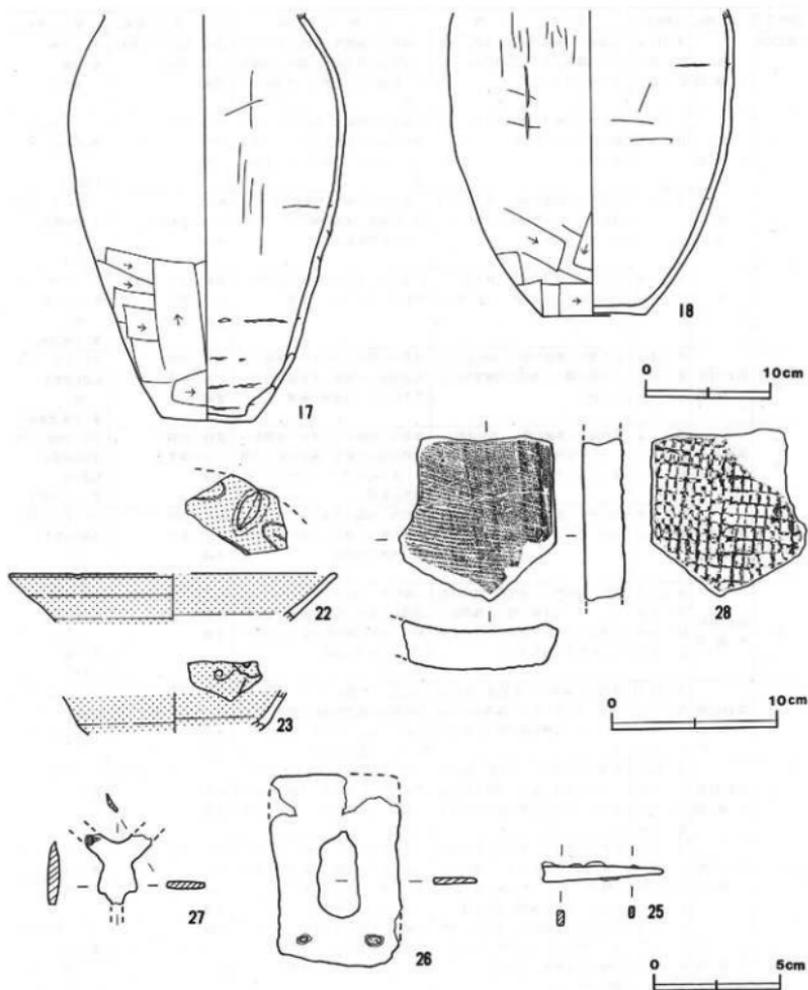
所見 本跡の時期は、重複している掘立柱建物跡と土坑の時期及び出土土器から、10世紀前葉と推定される。第623号土坑とはあまり時期差はないものと考えられる。

第212号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	目録値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・造成	備考
第258図 1	坏	A 12.8	底部から口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。体部から底部内面へラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	赤母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	50% P500 PL&S 置土上層-下層 (中央部)
	土師器	C 6.0				
	坏	A 13.2	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、外反する。下位に不明瞭な機を持つ。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。体部から底部内面へラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	スコリア 砂粒 にぶい褐色 普通	60% P501 PL&S 置土下層 (電子版)
2	土師器	B 4.1				
	土師器	C 6.4				



第258图 第212号住居跡出土遺物実測図(1)



第259図 第212号住居跡出土遺物実測図(2)

国取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第258回 3	坏 土器	A 14.0	底部から口縁部の破片。平底。体部	口縁部から体部内・外面クロコナデ。	雲母 砂粒 褐色色 普通	50% P592 履土下層 (陶甕寄り)
		B 4.4	から口縁部にかけて、内彎気味に立ち	体部外面下原回転ヘリ割り。体部から		
		C 6.0	上がり、外反する。下位に不明瞭な	底部内面ヘリ磨き。底部回転ヘリ		
			稜を持つ。	割り。内・外面黒色処理。		

図版番号	器種	器高値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第258図	4 土師器	A [13.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。口縁部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。	雲母 スコリア 砂粒 にぶい橙色 普通	50% P583 夏土中層 (電手前)
		B 4.3				
		C 6.0				
5	土師器	A [17.4]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。口縁部から底部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	雲母 砂粒 橙色 普通	20% P594 PL86 体部外面磨き 「万口」 P2層土中
		B (4.4)				
6	土師器	B (2.2)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部内面から底部内面にかけてヘラ磨き。内面黒色処理。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	5% P595 PL86 体部外面磨き 「念」 夏土下層
		B (3.0)				
7	土師器	B (3.0)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部から底部内面ヘラ磨き。	長石 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	5% P596 PL86 体部外面磨き 「則」 夏土中層(南東部)
		B (1.5)				
8	高台付坏土師器	B (1.5)	高台部から体部の破片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部から底部内面ヘラ磨き。高台貼り付け、ロクロナデ。内面黒色処理。	長石 砂粒 にぶい橙色 普通	20% P599 PL86 底部外面磨き 「南」 夏土上層(北東部)
		E (0.6)				
9	高台付坏土師器	B (2.3)	高台部から体部の破片。高台は長く、「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け、ロクロナデ。内面黒色処理。	雲母 砂粒 にぶい黄橙色 普通	10% P600 PL86 体部外面磨き・ 羽根不能 夏土中層(西暦者?)
		D [7.7]				
		E 1.2				
10	高台付坏土師器	B (2.0)	高台部から体部の破片。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	10% P601 PL86 底部外面磨き 「台」 夏土下層(中央部)
		E (0.7)				
11	高台付坏土師器	A [15.4]	体部と口縁部の一部欠損。高台は長く、「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け、ロクロナデ。内面黒色処理。	石英 雲母 砂粒 黄褐色 普通	30% P598 PL85 体部外面磨き 「万口」 夏土下層 (北東コーナー部)
		B 5.8				
		D 8.8				
		E 1.3				
12	高台付甗土師器	A [13.6]	体部と口縁部の一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて、内彎気味に開き、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。口縁部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け、ロクロナデ。内面黒色処理。	雲母 スコリア 砂粒 にぶい黄橙色 普通	70% P603 PL85 床面直上 (北東コーナー部)
		B 3.2				
		D 7.6				
		E 1.0				
13	高台付甗土師器	A 12.2	体部と口縁部の一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて、内彎気味に開き、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。口縁部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け、ロクロナデ。	雲母 スコリア 砂粒 橙色 普通	80% P604 PL85 甗内
		B 3.0				
		D 7.0				
		E 1.0				
14	高台付甗土師器	A 12.6	体部と口縁部の一部欠損。高台は長く、「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて、内彎気味に開き、外反する。下位に不明瞭な線を持つ。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。高台貼り付け、ロクロナデ。内面黒色処理。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	80% P602 PL85 夏土中層 (南暦者?)
		B 3.4				
		D 7.2				
		E 1.2				
15	耳皿土師器	A 9.5	高台部から口縁部の一部欠損。体部から口縁部にかけて、内彎気味に開き、口縁部は2側面が内側に丸く、折り曲げられている。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	砂粒 にぶい橙色 普通	70% P605 PL86 夏土下層 (中央部)
		B (2.7)				
		E (0.5)				
16	小形甗土師器	B (4.1)	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。体部外面下位ヘラ削り。内面一部ヘラナデ。底部木葉灰。	長石 石英 雲母 砂粒 橙色 普通	20% P606 甗内 支脚処理
		C 7.0				
第259図	17 土師器	B (32.4)	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。体部外面下位ヘラ削り。内面一部ヘラナデ・輪轆み灰。底部ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	60% P607 甗内 西縁部補修材
		C 7.0				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第259図 18	甕 土 師 器	B (24.5) C 8.0	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ、一部ヘラナデ。体部外面下位へつ削り、内面輪襷み痕。底部ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 褐色 青濁	50% P608 甕内
第258図 19	高台付埋 灰輪陶器	A [14.6] B 3.9 D 7.0 E 0.8	高台部から口縁部の破片。高台は三角形で短く、「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけ、内彎気味に開き、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転へつ削り。高台取り付け、ロクロナデ。	砂粒 灰白色 良好 無輪襷地	20% P610 甕土下層 築牧産 (黒野30号産)
20	碗 灰輪陶器	A [17.2] B ( 3.1)	口縁部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ、内彎気味に立ち上がり、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転へつ削り。内・外面施釉。つけがけ。	石英 砂粒 灰黄色 釉 オリーブ黄色 良好	20% P609 甕土下層 (南宮コーナ一部) 築牧産 (折戸33号産)
21	長頸瓶 灰輪陶器	A [13.0] B ( 5.9)	頸部から口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がり、つまみ上げられている。	口縁部から頸部内・外面ロクロナデ。内・外面施釉。刷毛塗り。	長石 砂粒 灰黄色 釉 灰オリーブ色 良好	10% P611 甕土下層(南宮寄り) 築牧産 (黒野30号産)
第259図 22	碗 緑輪陶器	A [19.4] B ( 2.9)	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけ、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。内面に突体を持つ。口縁部は輪花とする。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部内面へつ削り。内面花文彫刻・施釉。刷毛塗り。	砂粒 灰白色 釉 オリーブ黄色 良好	5% P613 PL85 甕土中層(電子鏡) 築牧産 (黒野30号産)
23	椀 緑輪陶器	B ( 2.4)	体部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、下位に明瞭な稜を持つ。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面へつ削り。内面花文彫刻・施釉。刷毛塗り。	砂粒 灰白色 釉 オリーブ黄色 良好	5% P612 PL86 甕土下層(中央部) 築牧産 (黒野30号産)

写真 図版番号	種別	最大径 最小径				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
PL100 表	土製文書	24.0	13.4	(9.8)	2180.4	甕内(火床部)	D P103 被熱痕 写真のみ掲載

図版番号	器種	計 測 値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第259図26	刀 子	( 4.8)	0.6	0.3	( 3.68)	甕土下層(東壁寄り)	M85 PL103 茎部
26	不明鉄製品	7.8	5.3	0.2	17.32	甕土中層(中央部)	M86 PL109
27	鉄 鑑	( 2.8)	2.7	0.3	( 4.06)	甕土下層(中央部)	M87 PL106 銚部、茎部欠損。 木實付着

図版番号	器種	計 測 値				器形・手法の特徴	備考(台帳番号, 出土位置, 色調など)
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第259図28	平 瓦	(10.0)	( 9.4)	2.9	(268.7)	凸面格子印き。 凹面竜目痕。	T100 PL111 甕土上層 にぶい黄褐色

### 第213号住居跡(第260~263図)

位置 調査Ⅲ区の東部, D 8h4区。

重複関係 本跡は第632号土坑に掘り込まれていることから, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸6.62m, 短軸5.09mの長方形である。

主軸方向 N-7°-E

壁 壁高は15~20cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁の一部を除いて巡っている。上幅22~42cm, 下幅5~14cm, 深さ4~10cmで, 断面形はU字形である。

床 全面が平坦で、竈手前から南壁付近の中央部がよく踏み固められている。また、西側半分の床はロームを掘り残して、8~12cmほど盛り上がり、ベッド状を呈している。

竈 北壁中央部に、壁外へ100cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道まで145cm、両袖幅156cmである。袖部の張り出しは少ない。焚口部と火床部は、焚口部の手前の床面を38cmほど掘りくぼめ、暗赤褐色土や褐色土などを貼り、平らな焚口と火床面が作られている。火床面部分の掘り方の深さは20cmである。火床面は火熱を受け、煙道西側にかけて赤変硬化している。この煙道の中央やや東寄りに第262図6の土師器甕を逆位で設置し、支脚として使用している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。竈の覆土層は10層（第1~10層）に、掘り方の土層は9層（第11~19層）に、袖部の土層は2層（第20・21層）に分けられた。

#### 覆土層解説

1	黒褐色	ローム大ブロック微量
2	暗赤褐色	焼土粒子微量
3	暗褐色	焼土小ブロック・粒子少量
4	暗赤褐色	焼土粒子少量、炭化粒子微量
5	LSA暗褐色	焼土小ブロック・粒子中量、炭化粒子少量
6	LSA黄褐色	粘土粒子多量、粘土中ブロック中量、炭化粒子・焼土粒子微量
7	LSA黄褐色	粘土粒子中量、炭化粒子微量
8	暗褐色	炭化粒子・焼土粒子微量
9	LSA暗褐色	焼土粒子多量、焼土中・小ブロック中量、焼土中ブロック少量
10	暗赤褐色	炭化粒子中量、焼土小ブロック・粒子少量
11	暗褐色	ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量、焼土粒子少量
12	褐色	ローム中ブロック多量、焼土小ブロック少量
13	暗赤褐色	炭化物多量
14	赤褐色	焼土大ブロック中量
15	黄褐色	ローム中ブロック多量
16	LSA暗褐色	粘土大ブロック多量
17	赤褐色	ローム中ブロック中量、炭化物少量
18	褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
19	暗赤褐色	炭化粒子・焼土粒子微量
20	LSA暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
21	暗赤褐色	炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量

ピット 3か所（P1~P3）。P1は中央部南東コーナー寄りに位置し、径62cmの円形で、深さ85cm、P2は中央部南西コーナー寄りに位置し、長径54cm、短径48cmの楕円形で、深さ63cmである。いずれも主柱穴と考えられる。P3は径33cmの円形で、深さ18cmである。南壁寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

#### ピット土層解説

P1	1	暗褐色	ローム粒子少量
	2	褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量
	3	褐色	ローム小ブロック・粒子中量
	4	暗褐色	ローム粒子少量、ローム中・小ブロック微量
P2	1	暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
	2	褐色	ローム粒子中量
	3	暗褐色	ローム粒子少量

覆土 19層からなり、ブロック状の堆積状況が見られることから、人為堆積と思われる。

#### 土層解説

1	暗褐色	焼土粒子微量
2	褐色	ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量
3	褐色	ローム小ブロック・焼土粒子中量、ローム大ブロック少量
4	暗褐色	ローム粒子微量
5	暗褐色	ローム中ブロック微量
6	暗褐色	ローム大・小ブロック微量
7	暗褐色	ローム粒子少量
8	暗褐色	ローム中・小ブロック・焼土粒子微量
9	暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子微量
10	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
11	褐色	焼土粒子少量
12	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量
13	暗褐色	炭化材・炭化粒子微量
14	褐色	ローム粒子少量
15	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量

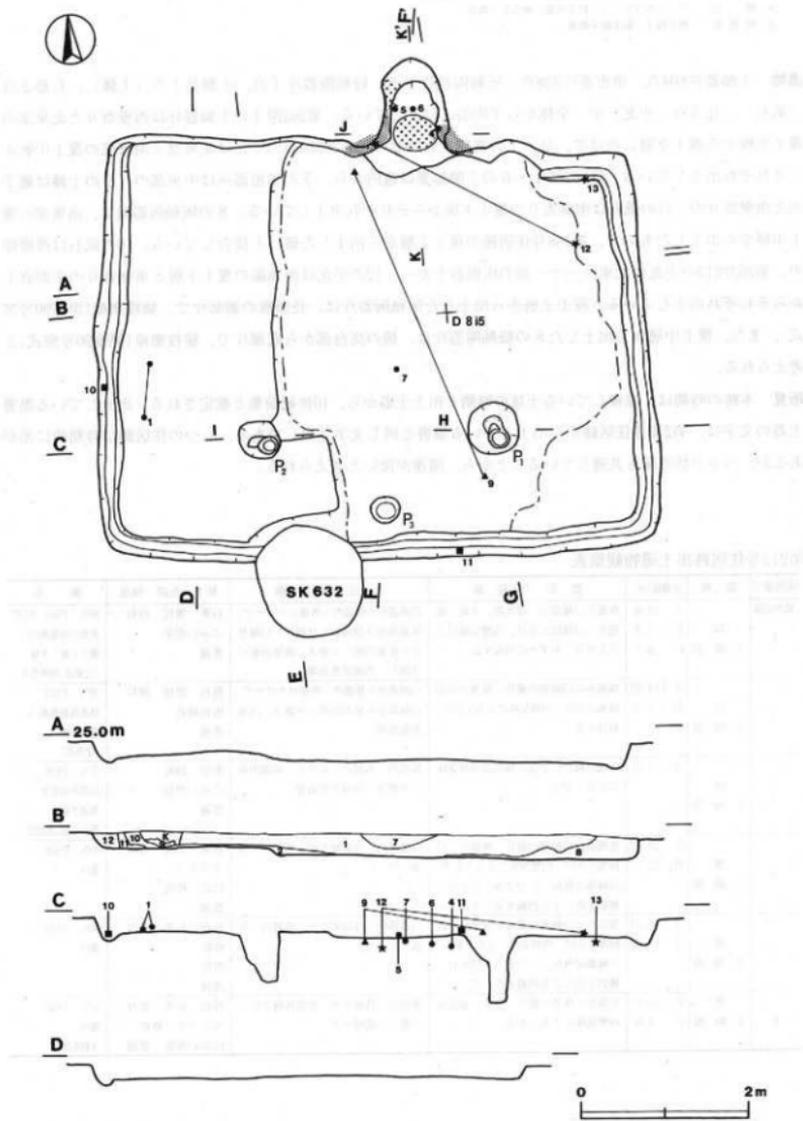
16	褐色	炭化灰土少量
17	褐色	ローム小ブロック・粒子少量、ローム中ブロック微量
18	褐色	ローム小ブロック・粒子中量、焼土粒子微量
19	暗褐色	焼土粒子・粘土粒子微量

遺物 土師器片604点、須恵器片328点、灰釉陶器片1点、緑釉陶器片1点、土製品1点(土錘)、石器2点(砥石)、瓦3点(平瓦)が、全体から平均的に出土している。第262図1の土師器坏は西壁寄りと北東部の覆土上層から覆土下層にかけて、2の土師器坏は北西部の、第263図14の平瓦は北東部と南東部の覆土中層からそれぞれ出土している。第262図4～6の土師器壺は竈内から、7の須恵器坏は中央部の、9の土錘は竈手前と南壁寄りの、11の砥石は南壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。8の灰釉陶器碗は、南東部の覆土中層から出土したもので、第168号住居跡の覆土上層から出土した破片と接合している。10の砥石は西壁際の、第263図13の平瓦は北東コーナー部の床面直上から、12の平瓦は西軸脇の覆土下層と東壁寄りの床面直上からそれぞれ出土している。覆土上層から出土した灰釉陶器片は、長頸瓶の頸部片で、猿投窯産(黒笹90号窯式)、また、覆土中層から出土した8の緑釉陶器片は、碗の高台部から底部片で、猿投窯産(黒笹90号窯式)と考えられる。

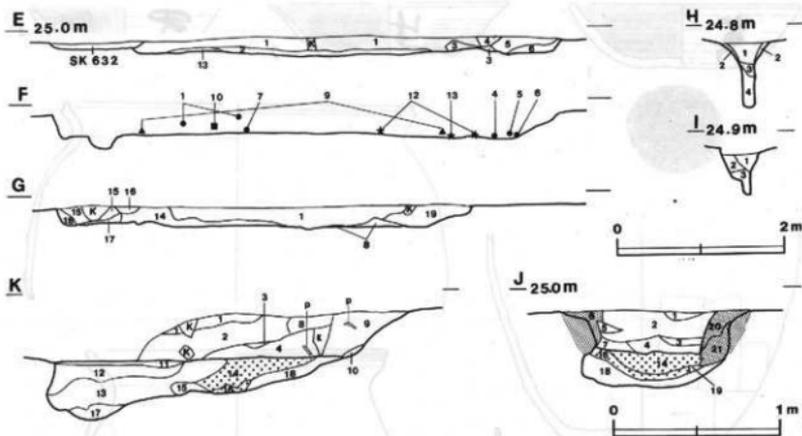
所見 本跡の時期は、重複している土坑の時期と出土土器から、10世紀前半と推定される。出土している墨書土器の文字は、第210号住居跡から出土している墨書と同じ文字「生」である。二つの住居跡は時期的に差があるが、ベッド状の床も共通していることから、関連が深いと考えられる。

第213号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第262図 1	坏 土師器	A 13.6	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。口縁部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	石英 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	80% P614 P187 体部外面磨削「生」 覆土上層～下層 (北東部、西壁寄り)
		B 3.9				
		C 5.7				
2	坏 土師器	A [14.2]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。口縁部から底部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	長石 雲母 砂粒 灰黄褐色 普通	10% P615 体部外面磨削「生」 覆土中層 (北西部)
		B (3.3)				
3	坏 土師器	B (1.9)	体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	5% P616 体部外面磨削・ 料泥不産 覆土上層(北西部)
4	壺 土師器	A [20.6]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、つまみ上げられ、棒状工具による凹線を施す。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	石英 雲母 砂粒 スクリア にぶい橙色 普通	20% P618 竈内
		B (12.1)				
5	壺 土師器	A [18.2]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がる。口縁部は外反し、つまみ上げられ、棒状工具による凹線を施す。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 橙色 普通	30% P619 竈内
		B (15.7)				
6	壺 土師器	B (12.4) C 9.6	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。体部外面下位ヘラ削り。底部ナデ。	長石 石英 雲母 スクリア 砂粒 にぶい橙色 普通	50% P620 竈内 支脚処理



第260图 第213号住居跡実測图(1)



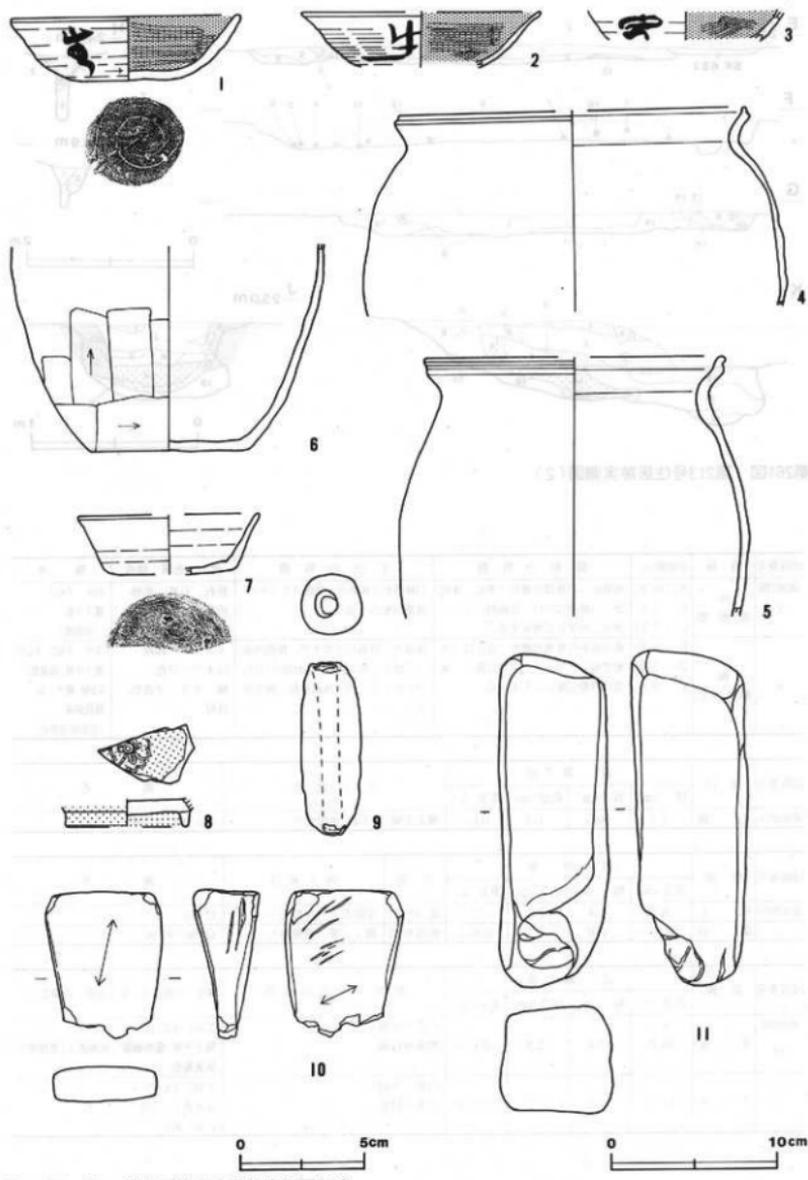
第261図 第213号住居跡実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第262図 7	坏 須恵器	A [10.8]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、直線的に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石 石英 雲母 砂粒 灰色 普通	40% P617 覆土7層 (中央部)
		B 3.6				
		C [ 7.7]				
8	碗 緑釉陶器	B (1.7)	高台部から体部の破片。高台は三角形で広く、「ハ」の字状に開く。体部は内層気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き、花文珠組。高台貼り付け。ロクロナデ。内・外面施釉、刷毛塗り。	スコリア 砂粒 灰オリーブ色 釉 オリーブ黄色 良好	5% P622 PL87 覆土中層(南東部) SD68 覆土1層 敷設段階 [照準的号型式]
		D 7.3				
		E 0.9				

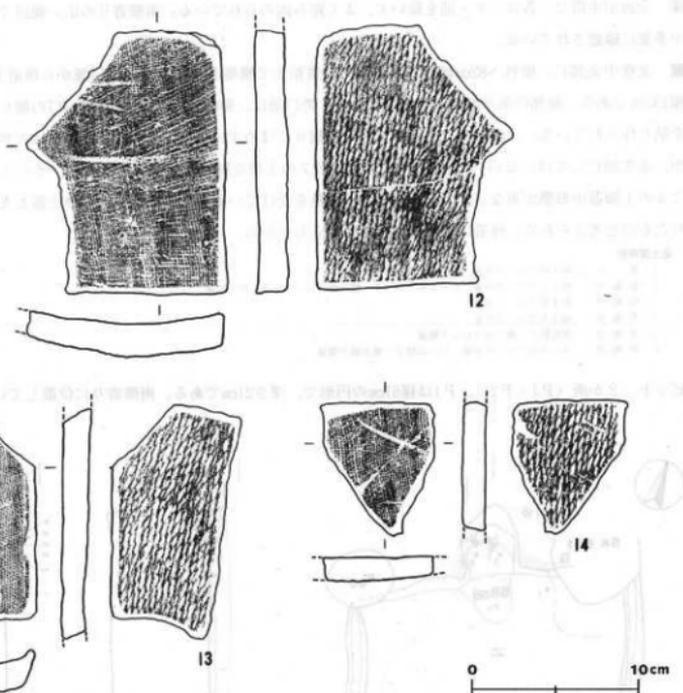
図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第262図9	土 罎	3.7	10.5	1.3	114.2	覆土下層(織手前, 南壁寄り)	DP104 PL98

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第262図10	砥 石	(6.0)	4.8	2.7	(72.2)	流紋岩	床面直上(南壁寄り)	Q105
11	砥 石	20.5	7.0	6.7	1520.7	雲母片岩	覆土下層(南壁寄り)	Q106 PL96

図版番号	器種	計測値				器形・手法の特徴	備考(台帳番号, 出土位置, 色調など)
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第263図 12	平 瓦	(16.0)	(12.0)	2.9	(474.9)	凸面ヘラ削り。 凹面直布痕。	T101 PL112 覆土下層(東西袖脇), 床面直上(東壁寄り) 灰黄褐色
13	平 瓦	(14.1)	( 8.0)	2.5	(213.3)	凸面ヘラ削り。 凹面直布痕。	T102 PL112 床面直上(北東コーナー部) 灰い褐色



第262图 第213号住居跡出土遺物実測図(1)



第263図 第213号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値				器形・手法の特徴	備考(台帳番号、出土位置、色調など)
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第263図 14	平瓦	(7.6)	(7.0)	1.5	(85.4)	凸面ヘラ削り。 凹面布目痕。	T103 PL112 覆土中層(北東部・南東部) にぶい褐色

第214号住居跡(第264・265図)

位置 調査Ⅲ区の中央部、D7d7区。

重複関係 本跡が第68号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから、本跡が新しい。また、第631号土坑と第6号ピット群に掘り込まれていることから、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.70m、短軸3.53mの方形である。

主軸方向 N-15°-E

壁 壁高は30cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北壁を除いて巡っている。上幅14~36cm、下幅4~22cm、深さ8cmで、断面形はU字形である。

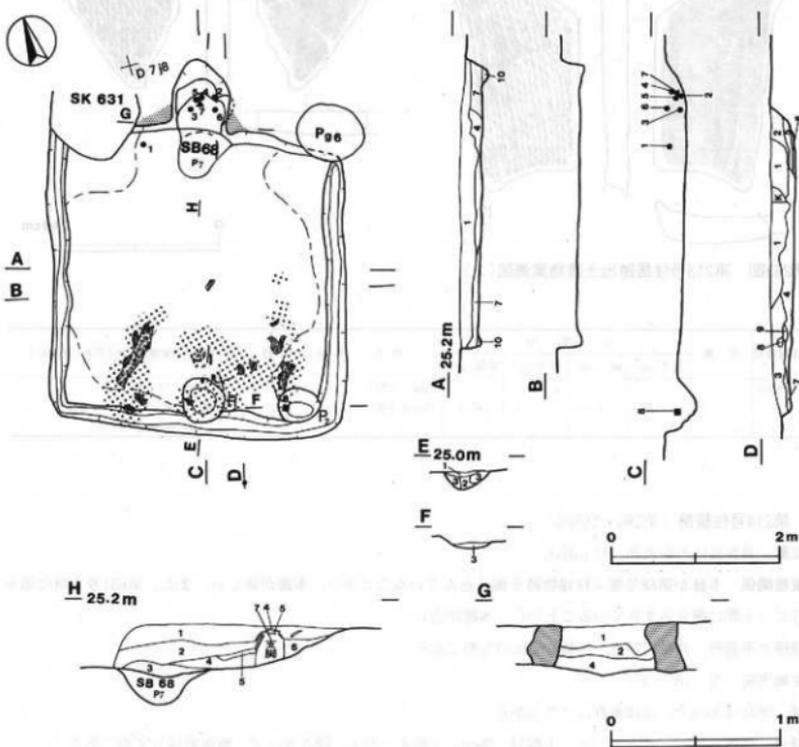
床 全面が平坦で、各コーナー部を除いて、よく踏み固められている。南壁寄りの広い範囲で焼土塊と炭化材が多量に確認されている。

竈 北壁中央部に、壁外へ82cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。焚口部から煙道まで142cm、両袖幅132cmである。袖部の張り出しはほとんどない。焚口部は、第68号掘立柱建物跡のP7の掘り方の上に褐色土を貼り作られている。火床部は、床面をほとんど掘りくぼめずに作られている。火床面は火熱を受けてはいるが、赤変硬化してはいない。火床部中央に第265図7の土製支脚が埋め込まれており、その上に5の土師器甕と4の土師器小形甕が重なって出土している。火熱を受けていることから、これらの土器も支脚として使用されたものと考えられる。煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 褐色 粘土中ブロック中量、焼土中ブロック少量
- 2 暗褐色 粘土小ブロック中量、ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子少量
- 3 暗褐色 粘土中ブロック少量
- 4 黄褐色 粘土大ブロック中量
- 5 黄褐色 灰化粒子・焼土小ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は径51cmの円形で、深さ21cmである。南壁寄りに位置していることから、



第264図 第214号住居跡実測図

出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は南東コーナー部に位置し、長径50cm、短径40cmの楕円形で、深さ12cmである。性格は不明である。

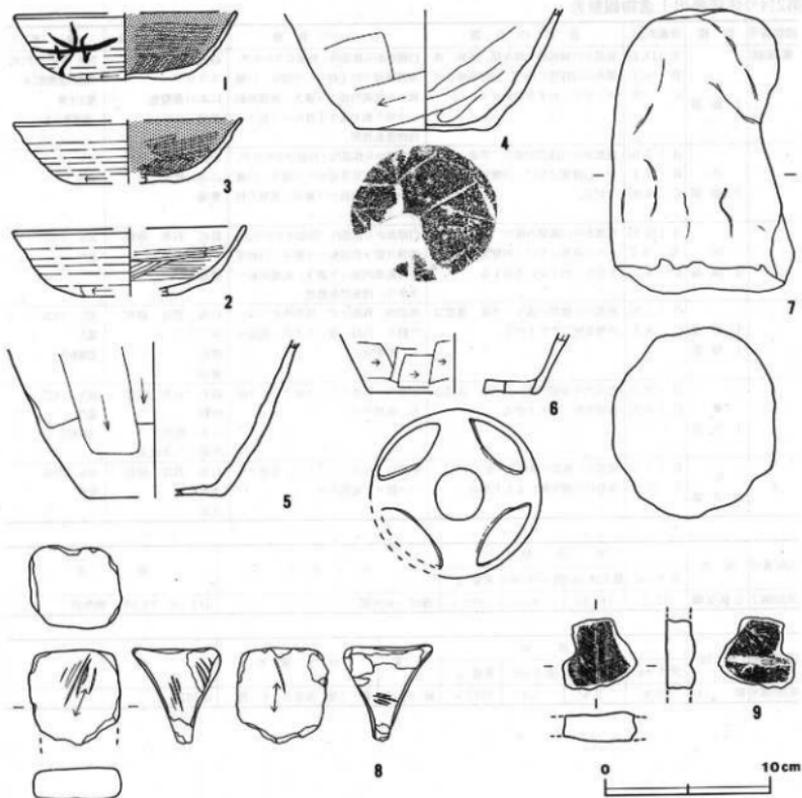
ピット土層解説

- |   |     |                    |
|---|-----|--------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム小ブロック微量         |
| 3 | 暗褐色 | ローム中ブロック少量         |

覆土 9層からなり、ブロック状の堆積状況が見られることから、人為堆積と思われる。10層は塹溝の覆土である。

土層解説

- |    |      |                       |
|----|------|-----------------------|
| 1  | 暗褐色  | ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量 |
| 2  | 暗褐色  | ローム中・小ブロック少量          |
| 3  | 暗褐色  | 炭化粒子・焼土粒子中量           |
| 4  | 暗褐色  | ローム小ブロック・焼土小ブロック少量    |
| 5  | 無暗褐色 | ローム小ブロック少量            |
| 6  | 黒褐色  | 灰多量、ローム粒子微量           |
| 7  | 褐色   | ローム大ブロック中量            |
| 8  | 黒色   | 炭化物中量、炭化粒子少量          |
| 9  | 暗褐色  | 炭化粒子中量                |
| 10 | 褐色   | ローム中ブロック中量            |



第265図 第214号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片325点, 須恵器片91点, 灰釉陶器片4点, 緑釉陶器片2点, 土製品1点(支脚), 石器2点(砥石), 金属製品1点(不明鉄製品), 瓦1点(平瓦), 鉄滓1点, 炭化種子が出土している。遺物は南部に集中し, 覆土上層から多くが出土している。これらの多くは住居廃絶時に投棄された可能性がある。第265図1の土師器坏は西袖手前の覆土上層から出土している。2と3の土師器坏, 4の土師器小形甕, 5の土師器甕, 6の土師器瓶, 7の土製支脚は竈内から出土している。8の砥石は南東コーナー部の覆土下層から, 9の平瓦は南東部の覆土上層からそれぞれ出土している。出土した灰釉陶器片4点は, 碗の体部片3点, 皿の体部から口縁部片1点で, ともに猿投窯産(黒笹90号窯式)である。また, 緑釉陶器片2点は皿の体部から口縁部片で, ともに尾北窯産(篠岡IV号窯式)と考えられる。

所見 本跡は, 多量の焼土と炭化材が確認されていることから, 焼失家屋と考えられる。時期は, 重複している遺構の時期と出土土器から, 10世紀前葉と推定される。

第214号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第265図 1	土師器 坏	A [13.2]	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて, 内彎気味に立ち上がり, わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちヘラ削り。口縁部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り痕を残す手持ちヘラ削り。内面黒色処理。	石英 雲母 砂粒 スコリア にぶい黄褐色 普通	70% P63 PL87 体部外面磨き[本] 覆土上層 (覆西袖手前)
		B 4.0				
		C 5.9				
2	土師器 坏	A [7.0]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて, 内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちヘラ削り。口縁部から底部内面ヘラ磨き。底部手持ちヘラ削り。	石英 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	50% P64 竈内
		B 4.1				
		C [6.0]				
3	土師器 坏	A [13.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて, 内彎気味に立ち上がり, わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。口縁部から底部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	長石 石英 砂粒 にぶい橙色 普通	30% P65 竈内
		B 3.7				
		C [6.6]				
4	土師器 小形甕	B (7.3)	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。体部外面下位ヘラ削り, 内面一帯ヘラナデ。底部ナデ, 木炭漬。	石英 雲母 砂粒 スコリア 橙色 普通	30% P65 竈内 支脚転用
		C 8.4				
5	土師器 甕	B (9.3)	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ, 外面下位ヘラ削り。底部ナデ。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい橙色 普通 二次焼成	10% P67 竈内 支脚転用
		C [8.2]				
6	須恵器 瓶	B (4.7)	底部から体部の破片。平底。5孔式。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ, 外面下位ヘラ削り。底部ナデ。	石英 雲母 砂粒 浅黄褐色 普通	10% P68 竈内
		C 13.2				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	最大径(cm)	最小径(cm)	重量(g)		
第265図7	土製支脚	(17.3)	(11.2)	(8.8)	(1410.1)	竈内(火床部)	DP105 PL100 被焼痕

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第265図8	砥石	(5.8)	5.6	5.1	(147.3)	凝灰岩	覆土下層(南東コーナー部)	Q107

図版番号	器種	計測値				器形・手法の特徴	備考(台帳番号, 出土位置, 色調など)
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第265図 9	平瓦	(4.3)	(4.4)	1.8	(33.0)	凸面ヘラ削り。 凹面布目痕。	T104 PL113 覆土上層(南東部) オリーブ褐色

### 第215号住居跡(第266・267図)

位置 調査Ⅲ区の北部, D7h0区。

重複関係 本跡が第216号住居跡を掘り込んでいることから, 本跡が新しい。また, 第80号掘立柱建物に掘り込まれていることから, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.18m, 短軸2.48mの長方形である。

主軸方向 N-14'-W

壁 壁高は20~25cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅12~22cm, 下幅5~8cm, 深さ6~10cmで, 断面形はU字形である。

床 全面が平坦で, 各コーナー部付近を除いて, よく踏み固められている。

竈 北壁中央部に, 壁外へ22cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。西袖部を第80号掘立柱建物に掘り込まれているため, 焚口部から煙道まで61cm, 両袖幅(90)cmである。袖部の張り出しは少ない。火床部は, 床面を7cmほど掘りくぼめて作られている。火床面は火熱を受け, 赤変しているが, あまり硬化化してはいない。火床部奥の中央に第215図6の土師器小形甕を逆位で据え, その上に1の土師器坏, 3の土師器高台付坏, 4の土師器高台付皿を逆位で重ねて, 支脚として使用している。また, 両袖部に7の土師器甕を埋め込み, 補強材として使用している。煙道は外傾して立ち上がる。

#### 竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック中量
- 2 褐色 焼土小ブロック少量, ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土大ブロック多量
- 4 濃い褐色 粘土大ブロック中量
- 5 赤褐色 焼土中ブロック多量
- 6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

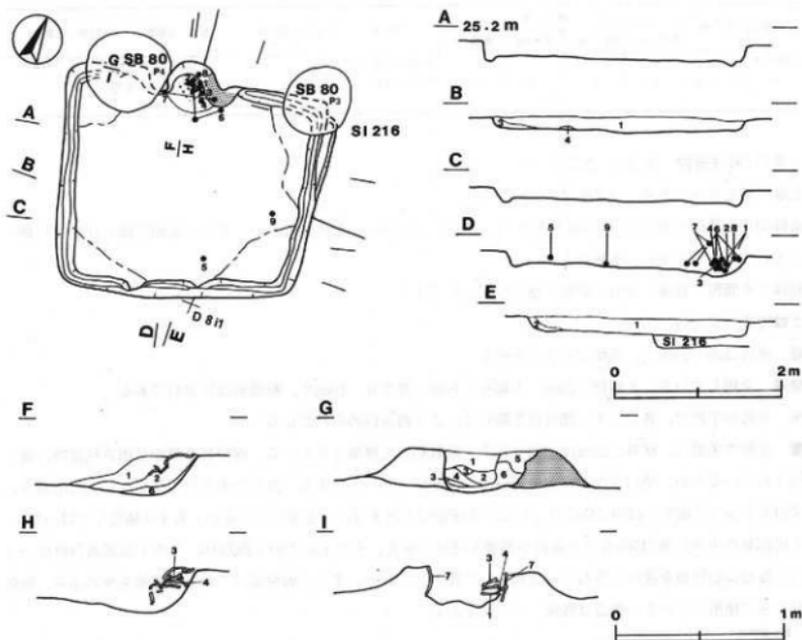
覆土 4層からなり, ブロック状の堆積状況が見られることから, 人為堆積と思われる。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 炭化粒子・焼土粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

遺物 土師器片193点, 須恵器片63点, 土製品1点(不明土製品)が, 北部を中心に出土している。第267図1の土師器坏, 2と3の土師器高台付坏, 4の土師器高台付皿, 6の土師器小形甕, 8の須恵器坏は竈内から出土している。5の土師器高台付皿は南壁寄りの, 9の須恵器坏は東壁寄りの覆土下層から出土している。7の土師器甕は竈両袖内と北西部の覆土上層から出土した破片が接合したものである。1と4と9は共通した墨書または刻書が施されているが, 関連は不明である。

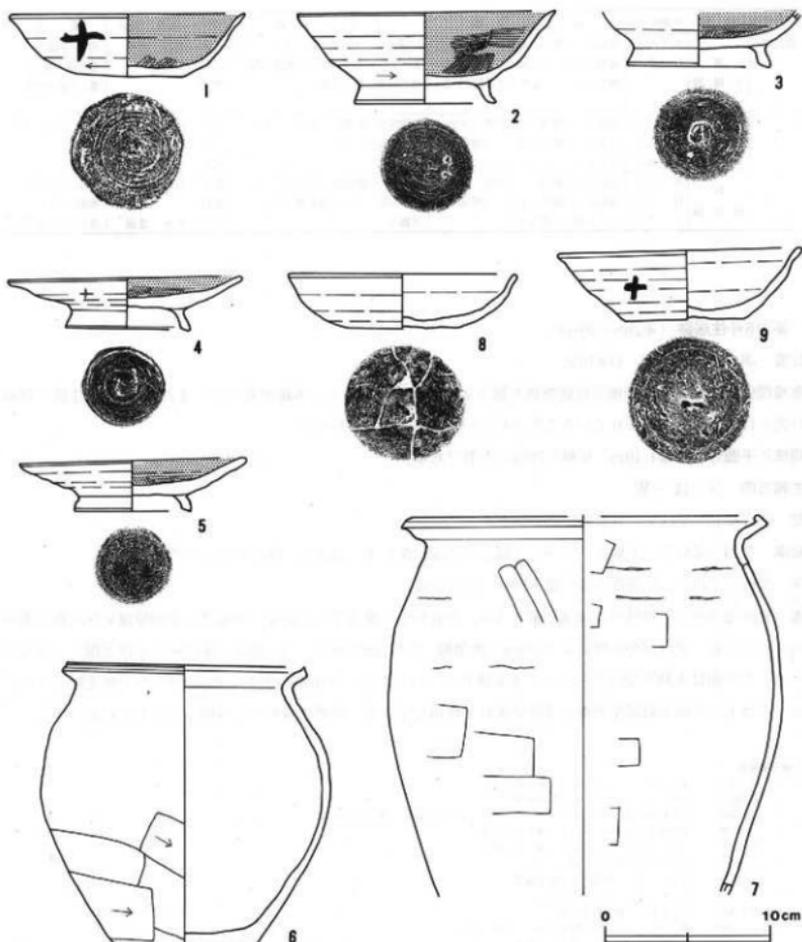
所見 本跡の時期は, 重複している遺構の時期と出土土器から, 10世紀前半と推定される。



第266図 第215号住居跡実測図

第215号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第267図 1	坏 土師器	A 14.1	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。下位に不明瞭な様を持つ。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘタ削り。体部から底部内面ヘタ磨き。底部回転ヘタ削り。内面黒色処理。	石英 雲母 砂粒 スコリア にぶい橙色 普通 二次焼成	90% P629 PL87 体部・口縁部外面 墨者「十」 甕内
		B 3.8				
		C 6.6				
2	高台付坏 土師器	A 15.3	高台部から口縁部の一部欠損。高台は長く、「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、外反する。下位に明瞭な様を持つ。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘタ削り。体部から底部内面ヘタ磨き。底部回転ヘタ削り。高台貼り付け、ロクロナデ。内面黒色処理。	石英 長石 砂粒 赤褐色 普通	90% P632 PL87 甕内
		B 5.6				
		D 8.4				
		E 1.2				
3	高台付坏 土師器	B (3.2)	高台部から体部の破片。高台は長く、「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部から底部内面ヘタ磨き。底部回転ヘタ削り。高台貼り付け、ロクロナデ。内面黒色処理。	雲母 砂粒 にぶい橙色 普通	30% P633 甕内
		D 8.6				
		E 1.2				
4	高台付皿 土師器	A 14.0	体部と口縁部の一部欠損。高台は長く、「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて、内彎気味に開き、わずかに外反する。中位に不明瞭な様を持つ。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部から底部内面ヘタ磨き。底部回転ヘタ削り。高台貼り付け、ロクロナデ。内面黒色処理。	石英 雲母 砂粒 スコリア にぶい橙色 普通	80% P634 PL87 体部外面割きまたは ヘタ記号「十」 甕内
		B 3.3				
		D 7.4				
		E 1.2				



第267図 第215号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第267図 5	高台付皿 土師器	A 13.4	体部と口縁部の一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて、内響気味に閉き、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面口ロナデ。体部から底部内面にかけてへら磨き。底部周縁へつり。高台貼り付け、口ロナデ。内面黒色処理。	石灰 雲母 砂粒 褐色 普通	80% P635 PLR 履上下層 (由禮有り)
		B 3.3				
		D 6.9				
		E 1.0				
6	小形壺 土師器	A 14.2	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内響気味に立ち上がる。口縁部は強く外反し、つまみ上げられ、棒状工具による凹線を透らす。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ、体部外面下位へつり。底部ナデ。	長石 石灰 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	50% P636 壺内
		B 17.2				
		C 8.4				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第267図 7	壺 土師器	A [20.8]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、強く外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。一部ヘラナデ・輪襷み直。体部外面下位へラ張り。	石英 雲母 砂粒 にぶい黄褐色 普通	50% P 637 甕内(甕西袖内) 置土層上(北西部)
		B (23.0)				
8	坏 須恵器	A 13.6	底部から口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面クロロナデ。底部回転へラ切り。	長石 石英 雲母 スコリア 砂粒 褐色 普通	50% P 630 PL 87 甕内
		B 3.8				
		C 6.8				
9	坏 須恵器	A 14.7	底部から口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、外反する。	口縁部から体部内・外面クロロナデ。底部回転へラ切り直を残す手持ちへラ張り。	長石 石英 雲母 砂粒 にぶい棕色 普通	70% P 631 PL 87 体部外面部着「十」 置土層下(東壁寄り)
		B 4.2				
		C 7.3				

### 第216号住居跡 (第268・269図)

位置 調査Ⅲ区の北部，D 8 h1区。

重複関係 本跡が第71号掘立柱建物跡を掘り込んでいることから、本跡が新しい。また、第215号住居と第80号掘立柱建物に掘り込まれていることから、いずれよりも本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.10m，短軸3.76mの方形である。

主軸方向 N-14°-W

壁 壁高は40～62cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅29～40cm，下幅2～10cm，深さ4～12cmで、断面形はU字形である。

床 全面が平坦で、中央部がよく踏み固められている。

竈 北壁中央部に、壁外へ32cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。西袖部を第80号掘立柱建物に掘り込まれている。焚口部から煙道まで146cm，両袖幅(155)cmである。火床部は、床面を5cmほど掘りくぼめている。火床面は火熱を受けているが、赤変硬化してはいない。火床部の中央に第269図5の土製支脚を埋め込み、その上に1の土師器小形甕を逆位で重ねて使用している。煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。

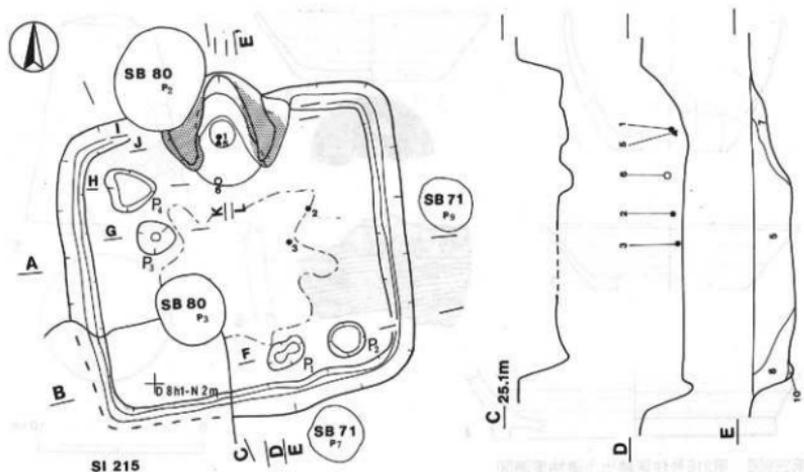
#### 甕土層解説

- 1' 暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子・焼土粒子・粘土粒子微量
- 3 にぶい暗褐色 粘土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子微量
- 4 にぶい暗褐色 炭化粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量
- 5 暗褐色 炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
- 6 暗褐色 炭化粒子・焼土粒子微量
- 7 黄褐色 粘土中ブロック中量，焼土粒子微量
- 8 にぶい暗褐色 粘土粒子少量，焼土粒子微量
- 9 灰黄褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 10 にぶい暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子少量
- 11 にぶい暗褐色 粘土小ブロック中量，焼土粒子微量
- 12 暗褐色 焼土粒子中量，ローム小ブロック少量

ピット 4か所(P1～P4)。P1は長径50cm，短径31cmの楕円形で、深さ20cmである。南壁寄りに位置していることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は南東コーナー部に位置し、径42cmの円形，P3とP4は北西コーナー部寄りに位置し、長径45～58cm，短径42～51cmの楕円形と不定形で、深さ10～16cmである。いずれも性格は不明である。

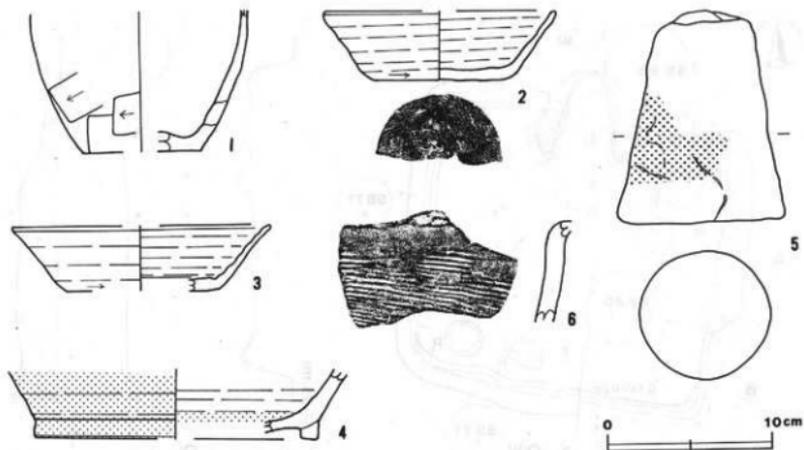
#### ピット土層解説

- |       |          |                    |
|-------|----------|--------------------|
| P1・P2 | 1 暗褐色    | ローム中ブロック・焼土粒子少量    |
|       | 2 褐色     | ローム中ブロック多量         |
| P3    | 1 オリーブ褐色 | 粘土中・小ブロック中量，炭化粒子少量 |
|       | 2 暗褐色    | ローム中ブロック・焼土粒子少量    |
| P4    | 1 褐色     | ローム中ブロック中量         |
|       | 2 褐色     | ローム中ブロック中量         |



第268図 第216号住居跡実測図

覆土 9層からなり、ブロック状の堆積状況が見られることから、人為堆積と思われる。10層は壁溝の覆土である。



第269図 第216号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- 1 褐色 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 焼土粒子少量
- 4 暗褐色 焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子微量
- 6 褐色 ローム中ブロック・粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、粘土粒子微量
- 9 褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 10 褐色 ローム粒子微量。粘性・締まりともない。

遺物 土師器片224点、須恵器片177点、灰軸陶器片2点、土製品1点（支脚）が出土している。第269図1の土師器小形甕と5の支脚は竈内火床部から、2と3の須恵器坏は中央部の覆土下層から、4の灰軸陶器短頸甕は覆土上層から、6の須恵器鉢は竈内焚口部からそれぞれ出土している。また、覆土上層から出土した灰軸陶器片2点は、ともに狼投産産である。4の短頸甕の高台から体部片は黒笹14号窯式、椀の体部から口縁部片は黒笹90号窯式と考えられ、後世の擾乱による混入の可能性が高い。

所見 本跡の時期は、重複している遺構の時期と出土土器から、8世紀後葉と推定される。

第216号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第269図 1	小形土師器	B [ 8.5 ]	底部から体部の破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。体部外面下位へラ削り、内面輪轆み痕。底部木炭痕。	長石 石英 雲母 スコリア 砂粒	20% P640 竈内 [火床部]
		A [13.8]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転へラ削り。底部回転へラ切り痕を残す手持ちへラ削り。	石英 雲母 砂粒 暗青灰色	30% P638 覆土下層 (中央部)
		C [ 7.2 ]			普通	普通
2	須恵器	A [13.8]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転へラ削り。底部手持ちへラ削り。	長石 石英 砂粒	20% P630 覆土下層 (中央部)
		B [ 7.8 ]			暗青灰色	
3	須恵器	A [15.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転へラ削り。底部手持ちへラ削り。	長石 石英 砂粒	20% P630 覆土下層 (中央部)
		B 4.0			灰色	
		C [ 9.0 ]			普通	

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第269図 4	短頸壺 灰釉陶器	B (4.3) D [16.8] E 1.2	高台部から体部の破片。高台は四角形で長く、「ハ」の字状に開く。体部は内唇気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナテ。高台隅り付け、ロクロナテ。体部外面、底部外面施釉、刷毛塗り。	砂粒 灰黄色 軸 灰白色 良好	5% P641 層土土層 置込窯跡 (調査14号窯式)

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	最大径(cm)	最小径(cm)	重量(g)		
第269図5	土製支脚	(12.9)	10.1	(5.3)	(940.2)	竈内(火床部)	DP106 FL100 被熱痕

図版番号	器種	部分	器形・手法の特徴	備考
第269図 6	鉢 須恵器	体部	体部は内唇気味に立ち上がる。体部外面横方向の平行罫り。	T P 200 竈内(笑口部) 灰褐色 普通

### 第217号住居跡 (第270~273図)

位置 調査Ⅲ区の西部，D7i5区。

重複関係 本跡が第218号住居跡を掘り込んでいることから，本跡が新しい。また，第24号溝に掘り込まれていることから，本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.90m，短軸4.92mの長方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は22~32cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北壁の一部を除き巡っている。上幅12~20cm，下幅4~8cm，深さ4~12cmで，断面形はU字形である。

床 全面が平坦で，中央部がよく踏み固められている。中央部付近に2~6cmの褐色土による貼床が施されている。西半分はロームを掘り残し，12cmほど盛り上がり，ベッド状を呈しており，北側と南側が踏み固められている。床のほとんどが第218号住居跡の床を再利用したもので，重複していないベット状の部分には暗褐色土を貼って高さを調整している。

竈 北壁中央部に，壁外へ120cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。笑口部から煙道まで142cm，両袖幅162cmである。火床部は，床面を10cmほど掘りくぼめている。火床面は火熱を受け，煙道部奥にかけて，赤変硬化している。火床部の中央に第272図7の土師器臺を逆位で埋め込んでいる。火熱を受けていることから，支脚として使用されたと考えられる。煙道は緩やかに外傾して立ち上がる。

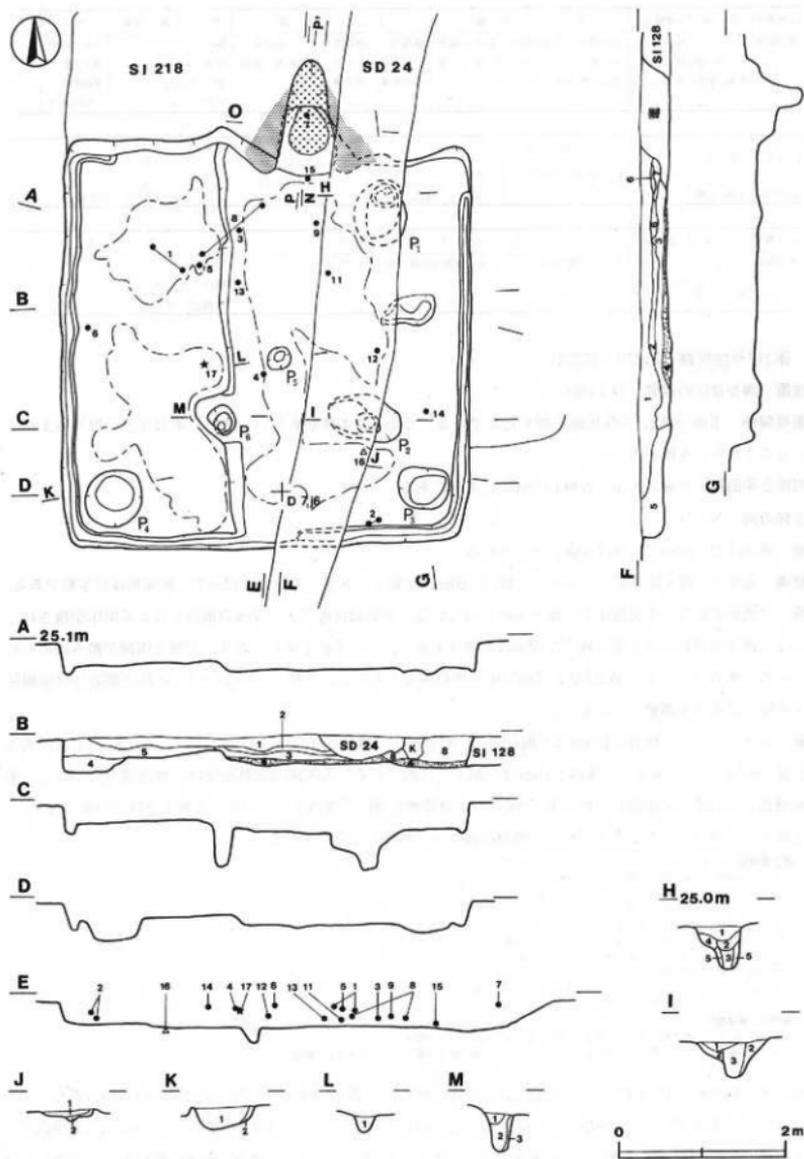
#### 壁土層解説

- 1 灰褐色 粘土粒子少量，焼土粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子・粘土小ブロック少量
- 3 灰褐色 粘土粒子少量
- 4 灰色 灰多量，粘土小ブロック少量
- 5 暗褐色 炭化物・灰中量，焼土小ブロック少量
- 6 棕色 焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
- 7 暗褐色 焼土粒子少量
- 8 褐色 ローム小ブロック中量，粘土小ブロック少量
- 9 褐色 焼土大ブロック中量

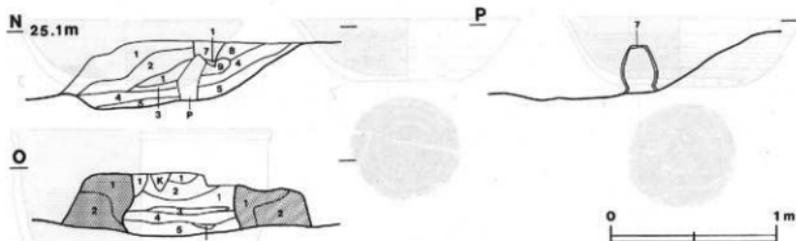
#### 竈内土層解説

- 1 暗褐色 粘土粒子中量，炭化粒子少量，焼土小ブロック・粒子微量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム小ブロック微量

ピット 6か所(P1~P6)。P1とP2は長径80~86cm，短径48~62cmの楕円形で，深さ44~46cmである。北壁寄りと中央部南壁寄りに位置していることから，主柱穴と考えられる。P3は南東コーナー部，P4は南西コーナー部，P5は中央部，P6は中央部南壁寄りに位置し，長径28~72cm，短径26~65cmの楕円形で，深さ12~58cmである。いずれも性格は不明である。



第270图 第217号住居跡実測图(1)



第271図 第217号住居跡実測図(2)

ピット土層解

P1	1 暗褐色	焼土大ブロック中量
	2 褐色	焼土中ブロック中量
	3 褐色	焼土小ブロック少量
	4 褐色	ローム小ブロック少量
	5 褐色	ローム中ブロック中量
P2	1 暗赤褐色	炭化粒子・焼土小ブロック・粒子少量
	2 暗褐色	焼土粒子微量
	3 暗褐色	ローム粒子少量
P3	1 暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子微量
	2 褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
P4	1 暗褐色	ローム粒子少量
	2 褐色	ローム粒子中量
P5	1 暗褐色	炭化粒子微量
	2 暗褐色	ローム小ブロック・粒子微量
	3 暗褐色	炭化粒子微量
	4 褐色	ローム小ブロック・粒子少量

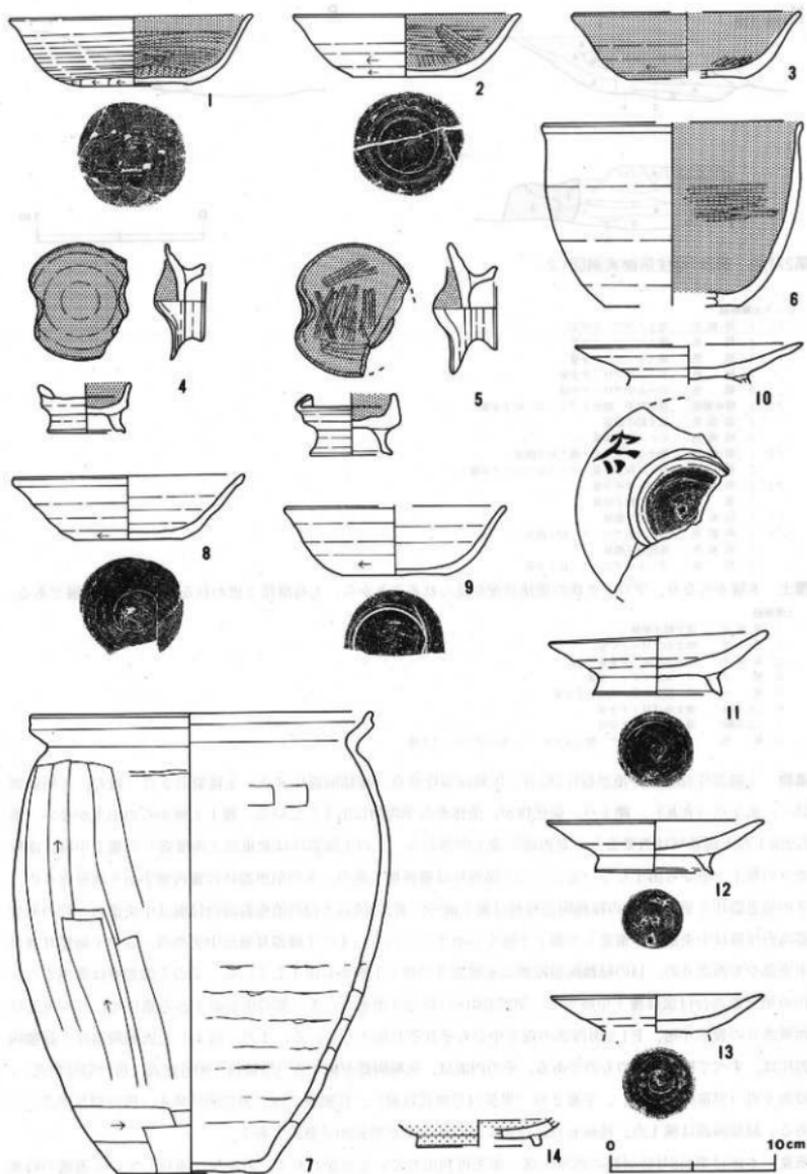
覆土 8層からなり、ブロック状の堆積状況が見られることから、人為堆積と思われる。4層は貼床層である。

土層解

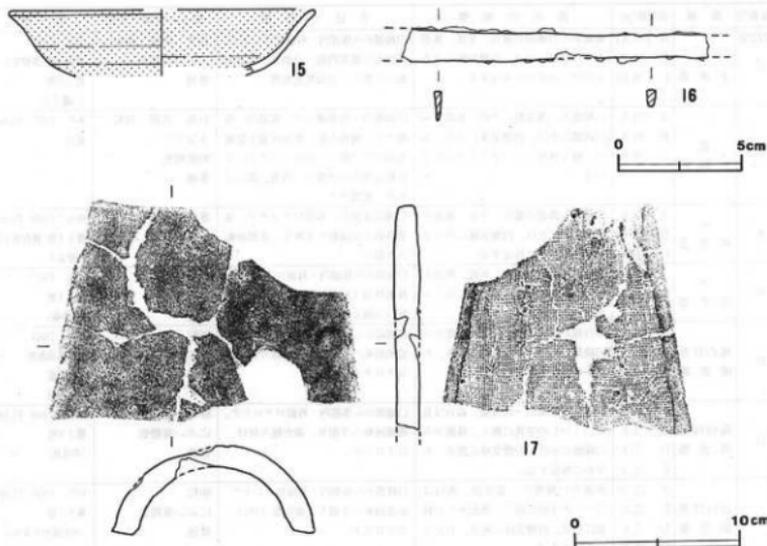
1	黒褐色	焼土粒子中量
2	黒色	焼土小ブロック中量
3	赤褐色	焼土大ブロック多量
4	褐色	ローム小ブロック少量
5	褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子少量
6	暗褐色	焼土小ブロック少量
7	暗褐色	焼土中ブロック中量
8	褐色	ローム中ブロック・焼土小ブロック・粘土小ブロック少量

遺物 土師器片1241点, 須恵器片387点, 灰軸陶器片9点, 緑軸陶器片8点, 金属製品2点(短刀, 不明鋼製品), 瓦1点(丸瓦), 礫1点, 炭化物が, 全体から平均的に出土している。覆土上層からの出土が多い。第272図1の土師器坏は西壁寄りと北西部の覆土中層から, 2の土師器坏は北東部と南壁寄りの覆土中層, 南壁寄りの覆土下層から出土している。3の土師器坏は竈西袖手前の, 8の須恵器坏は竈西袖手前と西壁寄りの, 9の須恵器坏と第273図15の緑軸陶器棗碗は竈手前の, 第272図11と13の須恵器高台付皿は中央部の, 12の須恵器高台付皿は中央部やや東寄りの覆土下層から出土している。4の土師器耳皿は中央部の, 5の土師器耳皿は中央部やや西寄りの, 14の緑軸陶器段皿は東壁寄りの覆土上層から出土している。7の土師器壺は竈内から, 10の須恵器高台付皿は覆土中層から, 第273図16の短刀は南東コーナー部の床面直上から横位で, 17の丸瓦は西壁寄りの覆土中層, P1と南西部の覆土中からそれぞれ出土している。また, 出土した灰軸陶器片と緑軸陶器片は, すべて猿投窯産のものである。その内訳は, 灰軸陶器が碗4点(黒笹14・90号窯式, 折戸53号窯式), 段皿1点(黒笹90号窯式), 平瓶2点(黒笹14号窯式以前), 長頸瓶2点(黒笹90号窯式, 折戸53号窯式)である。緑軸陶器は碗1点, 棗碗6点, 段皿1点のすべてが黒笹90号窯式である。

所見 本跡は第218号住居跡の西壁・溝・床を再利用していると思われる。時期は, 重複している遺構の時期と出土土器から, 10世紀前葉と推定される。



第272图 第217号住居跡出土物实测图(1)



第273図 第217号住居跡出土遺物実測図(2)

第217号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第272図 1	坏 土 師 器	A 14.4	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位手持ちへラ削り。体部から底部内面へラ磨き。底部回転へラ切り底を残す一方向の手持ちへラ削り。内面黒色処理。	石英 雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	90% P612 PL88 覆土中層 (西壱寄り、北西部)
		B 4.3				
		C 6.5				
2	坏 土 師 器	A 13.6	体部と口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転へラ削り。体部から底部内面へラ磨き。底部回転へラ削り。内面黒色処理。	石英 雲母 砂粒 スクリア にぶい褐色 普通	80% P613 PL88 覆土中層 (南壱寄り、北東部) 覆土下層(南壱寄り)
		B 3.8				
		C 6.4				
3	坏 土 師 器	A [13.6]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転へラ削り。体部から底部内面へラ磨き。底部回転へラ削り。内・外面黒色処理。	雲母 砂粒 普通	40% P615 覆土下層 (壱西端手前)
		B 4.0				
		C [7.0]				
4	耳 土 師 器	A 7.0	高台部と口縁部の一部欠損。高台は長く、「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて、内彎気味に削き、口縁部は2側面で内側に丸く、折り返されている。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り。高台削り付け、ロクロナデ。内面黒色処理。	雲母 砂粒 にぶい褐色 普通	90% P653 PL88 [中央部]
		B 3.1				
		D 4.6				
		E 1.1				
5	耳 土 師 器	A 8.0	体部と口縁部の一部欠損。高台は長く、「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて、内彎気味に削き、口縁部は2側面で内側に丸く、折り返されている。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部から底部内面にかけて磨き。底部回転へラ削り。高台削り付け、ロクロナデ。内面黒色処理。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	80% P654 PL88 覆土上層 (中央部やや西寄り)
		B 3.8				
		D 5.0				
		E 1.3				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色面・焼成	備考
第272回 6	鉢 土師器	A [16.4]	底部から口縁部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部から底部内面へラ磨き。底部回転へラ磨り。内面黒色処理。	石英 雲母 砂粒 黄褐色 普通	30% P52 覆土上層(西壁寄り) 覆土中層 P5覆土中
		B 11.2				
		C [ 8.0]				
7	甕 土師器	A 20.5	口縁部の一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、強く外反し、つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。輪轆み痕。体部外面上位側方向へのラ磨り。中位へラナデ。下位側方向へのラ磨り。内面一部へラナデ。底部ナデ。	石英 雲母 砂粒 スコリア 明赤褐色 普通	50% P65 PL8 甕内
		B 20.8				
		C 9.0				
8	坏 須恵器	A 13.6	底部から体部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転へラ磨り。底部回転へラ磨り。	雲母 砂粒 ぶい黄褐色 普通	60% P66 PL8 覆土下層(甕口袖手前、西壁寄り)
		B 4.0				
		C 6.4				
9	坏 須恵器	A [13.2]	底部から体部の破片。平底。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転へラ磨り。底部回転へラ磨り。	雲母 スコリア 砂粒 砂粒 褐色 普通	40% P67 覆土下層 (甕手前)
		B 4.2				
		C 6.2				
10	高台付甕 須恵器	A [13.6]	高台部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に開き、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ磨り。高台貼り付け、ロクロナデ。	砂粒 ぶい黄褐色 普通	30% P68 体部外面露出・ 頸部不能 覆土中層
		B (2.4)				
		E 0.5				
11	高台付甕 須恵器	A 12.6	体部と口縁部の一部欠損。高台は長く、「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて、内彎気味に開き、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ磨り。高台貼り付け、ロクロナデ。	砂粒 ぶい黄褐色 普通	30% P69 PL8 覆土下層 (中央部)
		B 3.9				
		D 7.8				
		E 1.3				
12	高台付甕 須恵器	A 13.0	体部と口縁部の一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部から口縁部にかけて、内彎気味に開き、わずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ磨り。高台貼り付け、ロクロナデ。	砂粒 ぶい黄褐色 普通	90% P50 PL8 覆土下層 (中央部々々実寄り)
		B 3.0				
		D 7.0				
		E 1.0				
13	高台付甕 須恵器	A 12.8	高台部欠損。体部から口縁部にかけて、内彎気味に開き、外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ磨り。高台貼り付け。	石英 砂粒 明黄褐色 普通	30% P51 PL8 覆土下層 (中央部)
		B (2.4)				
14	段 埴 輪軸陶器	B ( 1.7)	高台部から体部の破片。高台は四角形で短く、「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に開く。	体部内・外面ロクロナデ。体部から底部内面へラ磨き。底部回転へラ磨り。高台貼り付け、ロクロナデ。内・外面施釉。硝毛施り。	砂粒 明黄褐色 灰白色 釉 灰オリーブ色 良好	10% P57 覆土上層 (甕腹寄り) 表没露出 (図版90号形式)
		D [ 7.4]				
		E [ 0.7]				
第273回 15	段 埴 輪軸陶器	A [18.2]	体部から口縁部の破片。体部から口縁部にかけて、内彎気味に立ち上がり、下段に明瞭な線をもち、肩幅はわずかに外反する。	体部内・外面ロクロナデ。内面施釉。硝毛施り。	砂粒 灰白色 釉 オリーブ灰色 良好	20% P56 覆土下層 (甕手前) 表没露出 (黒塗90号形式)
		B (4.0)				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第273回16	短刀	(12.4)	(1.3)	0.4	(21.12)	床面直上(南東コーナー部)	M88 PL103 刀身部一部

図版番号	器種	計測値				器形・手法の特徴	備考(合帳番号、出土位置、色調など)
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第273回 17	丸瓦	(14.5)	(12.9)	1.7	(405.2)	凸面へラナデ。 凹面有目痕。	T106 PL113 覆土中層(西壁寄り) 覆土中層P1・南西部 黄褐色

茨城県教育財団文化財調査報告第159集  
中根・金田台特定土地区画整理  
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

中原遺跡 2  
(上巻)

平成12(2000)年3月16日 印刷  
平成12(2000)年3月21日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団  
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地2号  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029-225-6587

印刷 山三印刷株式会社  
〒311-4153 水戸市河和田町4433-33  
TEL 029-252-8481